



札幌市立大学年報

VOL.

4

平成21年度

札幌市立大学
年報
VOL.4

平成21年度

SAPPORO CITY UNIVERSITY
Administrative Office / School of Design
Geijutsu-no-mori 1, Minami-ku, Sapporo 005-0864 Japan
School of Nursing
Kita 11 Nishi 13, Chuo-ku, Sapporo 060-0011 Japan



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY



札幌市立大学



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY



札幌市立大学年報

平成21年度



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

はじめに 一学部完成年度を迎えて一

公立大学法人札幌市立大学は平成18年4月1日に創立し、平成21年度は4年度目であり完成年度を迎えた。本学は中期計画に基づいて業務実績報告書を毎年提出し、札幌市地方独立法人評価委員会からの評価を受けることとなっているが、平成21年度の評価報告では、174の小項目のうち「計画を上回って実施している」が5項目、「計画を十分実施している」が163項目、「十分実施せず」が5項目という評価結果であった。このことからほぼ目標どおりに業務実績をあげたと考えている。

平成21年3月には、第1期生が卒業を迎えた。デザイン学部では、就職希望者65人で就職率92.3%、進学希望者23人で進学率100%となった。看護学部では就職希望者83人で就職率100%、進学希望者4人で進学率100%であった。平成22年度から開設予定の大学院設置認可申請への準備のため、研究科設置特別委員会を設けて慎重に整備を進め、平成21年10月に文科省より設置認可を得た。10月には助産学専攻科の申請を行い、12月に指定通知を受けた。大学院修士課程の開設に伴い、デザイン研究科は1,021.59㎡、看護学研究科は2,519.78㎡の大学院棟を新設した。現在は本学の次の目標である平成24年4月大学院後期博士課程の開設に向けて周回の準備を進めているところである。5年度目の入学志願者状況(前期、後期、特別選抜を含む)では、志願者数はデザイン学部385人(4.8倍)、看護学部は266人(3.3倍)であった。また、大学院志願者状況では、志願者数はデザイン研究科33人(1.8倍)、看護学研究科21人(1.2倍)、助産学専攻科の志願者状況では、志願者数は12人(1.2倍)であった。

国際交流面では、清華大学美術学院(中国)との大学間学術交流協定を結んだ。デザイン学部では、華梵大学(台湾)とのデザインワークショップ、看護学部では、国際協力機構(JICA)の青年研修としてマレーシアから研修員を受け入れた。

研究面では、学内研究費配分として、学術奨励研究9件、学内共同研究4件を採択した。学外研究費は、科学研究費補助金が18件であり、まだ少ない。一方で、受託研究費11件、寄附金5件を得た。海外研修は27件を実施した。個人研究業績の総件数は、デザイン学部203件、看護学部は261件であり、研究に対するアクティビティの高さを示している。

社会活動面では、地域連携研究8件、高大連携活動22件、学生参加活動45件、その他の地域連携活動130件、専門職を対象とした専門講座は25件であった。専門職支援・セミナー講師等では、デザイン学部39件、看護学部112件を派遣している。このように地域へ向けての社会貢献活動は開学以来継続して活発に行われているといえる。

本学芸術の森キャンパスの基礎となった札幌市立高等専門学校の5年制本科が18年の歴史を閉じた今、専攻科の学生10名が平成22年度修了制作の真最中である。教職員共々暖かく見守っていききたい。

札幌市立大学学長 原 田 昭

目 次

はじめに

I 概要

1	大学設置の経緯	1
2	デザイン学部の概要	3
3	看護学部の概要	4
4	第1期生卒業関係	6
5	大学院、専攻科設置認可関係	8
6	国際交流	10
7	運営体制図	11
8	行事	12

II 教育活動

1	教育活動概要	13
2	共通教育・連携教育	14
3	デザイン学部	22
4	看護学部	54
5	その他	88

III 研究活動

1	研究活動概要	93
2	個人研究費による研究一覧	94
3	学内公募研究課題一覧	97
4	学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	98
5	寄附金の受入状況	100
6	海外出張記録	100
7	個人別業績一覧	102
8	学会及び研究会における活動	129

IV 社会活動

1	地域貢献諸活動	141
2	公開講座開催実績	154
3	社会における活動	158
4	非常勤講師実績	163
5	専門職支援・セミナー講師等	165
6	国際交流実績	173
7	サテライトキャンパスの利用状況	173

V キャリア支援活動

1	デザイン学部	175
2	看護学部	179

VI 平成22年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部	183
2 大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科 修士課程	188
3 助産学専攻科	190

VII 附属図書館

1 概要	193
2 利用状況	194

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況	195
2 役員及び審議会委員名簿	197

IX 学内運営の概要

1 部局長会議	199
2 企画戦略会議	201
3 教授会	202
4 附属図書館	205
5 地域連携研究センター	206
6 アドミッションセンター	208
7 キャリア支援センター	209
8 学内委員会	210
9 FD・SD活動	225

X 資料

1 中期計画	229
2 平成21年度年度計画	240
3 平成21年度決算	256
4 教職員数	257
5 管理職一覧表	257
6 教員一覧表	258
7 学生定員及び学生数	259
8 授業料等	259
9 奨学金貸与・授業料減額免除実施状況	260
10 学生の入選・受賞	260
11 学生の課外活動	262
12 後援会	263
13 教育・研究刊行物一覧	264
14 施設	264
15 大学への交通アクセス	269

編集後記

I 概要

1 大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取り組みが特に重要であり、こうした取り組みに対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「(仮称)札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受け入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「(仮称)札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称) 札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称) 札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称) 札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	公立大学法人札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程 開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 閉校
平成21年10月	大学院設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、及び教育研究審議会、経営審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

したがって、デザイン学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成

デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成

造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取り組みが特に重要視されており、こうした取り組みに対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえるとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 高いコミュニケーション能力

的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

② 課題探求能力と問題解決能力

社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。

③ デザインの基礎となる表現力

豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。

④ 人間や環境に配慮したデザイン能力

人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。

⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想

固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。

⑥ 企画力や管理・運営能力

デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3 看護学部の概要

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

IV 及び
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

1) 特色

看護学部では、幅広い職業人の育成を行うことを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるよう常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種 of 医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内、あるいは全国的な視点から看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も

増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

しかし、看護職は今後も当分の間、不足が続くことが予測されているにもかかわらず、看護職の養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 対人関係形成能力

豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。

② 権利擁護・安全なケア提供能力

さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。

③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力

緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。

④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力

看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。

⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力

主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

4 第1期生卒業関係

(デザイン学部)

1) 卒業研究

平成22年3月19日に、第1期生が卒業を迎えた。それに先駆け、デザイン学部1期生の卒業研究の集大成である卒業研究展（本展）を、デザイン学部のある芸術の森キャンパスで開催した。また、特に優秀な作品を集めた選抜展を札幌市役所ロビーにて開催した。

◎デザイン学部デザイン学科第1回卒業研究展

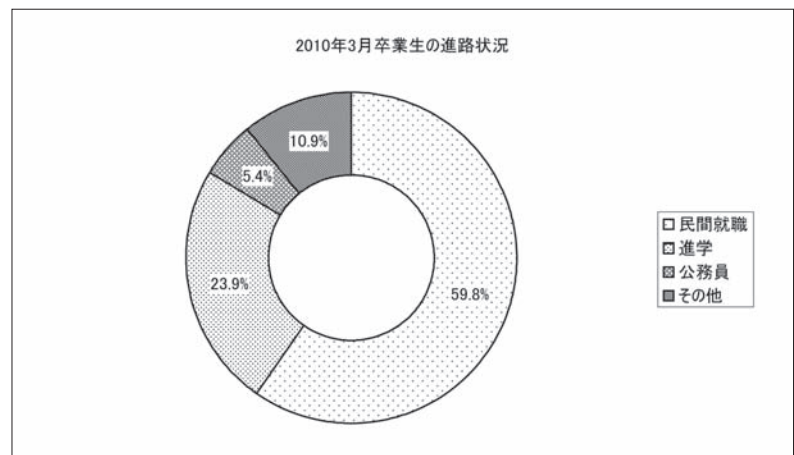
選抜展：2010年3月1日(月)～5日(金)

本展：2010年3月7日(日)～19日(金)

2) 進路の概要

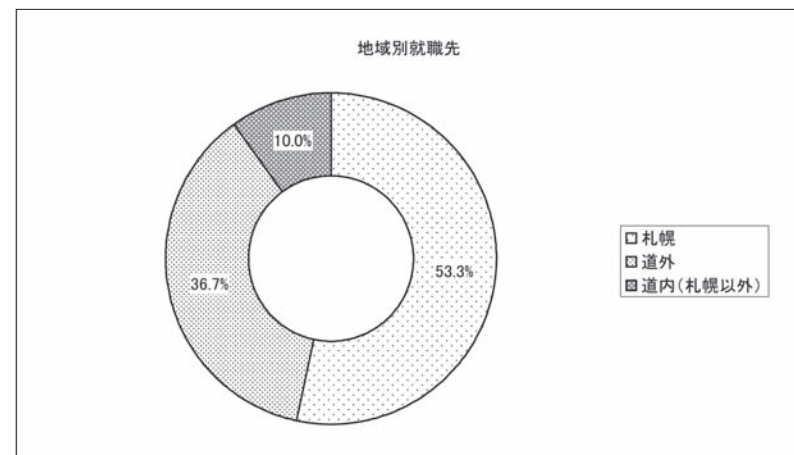
① 進路状況

進路状況	人
民間就職	55
進学	22
公務員	5
その他	10
合計	92



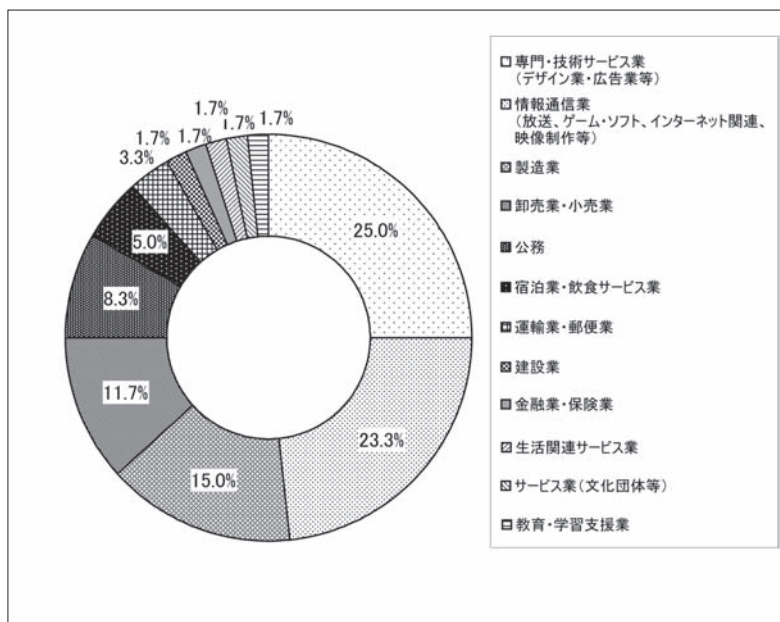
② 地域別就職先

地域別就職先	人
札幌	32
道外	22
道内（札幌以外）	6
合計	60



③ 産業分類別就職先

産業分類別就職先	人
専門・技術サービス業 (デザイン業・広告業など)	15
情報通信業 (放送、ゲーム・ソフト、インターネット関連、映像制作など)	14
製造業	9
卸売業・小売業	7
公務	5
宿泊業・飲食サービス業	3
運輸業・郵便業	2
建設業	1
金融業・保険業	1
生活関連サービス業	1
サービス業(文化団体等)	1
教育・学習支援業	1
合計	60



(看護学部)

1) 卒業研究発表会

看護学部の学生が、4年間(編入学生は2年間)の学業成果として取り組んだ卒業研究の研究成果を、平成21年12月21日(月)、22日(火)の2日間にわたり、桑園キャンパス体育館においてポスターセッションにより発表した。発表者は87名で、その領域の内訳は、看護管理7名、基礎看護7名、老年看護8名、在宅看護7名、成人看護13名、精神看護7名、地域看護16名、小児看護7名、母性看護9名だった。

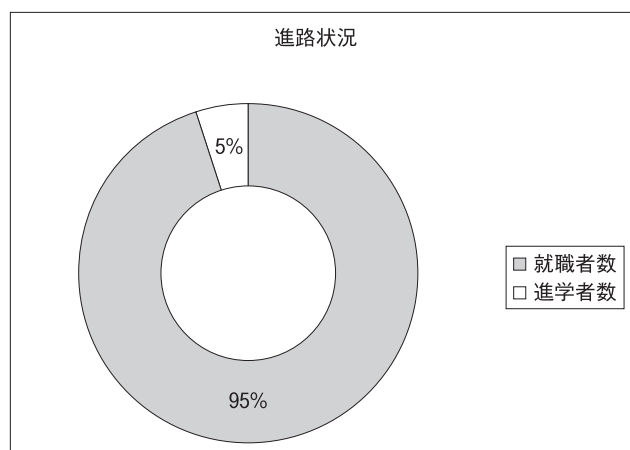
研究成果はあらかじめ「平成21年度札幌市立大学看護学部卒業研究抄録集」にまとめられ、関係者に配布された。

2) 進路の概要

① 進路状況

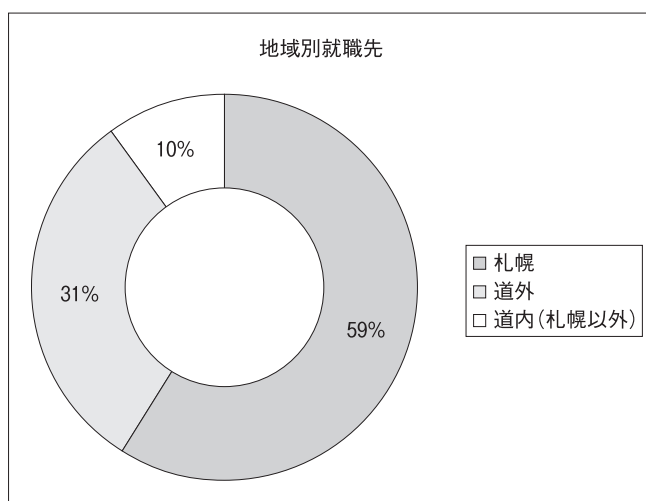
(単位：人)

	在籍数	進学者数	就職者数	内定率
学 生 数	87	4	83	100%
(うち編入学)	8	0	8	100%



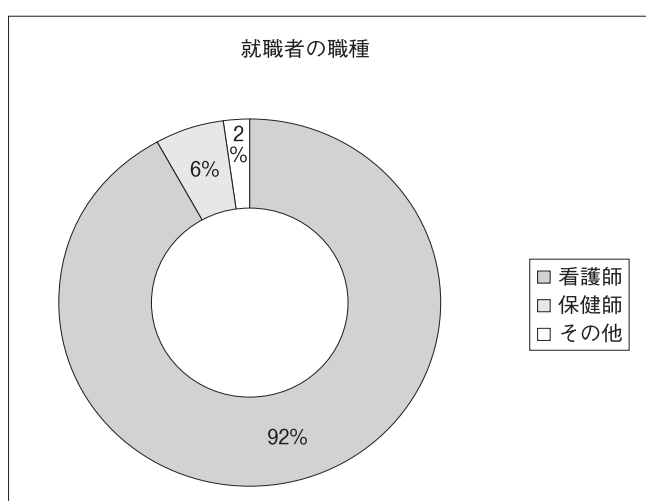
② 地域別就職先

地域別就職先	人
札幌	49
道外	26
道内（札幌以外）	8
合計	83



③ 就職者の職種

就職者の職種	人
看護師	76
保健師	5
その他	2
合計	83



5 大学院、専攻科設置認可関係

1) 大学院（修士課程）

ア) 大学院の設置の趣旨・目的

本学では、デザインと看護に共通する「人間重視」の理念のもと、有為な人材の育成に向けた教育・研究を行ってきた。

現代社会は、科学技術の発展や社会構造の変化、さらには地球規模で進展するボーダレス化とともに複雑化の度合いを深めており、人々の生活にさまざまな課題を生じさせている。多様化する社会のさまざまな課題を解決するためには、より高度な学識の涵養を通じて、専門的知識に裏打ちされた判断力や実践力、マネジメント能力を身につけた人材の育成が必要となっている。

これらの考え方により、本学ではデザインと看護の学部での教育・研究を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

イ) 設置認可申請及び開設準備

大学院修士課程は、デザイン学部及び看護学部の第一期生の卒業時期に合わせて平成22年4月に開設することとする大学院基本計画に基づき、平成21年5月に「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を文部科学省に提出し、10月に同省から設置認可を得た。

設置認可を受け、平成22年4月から始まる大学院教育を円滑かつ効果的に行うため、設置認可後速やかに授業担当教員に対する説明会を開催し、本大学院の設置の趣旨や目的、育成する人材像等について認識を共有するよう努めた。また、大学院の具体的な運営方法について、設置認可前の早い時期から学内で検討しており、学長、副学長、研究科長予定者等で構成する学内委員会のもと協議・検討を重ねてきた。さらに、各研究科に特化した課題等を検討するため、それぞれの研究科の授業担当教員で組織する「研究科開設準備会議」を設け、研究科ごとの検討事項を洗い出し、教学・施設面での具体的な運営方法や学内規程の整備、説明会等の広報活動の実施、学生募集要領の決定及び入学試験の実施などに取り組み、第一期入学生の受け入れに向けて十分な準備を整えた。

ウ) 大学院用施設・設備等の整備

研究科の研究・教育目的を達成するために必要となる施設・設備は、両キャンパスの既存施設・設備を学部と転共用するほか、大学院棟として芸術の森キャンパス及び桑園キャンパスそれぞれに新校舎を設けた。新校舎は、芸術の森キャンパスは、アトリエやプレゼンテーションルームなどを備えた鉄筋コンクリート4階建て（約1,000㎡）とし、桑園キャンパスは、シミュレーション・ラボやシールドルームなどを備えた鉄筋コンクリート5階建て（約2,500㎡）の規模とした。

2) 専攻科（助産学専攻科）

ア) 専攻科の設置の趣旨・目的

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、更に助産師の需要が増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談指導など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。これらの背景から、より高度な能力を持った助産師の養成が急務であり、本学に助産学専攻科を設置して助産師の養成を行うこととした。

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的として、市民や地域住民が安心して子どもを出産し、育てることのできる環境づくりを側面から支援することを目指し設置することとした。

イ) 助産師学校指定申請及び開設準備

助産学専攻科は、平成21年10月に「札幌市立大学助産師学校指定申請書」を北海道及び文部科学省に提出し、12月に文部科学省から指定通知を得た。

指定申請を行う以前から、学内で助産学専攻科の設置に向けた検討を開始しており、指定申請後は、看護学部内に「助産学専攻科開設準備会議」を設け、教学・施設面での具体的な運営方法や学生募集要領及び入学試験の実施などについて検討を行った。また、指定通知を受けた後は、説明会を実施するなどにより第一期入学生の受け入れに向けて十分な準備を整えた。

ウ) 専攻科用施設・設備等の整備

専攻科の教育目的を達成するために必要となる施設・設備は、桑園キャンパスの既存施設・設備を学部と転共用するほか、大学院棟に整備したシミュレーション・ラボの一部を共用することとし、授業に使用する備品を新たに整備した。

6 国際交流

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

1) 提携校との交流

海外大学との学術教育交流については、開学した平成18(2006)年の韓国・又松(ウソン)大学を皮切りに、平成20年には中国・承德医学院と提携を調印している。

平成21年7月21日には、中国の二大大学のひとつである清華大学の美術学院と、(1) 教員及び研究者の交流、(2) 学生の交流、(3) 学術資料、刊行物及び情報等の交換、(4) 共同研究・シンポジウムの実施を目的とする学術教育交流の協定を調印した。また、同日、鄭曙暘美術学院長が、「北京オリンピックに見る現代中国のデザイン」と題する一般市民を対象とした調印記念講演を行った。

11月22日から25日には、清華大学美術学院における「清華国際芸術・設計学術月間」招待講演に原田学長が特別講師として招聘され、「異分野横断型連携教育の可能性」と題する招待講演を行った他、今後の学術交流の具体化に向けて打ち合わせを行った。

2) 提携校以外との交流

(1) 21世紀東アジア青少年大交流会（インド）【(財)日本国際協力センター（JICE）】

JICEからは「21世紀東アジア青少年大交流会」参加者の受け入れ依頼があり、6月22日にインド人の中・高校生（訪問団）20人および引率・通訳2人を芸術の森キャンパスに受け入れた。

受け入れにあたり、デザイン学部教員によるワークショップ「体感温度と実際の温度について考える」ならびに看護学部教員による妊婦や高齢者の模擬体験をするワークショップ「体験を通じて考える」を企画し、本学の両学部の学生ならびに市立高専学生総勢15人が参加した。

(2) ノボシビルスク日本語青年訪問団（ロシア）【(財)札幌国際プラザ】

札幌市はロシアのノボシビルスク市と姉妹都市提携をしていることから、ノボシビルスクにて日本語を学んでいる日本語青年団の受け入れ依頼が財団法人札幌国際プラザよりあった。

その結果、7月9日、ロシア人青年4人ならびに通訳・関係者3人が芸術の森キャンパスに来学し、本学デザイン学部教員による講義と演習「3Dコンピュータグラフィックスの世界」ならびに「Humanscape / ヒューマンスケープ」を受講した。後者については空間デザインコースの学生が同時に受講し、併せて交流を図った。

(3) 雲林科学技術大学（台湾）

8月5日、雲林科学技術大学（台湾）の学生22人ならびに教員5人が芸術の森キャンパスを訪問した。製品デザインコースの教員2人が対応し、お互いに大学の紹介を行った。

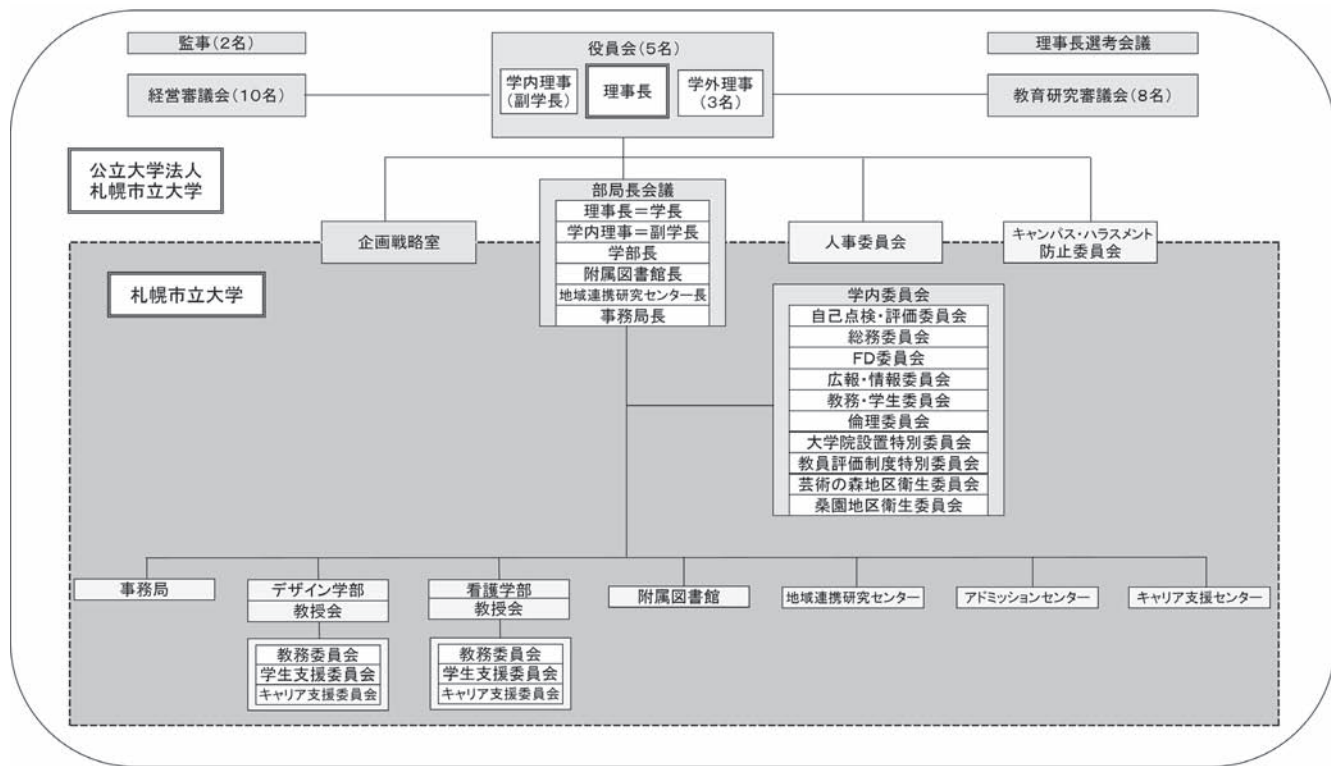
(4) 華梵大学（台湾）

8月11日から14日まで華梵大学の学生8人ならびに教員2人が芸術の森キャンパスを訪問し、製品デザインコースの学生15人ならびに本学教員2人と学生交流ワークショップを実施した。

(5) 「青年研修 保健医療／感染症対策／マレーシア」【(独)国際協力機構（JICA）】

JICAの青年研修事業に採択され「青年研修 保健医療／感染症対策／マレーシア」の委託を受けた。この結果、10月28日から11月10日までマレーシア人の医師および看護師計12人が桑園キャンパスを訪問した。受け入れに際し、看護学部教員5人ならびにJICA経験のある編入学生1人が準備委員会を組成し、保健医療ならびに感染症対策に関する講義の企画運営を行った。

7 運営体制図



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

8 行事

前期開始	4月1日
春季休業	4月1日～2日
入学式・後援会総会	4月3日
前期ガイダンス	4月3日・6日
前期授業開始	4月6日・7日
前期履修登録期間	4月6日～17日
健康診断	4月30日
第1回オープンキャンパス	6月27日
編入学試験 デザイン学部	7月25日
前期定期試験期間	8月5日～8月11日
夏季休業	8月12日～9月8日
編入学試験 看護学部	9月12日
第2回オープンキャンパス	9月26日
前期終了	9月30日
後期ガイダンス	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月1日
後期履修登録期間	10月1日～14日
大学祭	10月10日・11日
特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月21日
冬季休業	12月23日～1月5日
大学院看護学研究科入学試験	2月6日
後期定期試験期間	2月12日～18日
大学院デザイン研究科入学試験	2月13日・14日
一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
特別選抜入学試験（私費外国人留学生）	2月25日
助産学専攻科入学試験	3月3日
春季休業	3月8日～31日
一般選抜入学試験（後期日程）	3月12日
卒業式	3月19日
後期終了	3月31日

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

II 教育活動

1 教育活動概要

「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部に通ずる「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生と一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。

また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。

また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「i Movieによる映像編集ワークショップ」、「AdobeCS2によるデザインワークショップ」、「木工室安全講習会」といった特別講義を実施した。

看護学部の「専門教育科目」は、専門知識と高度な技術を系統的に学習できるよう、①専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と、②看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」の2つの科目群で構成した。

看護学実習は、さまざまな場で生活する人の健康レベル、あらゆる発達段階における人々に対して、それまでに学んだ理論や知識、技術を実践し、実際のかかわりを通して、総合的な看護実践能力を養うことを目的とし、看護職や関連職種の活動を見学体験する看護初期実習をはじめ11の実習科目を段階的・体系的に実施した。さらに、実践的な技術の修得のために、演習科目において模擬患者を活用した演習を行うとともに、客観的臨床技能試験（OSCE）を用いた評価を実施し、学生にフィードバックした。

また、看護学部における教育課程と実習の位置付けの理解を得るため、主たる実習施設である市立札幌病院看護部を対象とした実習指導者会議と、全実習施設を対象とした臨地実習指導者会議を開催するとともに、本学の教員が各実習施設における看護業務を把握するための研修を実施した。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
スタートアップ演習 ◎原 俊彦 松井 美穂 町田 佳世子 酒井 正幸 矢部 和夫 張 浦華 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ 斉藤 雅也 三谷 篤史 福田 大年 加藤 登紀子 内田 雅子 定廣 和香子 山本 勝則 村松 真澄 神島 滋子 照井 レナ 松村 寛子 多賀 昌江 太田 晴美	演習 60時間	<p>【科目のねらい】「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や小人数編成によるグループ活動を通じ、文献講読、図書館の活用、レポート・論文作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的学習法、課題解決の手法などを習得するとともに、調査・分析プロジェクトを通じ、4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持ってもらうためのコア科目。</p> <p>【到達目標】</p> <p>主体的に勉学・研究に取り組む姿勢／他者とのコミュニケーション能力／基本的な学習技術の習得／学生生活や将来への展望を持たせる。</p>
哲学と倫理 ★山田 友幸	講義 30時間	<p>【科目のねらい】心と身体はどのような関係にあるのかという問題をめぐって、近世から現代に至るさまざまな哲学者の考えを再構成的にたどり、世界の中における心の位置について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①心について考えるための基本概念を理解する。 ②理解した基本概念を使って個々の問題点について考える。 ③世界の中における心の在り方について、自分の考えを筋道立てて論じる。
体のしくみ 小宮 加容子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】体のしくみについて運動・動作を中心に学習し、ヒトの正常状態について学ぶ。具体的には、正常な身体運動を運動学的分析の視点から考察する。また、講義・実習などを通じて筋や関節が運動・動作にどのようにかかわっているかについて、生体の構造と機能との関連から理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間の情報処理、身体情報について理解する。 ②動作分析方法について理解する。 ③障害の箇所の違いによる動作への影響について理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
人間関係を考える ★椿 武愛子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも、必ず他者とかわらなければならぬ。そのためにまず、相手を知り、相手を認めることがいかに大切かを知り、コミュニケーションを上手にとるため、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①お客様、上司に対する礼儀作法の基本ができる。 ②言葉づかい・電話応対に対する即戦力が身につく。 ③対人関係が良くなる。</p>
札幌を学ぶ 原 俊彦	講義 30時間	<p>【科目のねらい】さまざまな分野で活躍している方をゲストスピーカーとして招き、札幌の地域特性や、道都としての札幌と北海道各地の関係について、話を聞きともに考える。科目担当の専任教員は、ゲストスピーカーの紹介、学生への情報提供と評価を担当する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>地域社会に対する興味・関心／人の話を注意深く聞き理解する能力／適切なコメント・質問をする能力などを身につける。</p>
英語ⅠA ★大野 拓恵 ★水島 梨紗 ★清水 香	演習 30時間	<p>【科目のねらい】高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは、さまざまなトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進度によっては、英文の新聞・雑誌記事などを副教材とし英語力の更なるレベルアップを図る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①比較的平易なレベルの英文を、的確に文の内容、論理展開を把握しながら、一定のスピードで読める力を習得する。 ②英語の文章を読むためのさまざまなスキルを習得する。</p>
英語ⅠB 町田 佳世子 松井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身に付ける。また、ある程度まとまった内容を英語で表現するために必要なパラグラフ・ライティングの書き方を、ブレインストーミングなどの基礎から学び、論理的かつ明晰な英文を書くために必要な英文の構成の仕方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①センテンス・レベルからの作文の練習から始め、パラグラフ程度の長さのまとまりのある内容を英語で表現できるレベルの力を習得する。 ②高校までに学習した英文法の知識をより深め、英作文に応用できる力を習得する。</p>
英語ⅠC ★マッドヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	<p>【科目のねらい】英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CDなどの教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、日常の英会話で必要な表現力についても学ぶ一方、英語でのプレゼンテーション能力を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①ある程度まとまった内容を口頭で表現できる。 ②英語でのプレゼンテーション能力の基礎力を身につける。</p>
日本語表現法 ★千葉 孝一	演習 30時間	<p>【科目のねらい】言葉に関する学術用語を学び、多角的に考えるための基礎知識を培う。その上で、適切な日本語表現とは何かについて正しく理解するとともに、自分の考えを相手に明快かつ分かりやすく伝える文章表現力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①言葉をめぐるさまざまな学術用語(シニフィエ・コンテクション等)を適切に使用できる。 ②さまざまな文章の性質を理解し、それぞれの約束事に沿った文章を執筆できる。</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
基礎カウンセリング ★小坂 守孝	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 カウンセリングは、適応上の課題を有する個人が、専門家の援助を受け課題解決を図る過程です。ここではロールプレイなどを通じ、カウンセリングの基礎を学びます。併せて、カウンセリングが必要となる心理的な状況や症状、また、カウンセラーの役割について理解を深めることを目的としています。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①カウンセリングとは何をする事なのかを理解すること。 ②カウンセリングの実際について体験を通して知ること。 ③様々な領域におけるカウンセリングの方法を知ること。
情報リテラシーⅠ ◎大 瀨 一博 柿山 浩一郎	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅠではコンピュータのしくみや操作方法、データの保存方法などについて学ぶとともに日常業務に不可欠なワープロ・表計算・プレゼンテーションなどのアプリケーション操作の基礎や、自在に使いこなすための工夫・テクニックについて学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンピュータの基本操作の習得。 ②ワープロ・表計算・プレゼンテーションなど基本的なソフトウェアの操作を理解し、ツールとして自由に活用できること。
情報リテラシーⅡ ◎大 瀨 一博 柿山 浩一郎	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅡでは、インターネットを通じ、さまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する方法を学ぶとともに、情報の加工やホームページの作成などを通じ、自ら情報発信する技術を身に付けます。またセキュリティの問題や個人情報の扱い方などについても学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①情報倫理を遵守しながら、インターネットを情報収集、情報発信のツールとして活用すること。 ②インターネットに関連する技術について理解すること。
宗教と思想 ★堀 雅彦	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 宗教と思想はそれぞれ、「信じること」と「考えること」として、互いに異質な営みであるように見えます。実際、「宗教を信じるのは自分の頭で考えることの放棄だ!」と言う人もいます。しかし、そういう声に賛成の手を挙げる前に、さまざまな宗教的伝統のただ中で生まれ、継承されてきたものの見方に、目を向けてみませんか。そこには人間や社会、自然などをめぐる広い意味での「思想」があり、私たち自身のものの見方に反省を迫るような要素が少なからずあるはず。この講義では、そのような「宗教の中の思想」の輪郭を捉えるためのヒントを、さまざまな角度から示したいと思います。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①諸々の「宗教」に対して自分が持っているイメージ、考え方を広い視野から再検討する態度の形成。 ②ユダヤ教、キリスト教、仏教の成り立ちと、基本思想についての最小限の知識の取得。 ③授業内容を踏まえて自分自身の問題をたて、それに対する自分の考えを説得的に論じること。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
芸術と文化 ★望月 由美子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 古代オリエント社会及びヨーロッパの絵画、彫刻、建築作品の写真を多数見ながら、各作品の意味とその背景に流れる思想についてわかりやすく説明します。単に美術作品を観るというだけではなく、死生観やジェンダー、心性史（メンタリティーの歴史）などの視点から、一枚の絵や建築の中に込められている内容を具体的に理解し、イメージというものがいかに人間の心に働きかけるものであるのかについて実際に考えていきます。美術史の入門編となる本講義では、色やモチーフの担う象徴的な意味についても解説し、絵画の見方のポイントについても学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①美術作品についての基礎的知識（時代様式、図像学）を養う。専門用語の学習を含む。</p> <p>②イメージ・リテラシーの習得（自分の力で分析的・批判的にイメージを読解する力の養成）</p> <p>③美術作品に凝縮されたその時代、社会を生きた人間の状況やメンタリティーなどを想像・理解しながら、現在、われわれ人間社会がかかえる問題をあらためて考え、それへの対応・解決を見い出す力を養成する。</p>
心のしくみ ★藤本 愉	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 日常の生活行動に見られる人間の行動を理解するに当たって、それらの行動をコントロールしているさまざまなシステムや現象について、心理学的に理解する。また、人間の心を科学的に研究した知見と現代心理学の各分野を概観し、人間の心と行動についての基礎を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①さまざまな領域の心理学的研究について概観し、心理学全般についての知識を得る。</p> <p>②授業で紹介した心理学的知見に関し、自分なりの考えを論ずることができる。</p>
現代社会と家族 原 俊彦	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 日常当たり前の存在のように考えられがちな家族は、その時代により、社会により、また個人によって、その意味や位置付けが異なる。現代においては、社会構造の複雑化、グローバル化などが進んでおり、家族のありようや個人と家族のかわりも大きく変化している。ここでは、現代の社会的な問題と、家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①家族に対する関心を養う。</p> <p>②家族の変化を統計的に捉える方法を学ぶ。</p> <p>③家族と地域社会の関係や日本の家族が抱える課題を理解する。</p>
現代社会と経済 ★近藤 公彦	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得する。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観する。我々は普段、消費者としてモノやサービスを買ひ、利用している。コンビニでお弁当を買ひ、ファッション専門店で購入し、シネマコンプレックスで映画を鑑賞し、携帯電話を使っている。一方、売り手である企業は、そうした製品やサービスを消費者に提供することで利益を上げる。その過程で企業は、消費者の好みを探り、彼らを満足させられる製品・サービスの開発に努め、ライバル製品との競争にどのように勝つかを常に考えている。この講義では、社会の経済主体の中心である企業のマーケティング活動に焦点を当て、その理解を通じて現代の社会や経済を見る眼を養う。具体的には、企業戦略の基本的な考え方をマーケティングの視点から提供し、具体的な事例を多く交えながら説明するとともに、適宜、テーマに則したビデオを見たり、雑誌記事を読み、ディスカッションやレポートを通じてマーケティングの理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①マーケティングを通して企業活動を理解し、社会、経済を見る知識を習得する。</p> <p>②マーケティング戦略の分析能力と戦略プランニング能力を養う。</p> <p>③ディスカッションやプレゼンテーションの能力を養う。</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
統計の世界 原 俊彦	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 さまざまなデータの分析を行うための基礎となる統計学的な考え方や基本的な手法を理解・習得することを目標とする。このため、表計算ソフトを用いてデータを加工し、必要な情報を採り出すための簡単な統計処理方法を学ぶ。また、データに基づいて物事を考える力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①統計学的な考え方や基本的な手法に対する理解。 ②表計算ソフトを用いたデータの加工能力。 ③統計を用いた推計・検定の処理の基礎を身につける。
英語ⅡA 町田 佳世子 ★大野 拓恵 ★清水 香 ★水島 梨紗	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 「英語IA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック・スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取れる語彙力を養成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①複雑な構文、難易度の高い語彙を含む英文を、的確に理解できる読解力を習得する。 ②速読、パラグラフ・リーディングなど多様な読みのスキルを適用して読解ができるようになる。
英語ⅡB 松井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 「英語IB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力や研究レポートなどを英語で表現できる力を身に付ける。英文の文章構成力を習得し、最終的にはエッセイレベルの長さの、論理的な文章を書ける力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①センテンスレベルで、英語の分の構造を正しく理解する。 ②英作文における文章構成力を習得する。 ③パラグラフを書く力をさらに発展させ、最終的にはエッセイレベルの長さの、論理的な文章を書ける力を身につける。
英語ⅡC ★マッドヴァ セザインジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 「英語IC」で培ったスピーキング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で発信する力を養う。同時に、ある程度複雑な内容のネイティブの会話や説明などを正確に理解できるように、CDなどの教材を活用し、さらなるリスニング力の向上を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①英語で自らの考えや意見を論理的に発信できる力を身につける。 ②論理的な内容の英語を聞いて理解できる力を身につける。
プレゼンテーション ◎武田 亘明 柿山 浩一郎	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 今日社会では、文書・画像・音声などさまざまな表現手段を組み合わせ、情報を効果的に伝達することが重要になっている。ここでは、情報を伝達する相手や目的に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①目的や相手に合わせた最も効果的な表現手法及び読み解く方法について理解する。 ②プレゼンテーションソフトウェアを使いこなせるようになる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
対人コミュニケーション 町田 佳世子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 私たちはコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ることは、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コミュニケーションという営みについて基本的な理論を学ぶ。 ②身近なコミュニケーション行動をその知識を基に観察または内省する。 ③ ①と②を自らのコミュニケーションに適用し、より豊かなコミュニケーションの担い手となる。
手話 ★高橋 浄	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者及びろうをめぐむ問題についても考えてみたいと思います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ろう者に対する理解を深めるとともに、手話による簡単な会話を習得する。日常会話を行う。必要な手話表現技術を習得する。</p>
ジェンダーを考える ★川畑 智子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 人権問題やジェンダーの基本的な考え方について、基礎的な知識を習得する。また、ジェンダーを生み出す社会的な構造や、最近のジェンダーの課題について、事例を通して考察する。現代の日本社会の問題から具体的なテーマをとりあげ、現代日本社会における男女の性別秩序をとらえる。こうしたテーマについて深く考えてみたい人、こうしたテーマに関心のある人などの受講をお勧めします。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各自のテーマについてジェンダーという分析概念*を用いて論述し、具体的な提案をする。 ②講義に積極的に参加し、社会について関心を持ち、深く考え、自己表現する。 ③積極的に情報収集し、得られた情報に基づいて論理的に自己の意見を述べる。 <p>*概念とは、あるまとまった考え、ないしは、考えのセット。分析概念とは、ある社会現象を分析し、説明可能(=理解可能)にするために使用する概念のこと。</p>
現代社会と国際関係 ★先川 信一郎	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 国際関係を正確に理解することは、今の日本や自分たちが住む社会をより深く理解することにつながります。例えば米国の外交や金融政策、民主主義や自由、平等の理念は、自分たちの生活にも大きくかかわっています。日々変化する国際ニュースを読み解くことができれば、今の政治や社会の何が正しく、何が間違っているか、そして、これから何が起きるか—を自分なりに判断できるようになるでしょう。</p> <p>講義では、国際ニュースの報道ぶりや記事の内容をわかりやすく分析し、その意味するところや、背景に何があるかを探っていきたいと考えています。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①主要な国際ニュースの意味が理解できる。 ②ニュースの重要性をある程度判断できる。 ③英語の新聞やネット情報が、ある程度読める。
健康とスポーツ ★布上 恭子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 多くの日本人の生活は、栄養過多の一方、運動が不足しており、ストレスの解消や発散も十分にされない状態にある。また、こうしたことが、体力の低下やさまざまな健康障害を引き起こす原因となっており、スポーツの必要性がますます増加している。ここではスポーツによる健康維持と体力づくりのための知識の習得を目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本人の健康管理を知り、自分の健康管理に日々努力できるようにする。 ②知識ばかりではなく、自分のからだ対話できるような運動処方と自己整体法を身につける。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営協議会
及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
ボランティア活動を考える ★小沼 春日	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 ボランティア活動の起源、活動を支える思想、活動の今日的状況と課題について学ぶ。また、現代社会では「地域におけるボランティア活動」が非常に注目されていることから、地域のボランティア活動の事例も参考にしながら、身近なボランティア活動についても考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ボランティア」及び「ボランティア活動」の基本を学ぶ。 ②地域社会における「ボランティア活動」の意義を理解する。 ③「ボランティア活動」を「支援」することの実際を知る。 ④「ボランティア活動」を自身の身近な問題として考える。 ⑤人間のもつ多様な「価値観」や「主体性」の意味を理解する。
実践英語A 町田 佳世子 松井 美穂	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 英語I、英語II（各A、B、C）で学んだことを基礎に、デザイン・看護の各専門に関する英語図書の講読を通じ専門英語に慣れるとともに、専門分野に関する語彙を習得することを目指す。また、1年次に習得したパラグラフ・ライティング/エッセイ・ライティングの書き方を基礎に、さらにそれを発展させて専門分野に関連したエッセイ・ライティングの練習も行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①専門英語に関する語彙を習得する。 ②英文で書かれた専門分野に関する論文を読むための力を身につける。 ③専門分野に関する論文を英語で書くための基礎力を身につける。
実践英語B ★マッドヴァ セヴィンジ ★山田 バトリシア	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 英語I、英語II（各A、B、C）で学んだことを基礎に、将来学術分野や実社会において、専門分野に関することがらを英語で聞き取り、議論できるように、さらに英語力を発展させる。授業ではそれぞれの専門分野に関する内容を口頭で発信する練習を行いながら、専門用語も習得する。授業はそれぞれの学部に分かれて行われる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>専門に関する事柄を英語でプレゼンテーションでき、また、会議などにおいて英語でディスカッションなどができるレベルの語学力の習得を目指す。</p>
中国語 ★照井 はるみ	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 中国語入門の基礎として、文字・発音・文法を学習し基本的日常会話を習得するとともに、中国の歴史・文化などについても触れ、中国に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①中国語で自己紹介ができる。 ②基本的な日常会話ができる。 ③学んだ中国語の特徴を理解している。
ロシア語 ★ジダーノフ ウラジーミル ★ジダーノフ ナターリア	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 基礎である読む・書く・話す・理解する（ロシア語会話で最もよく使われる言葉）ことを学習する。</p> <p>ロシアのマナー用語（挨拶・自己紹介・電話での会話など）について学習する。また、ロシア文化についての説明もする。（ロシアのシンボル・主要都市・音楽・映画についてなど）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①簡単な文章、例えば会話帳などを読むことができる。 ②ロシア語でのメールや絵葉書が書けるようになる。 ③ロシア語での簡単な会話（天気、家族、食事など）ができる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
グループ・ダイナミクス ★鹿内 啓子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】人は家族、学校、職場等さまざまなグループの中で、お互いに影響を与え合い、行動を変化させながら生活しており、そこにおいてはグループ・ダイナミクス（集団力学）が作用している。この授業では、人がどのように他者から影響されるのかを身の回りの事例から学び、集団における人間の心理や行動についての基礎的な理解を深める。また、このような影響力の要因から集団が持つ機能や意思決定の仕組みなどについて学んでいく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①知らず知らずのうちに私たちに影響を与えている基本的な社会的要因を知る。 ②自分や他者の行動を客観的に見直し、影響力の武器が使われている事例を考える。 ③不当な影響力に冷静に対処する方法を知る。</p>
環境を考える 矢部 和夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】現代の環境問題は加害者と被害者の対立構造が不明快となり、全員が加害者であり被害者となっている。また、環境問題は地域の問題から、地球全体の問題へと変質した。環境問題は自然科学でそのプロセスやメカニズムを扱う問題であると同時に、社会構造とそのシステムの問題でもある。この授業はさまざまな環境問題の科学として物理・化学的なメカニズムを解説し、その対策と提言に対する正確な基礎知識を提示するが、同時に都市とそこで生活する人間と社会のかかわりも、この問題の解決策を考える上で重要な側面であるという認識に立って授業を進める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①環境問題の原因と発生のメカニズムを把握し、問題を正確に捉える。 ②環境問題に対する社会生活上の取り組みを考究する。</p>
教育を考える ★竹中 健	講義 30時間	<p>【科目のねらい】家庭教育、学校教育、生涯教育などの教育は、人間や人間形成にとってなぜ必要なものとして位置づけられてきたのか？人びとがこれまで「教育」に求めてきた意味づけについて、歴史的変遷から考察を行う。また、教育問題や教育が抱える課題といった日本の教育の現状について知る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①近代における「教育」は、どのような概念として位置づけられてきたかを理解する。 ②「教育」という用語によって示される「理念」と「現実」とを切り離し、概念の操作ができる。 ③「教育」の意味を、社会にとっての意味と、個人にとっての意味とに切り離して理解する。</p>
韓国語 ★松田 由紀	演習 30時間	<p>【科目のねらい】ハングルを読み、書き、簡単なあいさつや自己紹介ができるようになること。授業を通して韓国の文化や韓国人の考え方に触れること。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①韓国語の簡単な文章や単語が書ける。 ②韓国語の簡単な文章や単語が読める。 ③韓国語で自己紹介や簡単な会話ができる。</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

3 デザイン学部

1) 平成21年度時間割

① 1年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	情報リテラシー I	デザイン史	情報リテラシー II	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10	情報リテラシー I	色彩設計論	情報リテラシー II	日本語表現法 英語 I A 英語 I B 英語 I C	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	デザイン原論	造形基礎実習 I	英語 I A 英語 I B 英語 I C	日本語表現法 英語 I A 英語 I B 英語 I C	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	造形基礎実習 I		英語 I A 英語 I B 英語 I C	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 ～ 18:00				スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

② 1年後期

		月	火	水	木	金		
1	9:00 ～ 10:30	プログラミング I	デザイン方法論	現代社会と家族		手話		
2	10:40 ～ 12:10	プログラミング I	感性科学	心のしくみ	芸術と文化	手話		
3	13:10 ～ 14:40	コンピュータ 基礎実習 I	造形基礎 実習 II	コンピュータ 基礎実習 I	造形基礎 実習 II	英語 II A 英語 II B 英語 II C	プレゼンテーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C	対人コミュニケーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C
4	14:50 ～ 16:20					英語 II A 英語 II B 英語 II C	プレゼンテーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C	対人コミュニケーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C
5	16:30 ～ 18:00			宗教と思想	統計の世界	現代社会と経済		

③ 2年前期

		月		火	水	木		金
1	9:00 ∩ 10:30	デザイン材料 加工実習 I	コンピュータ 基礎実習 II A (3D)	ジェンダーを考える 実践英語 A ロシア語	デザイン法規	創造産業論		デザイン解析論
	10:40 ∩ 12:10			実践英語 A 実践英語 B ロシア語	中国語	現代芸術論		感性デザイン論
3	13:10 ∩ 14:40	プログラミング II		実践英語 B ロシア語	中国語	デザイン材料 加工実習 I	コンピュータ 基礎実習 II A (3D)	ユニバーサルデザイン論
4	14:50 ∩ 16:20	ヒューマンファクターズ 入門		現代社会と国際関係 健康とスポーツ				
5	16:30 ∩ 18:00			グループ・ダイナミックス ボランティア活動を考える		(キャリアガイダンス)		

※集中講義：認知科学 8月24日～8月27日

④ 2年後期

		月		火	水		木		金
							前半	後半	
1	9:00 ∩ 10:30	広告デザイン 製品造形論		教育を考える	デザイン材料 加工実習 II	コンピュータ 基礎実習 II B (ムービー)	メディア ビジネス	家具・インテ リアデザイン	コンピュータグラフィクス ヒューマンファクターズ
	10:40 ∩ 12:10	空間デザイン論 製品デザイン論 コンテンツデザイン論 メディアデザイン論		環境を考える 実践英語 A					コンピュータグラフィクス
3	13:10 ∩ 14:40	視聴覚教育 メディア論	博物館概論	実践英語 A 情報社会論	コンピュータ 基礎実習 II B (ムービー)		デザイン材料 加工実習 II	コンピュータ 基礎実習 II C (CAD)	ダイナミックオブジェクト デザイン 空間デザイン史 広告デザイン
4	14:50 ∩ 16:20	デザイン総合実習 I		エコロジーデザイン論					韓国語
5	16:30 ∩ 18:00					生涯学習概論	博物館概論	(キャリアガイダンス)	

⑤ 3年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ┆ 10:30		学外実習A (インターンシップ) 学外実習B (フィールドスタディ)	物語デザイン論		
2	10:40 ┆ 12:10	博物館実習	メディア文化史 アニメーションI	環境計画論 マルチメディアコンテンツ デザイン	インタラクティブデザイン	
3	13:10 ┆ 14:40	博物館資料論	プロトタイプシミュレーションI コンテンツ制作システム論		感性情報学 都市計画論	景観デザイン論 ブランド構築
4	14:50 ┆ 16:20	博物館経営論	博物館情報論	製品計画論	出版メディアデザイン 建築計画論	デザイン総合実習II
5	16:30 ┆ 18:00			知的財産権論	(キャリアガイダンス)	デザイン総合実習II

⑥ 3年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ┆ 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリアリティ			
2	10:40 ┆ 12:10	観光とデザイン	アニメーションII 空間デザイン法規	建築構法	アートマネジメント論	構造力学 プロトタイプシミュレーションII
3	13:10 ┆ 14:40	デジタル映像史	インターネットメディア デザイン		構造・材料実験 メカトロニクス デジタル映像コンテンツ デザイン	製品デザイン史 メディア芸術論
4	14:50 ┆ 16:20			地場産業振興論	構造・材料実験 感性インタラクティブデザイン デジタルアーカイブ	デザイン総合実習III
5	16:30 ┆ 18:00		学部連携演習	地場産業振興論		デザイン総合実習III

⑦ 4年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ∩ 10:30		デジタル音響デザイン			
2	10:40 ∩ 12:10		デザインマネジメント		放送メディアデザイン ロボティクス	
3	13:10 ∩ 14:40		住宅論 ネットワークシステムデザイン	卒業研究	ヒューマンケア機器デザイン コンテンツ流通技術	建築設備計画
4	14:50 ∩ 16:20	起業論				
5	16:30 ∩ 18:00		学部連携演習	デザイン英語	(キャリアガイダンス)	

⑧ 4年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ∩ 10:30					
2	10:40 ∩ 12:10					
3	13:10 ∩ 14:40			卒業研究		
4	14:50 ∩ 16:20			卒業研究		
5	16:30 ∩ 18:00					

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数		
		必修	選択				
導入科目	スタートアップ演習	2		1年前期	2単位		
共通教育科目	文化に対する理解	哲学と倫理	2	2	1年前期	4単位以上	
		宗教と思想	2	2	1年後期		
		芸術と文化	2	2	1年後期		
		健康を考える	2	2	2年後期		
		教育を考える	2	2	2年後期		
	人間に対する理解	心のしくみ	2	2	1年後期	4単位以上	
		体のしくみ	2	2	1年前期		
		ジェンダーを考える	2	2	2年前期		
	社会に対する理解	人間関係を考える	2	2	1年前期	6単位以上	
		健康とスポーツ	2	2	2年前期		
		現代社会と家族	2	2	1年後期		
		現代社会と国際関係	2	2	2年前期		
現代社会と経済		2	2	1年後期			
外国語	英語ⅠA	1		1年前期	8単位以上		
	英語ⅠB	1		1年前期			
	英語ⅠC	1		1年前期			
	英語ⅡA	1		1年後期			
	英語ⅡB	1		1年後期			
	英語ⅡC	1		1年後期			
	実践英語A	1	1	2前・2後			
	実践英語B	1	1	2年前期			
	韓国語	1	1	2年後期			
	中国語	1	1	2年前期			
ロシア語	1	1	2年前期				
コミュニケーション・情報技術	日本語表現法	1	1	1年前期	4単位以上		
	プレゼンテーション	1	1	1年後期			
	基礎カウンセリング	1	1	1年前期			
	対人コミュニケーション	1	1	1年後期			
	グループダイナミクス	1	1	2年前期			
	手話	1	1	1年後期			
	情報リテラシーⅠ	1	1	1年前期			
	情報リテラシーⅡ	1	1	1年後期			
	合計						28単位以上
	区分	授業科目の名称	単位数			配当年次	修得単位数
		必修	選択				
専門教育科目	デザイン基礎	デザイン概論	2		1年前期	16単位以上	
		デザイン史	2		1年前期		
		デザイン方法論	2		1年後期		
		色彩設計論	2		1年前期		
		感性科学	2		1年後期		
		感性デザイン論	2		2年前期		
		ユニバーサルデザイン論	2		2年前期		
		創造産業論	2		2年前期		
		現代芸術論	2	2	2年前期		
		デザイン概論	2	2	2年前期		
	ヒューマンファクターズ入門	2	2	2年前期			
	造形基礎	造形基礎実習Ⅰ	2		1年前期	6単位以上	
		造形基礎実習Ⅱ	2		1年後期		
		デザイン材料加工実習Ⅰ	2		2年前期		
		デザイン材料加工実習Ⅱ	2	2	2年後期		
		造形基礎実習Ⅲ	2		1年前期		
		造形基礎実習Ⅳ	2		1年後期		
	情報基礎	コンピュータ基礎実習Ⅰ	2		1年後期	8単位以上	
		コンピュータ基礎実習ⅡA(3D)	2		2年前期		
		コンピュータ基礎実習ⅡB(A-バー)	2		2年後期		
コンピュータ基礎実習ⅡC(CAD)		2		2年後期			
プログラミングⅠ	2		1年後期				
プログラミングⅡ	2		2年前期				
合計					40単位以上		

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数		
		必修	選択				
空間デザイン系	空間デザイン論	2		2年後期	22単位以上を修得		
	空間デザイン史	2		2年後期			
	景観デザイン論	2		3年前期			
	都市計画論	2		3年前期			
	空間デザイン法規	2		3年後期			
	構造力学	2		3年後期			
	建築技法	2		3年後期			
	構造・材料実験	2		3年後期			
	建築設備計画	2		4年前期			
	建築計画論	2		3年前期			
	環境計画論	2		3年前期			
	家具・インテリアデザイン	2		2年後期			
	住宅論	2		2年前期			
	製品デザイン系	製品デザイン論	2			2年後期	22単位以上を修得
		製品デザイン史	2			3年後期	
製品造形論		2		2年後期			
製品計画論		2		3年前期			
感性情報学		2		3年前期			
ヒューマンファクターズ		2		2年後期			
インタラクティブデザイン		2		3年前期			
メカトロニクス		2		3年後期			
ロボティクス		2		4年前期			
感性インタラクティブデザイン		2		3年後期			
コンテンツデザイン系	プロトタイプ・ミューレーションⅠ	2		3年前期	22単位以上を修得		
	プロトタイプ・ミューレーションⅡ	2		3年後期			
	ヒューマンケア機器デザイン	2		4年前期			
	コンテンツデザイン論	2		2年後期			
	デジタル映像史	2		2年後期			
	コンテンツ制作システム論	2		3年前期			
	物語デザイン論	2		3年前期			
	バーチャリアリティ	2		3年後期			
	コンピュータグラフィクス	2		2年後期			
	アニメーションⅠ	2		3年前期			
アニメーションⅡ	2		3年後期				
デジタル音響デザイン	2		4年前期				
ダイナミックオブジェクトデザイン	2		2年後期				
マルチメディアコンテンツデザイン	2		3年前期				
デジタル映像コンテンツデザイン	2		3年後期				
ネットワークシステムデザイン	2		4年前期				
メディアデザイン系	メディアデザイン論	2		2年後期	22単位以上を修得		
	メディア文化史	2		3年前期			
	知的財産権論	2		3年前期			
	メディア芸術論	2		3年後期			
	アートマネジメント論	2		3年後期			
	広告デザイン	2		2年後期			
	ブランド構築	2		3年前期			
	デジタルアーカイブ	2		3年後期			
	コンテンツ流通技術	2		4年前期			
	メディアビジネス	2		2年後期			
出版メディアデザイン	2		3年前期				
インターネットメディアデザイン	2		3年後期				
放送メディアデザイン	2		4年前期				
合計					34単位以上		
デザイン応用	一般構造	2		3年前期	8単位以上		
	寒冷地デザイン論	2		3年後期			
	観光とデザイン	2		3年後期			
	地産産業振興論	2		3年後期			
	建築生産	2		3年後期			
	デザインマネジメント	2		4年前期			
	起算論	2		4年前期			
	デザイン英語	2		4年前期			
	構造力学Ⅰ	2		4年前期			
	学外実習B(インターンシップ)	2		3年前期			
学外実習A(フィールドスタディ)	2		3年前期				
学部連携	学部連携実習	2		3後~4前	2単位		
	デザイン総合実習Ⅰ	2		2年後期	6単位		
デザイン総合実習Ⅱ	2		3年前期				
デザイン総合実習Ⅲ	2		3年後期				
卒業研究	卒業研究	6		4年	6単位		
	合計				22単位以上		
自由科目	学芸員課程関連科目	生涯学習概論	1(自由)		2年後期	11単位	
		博物館概論	2(自由)		2年後期		
		博物館経営論	1(自由)		3年前期		
		博物館資料論	2(自由)		3年前期		
		博物館情報論	1(自由)		3年前期		
		博物館実習	3(自由)		3年前期		
視覚教育メディア論	1(自由)		2年後期				

※法改正による一級建築士受験資格変更の対応のため、平成21年度入学生用は平成18～20年度入学生用に以下の科目を追加。

- ・「デザイン基礎」科目に「近現代建築史」「設計製図基礎」を追加。
- ・「デザイン応用」科目に「一般構造」「建築生産」「構造力学Ⅱ」を追加。

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	—	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3) 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
デザイン原論 ◎吉田 恵介 原田 昭 武邑 光裕	講義 30時間	【科目のねらい】 デザインの概説、また、これまでの、あるいはこれからのデザインについて、デザインの基本的な考え方と広範なデザインの対象を理解する。まず、原田はデザインの基本的な考え方と概念について述べ、また、さまざまな製品のデザインについて、デザインの対象、設計・計画手法、最新の取り組みを概説する。つぎに、吉田は建築物や公園緑地などの大規模空間を含む空間のデザインについて、デザインの対象や設計・計画手法を具体的な事例を取り上げて解説する。さらに、武邑はデジタル映像やゲーム、ウェブに至る多様なコンテンツ創造と、メディア流通計画やビジネスモデルのデザインについて、最新の取り組みを具体的な事例を取り上げて解説する。 【到達目標】 ①デザインの基本的な考え方と概念及び具体的な製品デザインの概説を学ぶ（原田）。 ②建物及び環境デザインの基礎を習得する（吉田）。 ③コンテンツ・メディアに関して多様な創造産業や流通計画などを学ぶ（武邑）。
デザイン史 原田 昭 ◎武邑 光裕 羽深 久夫	講義 30時間	【科目のねらい】 デザインの理解を深めるため、社会、産業、生活、文化が変化する中で、どのようにデザインが変遷してきたのか、デザインの時系列的な変遷を背景となる環境と対比しながら概説する。デザインの歴史の変遷について、代表的なデザイン思想とその歴史の意味について概観し、あわせて現代デザインの問題点とその展開について理解することを目的とする。 【到達目標】 ①ドイツで起こったバウハウスから、20世紀の近代工業化社会の発展、現代に至るデザインの総合的な歴史の変遷を理解する。 ②空間、製品、コンテンツ、メディア領域におけるデザインの歴史的理解を得る。 ③現代において必要とされるデザインの役割と課題を理解する。
色彩設計論 ★中井 和子	講義 30時間	【科目のねらい】 色彩はさまざまなデザインの基礎となる重要な要素である。色彩に関する基本的知識を学習するとともに、平面・立体・空間・環境など、いろいろな条件における造形物や空間表現へ応用できる能力の習得を目指す。色の見え方、色の知覚効果、色彩と心理など、人間の知覚行動と生活環境との関連性において、色彩の効果的活用や色彩計画について考え、理解する。 【到達目標】 ①光と色と色覚の関係を理解し、色の伝達方法を知る。 ②色彩心理、色彩調和、色彩効果について理解する。 ③いろいろな色彩計画について理解する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
造形基礎実習 I ◎齋藤 利明 石崎 友紀 杉 哲夫	実習 60時間	<p>【科目のねらい】対象を的確にとらえる観察力や洞察力と、取り込んだイメージを正確に表現する基礎的能力を身につけるため、鉛筆デッサンなどのトレーニングを行う。モチーフを観察し、そこに潜むかたち・色・材質感などの特徴をとらえながら、用具の特性を生かして描写することにより、デザインの基礎となる観察力や平面での描写力、構成力、表現力などを身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①デッサンの構成要素を段階的に実習することにより、デザインを創作し、昇華させるために必要な描写力、構成力の基礎を習得する。 ②色彩の3要素（色相・彩度・明度）を理解し、色彩効果の基礎を習得する。 ③シルクスクリーンの総合課題ではデザインイメージを平面上に形として表現し、デザイン意図を的確に伝えることができる表現力の基礎を習得する。
デザイン方法論 酒井 正幸	講義 30時間	<p>【科目のねらい】生活者のニーズを把握し、それに適合する製品・サービスのコンセプトの創出、プロトタイプ制作、検証、市場導入に至るまでの一連のデザインプロセスと各ステージでの方法論を学ぶ。具体的には、下記各項目について講義と演習を通じて学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フィールド観察やフォーカスグループによる課題発見。 ②ブレインストーミングや商品地図法によるコンセプトメイキング。 ③ユーザビリティテスト、アビランステストなどによる検証と見直し。 ④市場導入にあたって配慮すべき事項の確認。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題発見、仮説構築、仮説検証など各デザインステージでの方法論を習得する。 ②フィールドでの事例を通じて一連のデザインプロセスを体験する。
感性科学 張 浦 華	講義 30時間	<p>【科目のねらい】人間は理性によって合理的判断をすることのほかに、感性の働きによって心地よいといった感情を持つが、こうした感性の働きはデザインに大きく取り入れられようとしている。感性は曖昧であるという理由で自然科学の対象とされてこなかったが、近年になって感性の働きが理性の働きと同様に重要な意味を持っていることが解明されてきた。感性の働きが人間にとってどのような役割を果たしているのか、これまでの感性科学の取り組みを紹介しながら、感性科学の基礎を理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>感性の働きと知性の働きとの違いを理解し、デザインにおける感性の取り込みについての基礎を学ぶ。</p>
造形基礎実習 II ◎上遠野 敏 片山 めぐみ	実習 60時間	<p>【科目のねらい】造形基礎実習 I で身につけた平面の表現能力をもとに、立体的なアイデアをスケッチ・パースや展開図、投影図などにより平面表現する手法を習得する。平面の図案から紙やクレイ、石膏といった実材を使った立体モデルを制作することによって、二次元の図面と三次元モデルの関係やデザインに必要な立体物の構成について理解させるとともに、立体物の制作を通じて三次元の表現力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イメージした立体を三面図やパースで表現することができる。 ②デザインにおける立体造形の基礎を習得することができる。 ③石膏による型取り技法が習得できる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
コンピュータ基礎実習 I ◎大 一 博 城 祥 之 吉 田 和 夫	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 コンピュータを利用したデザイン作業において、一般的に用いられるフォトタッチソフト及びドロー系ソフトの基本操作を理解する。フォトタッチソフトでは、写真画像の補正、効果、変形の技術をフォトコラージュ作品の制作を通して学習する。ドロー系ソフトでは、正確な幾何学図形やイラスト制作技術の習得を目的として幾何学図形、イラストレーション、オリジナルタイプフェース制作を行う。また、これらのソフトを連携して活用する手法や、ページレイアウトソフト・PDF加工などへの展開も見据えながら、印刷物・Web・オンラインプレゼンテーションなどに応用可能な表現手法を身につける。</p> <p>【到達目標】 デジタルデザインに不可欠なソフトウェアをデザインツールとして自由に使いこなす能力を身につけ、あわせて関連する知識を理解すること。</p>
プログラミング I 大 一 博	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 Webサイト構築に必要とされるプログラミング技術を理解させる。Web制作の現場では、Web制作用ソフトウェアを利用することが多いが、その場合でも基本的なHTMLの知識は必要とされる。具体的には、インターネットのしくみを理解させながら、HTML・XHTMLとスタイルシート（CSS）によるWebサイト制作演習を行う。</p> <p>【到達目標】 Web制作に関わる基本的な作業手順を理解し、Webコンテンツを適切に制作できることを目標とします。</p>
感性デザイン論 張 浦 華	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 デザインの評価は論理的側面ばかりでなく、感性的側面による点に特徴がある。人間特有の外界認識方法である感性が、感性評価、情報処理、情報検索などの認識過程で、どのような特徴を有するのか、方法論的な視点も加えながら、人間の感性の働きをデザインにどのように組み込んでいけばよいかについて解説する。感性的概念形成（印象・連想）などのように感性工学の側面からデザイン企画を行うと、いかに効果的であるかについて理解する。</p> <p>【到達目標】 機能デザインではなく、感性デザインの方法論について、ケーススタディを通して理解する。</p>
ユニバーサルデザイン論 酒 井 正 幸	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 ユニバーサルデザインを生み出す背景となった現代社会の高齢化、IT化に伴う社会システムの複雑化の現状などを理解した上で、ユニバーサルデザイン開発方法論について学習する。障害者や機能の低下した高齢者のみならず、多様性を持つ健常者の心身特性や生活実態を理解し、すべての製品・システム・サービスが具備すべき特性と、それを実現するためのプロセスや方法論について事例を交えて学習する。</p> <p>【到達目標】 ①ユニバーサルデザインの対象となるユーザーの特性を理解する。 ②ユニバーサルデザイン開発に必要な評価基準や方法論の基礎を習得する。</p>
創造産業論 武 邑 光 裕	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 英国の創造産業振興政策に始まり、世界的な潮流となった「創造産業」を概観し、創造性（Creativity）を原資とする新たなデザイン産業のあり方とは何かを理解させる。インクルーシブデザイン、ブランド・アイデンティティ、コミュニケーションデザイン、経験デザインといったデザインの新潮流と、芸術文化産業に求められる「創造性」と「コンテクスト」の意味を解説する。</p> <p>【到達目標】 ①創造性を原資とする産業の可能性とその未来の開拓を学ぶ。 ②現実社会の経済システムと創造産業の事業形成の可能性を理解する。 ③芸術文化の経済・産業化への観点を学ぶ。</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
現代芸術論 上 遠野 敏	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 現代芸術の基本理念とその特徴を、時代背景や地域特性とともに概説する。モダンアート、ダダイズム、シュルレアリスム、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、アースワーク、コンセプチュアルアート、ポストモダニズムなどについて、代表的な作家の作品を紹介しながら、歴史的・地域的特徴について概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①20世紀から現在までの現代芸術を、系譜を通して理解することができる。 ②現代芸術の理解を深めることによって、デザインの専門性を拡充することができる。 ③表現の自由を尊重し、発想の転換や創造の概念を学ぶ。
デザイン解析論 中 原 宏	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 デザインを進める上で重要となる、要素間の関連性やデータの背後に潜む要因を探求する能力、主要要因を識別する能力などの養成を図る。具体的には、社会調査・意識調査の調査方法と分析手法、相関分析、回帰分析、多変量解析など、各種データ分析手法の基礎について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各種調査方法とデータ分析手法にかかわる知識と理解力の習得。 ②上記手法を社会現象へ応用する能力の習得。 ③統計解析ソフトを利用した分析技法の習得。
ヒューマンファクターズ入門 小宮 加容子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 人間・機械・環境系において人間の諸特性を理解し、人間に優しい環境・システムを設計することは今日重要な課題となっている。これら人間の諸特性を理解するとともに、どのようにこれらの特性をシステム・環境設定に生かせば、人間の生活が健康で快適なものとなるかを、人間工学的な視点から考察する。特に、人の作業能力に適合した快適で、疲労の少ない、安全な機器、環境、作業条件を構築するための考え方、手法の基礎を講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間と機械における情報の流れについて理解する。 ②ユーザ中心設計、ヒューマンエラーについて理解する。
デザイン法規 ★津 幡 笑	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 デザインの開発を行う上で、他人の権利を侵害せず、かつ自己の新たな権利を構築するには、知的財産権の制度を理解し、情報を調査・分析する必要があり、デザインに関連したさまざまな法律や制度を踏まえておく必要がある。ここでは、著作権、意匠権、商標権といった知的財産権を中心にしながら、デザインと関連の深い各種法規について、基本的な知識を体系的に習得するほか、法規が制定された背景や意義を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①商標法、意匠法、不正競争防止法、著作権法など、デザインに関する各種知的財産法の規律を修得する。 ②クリエイターとして自分の作品がどのように保護されるかを学ぶ。 ③将来インダストリアルデザインやWebデザインに関連する会社に勤めた場合にも役立つ知識を習得する。
デザイン材料加工実習 I ◎上 遠野 敏 石 崎 友 紀 齋 藤 利 明	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 デザインの材料にはさまざまなものがあるが、ここでは木やプラスチック、セラミックスといった材料の特性について概説した上で、実際に課題を制作させ、材料の特性に合わせた加工技術や各種工作機械の活用方法を習得させる。また、デザインの目的に合致した材料の選択と、その加工方法についても理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①泥漿鑄込み成形技法による磁器制作を通し、セラミックの特性及び加工技術を理解する。 ②素材の特性を理解し、計画的に加工することができる。 ③木工機械を安全に操作して加工することができる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
コンピュータ基礎実習ⅡA (3D) 望月 澄人	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 コンピュータの三次元空間を用いた造形表現を学び、モデリング、マッピング、レンダリング等のCG（コンピュータグラフィクス）独自の技術を理解した上で、その性質をデザインや表現に結びつける手法を学ぶ。また、自由度の高い連続した曲面を定義できるサフェースモデラーやメッシュ系のアルゴリズムを持った3DCGソフトウェアを用いることにより、建築やプロダクトなどの人工物だけでなく、人間や動植物といった有機的な形態や材質感の表現を含めた立体造形物を構築する技術を習得させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①モデリング、マッピング、レンダリング等の方法を理解している。 ②三次元空間に於ける立体感や位置関係を表現できる。 ③カメラや照明を用いた演出を理解している。
プログラミングⅡ 城間 祥之	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 プログラミング言語が持つツール開発の機能を理解するためにVisualBasicプログラミング演習を実施する。特にここでは、私たちの日常生活に関連する問題の解答プログラミング演習を実施し、VisualBasicの画面を構成するウィンドウやツールボックスの操作方法、プログラム・コーディング方法、及びVisualBasicの基本文法を習得する。また、フォームウィンドウに配置したインタフェース・コントロールとその動作を制御する関数プロシージャの作成を通して、ユーザインタフェースデザインとプログラム制御との表裏関係を系統だてて理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①VisualBasicの文法に基づいてコードを記述できる。 ②日常生活で出会う事象の数学モデルが与えられたら、モデルを使って問題を解決できる（机上）。 ③問題解答プログラムを記述できる（計算機内）。
認知科学 ★吉橋 昭夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 人間の認知と思考に関する研究を中心に、「わかること」「理解すること」に関する認知科学の知見を概観する。理論と実例をとともに参照しながら、知的な人工物と人間との関わりについて理解する。わかりやすさを実現するためのインタフェース・デザインを実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>人間の認知とユーザ・インタフェースについて関心を持つ。認知科学の基礎的な知識を身に付けるとともに、デザインとの関連やわかりやすさをデザインすることの重要性を理解する。</p>
エコロジーデザイン論 矢部 和夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 生物の生活を環境との関係で解き明かし、環境との適応で種分化のしくみを捉え、どのように生物多様性が発生し推移したかを学ぶ。また、さまざまな無機環境や相互作用の中で多種が共存するしくみを学ぶ。これらの学習を通じて、地域の生物多様性を保全・向上することの意義について考究し、エコロジーデザインの基礎的な概念を構築する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①種分化のしくみを理解する。 ②多種共存のしくみを理解する。 ③生物多様性を保全することの意義を考究する。
情報社会論 武邑 光裕	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 近年、情報技術の進展は著しく、ボーダーレスでリアルタイムな情報の伝達や共有は、これまでの社会を大きく変えようとしている。ここでは、社会、文化、生産活動における情報の役割や仕組みを概説するとともに、近代以降の情報技術の進展や、現代の情報社会がもたらす社会システムの変革について、さまざまな角度から講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①情報社会の本質を理解する。 ②次代の情報・メディア産業の課題について考察する。 ③環境問題解決に情報技術がどう貢献できるかを理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営協議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
デザイン材料加工実習Ⅱ ◎石崎 友紀 上遠野 敏	実習 30時間	<p>【科目のねらい】デザイン材料加工実習Ⅰで習得した知識や加工技術を発展させるために、ここでは金属を取り上げる。さまざまな金属の特性について概説した上で、実際に課題を制作させ、金属の切除・曲げ、溶接、ロウ付け、組み立てといった加工技術を習得させる。また、デザインの目的に合致した金属の選択と、金属に合わせた加工方法についても理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①金属の特性を理解することができる。 ②金属工作機械を正しく安全に操作して加工することができる。 ③金属加工の手工具類を正しく安全に使用することができる。 ④金属を意図した通り正確に成型加工することができる。
コンピュータ基礎実習ⅡB (ムービー) 望月 澄人 ★田辺 達也	実習 60時間	<p>【科目のねらい】デジタル映像技術の進歩は、合成技術の革新でもあるといえ、レイヤーに分けられたキャラクター、小道具、背景などの画像やムービーについて、性質の異なったソースを自在に融合させた映像制作が可能のため、さまざまな表現を行うことができる。ここでは、CGアニメーションの基本的技術を学び、動く、変形する、出現と消滅、繰り返すなどの映像の基礎的手法を学び、映像制作を通して表現技術を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実写によるコマ撮りアニメーション制作を通じてアニメーションの制作プロセスを理解する。 ②ソフトウェアを使用してキーフレーム・アニメーションを制作できるようになる。 ③制作意図を伝達できる。
コンピュータ基礎実習ⅡC (CAD) ◎城間 祥之 那須 聖	実習 60時間	<p>【科目のねらい】三次元物体形状を図面に表現する製図法の基礎について、実際の製図を通して習得させたうえで、コンピュータを利用した設計技術・表現技術、特にCAD (Computer Aided Design) を通して、図面表現と具体的設計方法について理解させる。授業では、CADの利用法について、①基本的な設定、②作図法、③表現方法の3段階に分けて解説し、複数のアプリケーションを複合的に用いた表現能力を養う。特にここでは、建築系CAD (VectorWorks) と、製品系CAD (SolidWorks) の操作・表現技術を修得し、授業後半ではCADを用いたオリジナルの設計を行い、デザインツールとしてCADを利用する基礎的能力を養成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①CADによる建築図面の製図法が理解できるとともに作図可能であること。 ②オリジナルの建築空間をCADによって設計・表現ができること。 ③ソリッドモデリングのための寸法・幾何拘束の役割を理解し、スケッチを完全定義できること。 ④携帯電話などの外観(筐体)をCADによって形状モデリングできること。
空間デザイン論 ◎吉田 恵介 那須 聖 山田 良	講義 30時間	<p>【科目のねらい】デザイン基礎科目(デザイン原論、デザイン史等)を踏まえ、人間と環境を考えた空間デザインの有様と課題について理解し、空間デザインを行う際の視座と課題について学ぶ。具体的には、空間デザインの意義と有用性について、哲学・社会・倫理・技術面からパースペクティブな思考を行い、屋内外、都市・自然風景地と多岐に渡る具体的な事例を知り、その背景とプロセスを学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間と環境を考えた空間デザイン視座と課題を学ぶ。 ②建築デザインの意義と事例を学ぶ。 ③ランドスケープデザインの意義と事例を学ぶ。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
空間デザイン史 羽深 久夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】日本建築を中心として、日本・西洋・アジアと地域ごとに分け、各地域の時代を古代、中世、近世に分けながら通史として空間デザインの歴史的な成立と展開を概説する。日本と西洋、アジアにおける空間デザインの歴史を住宅に着目して、様式、地域、環境の視点から、その展開と系譜を概説し、日本の空間デザインの特質を明らかにする。また、北海道における空間デザインの歴史的な過程についても概説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本建築史、西洋建築史の流れを理解する。 ②東洋建築史、近代建築史の流れを理解する。 ③日本建築史、西洋建築史、東洋建築史、近代建築の流れと相関関係を理解する。
家具・インテリアデザイン ◎那須 聖 ★中村 昇	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】日常生活の居住環境の中なかかわりの深い家具と、建築物の内部空間を構成するインテリアのデザインについて、具体的な事例を用いて理解を深める。また、建築空間や都市空間における要素としての家具や内部空間について、的確な空間把握と利用目的に応じた設計をするための能力を養う。授業では、家具・インテリアデザインの歴史、インテリアデザインの因子を理解した上で、演習を通して、使用目的や素材・形態・使用環境それぞれの関係を考慮したデザイン能力を身につける。さらに、実物大の家具モデルの制作を通して具体的なデザイン能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間工学、知覚、安全性などを考慮して、既存インテリアの使用材料や構法の判別ができること。 ②人間工学、知覚、安全性を考慮して、室内空間の基本的計画（平面計画、家具配置、造作、仕上げ）ができること。 ③使用目的、使用者の行為、材料の特性などを理解した上で、独自の着想に基づき家具のデザインができること。
製品デザイン論 杉 哲夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】製品デザインは、未来への夢を描く中から人とモノと環境との間にある課題を発見し、具体的なカタチを通じて解決を図っていくものである。ここでは、具体的な製品デザインの事例を取り上げながらアイデア発想の視点や、製品をデザインしていく上で必要な条件やプロセスを理解し、自らの考えをデザインする方法論の基礎を身につけることを目標とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>製品デザインに必要な基礎知識を、座学と演習を通じて理解を深めると共に、製品デザインへの取り組みの視座を広げることを目標とする。</p>
製品造形論 ◎石崎 友紀 細谷 多聞	講義 30時間	<p>【科目のねらい】「形態は機能に従う」と語ったのは20世紀初頭、アメリカの建築家ルイス・サリバンだが、それ以後「機能美」などという表現も出現して、人間が作るあらゆる道具に多大な影響を与え、合理主義的な近代製品デザイン造形の基本的な考え方とされている。ここでは、機能の完全進化形としての生物や植物の持つ構造や形態を製品造形に応用する手法を解説する。また、情報化に伴う社会的価値観と生活意識の変化により、機能よりも感性的な評価やメッセージ性などが製品の造形に考慮されるべき要素として求められる傾向もあり、そうした事柄についても考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①製品造形における設計と意匠を具現する行程を理解する。 ②製品造形における構造と形態の役割を理解する。 ③成功例を観察し、社会的、歴史的な意義と必然性を理解する。 ④成功例を観察し、造形性と機能美の性能を理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会
及び教育
経営
研究
審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
ヒューマンファクターズ 小宮 加容子	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 基本科目として学んだヒューマンファクターズ入門の理解のもとに、人間のさまざまな機能・能力障害などを理解するための人間工学・福祉工学的手法について学ぶ。また、実習などにおいて動作課題に関する運動学的分析を行い、人間の関節・筋活動・動作などの正常と異常を理解する。さらに、ヒトの機能・能力障害を補償するための医療福祉機器について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①障害者、高齢者の現状と問題点について理解する。 ②各種福祉機器の問題点を抽出し、その改善案を検討する。
コンテンツデザイン論 望月 澄人	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 コンピュータグラフィクスを始め、アニメーションやウェブなどを対象とするコンテンツデザインの基本的な考え方を理解させる。多様化するさまざまなメディアが存在する中で、コンテンツを制作することは、知的欲求や感情的欲求を満たすコンテンツを生産し、供給することである。コンテンツはどのような欲求に対して制作され、どのようにデザインされるのか、他のデザインとどこが違うのかなどについて論じる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンテンツデザインの歴史と分野を知る。 ②コンテンツのモチーフや表現方法について理解する。 ③自身の目標とするコンテンツの客観的位置づけができる。
コンピュータグラフィクス 福田 大年	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 コンピュータグラフィクスの技術進化を解説し、進化を遂げるCG表現技術などを、主要なソフトウェアを用いて学ぶ。高度化する三次元コンピュータグラフィクス技術や実写との合成技術など、映画等で用いられている先端のCG表現領域についても触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンピュータグラフィクスに関する基礎知識を理解する。 ②パーソナルコンピュータを用いたコンピュータグラフィクス制作の特徴を理解することができる。 ③パーソナルコンピュータを用いたコンピュータグラフィクス制作の特徴を活かしたデザイン制作をすることができる。
ダイナミックオブジェクトデザイン ◎齋藤 利明 城間 祥之	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 ロボットのようなダイナミックオブジェクトは高度情報化社会における動態人工物である。ここでは、ヒューマノイド型ロボットの関節機構と携帯電話の折り畳み機構から動体機構を学習し、からくり人形型人工物の制作を通して手動機構製作を実践する。また、ヒューマノイド型ロボットによる「喜怒哀楽」動作表現、及び人形の顔の表情表現を通して、ダイナミックオブジェクトによる「感性表現」を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ダイナミックオブジェクトを構成する対偶・リンク・連度機構が理解できること。 ②マニュアルを参照しながらヒューマノイド型ロボットの組み立てができること。 ③ロボット動作プログラムを駆使し、「喜怒哀楽」を表現できること。 ④人形型ロボットの制作を通して手動機構を理解できること。 ⑤人形型ロボットの頭部、胴体、頸部、眼球部ごとのパーツを制作できること。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
メディアデザイン論 ◎武 邑 光 裕 武 田 亘 明	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 マスメディアからマルチメディアまで、多様なメディア形式の中で流通するコンテンツをプロデュースし、具体的なメディアの選択から流通形態にまで及ぶ新たなデザイン領域の可能性を概観する。クリエイティブな発想、構想力によるメディアの創造とその展開過程など、放送、映画、音楽、出版、インターネットなど、主要メディアを通じた「文化の産業化」過程について学ぶ。</p> <p>特に、グローバル化するメディア産業を見据え、国際戦略としてのコンテンツ流通とメディア・プロデュースの文脈、具体的なメディアビジネスを通しての国際競争力あるメディアデザインを概説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①コンテンツ・プロデュース手法、デザイン戦略におけるグローバル化への対応などを理解する。</p> <p>②近年のグローバル・メディアデザインの戦略的背景などを理解する。</p> <p>③世界市場で通用するコンテンツの創造を、権利発生からその販売までを通してシミュレーションし、メディアデザインの総合的理解を深める。</p>
広告デザイン 吉 田 和 夫	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 広告を取り巻く環境の変化は、ITの技術革新と消費者のライフスタイルの多様化に集約される。IT技術の進歩によるメディアの再評価は広告そのものの概念まで変容させている。同時に消費者の行動様式の解釈も、意識と心の分析など、より本質的な観点からのアプローチが要求されている。これらを踏まえ、メディアの多様性を意識した次世代の広告のあり方を探る。演習では、世代別ライフスタイルを基にしたコミュニケーションコンセプトの立案と、企画・発想力の開発に力点を置いた広告課題の制作を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①前半：イメージの整理及び視覚化の手法を視覚情報伝達の基本として理解し、提出作品をまとめる。</p> <p>②後半：広告デザインにおける企画提案の流れをライフスタイルを軸に理解し、企画提案及びプレゼンテーションとしてまとめる。</p>
メディアビジネス フィッシャー ニーナ	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 メディアビジネスを事業化するまでの筋道を核として、多様なメディアビジネスモデルを取り上げる。主要メディア（テレビ、映画、音楽、出版、インターネット、イベントなど）における新たなビジネスモデルを、各メディアを代表する事例研究とその分析を通して学ぶ。メディア形式と内容を理解し、テレビから携帯電話に至る一連のメディア環境から生まれるメディアビジネスについても考察する。今期は、イメージ広告／CM映像製作について考察します。まず、海外のイメージ広告とCM映像作品を詳細に分析し、成功したCM撮影の製作例に学びながら、学生ならではのアイデアを考え、新しい映像言語とフォーマットを見つけてください。札幌のCM製作会社からプロをお招きして彼らの仕事について語ってもらおうほか、札幌の企業と協力して、彼らの製品のCMを実際に製作する予定です。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①成功したCM撮影の製作例に学びながら、学生ならではのアイデアを考え、新しい映像言語と映像フォーマットを探求する。</p> <p>②メディアビジネスの主要コンテンツとなる次世代広告の概要を学ぶ。</p> <p>③広告の将来形態を劇的に変化するメディア環境として理解する。</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
デザイン総合実習Ⅰ (空間デザインコース) ◎那須 聖 吉田 恵介 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 山田 良 斉藤 雅也 片山 めぐみ	実習 60時間	【科目のねらい】 デザイン基本科目（デザイン原論、デザイン史、色彩設計論、ユニバーサルデザイン論、造形基礎実習、コンピュータ基礎実習等）や、展開科目（空間デザイン論、家具・インテリアデザイン等）の修得を踏まえ、基礎的な表現方法を修得し、課題制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。身近な住環境の把握から住空間計画、街並み景観計画の基礎実習へと制作プロセスに従いながら、空間デザインの基礎的な表現方法を学ぶとともに、併せて空間をデザインすることの意義を学ぶ。 【到達目標】 ①平面図、立面図、断面図、透視図、模型など、建築についての基本的な表現ができること ②平面図、立面図、断面図、透視図、模型など、造園についての基本的な表現ができること ③建築・造園などを総合した空間デザインの基礎的な対象として戸建住宅の計画と設計ができること。
デザイン総合実習Ⅰ (製品デザインコース) ◎杉 哲夫 石崎 友紀 酒井 正幸 張 浦華 柿山 浩一郎 三谷 篤史	実習 60時間	【科目のねらい】 デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、実験や制作などの実習を通じ、デザインに関する知識・技術をより深める。デザイン総合実習Ⅰでは、製品デザインとして必要な調査分析や実験、デザインモデル制作やレポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身に付ける。 【到達目標】 課題発見からコンセプト立案、デザイン案の制作といった一連のプロセスを習得するとともに、自分の作品集に自信を持って載せることのできる作品を作ることを目標とする。
デザイン総合実習Ⅰ (コンテンツデザインコース) ◎細谷 多聞 齋藤 利明 城間 祥之 望月 澄人 大淵 一博 福田 大年	実習 60時間	【科目のねらい】 デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え、作品制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。徐々に制作課題のレベルを上げながらデザイン能力を身に付けさせ、併せてデザインにおいて制作することの意義を学ぶ。 【到達目標】 コンテンツデザインを行う上での基礎的な能力を、コンピュータを活用したイメージ制作、及び基礎的なプログラミング技術の双方から獲得する。
デザイン総合実習Ⅰ (メディアデザインコース) ◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	実習 60時間	【科目のねらい】 デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え、作品制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。徐々に制作課題のレベルを上げながらデザイン能力を身に付けさせ、併せてデザインにおいて制作することの意義を学ぶ。 多様なメディアを対象とするデザイン・プロジェクトを理解し、地域の経済活動や文化の創造に寄与するメディアデザインの方法論を、多様な実習過程を通して学ぶ。 【到達目標】 ①地域貢献の具体例として、実習の成果を積極的に地域に伝える。 ②メディアデザインの方法と展開を理解する。 ③メディアデザインで必須なデザインスキルの習得。
景観デザイン論 ◎吉田 恵介 ★井上 剛宏 ★小松 正史 ★庄司 達 ★中野 美代子 ★三宅 理一 ★宮前 保子	講義 30時間	【科目のねらい】 景観デザインについて、都市・自然景観領域の事例理解と分析手法を学ぶ。まちづくり、パブリックアート、都市環境保全、庭園芸術にみる景の造作などの最新事例から、これまでの景観概念について論考し、景観を踏まえた新しい空間デザインの可能性をさぐる。 【到達目標】 ①景観デザインを学ぶ視座と課題を学ぶ。 ②景観デザイン事例を分析する能力を学ぶ。 ③景観デザインを創造する基礎力を学ぶ。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
都市計画論 中原 宏	講義 30時間	<p>【科目のねらい】都市の概念や、都市及び都市計画の歴史、都市の機能と空間構造、土地利用計画プロセス、都市計画制度、市街地再開発事業、都市基盤整備等、都市空間のデザイン技法全般について体系的に学習する。さらに、国内外の先進的まちづくり事例の学習を通し、転換期にある現在の都市計画の動向とその背景について理解を深めるとともに、新たな都市計画手法についても論及する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①都市、都市計画・まちづくりに係る基礎知識と理念の習得。 ②転換期にある都市計画と、新たな都市計画手法に関する理解力の習得。 ③まちづくりプロジェクトに応用できる技法の習得。
建築計画論 那須 聖	講義 30時間	<p>【科目のねらい】建築全体の中での「計画」が果たす役割を明確にし、設計に向けての論理的かつ発明的な思考を行うための知見と思考方法を養成する。具体的には、建築計画の史的理解を通して現代に通ずる計画理念を解説した上で、建築過程における計画の位置づけと条件の定義、人体寸法と使用目的に基づく単位空間、住宅や事務所といった特定の課題に対する計画の進め方、計画手法としてのモデル的考え方、空間の知覚、などについて講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①建築における「計画」が果たす役割を、史的考察、現代の建築過程における位置づけが理解できていること。 ②現代の具体的計画手法を理解し、事例の問題点が指摘できること。 ③条件の明確な理解と条件に基づいた計画目標の設定、それにふさわしい建築の内容を具体的に計画できる能力がついていること。
環境計画論 ◎齊藤 雅也 吉田 恵介 矢部 和夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】環境時代の今日、建築や都市の環境計画を行うためには、対象地やその周辺環境に本来備わる環境要素（太陽光、風、雨、雪、植生など）をヒトの安全性、健康性、快適性が得られるようにコントロールするとともに、地域にある自然環境の保全に配慮しなければならない。本講義では、建築環境、周辺環境、広域環境の3つの入れ子から成る系を「環境システム」として捉え、環境計画の基礎理論について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①建築環境計画における環境共生技術について理解を深める（齊藤）。 ②都市のオープンスペースのデザインを持続可能なまちづくりという視点から学ぶ（吉田）。 ③広域環境における生物多様性を保全する意義と保全事例について理解を深める（矢部）。
製品計画論 柿山 浩一郎	講義 30時間	<p>【科目のねらい】デザイナーは企業とユーザーの間に位置し、両者にとっての最適な価値ある解決策を導き出すことが求められている。ここでは、社会動向などを踏まえたデザインの方向性や、デザインアイデンティティ構築など、企業のデザイン戦略の事例を通じ、①ユーザーのニーズや市場における価値観の変化を把握する方法論、②企業経営の視点からの製品企画、商品化計画のあり方を理解し、製品コンセプトの立案に必要な要素項目と計画方法を身に付けることを目標とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ユーザのニーズや市場における価値観の変化を把握する手法を身につけることを目標とします。 ②「コンジョイント分析」を活用することができるようになることを目標とします。
感性情報学 張 浦華	講義 30時間	<p>【科目のねらい】人の感性をデザインに応用するための情報処理手法について解説する。工業製品などの“道具”に対して、人間の操作概念モデルの構造化から、“道具”と手や体との関わり方や、形からの発想などについて、感性的情報を得る方法を学び、感性的情報に基づいた、デザイン発想法を実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①感性情報について理解し、感性情報の抽出手法を学ぶ。 ②感性情報基付いたデザインを提案する力をつける。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
インタラクションデザイン ◎酒井 正幸 柿山 浩一郎	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 高機能化・多機能化により複雑化する電子機器やウェブサイトなどのインタフェースを、「人間中心設計」の視点からいかに使いやすいものにしていくか、そのプロセスと方法論について解説する。インタラクションデザインの持つ「物理的側面」、「認知的側面」、「感性的側面」の3側面を理解した上で 被験者とプロトタイプを用いたユーザビリティ評価演習（プロトコル解析・主観評価）を通じ、人間中心設計の理念を体験的に理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インタフェースの人間中心設計に必要な評価視点と方法論を習得する。 ②インタフェースデザイン事例制作を通じて実践力を身につける。
プロトタイプ シミュレーション I 三谷 篤史	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 プロダクトの多くは単純な外形だけの構成ではなく、その内部や連続する外部に別の可動機構や蓋など複数の部品の組み合わせで成り立っている。主たる外形をデザインする場合でも、各部同士の干渉や相互作用をも考慮した造形処理が行われる。ここでは、可動機構を装備した機器をテーマにデザインを行い、手加工に加えて、ラピッドプロトタイピングにより効率的で正確なハードモックアップを制作し、デザインとファンクションを同時に検証して、プロトタイプシミュレーションの基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロトタイプシミュレーションの手法を学び、プロダクトデザインにおけるプロトタイプシミュレーションの重要性を理解する。 ②身近にある製品のモデリングを行い、そのプロトタイプシミュレーションを通して、モデリングの問題点を見つけ、それらを修正する手法を身につける。 ③手加工による制作したモックアップについて、モデリング及びプロトタイプシミュレーションによりブラッシュアップを図る。それらの過程をレポートとしてまとめるとともに、制作した作品を発表する。
コンテンツ制作システム論 福田 大年	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 コンテンツ制作における作業工程管理やミドルウェアの利用を学ぶ。特に映像制作上のワークフローで、シナリオの生産からロケハン、制作管理にかかわる主要なソフトウェアが、いかに制作の効率的な工程に大きな貢献をしているかなどを具体的にコンテンツ制作を想定して概説する。さらに映像のみならず、ゲームや音楽など、現代のコンテンツ制作に利用可能な制作支援ソフトウェアなどを取り上げ、コンテンツ支援システムの利活用について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンテンツ制作の作業工程と産業の展開の変遷について理解する。 ②コンテンツ産業の展開を身近な事例を取り上げて比較検討することができる。 ③作業工程シミュレーションを体験し、関係分野との連携の重要性やコンピュータ技術の活用によるコミュニケーションの円滑化への取り組みを理解する。
物語デザイン論 望月 澄人	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 コンテンツ制作においては、ストーリー要素をいかにデザインするかによって、さまざまなナラティブ（語り方）が生まれる。アニメーション、映像、絵本のようなリニアな表現、あるいはインタラクティブゲームのようなノンリニア作品におけるデザインコンセプトとそのソースを分析するとともに、新たなデザイン表現の可能性を探り、自己のアイデンティティによるナラティブを創造する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①物語作品のデザイン意図を理解する。 ②自身の観点で物語を再構築できる。 ③原作をビジュアル化するためのデザイン提案ができるようになる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
アニメーションⅠ 望月 澄人	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 アニメーションは、すべてが造形物から成り立っており、実写では不可能な省略、単純化、デフォルメ、擬人化などによる象徴的な表現、感情表現が可能である。この性質は、ストーリー、キャラクター、背景、モーショ、サウンドなどすべての要素において適用される。これらを一つのコンセプトにまとめ、ディレクションを行い、絵コンテによって計画を立て、伝える力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ストーリーアニメーションの計画ができる。 ②シーンのデザイン設定ができる。 ③制作のスケジュール管理ができる。
マルチメディア コンテンツデザイン 細谷 多聞	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 マルチメディアを構成するさまざまなメディアや情報は多岐にわたっており、コンテンツ制作にはそれらのディテールの技術ばかりではなく、メディア間を横断した全体の流れを利用者に分かりやすく伝えることが重要である。マルチメディアにおける情報表現要素である「文字」、「映像」、「音声」の個々の役割を学習するとともに、これらの要素が複合的にかかわりあって総合的効果を生み出しているマルチメディアの特性を活用したデザイン技法を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①マルチメディアのさまざまな要素技術を理解し、おぼえる。 ②情報技術に合った表現上のルールを理解する。 ③マルチメディアに関する技術をデザイン制作に活用する方法を学ぶ。
メディア文化史 武田 亘明	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 歴史の中で、その時代の出来事と特徴的なメディアが伝えたことの遍歴を通して、古代から今日までに現れた多様なメディアと文化の歴史を概観する。また、各種メディアの技術開発の歴史及び各時代における宗教、為政者、企業、市民の立場から、その活用と社会に与えた影響について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各時代の文化と各種メディアの関係について理解している。 ②現代社会とこれからの社会での新しいメディアをどのように活用していくか、その方法と課題について理解している。
知的財産権論 ◎★安河内 正文 ★林 幹浩 ★北尾 知道 ★野呂 洋子 ★濱口 英樹	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 知的財産、知的財産権について、歴史的な経緯や制度の変遷を踏まえて、その現代的意義を解説するとともに、情報経済の主要な資産となる知的財産と、情報社会を支える知的財産権制度についてマクロ的観点から理解を深める。ソフトウェア特許やデジタル著作権などの重要事項、それらを取り巻くさまざまな事項についても考察する。特にこの講義では、机上の理論ではなく、実社会においてデザインやコンテンツといった知的財産がどのように活かされ、富を生んでいるかを実態として学ぶことを主眼とし、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①その分野の経済人を講師として、実際のデザインビジネスやコンテンツビジネスがどう動いているのかをお話いただくとともに ②受講生は講師のお話を聞くだけでなく、講師に対して自らをアピールする機会を持ち、講師と相互にコミュニケーションする「インタラクティブ・セッション」を行う。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①知的財産とは何かを説明できる。 ②コンテンツビジネスなど実社会で知的財産がどのように活用されているかを具体的に説明できる。 ③自ら知的財産を創造し、それを社会に活かす方法について自らプレゼンテーションできる。 ④将来の職業と知的財産の関わりについて自分の考えを述べる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
ブランド構築 武邑 光裕	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 信頼と約束の記号であるブランドは、企業や地域社会のアイデンティティを焦点化する「資産」として、最も注目されている経営戦略の一つと言える。ここでは、企業や地域におけるブランド構築の実例を分析し、デザインを活用したブランドの構築方法、展開手法などを学ぶ。あわせてブランド生成演習として実際のブランド構築計画を立案し、デザインに求められる社会的、産業的要請について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ブランド構築演習を通して、企業や地域のブランド構築の実際を学ぶ。 ②ブランド価値評価や評価指数を学ぶことで、ブランド形成に必要な構成要因についての知識を深める。 ③記号化されたブランド総体を理解することで、ブランド・デザイン全体の作業領域を理解する。
出版メディアデザイン 吉田 和夫	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 デジタルメディアの多様化におけるDTP（Desktop Publishing）の実際と今後の可能性を探る。印刷メディアの特性を意識したグラフィックデザインによるビジュアルコンセプトの立案及びタイポグラフィを中心とした情報の編集手法を、雑誌の企画編集、広告制作などの演習課題を通して学習する。同時に商業印刷ベースでのデータ制作及び受け渡し方法などの基本技術を習得するほか、デジタル化に伴う多様なメディアへの活用方法についても論及する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①DTP編集デザイン用アプリケーションの基本的操作方法を習得し、提出課題をまとめる。 ②編集出版デザインにおける企画立案とデータ制作の手法をデザイナーの立場から理解し、提出課題及びプレゼンテーションとしてまとめる。
学外実習A (インターンシップ) ◎中原 宏 城間 祥之 杉 哲夫 吉田 和夫	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 企業等において一定期間の就業体験をすることによって、各職場の実情を理解させるとともに、「仕事」とは何かを学生自身に考えさせる。事前学習において、社会人としての自覚やマナーを十分指導するとともに、学生には実習先となる企業等を調査・研究させ、その上で、企業等において大学で学んだ知識・技術を実践させ、事後にはレポートとしてまとめさせる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インターンシップ制度に関する知識の習得。 ②社会人マナーの修得。 ③社会観及び職業観の習得。
学外実習B (フィールドスタディ) ◎齋藤 利明 酒井 正幸 斉藤 雅也	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 道内外のデザイン先進企業、デザイン先進地域、歴史的建築物、現代建築の先進事例やデザイン関連展示施設等の調査を通じて、社会・産業へデザインを適用する上での知識・ノウハウについての理解を深める。事前調査研究において、調査の目的や、調査対象の特徴について予め十分な検討・調査を行い、事後にはレポートとしてまとめる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事前研究により、訪問する企業・施設の業種の特性や業務内容を理解する。 ②社会・産業におけるデザイン実務の見学を通じて実践的なデザイン展開、開発組織やデザイン手法を習得する。 ③社会観及び職業観を高める。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
デザイン総合実習Ⅱ (空間デザインコース) ◎羽 深 久夫 吉田 恵介 中原 宏 矢部 和夫 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良 片山 めぐみ	実習 60時間	【科目のねらい】2年次のデザイン基本科目、展開科目及び発展科目である総合実習Ⅰと空間コース関連展開科目、発展科目を踏まえて、住空間設計、住環境設計、景観設計の観点から、建築・環境に関わる専門的な課題を具体的なまちづくり事例の中に発見し、空間デザインの実践的なプロセスを学ぶ。 【到達目標】 ①土地利用計画、施設計画を考える基礎資料になる敷地調査の方法と要点を修得する。 ②土地利用計画、施設計画を考えるプロセスであるエスキスの方法を修得する。 ③①と②を踏まえ、札幌市におけるさまざまな地域環境の違いに配慮しながら、環境や景観を含んだ空間を、建築計画や地域計画を通して計画・設計する方法とプレゼンテーションの方法を修得する。
デザイン総合実習Ⅱ (製品デザインコース) ◎張 浦 華 石崎 友紀 酒井 正幸 杉 哲夫 柿山 浩一郎 三谷 篤史	実習 60時間	【科目のねらい】デザイン総合実習Ⅰを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通して実践的なデザイン能力を身につける。 【到達目標】 ①製品デザインのデザインプロセスを習得する。 ②斬新な発想を行うとともに、魅力的に伝達する。 ③デザイン成果としての模型制作。
デザイン総合実習Ⅱ (コンテンツデザインコース) ◎城間 祥之 齋藤 利明	実習 60時間	【科目のねらい】コンテンツデザインの発想法や企画法を身につけ、かつ作品制作技術、プレゼンテーション能力を発展させるため、コンテンツデザイン制作課題、及び企画課題を行う。制作課題では、マーク、ロゴタイプ、ポスター広告、POP広告、ディスプレイ、及びコマーシャルなどの平面構成作品を制作し、プレゼンテーションを実施する。企画課題では、新規コンテンツ企画、札幌の観光コンテンツ企画を通して、対象とする“もの・こと”に関する情報収集、調査分析、立案、企画書作成、プレゼンテーションなどを行い、企画立案・文書作成能力を実践的に身につける。 【到達目標】 ①多数のデザイン案を発想し、最適なものを選別できる能力を身につける。 ②速やかにデザイン展開し、作品に仕上げられること。 ③コンテンツ企画に関する情報収集、調査分析が的確にできること。 ④実現可能性の高い企画立案ができ、明確な文章で企画書を記述できること。
デザイン総合実習Ⅱ (メディアデザインコース) ◎武 邑 光裕 上 遠野 敏 吉田 和夫 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	実習 60時間	【科目のねらい】デザイン総合実習Ⅰを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通して実践的なデザイン能力を身につける。共通のねらい：自己のポートフォリオを作る。内容：第1課題ルポルタージュを素材としたビジュアルブックの編集デザインを通して、情報の編集と整理及び視覚化の手法を学ぶ。さらにその成果をウェブデザインや戦略的プレゼンテーションへと昇華させる。 【到達目標】 ①札幌市や地域の企業などと共同で、随時実習の成果目標となるデザイン計画を実現させる。 ②ポートフォリオの制作方法の理解を得る。 ③メディアデザイン分野のプレゼンテーション方法論を習得する。
空間デザイン法規 ★小林 宏	講義 30時間	【科目のねらい】空間デザインに関連する法令は、都市・建築空間の質、建築・住宅の性能に大きくかかわってくる。建築計画、設計及び施工を行うに当たって必要となる関係法令について、建築基準法を中心に条文の趣旨及び背景について解説するほか、都市計画法、消防法、建築士法といった法令とのかわりについても論及する。事例を紹介しながらわかりやすく解説することで、各法令の必要性と趣旨を十分理解させる。 【到達目標】 条文を解説し建築物の意匠設計に法令の主要規定を反映することができること、及び設計図を見て設計内容が法令の主要規定に適合しているか否かを判定できることを到達目標とする。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
構造力学 ★石丸 修二	講義 30時間	<p>【科目のねらい】建築物などにどのような力がかかっているのかを理解し、その力を計算することは、建築物や構造物を設計する上で非常に重要なことである。ここでは、建築物や各種構造物が、力学的にどのような構造になっているか、構造力学の基礎理論や原理を理解させる。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に関する基礎理論を体系的に解説するほか、演習を交えることで理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①単純ばり、簡単なトラス構造やラーメン構造の応力が解けるようになる。 ②断面の性質・応力などを理解する。 ③建築デザインにおける構造力学の役割・必要性を理解する。
建築構法 羽深 久夫	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】住宅を中心とする建築は、環境と共生しながら人間を安全に守る装置であるために、意匠、計画のほかに材料、構造、施工を踏まえた建築構法からデザインを行い、空間を成立させなければならない。木構造における、木材の性質、継手・仕口、床組、軸組、小屋組と各部詳細の基本を概説しながら、基本寸法や断熱材を含めた構成を理解させる。木構造の理解の上に、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、組積造についても、床組、軸組、小屋組と各部詳細の基本を概説する。また、実際の建築物の見学を行い、実寸の建築構法を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①建築構法のしくみを理解する。 ②木構造の特徴と構造形式を理解する。 ③鉄筋コンクリート構造、鋼構造の特徴と構造形式を理解する。
構造・材料実験 羽深 久夫	実習 60時間	<p>【科目のねらい】建築を成立させる空間デザインは、自然や都市環境において自立する空間と外力（風、地震等）に対して安全な空間を成立させるために、建築材料としての性能とそれを組み合わせたときの建築構造としての性能の理解が必要である。木構造・鉄筋コンクリート構造の構造形式と構造材料・仕上げ材料を矩計図により理解する。構造材料のうち、基本となる木材、セメント・コンクリート、鉄筋等の物理的特性を把握するために、試験用供試体を制作し、強度試験を行い、応力度とひずみ度の関係からヤング係数についての考察を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①建築構造における木構造、鉄筋コンクリート構造、鋼構造の基本を理解する。 ②木材、コンクリート、鋼の力学的特性について実験を通し理解する。 ③木構造、鉄筋コンクリート構造の施工における力学的特性を理解する。
製品デザイン史 杉 哲夫	講義 30時間	<p>【科目のねらい】人間は長い歴史の中で、自分たちの生活をより安全に、より豊かにさせようと、さまざまな建造物や道具、美しいものの数々を作り出してきた。人間のこの創造の歴史は、それを取り巻く時代背景や生活、思想が凝縮され、かたちとなって表れているものである。もののかたちを通してこれまでの人間の生活、時代背景を学びながら現在の自分たちの置かれている状況を大局的に捉え、これからの創造の方向性をつかみ取ることが重要である。この授業では、近代以降のデザインと社会の関わりをひも解きながら、その時代においてデザインがどのような世界を目指し、問題解決してきたのかを見ていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>製品デザインの歴史を作ってきたモノ・人・世相に対し、座学とレポート作成を通じて理解を深めるとともに、製品デザインに対する視座を広げることを目標とする。</p>

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
メカトロニクス 三谷 篤史	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 現在多くの機器には、自動制御のための電子回路が搭載されている。ここでは、製品デザインに必要なメカトロニクスの基礎についてわかりやすく解説するほか、具体的な機器を事例としてあげ、その中でマイクロプロセッサやセンサ、アクチュエータなどがどのような役割を果たしているのかを概説する。また、簡単な電子回路を搭載した課題を制作することで、制御や駆動のシステムを理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 演習を通じて、メカトロニクス製品を構成する要素である、マイコン・センサ・アクチュエータの役割と、それらを用いたシーケンス制御を理解する。</p> <p>② シーケンス制御を応用したシステムを提案し、実動モデルを制作するとともに、制作課題の発表を行う。</p>
感性インタラクション デザイン ◎張 浦華 細谷 多聞	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 インタフェースのデザインにおいて、最近になって感性インタラクションデザインが注目されている。機器を操作するに当たり、個々の人間の習慣や使用頻度、無意識的な生体反応パターン、身振り運動などの人間の感性的反応を活用して論理的操作によらない操作インタフェースを紹介しつつ、新しいインタフェースのあり方を考えさせながら、体験的にデザイン製作の演習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>機器との関係における感性の働きを理解するとともに、これを活用したインタラクションの仕組みを実現する技能的な表現力を獲得する。</p>
プロトタイプ シミュレーションⅡ 三谷 篤史	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 フォーカスグループやユーザビリティテストにおいて必要なプロトタイプシミュレーションの具備すべき機能、制作方法及びそれを用いた評価方法について学習する。プロトタイプは開発の段階、評価方法によって要求機能、制作方法が異なる。開発の上流段階においては操作の大まかな流れ（状態遷移）を模擬した簡易プロトタイプが用いられ、製品化直前の下流段階においては、「感性的側面」も含め、具体的な表現や動きを伴う詳細なプロトタイプシミュレーションや、原寸プロトタイプが必要となる。ここでは主に上流段階で用いられるプロトタイプシミュレーションの制作を通じて、プロトタイプの機能と役割を理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① デザイン開発プロセスにおけるプロトタイプシミュレーションの制作目的を理解した上で、その制作方法及び、これを用いた評価手法を習得する。</p> <p>② 事例制作を通じて、実践的な応用力を身につける。</p>
デジタル映像史 武邑 光裕	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 デジタル映像の歴史を展望する。デジタル技術によって生産された歴史的な映像作品からCG作品を紹介し、撮像過程を持たないCG映像から現実の映像表現領域を更新し続けるデジタル映像特殊効果など、シミュレーションからエンターテインメント映像領域の展望について学ぶ。併せて、こうしたデジタル映像の膨大な流通消費によって生じている社会や文化の変容について触れ、映像表現とコミュニケーションの今を概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① デジタル時代の映像コンテンツやメディアの機能を理解する。</p> <p>② 優れた映像作品を鑑賞し、作品の分析・批評を通じて、映像作品と文化に対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>③ 映像の革新を担う作家、プロデューサーとしての感受性を磨く。</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
バーチャルリアリティ ◎細谷 多聞 柿山 浩一郎	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 VR（バーチャルリアリティ）とは、「仮想現実」という訳語では理解されにくい概念である。「事実上の現実」として編成されるVRの概念を学び、具体的にVRの表現技術や、コンテンツ制作に必要なVRのモデル化などを、多彩なコンテンツ事例を通して学ぶ。実際にVRの知覚体験を通じて、演出上のデザインシナリオの考察とポイントの把握、解像度、ポリゴン数、素材となる図形の生成、画像処理など表現技術上の留意点を踏まえ、VR表現の基礎技術を具体的なコンテンツ事例を通して習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①情報化された事象と、現実空間からのインタラクティブな働きかけの双方を関連づける概念・原理・技術を理解する。 ②上記を具体的に表現する手法（デジタルカメラを用いたパノラマ画像撮影、Directorを用いたオーサリング）を獲得するとともに、以降の制作活動に活用できるようになる。
アニメーションⅡ 福田 大年	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 アニメーションとは、無機的な物体に生命感や躍動を与えるという概念である。いかに人間の性格や感情の表現が、今日の電子ゲームやアニメーション作品に重要な意味を与えているかを解説し、実際の身体表現やモーションキャプチャーを利用してアニメーションの動きを生成する表現技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アニメーションの原理、技術進化を体系的に理解する。 ②身体表現から得た情報を的確にアニメーション制作に活かすことができる。 ③自然現象などから動きのルールを抽出し、動的コンテンツ制作へ展開することができる。
デジタル映像 コンテンツデザイン 福田 大年	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 デジタル映像とは、CGと実写との合成要素を含んだ広範囲でマルチユースが可能な映像情報であり、地上波デジタル放送の普及により、今後ますますニーズが高まることが予想されている。ここでは、デジタル映像表現技術を学び、実際のHDTV映像作品からCG作品までを制作するために必要なワークフローやデジタル映像編集システムなどを習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①デジタル映像制作の基礎的技術とデジタル映像の汎用性の高さを理解する。 ②デジタル映像の表現技術や編集方法を、制作を通して理解する。 ③デジタル映像の可能性を各自のデザイン活動に活かす能力を身につける。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
メディア芸術論 フィッシャー ニーナ	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 メディア芸術と総称される1980年代以降の新たな芸術表現分野を中心に、先端科学技術と芸術表現との関わりについて概観する。メディア芸術作品の具体的な事例を通して、作品解析とともに探る。</p> <p>特に今期は、地域の文化的、構造的発展のための国際コンテンポラリーアート・ビエンナーレの必要性について検証する。本授業では、北海道の地に新たな文化的注目を集めるため、将来、札幌市が国際現代アートビエンナーレを開催すべきかどうかについて、活発なディスカッションを提示したい。開催に向けた戦略と具体的アプローチの検討を行い、札幌ビエンナーレ実現の可能性や、他の地域との差別化の可能性を探る。世界中のビエンナーレや毎年開催されるアートイベントに関するリサーチを行い、以降に続く問いに対する手がかりを見つける。(2008年横浜トリエンナーレ、光州ビエンナーレなど) どのようにビエンナーレは機能しているか？ これらの展覧会のコンセプトにはどのような相違があるか？ どのような種類のビエンナーレが札幌に適しているか？ それは既存のビエンナーレとどのような違いがあるのか。横浜と福岡トリエンナーレとの違いは？ どのようなビエンナーレを札幌で開催したいか？ ベストなタイミングは？ 札幌が提示すべき基本的条件とは何か？ まず、何をすればいい？ 2008年度のビエンナーレプロジェクト1の結果にもとづき、札幌における国際現代アートビエンナーレの準備として、Pre Sapporo Biennale Project II：「札幌の公共空間における“土地に固有なアート作品”」の構想を考えます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①札幌の現代アートのための戦略と具体的アプローチ、例えば、市民に対して都市の創造性を視覚化するため、“土地に固有なアート作品”の学生展覧会を公共空間で計画し、その実現方法を検討します。 ②また、第一段階として若いアーティストが自身の芸術的取り組みや発想を表現できるスペースとなる、芸術という組織体 (organism) における育成の場 (cell) の創出について議論していきます。 ③学生は個別に戦略を検討し、実現のためのコンセプトを考え、理論と具体的アプローチのプレゼンテーションを行います。最後に、リサーチの結論について議論します。
アートマネジメント論 上 遠野 敏	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 芸術を通して、その価値や有用性を社会の中で、広く展開するためのアートマネジメントの基礎を学ぶ。コンテンポラリーアートの表現の変容や歴史的系譜を理解し、現代を照射する展覧会の企画やキュレーション、関連事業、実施、運営、記録、図録の資料化など、将来の芸術産業創出を見据えた実践方法や考え方を講義する。美術館やギャラリーの活用のほかにも、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりの観点から、市民との協働や地域文化振興など、地域創造による脱アートスペースの可能性についても考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①芸術の意味や価値を考察し、文脈を構想しながら社会的な展開を図り公開をする目的を理解する。 ②芸術文化をアートマネジメントの基礎力を養うことができる。 ③芸術産業創出による地域振興の課題に取り組む姿勢を育成する。
デジタルアーカイブ 須之内 元洋	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 個人によるパーソナルなアーカイブや国家規模のミュージアムアーカイブ、さらには全世界のウェブの情報を記録するインターネット・アーカイブに至るまで、さまざまなアーカイブの具体例を参照しながら、文化の共同記憶の場としてのデジタルアーカイブについて理解を深めます。同時に、イメージ (映像や画像)、音楽、ソフトウェアなどを保存するためのテクノロジーやその意味を明らかにし、メディアデザインの創造的苗床となるデジタルアーカイブの可能性について考えます。後半の演習では、講義で習得した内容を踏まえ、パーソナル・アーカイブの制作を実践します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①デジタルアーカイブの社会的意義、アーカイビングの手順やシステムの基本的仕組みを理解する。 ②デジタルアーカイブが生み出す効果や価値に関する明確なビジョンとともに、小規模なパーソナル・アーカイブの提案/制作を行うことができる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
インターネット メディアデザイン 須之内 元洋	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 インターネットをメディアとして概観し、文化、福祉、生活、ビジネスなどの多様なフィールドにおける、活動支援や価値創造のためのメディアデザインの基本を習得します。既に世界規模で多種多様なコミュニケーション基盤がインターネット上に形成され、それらは相互に連携し、影響を及ぼし合いながら進化しています。こうした環境の中で、いかなるメディア形式で、どのようにコンテンツを編んでいくのか、事例考察と課題を通じて考えます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①インターネットのダイナミックな情報の流れや、それに伴う現実空間の人の知覚及び行動を直感し、インターネットのアーキテクチャやインターネットメディアを支えるシステムの基本的仕組みを理解する。</p> <p>②メディアの効果や創出価値の明確なビジョン、編集手法、UIデザイン、情報フロー定義の提案とともに、新しいインターネットメディアの企画提案をすることができる。</p>
寒冷地デザイン論 ◎斉藤 雅也 山田 良 ★吉田 修	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 寒冷地特有のデザインについて、空間的なアプローチと製品のなアプローチの両面から理解を深めるほか、北海道（札幌）特有のデザインの可能性についても考察する。具体的には、北欧をはじめ諸外国の寒冷地における空間デザイン、製品デザイン事例に基づき、その背景から成立までのプロセスと地域による特徴を学ぶ。また寒冷地にて空間性能を決定づける熱環境など、建築環境デザインの可能性を考察する。札幌でのデザインの方向性を考察する演習課題も併せて行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①寒冷地デザインにおける特質・制約、さまざまな技術事例を理解する（斉藤）。</p> <p>②寒冷地のポテンシャルを活かすデザイン提案を行う力をつける（山田）。</p>
観光とデザイン ◎中原 宏 ★井原 縁 ★小野 有五 ★高崎 邦子 ★俵 浩三	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 多面的なテーマである「観光」を「デザイン」の視点からとらえ、「観光」と「デザイン」の関係について考察することを目的とする。具体的には、自然・歴史・文化・生活・景観など、地域の個性や資源を再認識し、地域の魅力を引き出す方法を学ぶとともに、これらを活用した地域活性化を行う方法についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①アーバンツーリズム、エコツーリズム、グリーンツーリズムなどに係る基礎知識の習得。</p> <p>②資料やフィールドサーベイによる、まちや地域の資源の発見能力の習得。</p> <p>③活性化へ向けた地域の魅力付けと、プレゼンテーション技能の習得。</p>
地場産業振興論 ◎★小早川 護 ★内田 純一	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 地域の産業振興は、その地域特有の歴史や環境などを踏まえるとともに、マクロ的な産業動向や経済状況を見据えた中長期的視点からのアプローチが必要になる。また、地域の大学や業界団体、地方自治体、さらにNPOなどの非営利セクターとの連携を図って、総体として地域の産業活性化を図っていくことが求められる。本科目では、これまで国や地方自治体で推進されてきた地場産業振興方策や、世界各国における地域レベルでの産業活性化政策を紹介し、地域における産業振興のあり方について理論的・実践的に学んでいく。なお、札幌をはじめとした主要都市におけるデザイン振興・コンテンツ産業振興のための各種取り組みや、北海道でも近年注目されてきている地域ブランドに関する政策展開と戦略課題などについても紹介し、受講生が自らの問題として地場産業振興のあり方を構想できるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①日本及び諸外国における産業振興の成功事例を紹介できる。</p> <p>②地域発展のために必要な関連理論について説明できる。</p> <p>③地場産業振興のための地域戦略の基本ビジョンを構想できる。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
学部連携演習 ◎酒井 正幸 エル サニ マロアン 武田 亘明 張 浦華 フィッシャー ニーナ 細谷 多聞 斉藤 雅也 那須 聖 福田 大年 山田 良 三谷 篤史 ◎スーディ神崎 和代 樋之津 淳子 清水 光子 須田 恭子 吉川 由希子 星 美和子 渡邊 由加利 河村 奈美子 櫻井 繭子 進藤 ゆかり 三上 智子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 看護学部及びデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護及びデザインの自己の専門性について理解を深める。 ②異分野である相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 ③学際的視点からの課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース) ◎中原 宏 吉田 恵介 羽深 久夫 矢部 和夫 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良 片山 めぐみ	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 デザイン基本科目、展開科目及び発展科目である総合実習Ⅰ、Ⅱと空間コース関連展開科目、発展科目を踏まえて、住空間設計、住環境設計、景観設計の観点における空間デザインの調査・分析と計画・設計を学ぶ。特に、中心市街地と郊外に関する2課題について、各教員のゼミ形式による実習を通し、実践的なデザイン能力を身につけるとともに、卒業研究に向けた準備を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企画・調査・分析力の習得。 ②構想力・表現力の習得。 ③コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の習得。
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース) ◎酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 張 浦華 柿山 浩一郎 三谷 篤史	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱをはじめ専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身につけさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>課題発見からコンセプト立案、デザイン案の具現化、高質化、及び検証に至るデザインの全プロセスを総合的に習得する。</p>
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース) ◎齋藤 利明 城間 祥之 望月 澄人 細谷 多聞 大渕 一博 福田 大年	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱをはじめ専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身につけさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ポートフォリオが作成できる。 ②目標とするデザインを理解する。 ③目標としたデザインをオリジナルコンテンツに活用できる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース) ◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	実習 60時間	<p>【科目のねらい】 デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱをはじめ専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身につけさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。メディアデザイン分野の先進のデザイン概念を習得し、研究論文の制作に取り組むための方法論と研究の対象化について個別のゼミ指導を行う。</p> <p>【到達目標】 (武邑光裕)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自らの制作課題を立案し、卒業研究へ至る研究方法論を学ぶ。 ②主に大学における研究論文制作など、個別の研究テーマの選択に向けて指導する。 ③研究論文の書き方、研究対象の設定方法などを習得する。 <p>(上遠野敏)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己のアイデンティティを社会との関係の中から考察するアートを習得する。 ②表現における概念の構築と技法を習得する。 ③プレゼンテーション方法や展示における空間構成を習得する。 <p>(吉田和夫)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①視覚伝達デザインにおける情報の収集・整理、視覚化の手法を、タイプフェースデザイン・VI計画・フローチャートデザイン・広告企画などを通して理解し、提出作品に反映させる。 ②ブランディングの視点からオリジナル商品群の企画開発をテーマとして取り上げ、市場リサーチ～業種設定～店舗デザイン～パブリシティ計画という一連のプロセスを通して、社会の中で機能するデザインとしての提案及びプレゼンテーションを行う。 <p>(フィッシャー ニーナ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①制作課題を立案・制作し、卒業制作に至る各自のテーマの選択を指導する。 ②地域文化を表現する短編映画手法などを学び、実際に制作課題を発表する。 ③短編映画の手法を学び、実際に制作課題を発表する。 <p>(エル サニ マロアン)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①制作課題を立案・制作し、卒業制作に至る各自のテーマの選択を指導する。 ②短編映画の手法を学び、実際に制作課題を発表する。 ③映像作品のプレゼンテーション能力を磨く。
建築設備計画 斉藤 雅也	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 建築設備は、建築内部に住むヒトの環境（光・熱・空気・水の流れ）を調整するための電氣的・機械的仕掛けで、本来、建築や都市を取り囲まれる環境にあるエネルギーの流れや物質の循環として計画を行う必要がある。本講義では、建築の空気調和・給排水衛生、電気・情報の設備計画に関わる基本的な知識を習得し、それに基づいて実際の住宅や事務所建築で実施例についての理解を深める。また一部、演習では、建築設備図面の読み方、描き方、全国の自治体などで採用されている建築物総合環境評価システム（CASBEE）の概要を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①建築環境システムの構成要素としての建築設備についての理解を深める。 ②空調設備、電気設備、給排水設備の図面を解釈することができる。 ③建築の省エネルギー性とヒトの快適性を満足する環境性能評価システムを習得する。
住宅論 那須 聖	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 多種多様な住宅のあり方について、さまざまな住宅を取り上げて、その建築構成、家族構成、風土、気候、生活実態からシェルターとしての住宅のあり方を考察する。授業では、各地の伝統的住居、近・現代の代表的住宅建築、現代日本の住宅を取り上げ、住空間に要求される性能について理解を深める。その上で、住宅の具体的な計画について実践する力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①世界各地の地域性と住居の関係を理解できる。 ②近現代における住居の計画手法が理解できる。 ③住宅を構成する諸要因の分析と具体的な計画を行うことができる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
ロボティクス 三谷 篤史	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 ロボットの動きを規定する回転・旋回運動及び伸縮動作機構の基本原理解説する。また、関節を駆動/停止させるモータドライバの特性などを解説し、最後にパーツ・アセンブリタイプのセンサを内蔵した簡単なロボットを制作することにより、ロボットについての理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ロボットのメカニズムを理解し、ロボットの動きをデザインするための基礎知識を習熟する。 ②ロボット制作実習を通して、ロボットの動きや機能を実現する技能を身につける。また、制作したロボットについて、プレゼンテーションを行う。 ③グループワークによりロボットを制作する課題を通じて、高度なコミュニケーション能力を高めるとともに、グループワークにおいても自分の個性を積極的に発揮する能力を養う。
ヒューマンケア機器 デザイン ◎小宮 加容子 柿山 浩一郎	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 ヒューマン機器を題材として、障害者や高齢者の利用する身近な機器の課題抽出を行い、その改善策を検討して、最適な機器のデザインを考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各福祉機器の現状と課題について理解する。 ②各課題では問題点を発見し、その改善策を提案する。
デジタル音響デザイン ◎★久保 壽光 ★伊藤 博之	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 映像やアニメーションなど、時間軸の中で画像が動くことによって、必然的に音による表現も必要となる。動画に対応したサウンドや効果音などについて、サンプリングやリミックスによる音響表現を学ぶ。多数の事例を紹介し、音響が映像に与える影響や効果について理解を促し、デジタルコンテンツの中でも広域な表現分野である「音」のデザインを習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ネット社会における音響表現について理解する。 ②サウンドシンセシスの基礎について理解する。 ③指定されたサウンドファイルを作成、提出できる。
ネットワークシステム デザイン 大 瀧 一 博	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 インターネットという巨大なシステム基盤の基本的な仕組みと、現代の IT社会において扱われている情報・コンテンツ・サービスについて理解する。ネットワークシステムを実際に構築しながらその仕組みを理解し、ブログやネット上のコミュニティサイトなど、新しいタイプのWebコンテンツデザインについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ネットワークシステムの基本事項について理解すること。 ②ネットワークシステム設計において、基本的な知識を活用できること。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営協議会 及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
コンテンツ流通技術 エル サニ マロン	講義+演習 30時間	<p>【科目のねらい】 インターネット技術基盤から情報流通の基本知識を身につけると同時に、デジタルメディアの特性を明らかにしつつ、コンテンツの生産管理からその流通モデルを、内外の具体的なコンテンツ流通システムなどを通して学ぶ。その過程において、インターネット社会のコミュニティ特性や、コンテンツ創造手法などについても触れる。</p> <p>ラジオ、ポッドキャスト、テレビ、ストリーミングなど、コンテンツの放送配信のためのフォーマットを検証しながら、インターネット、デジタルメディアの特性、コンテンツ流通モデルのマネジメントといった、情報配信に関する基本的知識を学びます。また、商用/非商用の相違、コンテンツ配信の権利、著作権やクリエイティブコモンズライセンスといった、映像メディア配信を行う際に特有のキーワードについても理解します。具体的なケーススタディを通じて、インターネットのコミュニティや、コンテンツの受け手との関係構築マネジメントなどについても学びます。講義後半では、例えば、自分たちのコースで制作した作品を公開するためのウェブプラットフォームなど、新たなコンテンツ配信モデルの提案と構築を行います。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① デジタルメディア時代のコンテンツ流通の複雑さを分析できるようになること。 ② UGC (User Generated Content) の趨勢や、コンテンツの受け手との関係構築マネジメント (CRM) など、アートの流通ネットワークの状況について理解を深める。 ③ 本講義で学んだクリエイティブ分野において、自分の得意な専門スキルを見つける。
放送メディアデザイン ◎フィッシャー ニーナ エル サニ マロン	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 放送メディアの基本的特性を理解しつつ、現代の個人放送局を可能とさせるインターネット環境など、放送形式の多元化が及ぼすさまざまな可能性を学ぶ。ストリーミングラジオ、ポッドキャスト、テレビ、デジタルシネマ、映像ストリーミングといった、現代の多様な放送配信フォーマットの展望について理解を深めます。近代の映像/メディア作品の特徴を理解したうえで、新しい映像フォーマットに関するアイデアを考え、実際に試験版の映像メディア作品 (短編映像) を製作しながら、配信手法の可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 特に近年発展が著しい技術の最新動向にも着目しながら、放送メディア作品の複雑さを分析できるようになること。 ② ストリーミングラジオ、テレビ、映画、ポッドキャスト、4G技術 (第四世代携帯電話)、映像ストリーミングなど各種フォーマットの特性と作品制作フローを理解する。 ③ 本講義で学んだクリエイティブ分野において、自分の得意な専門スキルを見つける。
デザインマネジメント 杉 哲夫	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 企業経営において重要なデザインマネジメントについて、身近な商品を通じて価値創造や流通戦略を考え、提案するという一連のプロセスを通じて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市場競争の中でデザインが取り組むべき課題と方法を理解する。 ② グループワークを通じ、企画の具体的な作成方法を理解し、的確に伝えられる。 ③ 具体的提案の精度を高める方法を理解し、実践できる。
起業論 ◎★土井 尚人 ★吉澤 慶記	講義 30時間	<p>【科目のねらい】 起業することの動機や意義をはじめ、起業するためのビジョン、課題や問題点について概観し、実際に設立されたベンチャー企業の事例を取り上げながら「起業」についての基礎知識を深め、具体的に起業するための方法論を学ぶ。また、学生が卒業後の進路を考える上での参考となるように、会社や企業とは何かについて、学生とともに考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 起業 (企業内の新事業創設も含めて) について必要な知識を体系として身につける。 ② なぜ、携帯電話が0円で売れるのか、ユニクロは成功したのか、ファミレスは一気に出店するのか、保険の営業は自宅に訪問したがるのか、リッツカールトンは高くても満室になるのか、などを理論として学び、ビジネスモデルを理解する。 ③ 企業の利益向上策を提案できるようになる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
デザイン英語 ★遠藤 昌子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 共通教育科目における英語教育を踏まえ、学生が将来、さまざまなデザイン活動の場で触れることになる専門用語や簡単な英文等が理解できるように、デザインに関わる英語文献や専門雑誌等を用いながらデザイン英語について教授する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 英語でデザインに関する簡単な新聞・雑誌記事を読解できる。 ② 英語のデザインに関する文章を日本語で要約できる。 ③ 英語のデザインに関する文章を理解し、背景知識を調査し、日本語で発表できる。
学部連携演習 ◎齋藤 利明 吉田 恵介 矢部 和夫 羽深 久夫 中原 宏 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良 杉 哲夫 酒井 正幸 石崎 友紀 張 浦華 三谷 篤史 城間 祥之 細谷 多聞 望月 澄人 大淵 一博 武邑 光裕 吉田 和夫 上遠野 敏 フィッシャー ニーナ エル サニ マロアン ◎河野 總子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 大野 夏代 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 保田 玲子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 看護学部及びデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護及びデザインの自己の専門性について理解を深める。 ② 相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 ③ 課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。 ④ 異分野の専門性に触れることを通して、自身の専門性を拡充することができる。
卒業研究 (空間デザインコース) ◎中原 宏 吉田 恵介 矢部 和夫 羽深 久夫 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良	演習 90時間	<p>【科目のねらい】 卒業研究はデザイン学部のカリキュラム中で最大・最重要の科目であり、4年間の学部教育の集大成として位置づけられている。デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをはじめ、空間デザインコース関連の展開科目・発展科目で培った建築計画、建築意匠、建築史、建築環境・設備計画、都市計画、都市景観・ランドスケープデザイン、環境保全学などから各自の研究テーマを具体的に設定する。また、個々の選任教員の指導を受けながら1年間考究を行い、論文及び作品としてまとめるとともに、その研究成果を学内で発表・展示する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究企画力・調査分析力・研究推進力の習得。 ② コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の習得。 ③ 空間デザイナー、空間プランナーとしての素養・倫理観の習得。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営協議会
及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
卒業研究 (製品デザインコース) ◎杉 哲夫 石崎 友紀 酒井 正幸 張 浦華 柿山 浩一郎 三谷 篤史	演習 90時間	【科目のねらい】4年間の学部教育の集大成として、デザイン総合実習等で培ったそれぞれの専門分野に基づいて研究テーマを設定し、個々の専任教員の指導を受けながら論文及び作品としてまとめ、研究成果を学内外で発表・展示する。 【到達目標】 研究テーマについて専門的に追求し、1年間を通して卒業研究成果を「論文」と「作品」の両方についてまとめる。上記を通じ、調査分析力、研究推進力、デザイン制作力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。
卒業研究 (コンテンツデザインコース) ◎齋藤 利明 望月 澄人 城間 祥之 細谷 多聞 大淵 一博 福田 大年	演習 90時間	【科目のねらい】卒業研究は4年間のデザイン学部教育の集大成として位置づけられている重要な科目である。デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをはじめコンテンツデザインコース関連の展開科目・発展科目で学んだ専門分野に基づいて各自の研究テーマを設定し、個々の専任教員の指導を受けながら論文及び作品としてまとめ、研究成果を学内で発表・展示する。 【到達目標】 ①研究企画力・調査分析力・スケジュール管理能力の習得。 ②将来デザイナーとして活躍していくための専門知識の習得。 ③コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の習得。
卒業研究 (メディアデザインコース) ◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 フィッシャー ニーナ エル サニ マロアン	演習 90時間	【科目のねらい】4年間の学部教育の集大成として、デザイン総合実習等で培ったそれぞれの専門分野に基づいて研究テーマを設定し、個々の専任教員の指導を受けながら論文及び作品としてまとめ、研究成果を学内で発表・展示する。メディアデザイン分野における先進の研究領域を探索し、受講者は研究論文・作品の特定テーマを設定し、授業などで修得した知識と技術を総合して、自主的かつ計画的に個別指導教員のもとで研究を行う。研究を通じて、問題への接近の方法を理解し、論文においては文献調査から論理的な考察など、問題解決の手順を修得し、作品の制作過程においては総合的なデザイン能力を高める。また、論文・作品の研究成果を口頭で発表することで、コミュニケーション能力を習得する。 【到達目標】 ①研究テーマの目的を、社会的背景や既知の研究と関連付けて理解できること。 ②研究目的に沿って論文の執筆、作品制作を完成させる。 ③論文研究は論理的に文章で記述でき、作品制作物はデザイン計画の明確な方向性を示すこと。 ④研究成果を口頭で発表し、討論において的確に受け答えができること。
生涯学習概論 ★木村 純	講義 15時間	【科目のねらい】今日、生涯学習の重要性が増し、人々がさまざまな機会と方法で継続的に学習することが求められるようになった。人々の生涯学習は、従来の「生活拡充共生型」の社会教育にとどまらず、職業やまちづくりなどに必要な専門的能力の獲得を目指す「リカレント教育」(あるいは継続教育)を含むものとして展開しているが、後者も含む生涯学習活動を支援・促進する理論・方法などの理解を図る。 【到達目標】 ①生涯学習の定義が分かる。 ②生涯学習の具体的な動向を理解する。 ③生涯学習に関わる職員に要請されている専門性の内容がわかる。
博物館概論 ◎矢部 和夫 ★奥岡 茂雄 ★高橋 信裕 ★山田 悟郎	講義 30時間	【科目のねらい】博物館の歴史を通して博物館の概念を理解し、併せて博物館法を通して博物館への基本的認識を深める。また、文化財の収集や保存、展示などの基礎的知識を習得する。 【到達目標】 博物館施設への関心を喚起し、学芸員の役割を理解することを目標とする。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
視聴覚教育メディア論 ◎武田 亘明 ★江川 克之	講義 15時間	【科目のねらい】生涯学習時代における視聴覚教育の意義について確認するとともに、博物館・美術館における先進的な視聴覚メディアのデザイン計画について概観し、視聴覚メディアの効果的活用の現状と課題について検討する。特に、博物館・図書館・公民館における視聴覚メディアについて、実際の美術館の取材及び教育情報共有サイトの構築とその活用法の検討を通して、知的財産権や著作権処理についても理解する。 【到達目標】 ①生涯学習情報のメディア上での情報公開と情報共有の方法について理解する。 ②実践的に視聴覚メディアを活用できる。
博物館経営論 ◎矢部 和夫 ★金子 啓明 ★佐藤 幸宏	講義 15時間	【科目のねらい】博物館の運営について全体的な視点から理解を図る。併せて、博物館における文化財や資料の収集、管理、調査研究、活用、教育普及、及び人員の構成と活動、施設などの実態について教示する。 【到達目標】博物館の設置条件、機構や組織を理解し、経営の目的・理念と方法を考える。
博物館資料論 ◎古沢 仁 ★亀谷 隆 ★佐藤 幸宏	講義 30時間	【科目のねらい】博物館資料の収集、整理保管、展示などに関する理論や方法に関する知識・技術の習得を図る。 【到達目標】 ①自然資料の取り扱いについて理解し、博物館資料を用いた調査研究の流れが分かる。 ②美術資料の取り扱いについて理解し、博物館資料を用いた調査研究の流れが分かる。 ③博物館における展示の企画・構成を作成し、自ら評価することができる。
博物館情報論 武邑 光裕	講義 15時間	【科目のねらい】博物館における情報の意義と活用方法について理解を図る。近年の博物館・美術館における情報コミュニケーション活動の役割は、実体的展示内容の補足的な情報提供といった枠組みから、情報の「文脈」(コンテキスト)自体が、展示環境全体を決定づけるというように、情報の生産と流通に大きく左右されている。ここでは、博物館・美術館における「情報」の概念を整理し、情報の展示や、次世代のミュージアムにおける情報提供や活用の方向性や方法論を具体的な事例をもとに概説する。博物館・美術館に収蔵される実体物のみならず、デジタル情報に変換された多様な情報デジタル・アーカイブの構築と運用、各種情報機器の利用法、特にインターネットの多様な活用などについても詳細に学んでいく。 【到達目標】 ①博物館の情報学、ミュージアムの情報学として成立する課題の整理を行う。 ②情報展示、情報流通、文脈展示などの事例をもとに、ミュージアムが今や情報の生産活動主体であることを学ぶ。 ③地域の中の文化芸術経済を理解する。
博物館実習 ◎矢部 和夫 ★石井 淳 ★佐藤 幸宏 ★吉崎 元章	実習 90時間	【科目のねらい】博物館関係科目を踏まえて、博物館資料の文化財としての意義や構造を知り、博物館の活動に実際に触れるとともに、資料収集・保管・展示、調査研究、教育普及などの活動についての知識・技能を習熟させる。 【到達目標】 講義と実習を通じて、学芸員業務と博物館の現状に関するより深い理解へ導くことを図る。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

4 看護学部

1) 平成21年度時間割

① 1年前期

	月	月		火	水	木	金
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)				
1	9:00 ∩ 10:30				情報リテラシー I	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ∩ 12:10			看護観察技術論	情報リテラシー I	日本語表現法 英語 I A 英語 I B 英語 I C	哲学と倫理
3	13:10 ∩ 14:40	形態機能学 I		看護観察技術論	英語 I A 英語 I B 英語 I C	日本語表現法 英語 I A 英語 I B 英語 I C	札幌を学ぶ
4	14:50 ∩ 16:20	形態機能学 I			英語 I A 英語 I B 英語 I C	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 ∩ 18:00	看護学原論	地域保健学 概論	人間発達援助論		スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

※集中講義：看護初期実習 6月8日～6月12日

② 1年後期

	月	月		火		水	木	金
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)			
1	9:00 ∩ 10:30	病理病態学		薬理学	看護過程論	現代社会と家族		情報リテラシー II 手話
2	10:40 ∩ 12:10	病理病態学		看護理論	看護過程論	心のしくみ	芸術と文化	情報リテラシー II 手話
3	13:10 ∩ 14:40	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C	プレゼンテーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
4	14:50 ∩ 16:20	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C	プレゼンテーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
5	16:30 ∩ 18:00	感染予防論				宗教と思想	統計の世界	現代社会と経済

※集中講義：基礎看護学臨地実習 I 10月19日～10月23日

③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30	人間工学		ジェンダーを考える 中国語 ロシア語 実践英語A	生命科学		精神看護学 概論	環境保健	老年看護学 概論	
2	10:40 ∩ 12:10	疾病治療学B		実践英語A ロシア語 中国語	医療情報		疾病治療学A		臨床栄養学	
3	13:10 ∩ 14:40	公衆衛生学	家族社会学	実践英語B ロシア語 中国語	生命倫理		疾病治療学概論		症状マネジメント論	
4	14:50 ∩ 16:20	成人看護学 概論	成人看護 援助論	現代社会と国際関係 健康とスポーツ		社会福祉学			症状マネジメント論	
5	16:30 ∩ 18:00		成人看護 援助論	グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える						

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ 5月25日～6月5日

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30		精神看護 援助論	教育を考える	臨床心理学		臨床薬理学		援助の人間 関係論	在宅看護 援助論
2	10:40 ∩ 12:10	母性看護学 概論	精神看護 援助論	環境を考える	韓国語		小児看護学 概論	看護倫理学	援助の人間 関係論	在宅看護 援助論
3	13:10 ∩ 14:40	感染管理論			疾病治療学C			がん看護学	老年看護 援助論	
4	14:50 ∩ 16:20	在宅看護学 概論						がん看護学	老年看護 援助論	
5	16:30 ∩ 18:00		チーム医療論							

※集中講義：成人看護臨地実習Ⅰ 11月2日～11月20日

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30			小児看護 援助論		在宅看護 技術論		成人看護 技術論 保健統計		リハビリテー ション看護学	
2	10:40 ∩ 12:10			小児看護 援助論		在宅看護 技術論		成人看護 技術論 保健統計		リハビリテー ション看護学	
3	13:10 ∩ 14:40			母性看護 援助論		保健医療福祉制度論				地域看護学 概論	
4	14:50 ∩ 16:20	認知症ケア		母性看護 援助論		保健医療福祉制度論				精神看護 技術論	
5	16:30 ∩ 18:00	認知症ケア								精神看護 技術論	

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5月11日～5月15日
成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6月22日～7月31日

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30	研究方法論		小児看護 技術論		看護教育学		地域看護 援助論		ペリネイタル ケア	
2	10:40 ∩ 12:10	研究方法論		小児看護 技術論		透析ケア		地域看護 援助論		救急看護学	
3	13:10 ∩ 14:40	寒冷地医療		健康教育 指導法		バリアティ ブケア		重症集中ケア		母性看護 技術論	
4	14:50 ∩ 16:20	地域看護 援助論		健康教育 指導法				老年看護 技術論		母性看護 技術論	
5	16:30 ∩ 18:00	地域看護 援助論		学部連携演習				老年看護 技術論		放射線医療 管理論	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11月24日～12月8日、1月18日～1月29日
母性看護学臨地実習の一部 12月21日～12月25日、2月1日～2月5日

⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30	国際保健学		看護情報学		看護管理学		ヘルスプロ モーション 活動論			
2	10:40 ∩ 12:10	現代専門職論		医療経営学		看護管理学		ヘルスプロ モーション 活動論			
3	13:10 ∩ 14:40	災害看護学		医療安全管理論							卒業研究
4	14:50 ∩ 16:20	地域看護 技術論		国際看護学							卒業研究
5	16:30 ∩ 18:00	地域看護 技術論		学部連携演習							

※集中講義：地域看護学臨地実習 6月15日～7月24日

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30										
2	10:40 ∩ 12:10										
3	13:10 ∩ 14:40										卒業研究
4	14:50 ∩ 16:20										卒業研究
5	16:30 ∩ 18:00										

※集中講義：ヘルスケアマネジメント実習 9月28日～10月16日

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21年度入学生用

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
導入科目	スタートアップ演習	2		1年前期	2単位
共通教育科目	文化に対する理解	哲学と倫理	2	1年前期	4単位以上
		宗教と思想	2	1年後期	
		芸術と文化	2	1年前期	
	人間に対する理解	人間関係を考える	2	2年前期	4単位以上
		教育を考える	2	2年後期	
		心のしくみ	2	1年後期	
		体のしくみ	2	1年前期	
	社会に対する理解	ジェンダーを考える	2	2年前期	6単位以上
		人間関係を考える	1	1年前期	
		健康とスポーツ	2	2年前期	
		現代社会と家族	2	1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1	1年前期
英語ⅠB			1	1年前期	
英語ⅠC		1	1年前期		
英語ⅡA		1	1年後期		
英語ⅡB		1	1年後期		
英語ⅡC		1	1年後期		
実践英語A		1	2前・2後		
実践英語B		1	2年前期		
韓国語		1	2年後期		
中国語		1	2年前期		
ロシア語	1	2年前期			
コミュニケーション・情報技術	コミュニケーション・情報技術	日本語表現法	1	1年前期	4単位以上
		プレゼンテーション	1	1年後期	
		福祉カンセリング	1	1年前期	
		対人コミュニケーション	1	1年後期	
		グループダイナミクス	1	2年前期	
合計					28単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
専門教育科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2	1年前期	5単位以上
		形態機能学Ⅱ	2	1年後期	
		生命科学	1	2年前期	
		生命倫理	1	2年前期	
		環境保健	1	2年前期	
	健康と健康増進と予防	薬理学	1	1年後期	10単位
		臨床薬理学	1	2年後期	
		臨床栄養学	1	2年前期	
		病理生理学	2	1年前期	
		疾病治療学A	1	2年前期	
		疾病治療学B	1	2年前期	
		疾病治療学C	1	2年後期	
感染予防論	1	1年後期			
保健と医療と福祉	公衆衛生学	1	2年前期	7単位以上	
	社会福祉学	1	2年前期		
	家族社会学	1	2年前期		
	チーム医療論	1	2年後期		
	感染管理論	1	2年後期		
	臨床心理学	1	2年後期		
	地域保健学概論	1	1年前期		
	保健医療福祉行政論	1	3年前期		
保健統計	1	3年前期			
医療情報	1	2年前期			
合計					22単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
看護の基盤となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1	1年前期	7単位
		看護理論	1	1年後期	
		援助的人間関係論	1	2年後期	
		人間発達援助論	1	1年前期	
		看護初期実習	1	1年前期	
		看護倫理学	1	2年後期	
	看護の基本的展開	看護過程論	1	1年後期	10単位
		看護観察技術論	1	1年前期	
		症状マネジメント論	2	2年前期	
		基礎看護技術論	2	1年前期	
		基礎看護学臨床実習Ⅰ	1	1年後期	
		基礎看護学臨床実習Ⅱ	2	2年前期	
小児	小児看護学概論	1	1	2年前期	5単位
	小児看護援助論	1	1	3年前期	
	小児看護技術論	1	1	3年後期	
	小児看護学臨床実習	2	2	3年前期	
母性	母性看護学概論	1	1	2年後期	5単位
	母性看護援助論	1	1	3年前期	
	母性看護技術論	1	1	3年後期	
	母性看護学臨床実習	2	2	3年前期	
成人	成人看護学概論	1	1	2年前期	8単位
	成人看護援助論	1	1	2年前期	
	成人看護技術論	1	1	3年前期	
	成人看護学臨床実習Ⅰ	3	2	2年後期	
老年	老年看護学概論	1	1	2年前期	6単位
	老年看護援助論	1	1	2年後期	
	老年看護技術論	1	1	3年前期	
	老年看護学臨床実習Ⅰ	2	2	3年前期	
精神	精神看護学概論	1	1	2年前期	5単位
	精神看護援助論	1	1	2年前期	
	精神看護技術論	1	1	3年前期	
	精神看護学臨床実習	2	2	3年前期	
在宅	在宅看護学概論	1	1	2年後期	5単位
	在宅看護援助論	1	1	2年後期	
	在宅看護技術論	1	1	3年前期	
	在宅看護学臨床実習	2	2	3年前期	
健康レベルに応じて生活を支えるもの	健康問題への対応	リハビリテーション看護学	1	3年前期	5単位以上
		がん看護学	1	2年後期	
		認知症ケア	1	3年前期	
		透析ケア	1	3年後期	
		重症集中ケア	1	3年後期	
	コミュニケイタに關するもの	地域看護学概論	1	3年前期	9単位
		地域看護援助論	2	3年後期	
		地域看護技術論	1	4年前期	
		ヘルスプロモーション活動論	1	4年前期	
		地域看護学臨床実習Ⅰ	2	4年前期	
発展・統合に關するもの	看護管理学	1	4年前期	11単位以上	
	看護教育学	1	3年後期		
	卒業研究	4	4年		
	ヘルスクアマネジメント実習	3	4年後期		
	看護情報学	1	4年前期		
	災害看護学	1	4年前期		
	国際看護学	1	4年前期		
医療経営学	1	4年前期			
学部連携	学部連携演習	2		3後~4前	2単位
	合計				78単位以上

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学希望者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

平成18～20年度（編入学生は20～21年度）入学生用

Table with 5 columns: 区分, 授業科目の名称, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 修得単位数. Rows include 導入科目, 文化に対する理解, 人間に対する理解, 社会に対する理解, 外国語, and コミュニケーション・情報技術.

Table with 5 columns: 区分, 授業科目の名称, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 修得単位数. Rows include 人間と命, 健康と健康障害と予防, 保健と医療と福祉, and 合計.

Table with 5 columns: 区分, 授業科目の名称, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 修得単位数. Rows include 看護の基盤となるもの, 健康レベルに応じて生活を支えるもの, 健康問題への対応, コミュニケーションに関するもの, 発展・統合に関するもの, and 学際連携.

*保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、2009年からカリキュラムの一部変更する予定です。

② 卒業要件

※平成21年度入学生用

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合計	106	22	128

※平成18～20年度（編入学生は20～21年度）入学生用

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	92	6	98
(専門基礎科目)	(19)	(2)	(21)
(専門科目)	(73)	(4)	(77)
合計	104	22	126

3) 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
形態機能学 I ★高野 廣子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】形態機能学では、生命現象を論理的に思考できるように、身体の構造と機能について学習する。形態機能学Iでは、①人体を構成する細胞・組織など基本となる構造とその機能を学ぶ。②内臓の調節系及び統御系にあたる自律神経系と内分泌系の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。③生命の維持に必要な機能を分担する循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、血液・造血系、免疫系の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①細胞と組織の種類、及びそれらの構造と機能を説明できる。</p> <p>②自律神経系と内分泌系の構造と機能を説明できる。交感・副交感神経とホルモンの機能亢進症と機能低下症の症状について説明できる。</p> <p>③循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、血液・造血系の構造と機能を説明できる。さらにそれぞれの有名な疾患について説明できる。</p> <p>④異常心電図について読み方を説明できる。腎臓が尿をつくる過程を説明できる。</p> <p>⑤免疫系の構造と機能を説明できる。炎症の治癒過程について説明できる。</p>

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
地域保健学概論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美	講義 15時間	【科目のねらい】 保健・医療・福祉の考え方を基盤に、住民主体の保健・医療・福祉活動の基本理念や考え方について学習する。また、地域保健・産業保健の基本的な知識と保健指導の基礎について理解する。 【到達目標】 ①人々が生活を営む上での健康の意義を述べることができる。 ②地域で生活している人々の健康と生活の質の向上を意図した保健活動の概要が理解できる。 ③さまざまな健康課題の解決に向けて、保健・医療・福祉対策が講じられていることを知る。
看護学原論 ◎河野 總子 定廣 和香子	講義 15時間	【科目のねらい】 看護学の構築（要素）を基盤とし、生活する人々の体験として健康と健康障害、それを巡る人々の取り組み、そこに関わる看護実践の方法や場を通し、「看護とは何か」について考え、さらに発展させる基礎とする。 【到達目標】 ①生活体としての人間存在について、理解を深め、人々の体験として健康と健康障害について理解する。 ②看護の本質について学び、看護観の基礎を形成する。
看護初期実習 ◎守村 洋 大野 夏代 清水 光子 須田 恭子 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 保田 玲子 渡邊 由加利	実習 45時間	【科目のねらい】 看護初期実習は、看護職が活動する保健・医療・福祉の場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機づけとする。看護の実際を見学することにより、他職種との関わりを理解する。 【到達目標】 ①看護の対象は、さまざまな健康レベルにある人々であることを知る。 ②人々の健康生活を支える看護実践の場を知る。 ③保健・医療・福祉施設での看護場面を通して、看護の役割を考える。 ④対象者の健康上のニーズに対して保健・医療・福祉に関わる他職種との連携を知る。
看護観察技術論 ◎大野 夏代 定廣 和香子 佐藤 公美子 星 美和子	演習 30時間	【科目のねらい】 アセスメントを基本的人間関係論と位置づけ、バイタルサイン及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行う。特に看護過程の一部として状態把握の基礎技術の重要性について演習を通して学ぶ。 【到達目標】 ①看護における観察の目的を説明できる。 ②看護に必要な情報を収集・分析できる。 ・主観的・客観的な情報を区別できる。 ・バイタルサインの測定が正確にできる。 ・フィジカルアセスメントの方法を学び、実施できる。 ③収集した情報を、記録・報告できる。 ④援助者として適切な姿勢や態度がとれる。
人間発達援助論 ◎宮崎 みち子 内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代	演習 30時間	【科目のねらい】 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。 【到達目標】 ①人間発達の共通性・特異性、及び人間発達に影響を及ぼす因子を理解する。 ②発達理論の特徴を理解する。 ③人間の発達段階各期における看護援助の視点を理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
形態機能学Ⅱ ★高野 廣子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】形態機能学Ⅱでは、①初期発生と性の分化を学ぶ。②生殖器と感覚器の構造と機能を、病態に関連づけて学ぶ。③中枢神経系の構造と機能を、病態に関連づけ学ぶ。④運動器（骨と筋肉・血管・神経）を局所解剖的に学び、骨学実習を通して体の動きと関連づける。⑤標本館の標本あるいは人体の模型に接したとき、人体の構造について学んできた知識を想起し、納得できる。⑥食物の消化・吸収・代謝についての基本的知識を習得し、栄養学を論理的に理解する力を養う。⑦体液の恒常性を維持する仕組みを、病態に関連づけて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生殖器系と感覚器系についてその構造と機能を説明できる。また、関連する検査法や有名な疾患についても説明できる。 ②中枢神経系の構造と機能を説明できる。また、これに関連した有名な疾患についても説明できる。 ③主要な骨・筋肉・血管・神経を、正しい解剖学名で言える。 ④主要な筋肉の起始・停止・作用、神経支配を言える。 ⑤食物の消化・吸収・代謝過程を説明できる。 ⑥ビタミンとミネラルの欠乏症を説明できる。体液の恒常性が維持される機序を説明できる。
薬理学 ★富樫 廣子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】医薬品の生体に及ぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①薬物の作用に関する基礎的事項を理解し、説明できる。 ②薬物の作用を病態との関連性から説明できる。 ③薬物相互作用や副作用を説明できる。
病理病態学 ★小林 正伸	演習 60時間	<p>【科目のねらい】病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生体防御機構についての概要を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病気の成り立つメカニズムを理解する。 ②主な疾患の症状、診断、治療法の概要を理解する。
感染予防論 ★滝沢 慶彦	講義 15時間	<p>【科目のねらい】微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのように関わっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生体の感染防御機構について理解する。 ②個々の病原微生物について、種類、感染経路、感染症の症状、診断、治療、予防について覚える。 ③院内感染予防について理解する。
看護理論 ◎中村 恵子 定廣 和香子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】看護の実践において用いられている看護理論の意義と理論構成について、歴史的発展を踏まえて理解する。また、それぞれの理論や看護モデルを通して、看護の主要な要素とその概念について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護理論の基礎となる概念（人間、看護、健康、環境）について理解できる。 ②看護理論発展の歴史について理解できる。 ③主な看護理論家が提唱する理論の基礎について学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
看護過程論 ◎大野 夏代 佐藤 公美子 渡邊 由加利	演習 30時間	【科目のねらい】対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の“問題解決思考と行動”及びそれを支える看護理論を用いながら看護過程の実際を学習する。 【到達目標】 ヘンダーソンの看護の概念に基づき、看護過程を展開することができる。
基礎看護技術論 ◎佐藤 公美子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 藤井 瑞恵 星 美和子 三上 智子	演習 60時間	【科目のねらい】対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活の行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療、処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を学ぶ。 【到達目標】 ①基礎看護技術の原則と根拠を明確にし、技術を修得する。 ②健康な人を対象にした一部の看護技術項目を、一人であるいは指導を受けながら安全に安楽に実践できる。 ③自主的に演習課題に取り組み、技術の修得に向けた学修態度がとれる。
基礎看護学臨地実習Ⅰ ◎佐藤 公美子 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 星 美和子 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 蘭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 45時間	【科目のねらい】入院患者の生活環境を看護の視点で観察し、看護の働きかけを体験的に学ぶ。具体的には ①入院患者の生活環境を知り、それらの思いや健康状態、健康ニーズを学ぶ。 ②入院患者に行われている看護について体験的に学ぶ。 ③入院患者との関わりを通して、ヒューマンケアの基本を学ぶ。 【到達目標】 ①入院患者の生活環境を知る。 ②入院患者が、自分の健康状態や療養生活、自分が受けている看護をどのように認識しているかを知る。 ③健康障害のある人に対する看護の実際を知る。 ④保健医療福祉チームを構成している各部門の概要・役割・機能を知る。 ⑤看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 ⑥実習グループにおけるリーダー及びメンバーシップの役割関係を建設的・協力的に務めることができる。 ⑦実習を通して、ヒューマンケアについて学んだことを説明し、今後の学習課題を明確にできる。
生命科学 ★山田 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】分子生物学からゲノムサイエンスまでの発展の歴史を概観しながら、生命観の変遷を学ぶ。生命の基礎である細胞、体を構成する主な成分について学び、さらに、生命科学の基本である遺伝情報について、遺伝情報の流れや遺伝子発現制御などに関する理解を深める。また、看護においても重要な対象である癌、老化と寿命、生活習慣病と遺伝子の関係について学び、生命と科学に対する理解を深める。 【到達目標】 ①生命の最小単位である細胞と、生命体を構成している物質を理解し、細胞がどのようにエネルギーを産出し、外部エネルギーを取り入れるのかを理解する。 ②生命の設計図・遺伝子の複製と発現について理解する。 ③分子からみた生命現象を理解し、さらに病気と遺伝子の関わりを理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
生命倫理 ★村上 友一	講義 15時間	<p>【科目のねらい】医療技術の発展とともに従来の生命観や価値観が対立するような事例が生じてきた。伝統的な価値観に自己決定の原則を加えただけで対応していくことには限界がある。本講義では、生命倫理の問題群の中から、終末期医療、脳死移植、生殖医療に論点を絞る。これらの問題について厚みのある理解を持つことが目指される。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「知識」を持つことではなく、「問題意識」を持つこと。 ②紋切り型の回答を止めて、きちんと自分自身の問題に向き合うこと。 ③自分の考えを論理的に表現できること。
環境保健 ◎加藤 登紀子 ★齋藤 健	講義 15時間	<p>【科目のねらい】健康を考える上で、環境は重要なウエイトを占める。とりわけ、現代社会では人間活動の影響を強く受けた環境によって、かつて経験したことのない新たな健康問題が引き起こされている。環境破壊と健康障害等の事例から、健康にとって環境の持つ意味及びそれらが人間の活動にどれだけ影響を及ぼしているかを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人々の健康や生活と環境との密接な関わりを説明できる。 ②どのような人間活動が環境を破壊し、健康問題を引き起こしているか説明できる。 ③持続可能な循環型社会をつくるための環境行動について述べるができる。
人間工学 ◎樋之津 淳子 ★佐藤 秀一	講義 15時間	<p>【科目のねらい】保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間工学の基礎的な概念と看護学との関係が説明できる。 ②人の動作に必要な機能の特性がわかる。 ③人の生体計測及び動作分析方法の基礎を学ぶ。 ④看護ケア・福祉機器、病院環境の諸課題を人間工学の視点から説明できる。
臨床栄養学 ★高野 良子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的な栄養マネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康時の「栄養状態」について評価・判定できる。 ②「栄養状態の特徴」に応じた栄養マネジメントについて理解できる。 ③患者に「栄養マネジメント」の基本を説明できる。
疾病治療学概論 富樫 武弘	演習 30時間	<p>【科目のねらい】人の健康を損ねるものには極めて多くの疾病がある。しかしながら、多くの疾病に共通した発生の要因があり、いくつかの疾病で似たような特質を有している。ここでは、諸臓器の構造と機能をまず理解し、諸臓器に発生する主な疾病の症状並びに疾病発生の仕組み、検査の方法、治療法に関する基本的な知識を学ぶ。また、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生命を維持し活動するためには全身諸臓器が単独で、また関連し合って正常な機能を発揮する必要がある。臓器の正常な機能を理解する。 ②臓器の機能が破綻して疾病を発症する機構を理解しさらに疾病の診断方法、検査法を理解する。 ③疾病の治療法を理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
疾病治療学A ★小倉 滋明	演習 30時間	【科目のねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立に関わる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患について学習する。 【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。
疾病治療学B ★向井 正也	演習 30時間	【科目のねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立に関わる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、消化器疾患、血液疾患、骨・筋肉疾患、腎・泌尿器疾患について学習する。 【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。
公衆衛生学 ★村松 宰	講義 15時間	【科目のねらい】 人間を取り巻く環境は、人間の体に影響を与え、健康の保持増進、健康障害の発生に大きく関わっています。将来の組織的な保健活動に役に立つよう人々の疾病を予防すること、より良い健康水準の獲得を目指すことを目標として、医学的、社会学的、疫学的、行政的視点から、健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得します。 【到達目標】 ① 公衆衛生の概念が説明できる。 ② 衛生統計指標や人口統計指標の定義について説明できる。 ③ 疫学の初歩を理解する。 ④ 国の衛生行政と地方の保健所業務及び市町村の衛生行政業務について説明できる。 ⑤ 公衆衛生活動として感染症の予防対策や、生活習慣病の概念からライフスタイルの面から疾患の予防対策をあげることができる。 ⑥ 労働者の健康を維持する視点から職業性疾患について分類し説明できる。 ⑦ 人間の健康の維持増進、疾病の予防を実践するために関わる環境要因について説明できる。 ⑧ WHOなどの国際機関の機構及び機能と多国間協力の現状について概説できる。
社会福祉学 ★大内 高雄	講義 15時間	【科目のねらい】 現代における社会福祉の概念とその歴史の変遷について学習し、併せて福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係を理解する。また、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、社会的な生活困難を抱える人々を総合的に支援する援助技術や社会福祉の果たす役割、今後の方向性についても学ぶ。 【到達目標】 ① 今日、社会福祉を必要とする背景と具体的諸問題を理解する。 ② 今後の社会福祉を展望するにあたり、日本や諸外国の社会福祉の歴史や理念を理解する。 ③ 社会的な生活困難を抱える人々の地域自立生活支援を援助する技術を理解することと同時に、その実践上の視点や方法を習得する。
家族社会学 原 俊彦	講義 15時間	【科目のねらい】 人間生活の基礎的な単位である家族が、現代社会で大きく変化しつつある現状を見据えながら、社会における家族の役割及び生活の場として家族が個人に果たす役割や機能について理解する。 【到達目標】 家族と社会、家族と個人の関係についての関心や理解力を得ること。家族社会学の基礎的な専門用語を習得すること。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
医療情報 ★小笠原 克彦	演習 30時間	【科目のねらい】医療における情報機器の利用と注意点、医療情報を通じた医療者間の連携、患者情報の管理を理解するために、倫理や経営など社会科学的側面、コンピュータやシステムなど理工学的側面、電子カルテ・各種システムや臨床疫学・EBMなど、医療的側面など多視点から見た医療情報について学習する。 【到達目標】 ①医療における個人情報の安全な取り扱いと管理方法を列挙できる。 ②医療における情報・システムの役割とその具体的な運用方法を説明できる。 ③医療における情報の発展的な活用方法を提示し、関連分野との関連性を説明できる。
症状マネジメント論 ◎須田 恭子 樋之津 淳子 大野 夏代 菅原 美樹 藤井 瑞恵 村松 真澄	演習 60時間	【科目のねらい】臨床で遭遇する代表的な症状を体験している対象への、必要な情報収集とアセスメントについて学修します。また、人体機能の変化や症状の機序、他覚的な臨床所見の見方、臨床検査データの読み方、治療経過の評価を基に、症状緩和に向けた看護介入の方法を学び、看護の臨床の場で役立つ症状マネジメントを修得します。 【到達目標】 ①何らかの症状を持っている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 ②症状緩和に向けた看護介入の方法がわかり、根拠を明確にできる。
基礎看護学臨地実習Ⅱ ◎樋之津 淳子 定廣 和香子 大野 夏代 佐藤 公美子 星 美和子 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 蘭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 90時間	【科目のねらい】医療機関で療養生活を送る患者様を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためのコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。 以上により、看護の対象となる患者様やご家族の特性及び看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。 【到達目標】 ①受け持ち患者との対人関係を築き、患者の特性や看護の必要性を説明できる。 ②対象に応じた看護過程の一連のプロセスを展開し、記述できる。 ③基本的な日常生活援助を安全に実施できる。 ④看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 ⑤受け持ち患者の看護過程の展開を通して自己の学修課題を明確にすることができる。
成人看護学概論 ◎内田 雅子 中村 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】成人期にある対象の身体・精神・社会的な特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに、生活習慣と健康障害の関連など成人保健活動の基本について理解する。 【到達目標】 ①成人期にある対象の発達課題を基礎として、身体・精神・社会的特徴を述べることができる。 ②成人期の保健について理解し、成人期に経験しやすい健康上の諸問題について列挙できる。 ③健康障害の各経過の特徴を理解し、生活へ及ぼす影響について考えることができる。 ④また、成人期の健康障害に伴う治療・看護について述べるができる。 ⑤健康障害を持つ対象を支援するための看護に必要な理論について学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
成人看護学援助論 ◎須田 恭子 中村 恵子 内田 雅子 菅原 美樹	演習 30時間	【科目のねらい】健康障害の病態と治療等を通して、成人期における生活習慣病などの健康障害を有する対象と、その家族に対する基本的看護援助方法について学修する。また、生活習慣病予防のための健康増進対策など、成人保健活動の援助についても学ぶ。 【到達目標】 ①健康障害の病態と治療を理解し、成人期にある対象の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な看護援助方法がわかる。 ②健康障害を有する対象と、その家族の心理・社会的側面に対する援助方法を理解し、看護過程の展開により必要な看護援助がわかる。
老年看護学概論 坂倉 恵美子	講義 15時間	【科目のねらい】社会の構成員としての高齢者の存在の意味を考え、高齢期の特徴とその生活及び加齢による健康的側面及び社会・環境的側面から理解を深める。また、老年保健及び老年看護活動の基本的考え方、方法について学習する。 【到達目標】 ①看護学における老年看護学の位置づけを説明できる。 ②老年期にある人々の加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響を説明できる。 ③高齢者の保健医療・福祉の変遷と将来予測を説明できる。 ④老年看護の機能と役割について説明できる。 ⑤現在自分が持っている老年観を言語化し、洞察する必要性について説明できる。
精神看護学概論 山本 勝則	講義 15時間	【科目のねらい】精神看護学の枠組み・考え方・隣接する学問との関連を学ぶ。次に、人間の心と行動に関する諸種の理論及び発達段階と生活の場について、メンタルヘルスの観点から学ぶ。そして、それを精神看護の実践に生かすために、信頼関係とコミュニケーションの基礎について、導入部分を学ぶ。 【到達目標】 ①精神看護の枠組みがわかる。 ②心のケア／精神看護に必要とされるさまざまな理論モデルがわかる。 ③理論モデルを看護実践に用いるためのものとして理解できる。
臨床薬理学 ★唯野 貢司	演習 30時間	【科目のねらい】薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに学ぶ。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を学ぶ。 【到達目標】 ①臨床で使用されている基本薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係を正しく理解できる。 ②臨床で使用されている基本薬物について、薬物が人体に作用する仕組みを正しく理解できる。 ③薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。
疾病治療学C ★三澤 一仁	演習 30時間	【科目のねらい】疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立に関わる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、外科疾患、感覚器系疾患、歯科・口腔系疾患、脳・神経系疾患について学習する。 【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
チーム医療論 ◎河野 総子 中村 恵子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】医療従事者として、チーム医療について必要な知識を習得する。社会環境の変化に伴い、医療が細分化されるとともに高度な内容となっており、医師が中心であった医療から対象を中心とした専門家集団による医療が求められるようになった。このことを踏まえ、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① チーム医療の概念を学び、構成する各職種の役割を把握する。 ② チーム医療における患者・家族と医療従事者の関係について理解する。 ③ 医療従事者間の連携や協働について学ぶ。 ④ チーム医療実践上の倫理的問題について理解する。
感染管理論 ◎スーディ神崎 和代 ★石角 鈴華	講義 15時間	<p>【科目のねらい】人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理対策を学ぶ。また、医療機関などの施設における感染管理の重要性についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 感染症の成り立ちを理解し、院内感染と地域感染の相違を述べることができる。 ② 感染予防の手法、ハンドラブ等の薬剤・備品に関する知識への理解を述べるができる。 ③ 感染予防管理と危機管理・医療の質の改善コンセプトの関係を述べるができる。 ④ CDC等の感染関連組織の機能を理解する。
臨床心理学 ★菊池 浩光	講義 15時間	<p>【科目のねらい】「心身一如」という言葉があるように、人間の心と身体の結びつきは想像以上に強い。心と身体の相互影響についての知見を深めておくことは、ケアとケアを推進していく上でも有用であるはずである。臨床心理学的アプローチの実際の経験事例なども紹介しながら、医学とは異なる視点や関わり方について学んでいく。それとともに臨床心理士の業務内容の理解を図り、チーム医療に役立てていけるようにしたい。さらに、自分の内面を掘り下げることの重要性にも言及する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 臨床心理学的視点や技術（心理アセスメント、心理療法）を理解する。 ② 臨床心理士の業務を理解する。
援助的人間関係論 ◎大野 夏代 樋之津 淳子 山本 勝則 藤井 瑞恵	演習 30時間	<p>【科目のねらい】看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について理解を深めるとともに、コミュニケーションの理論と技術を修得する。また、受容、共感について理解し、自己と他者との関係が成立し、信頼関係を確立することによって援助が可能となることを学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自己概念を構築し、対人関係形成における自己の傾向について述べるができる。 ② 援助者として聴くこと・伝えることができる。 ③ 援助的人間関係を形成するために、意図的に関わるができる。
看護倫理学 ◎宮崎 みち子 ★リボウィツ よし	講義 15時間	<p>【科目のねらい】看護職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを理解する。さらに、看護ケアを行うという状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 価値の特質が理解できる。 ② 看護実践上の倫理的概念が理解できる。 ③ 看護における倫理的意思決定モデルの特徴が理解できる。 ④ 事例を基に、倫理的分析と倫理的意思決定が考察できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
小児看護学概論 松浦 和代	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 前半の講義では、乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、及び家族の発達に関する知識と基礎理論を学修します。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察します。以上の学修を通して、小児看護の役割、責務及び実践活動の意義について理解を深めます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの人権、権利擁護、親権、子どもと親の意思決定のあり方について説明できる。 ②子どもの成長・発達、健康、家族と育児機能、生活環境について説明できる。 ③子どもの発達評価と環境アセスメントの方法を説明できる。
母性看護学概論 宮崎 みち子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 周産期のみならず、広くライフサイクル各期にある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健及び看護活動について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①母性看護の基盤となる概念が理解できる。 ②母性看護の現状と課題が理解できる。 ③母性看護の対象特性が理解できる。
成人看護学臨地実習 I ◎藤井 瑞恵 内田 雅子 須田 恭子 菅原 美樹 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 繭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 渕本 雅昭	実習 135時間	<p>【科目のねらい】 成人期にある対象を科学的視点でアセスメントし、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成人期にある対象をライフサイクルの側面から説明することができる。 ②成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に説明することができる。 ③成人期にある対象の健康障害、健康レベル、環境をアセスメントすることができる。 ④看護問題を解決するために援助方法を計画することができる。 ⑤成人期にある対象の状況に合わせて援助を実施し、評価することができる。 ⑥成人期にある対象と援助の人間関係を形成することができる。 ⑦看護学生としての役割・責任を果たすことができる。
老年看護援助論 ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 進藤 ゆかり ★川人 由美子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 老年期にある人の加齢的变化や特有の疾患、症状についてその背景、原因、病態、治療などを学び、高齢者及びその家族を対象とした基本的援助方法について学習する。</p> <p>老年期にある人の健康状態に対する診断・治療過程における看護方法を自立支援の視点から学修する。高齢者ケアをめぐる社会制度の種類と内容を理解し、政策的課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高齢者特有の疾病と治療について理解し、加齢に伴う諸機能の変化と関連させて説明できる。 ②高齢者の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な援助方法について説明できる。 ③高齢者の健康増進プログラムについて転倒予防、認知症予防の看護について説明できる。 ④要介護者家族や高齢者を取り巻くケアシステムの種類と内容について説明できる。 ⑤老年看護の展開方法について理解し、事例に基づいた看護計画を立案できる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
精神看護援助論 ◎山本 勝則 守村 洋 ★安田 素次	演習 30時間	【科目のねらい】 精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。 【到達目標】 ①精神障害者の病態像及び生活への理解を深め、その治療法と基本的看護援助方法を習得する。 ②社会生活及びライフサイクル各期での精神保健について説明できる。
在宅看護学概論 中村 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】 健康障害を持ちながら在宅で生活している人々とその家族（対象者）の生活を困難にしている要因を追究し、生活の質が向上するよう支援するため、在宅看護の概念・諸制度、及び在宅看護活動の目的、展開方法と技術について学ぶ。 【到達目標】 ①在宅看護の機能と役割について理解する。 ②在宅看護とその対象者の特徴を理解する。 ③在宅看護の実施機関である訪問看護の活動と看護の専門性について理解する。 ④在宅ケアチームを構成する諸機関及び専門職の役割と連携を理解する。
在宅看護援助論 ◎菊地 ひろみ 坂倉 恵美子 ★工藤 和子	演習 30時間	【科目のねらい】 健康障害をきたし、在宅看護の対象である在宅療養者及び要支援介護高齢者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学習する。 【到達目標】 ①在宅看護実践に必要な制度及び社会資源の活用方法について理解する。 ②訪問看護ステーションの運営及び訪問看護師の活動について理解する。 ③在宅療養者の家族に対する援助方法について理解する。 ④在宅看護の展開方法について理解し、事例にもとづき看護計画を立案できる。 ⑤在宅療養者のさまざまな状態と生活上の諸特徴、援助方法を理解する。
がん看護学 ◎樋之津 淳子 ★松山 茂子	演習 30時間	【科目のねらい】 がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛みの緩和等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。 【到達目標】 ①がんを取り巻く看護・医療の動向を説明できる。 ②がんの症状を持っている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 ③症状緩和に向けた看護介入の方法がわかり、根拠を明確にできる。
保健医療福祉制度論 ★館石 宗隆	演習 30時間	【科目のねらい】 保健・医療・福祉に関するさまざまな制度・施策の中から、特に重要と思われるものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。同時に、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。 【到達目標】 各回の講義ごとに取り上げる制度・施策の概要、目的、背景及び今日までの歩みなどについて正しく理解し、自分自身の意見を基に議論することができる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
保健統計 ◎★片倉 洋子 ★槇 洋一	演習 30時間	<p>【科目のねらい】医療・看護分野のほとんどの分野において他の分野に比べると個体変異の大きい数値データや質問紙調査にみられる定性的データを扱うことが多い。このようなデータの解析に対して、共通に適用できるような数学的基礎を学ぶとともに、看護分野に必要とされる統計解析上の基礎的知識を修得し、今後の看護師業務及び保健師業務や看護学研究に反映させる能力を養う。</p> <p>また、疫学領域においてはEBN（科学的根拠に基づく看護学）の概念を理解し、その実践能力を養う。特に疫学的分析前向き研究（コホート研究）、後向き研究（患者対照研究）、介入研究の代表的研究を理解する。その際にはデータを疫学的に処理するときに、バイアス・交絡などに常に注意し、疫学的思考態度を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①確率の初歩的な知識である確率変数、確率分布、期待値、分散などの概念を知る。 ②統計学の基本的概念である母集団、標本分布法則、中心極限定理、統計量などの基礎的事項を知る。 ③統計的手法の基礎となる推定、検定についてその考え方や応用の方法を理解する。 ④医学統計学の基礎を理解し、それを医学・看護領域のデータ解析にコンピュータを使って応用する。 ⑤疫学の定義と歴史を学習し、疫学で扱う指標、手法を学ぶとともに、その実践例を学習し応用できる。
小児看護援助論 ◎松浦 和代 富樫 武弘 吉川 由希子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】小児看護学概論を踏まえ、小児期に多い健康障害の病態、治療法及び看護援助の方法について基本的な知識を学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識と技術を修得する。 ②小児期に多い疾患について、特有な症状、疾病発生のメカニズム、検査方法及び治療法に関する基本的な知識を修得する。 ③主な疾患別に看護援助の要点を修得する。看護援助のあり方を、子どもと家族の発達支援の観点から考察する。
母性看護援助論 ◎宮崎 みち子 渡邊 由加利 ★内田 亜紀子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】女性のライフサイクル各期における生理的变化と、特徴的な疾病・治療、及び対象の生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①女性に特有な生理的变化と疾病が理解できる。 ②思春期・成熟期・更年期・老年期女性に必要な看護が理解できる。 ③妊産褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特徴、及び必要な看護が理解できる。 ④妊産褥婦及び新生児を取り巻く家族に必要な看護が理解できる。
成人看護技術論 ◎須田 恭子 内田 雅子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 神島 滋子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】成人看護援助論を踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病の疾患に対する基本的な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつないでいく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康障害を有する対象と、その家族への基本的な援助技術が実施できる。 ②看護過程を展開しながら効果的に看護を提供するための基本的な看護技術が実施できる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
成人看護学臨地実習Ⅱ ◎菅原 美樹 内田 雅子 須田 恭子 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 測本 雅昭	実習 90時間	<p>【科目のねらい】成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。疾病・健康問題に応じた生活支援と保健医療チームについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性が理解できる。 ②健康障害が対象と家族に及ぼす影響について、多方面から統合的にアセスメントできる。 ③看護過程を展開する上で、健康問題を明らかにし、健康回復、適応促進、生活の再構築に必要な看護ケアの計画・実践・評価ができる。 ④対象の療養生活を支援する保健・医療・看護・福祉チームの役割と機能について説明できる。 ⑤看護専門職を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。
老年看護学臨地実習Ⅰ ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 45時間	<p>【科目のねらい】自立した生活を営む健康な高齢者との触れ合いを通して、高齢者の暮らしや健康への配慮の仕方を体験的に学ぶ。また、加齢に伴う身体的、社会的、心理的变化とその家族が抱える健康問題と日常生活上の困難な課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①老年期というライフステージにある対象の発達課題を具体的に説明できる。 ②老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を具体的に説明できる。 ③健康高齢者の健康上のニーズ、及び健康法について知り、説明できる。 ④健康高齢者の生活において老人福祉センターの果たす役割について知り、説明できる。
精神看護技術論 ◎山本 勝則 守村 洋 河村 奈美子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】精神看護援助論を踏まえて、精神の健康上の問題に直面している対象と、その家族に対する援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある対象やその家族との関わり方や、看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術を習得する。 ②精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程を考えることができる。
精神看護学臨地実習 ◎守村 洋 山本 勝則 河村 奈美子	実習 90時間	<p>【科目のねらい】精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①対象との関わりを通し、精神障害のある対象を理解する ②治療的コミュニケーションの技法及び精神科における看護援助を、実践を通して修得する。 ③精神障害を持つ対象の生活を理解し、支援システムを説明できる。 ④看護学生として責任ある行動や態度を修得する。
在宅看護技術論 ◎菊地 ひろみ 保田 玲子 照井 レナ	演習 30時間	<p>【科目のねらい】在宅看護援助論を踏まえ、在宅看護、訪問看護に関する援助技術、知識、対応方法について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、在宅療養者やその家族に対する看護に必要な基本技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅療養者の特性を踏まえた生活支援と医療管理技術について説明できる。 ②事例のアセスメントに基づき、必要な援助技術を明らかにできる。 ③基本的な訪問看護技術の根拠と実施方法を説明できる。 ④基本的な訪問看護技術について習得する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
在宅看護学臨地実習 ◎菊地 ひろみ スーデイ神崎 和代 照井 レナ	実習 90時間	<p>【科目のねらい】 在宅で療養している人とその家族に対して提供する看護の役割・機能を理解するとともに、在宅療養者や障害者及びその家族の生活と健康を理解する。また、保健・医療・福祉の連携と、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅療養者、要支援介護高齢者及びその家族（以下対象者）とコミュニケーションを図ることができる。 ②対象者と家族の生活を全体的（holism）に理解し、生活機能の維持・向上の観点から支援を考えることができる。 ③在宅における生活援助技術を一部経験し、在宅における看護技術の特徴を理解する。 ④地域包括支援・居宅介護支援と専門職の役割、及び各専門職の連携について、同行訪問、各種予防事業参加などを通して理解する。 ⑤看護学生として責任ある行動と態度を実践できる。
リハビリテーション看護学 ◎★奥 宮 暁子 ★石 鍋 圭子 ★佐 久 間 隆	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 ライフステージにおける看護の対象やその家族の特徴と、生活行動を困難にしている障害の特徴を学習し、リハビリテーションの観点から看護の役割を理解する。また、疾患や障害に応じたリハビリテーションへの看護援助について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リハビリテーションにおける看護の役割を説明できる。 ②生活行動を困難にしている疾病や障害の特徴を理解する。 ③障害を持つ人とその家族における生活の再構築のための看護支援を計画することができる。 ④自立に向けた安全・安楽な看護援助技術を習得する。
認知症ケア スーデイ神崎 和代	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 老年期における認知症の発現過程と、認知障害のある高齢者の援助方法について学ぶ。</p> <p>また、認知症を持つ高齢者の日常生活・社会生活への適応を支援する看護方法や、介護家族を支援する方法、疾患進行遅延対策について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①認知症及びアルツハイマー病の定義をし、それぞれの臨床的特徴を述べることができる。 ②脳内の臨床的变化を理解するとともに、重症度によるアルツハイマー病の分類と各レベルの特徴を述べることができる。 ③米国の最新レベルの認知症ケア、医療、看護のあり方を説明することができる。 ④認知症をコミュニケーション、栄養、環境の観点から理解し、支援方法を述べることができる。 ⑤認知症をケアする現場においてケア実態を冷静に観察し、それらを文章、または口頭で表現できる。 ⑥認知症を持つ高齢者の家族やケア提供者の直面している課題を述べることができる。
地域看護学概論 ◎加藤 登紀子 清水 光子 ★金川 克子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 地域看護活動の概念と機能について理解し、人々が地域の生活の中で直面する健康問題を、個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスに関わる看護活動及び地域保健について基本的な考え方と方法を学習する。また、地域看護の対象及び活動、役割などについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域看護活動の歴史・概念や、地域における保健・看護活動の重要性を述べるができる。 ②地域看護活動の諸分野に特有なコミュニティケアと保健師の役割が説明できる。 ③地域（コミュニティ）の健康レベルと、社会情勢、生活環境との関連を述べるができる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
健康教育指導法 ◎加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 保田 玲子 松村 寛子	演習 30時間	【科目のねらい】 健康教育の基本となる理念と、教育活動に必要な方法（企画、方法及び評価）を理解する。また、健康についての知識の習得や態度を形成し、保健行動の獲得や変容のために重要な保健看護活動の実践に生かす。 【到達目標】 ①健康教育の理念・理論・意義・目的を説明することができる。 ②対象（個人・集団）に適した健康教育の方法（企画・実施・評価）のポイントを立案できる。 ③保健行動の獲得・変容・継続のための健康教育・生活支援の基本を実施できる。
研究方法論 ◎松浦 和代 定廣 和香子 樋之津 淳子	演習 30時間	【科目のねらい】 看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップを学修します。また、文献検索の実際を体験的に学修し、先行研究の活用方法を修得します。学修過程を通して、卒業研究に必要とされる基礎的な能力、態度、及び倫理観を養うことを目指します。 【到達目標】 ①看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップについて説明できる。 ②関心のある看護研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③関心のある看護研究課題について研究計画書の作成を試み、理論的文脈を推敲する。
小児看護技術論 ◎吉川 由希子 松浦 和代	演習 30時間	【科目のねらい】 健康障害を持つ子どもと、その家族に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、看護実践能力の向上を目指す。また、子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。 【到達目標】 ①子どもと家族の健康生活への支援について習得し、対象に合わせた援助方法がわかる。 ②小児看護に特有な看護技術について習得し、状況に応じた援助方法がわかる。 ③事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開ができる。
小児看護学臨地実習 ◎吉川 由希子 松浦 和代	実習 90時間	【科目のねらい】 小児看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。 ①対象との関わりを通して、子どもの成長・発達・保育について理解を深める。 ②健康障害を持つ子どもと家族への生活支援について学ぶ。 【到達目標】 ①臨地実習を通して、子どもの健康生活、育児支援、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの基礎知識を踏まえた看護実践能力を行動化できる。 ②①について、その効果を評価できる。 ③臨地実習を通して、疾患や障がいを持つ子どもと家族の看護、生活習慣の自立支援、健康教育や家族支援の基礎知識を踏まえた看護実践能力を行動化できる。 ④③について、その効果を評価できる。 ⑤臨地実習を通して、対象者やチームメンバーとの効果的なコミュニケーション能力についてわかる。
母性看護技術論 ◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 多賀 昌江	演習 30時間	【科目のねらい】 母性看護援助論を踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法（看護過程）を学生自らが主体的に学修し、実践へつなげていく。 【到達目標】 ①紙上事例を用いて、妊婦・産婦・褥婦及び新生児に必要な看護過程を学修し、記述できる。 ②母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
母性看護学臨地実習 ◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 多賀 昌江	実習 90時間	【科目のねらい】母性看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。 【到達目標】 ①妊産褥婦、新生児及び家族の特性を説明できる。 ②妊産褥婦、新生児及び家族に必要な看護過程を展開し、記述できる。 ③妊産褥婦及び新生児の安全と人権を配慮した看護の実践ができる。 ④母性看護に必要なとされる看護者の役割が説明できる。 ⑤生命（いのち）の誕生を通して、人間の生命尊重について考察できる。 ⑥看護学生としての役割・責任を果たすことができる。
老年看護技術論 ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり	演習 30時間	【科目のねらい】老年看護援助論を踏まえて、高齢者を総合的に評価する方法を学び、高齢者及びその家族を対象とした援助技術について学ぶ。また、高齢者に特有の症状や疾病の看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。 【到達目標】 ①高齢者を客観的にとらえ、共通理解するための総合機能評価を説明できる。 ②高齢者のコミュニケーションの基本的方法を理解し、コミュニケーション障害を持った対象への対応の仕方が説明できる。 ③高齢者の生活障害を有する対象と、家族への基本的な援助技術の根拠がわかり、排泄、口腔保健、食支援について援助できる。 ④高齢者の急変に対応できる技術を理解し、その対応を説明できる。 ⑤サクセスフルエイジングのためのいきがい支援が説明でき、高齢者と家族が望むエンドオブライフへの支援が考察できる。
老年看護学臨地実習Ⅱ ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 90時間	【科目のねらい】老年期にある対象を加齢や疾病と、それに影響される生活機能障害をも含め、総合的に理解し、対象個々のQOL向上に向けた援助ができる基礎的能力を養う。 【到達目標】 ①老年期にある対象を身体的、精神的、社会的、発達の側面から統合的に説明ができる。 ②老年期にある対象の健康課題をアセスメントし、問題を抽出し看護計画が立案できる。 ③老年期にある対象の状態にあった援助方法を実施し、評価することができる。 ④老年期にある対象の人生と人格を尊重した態度を表出できる。 ⑤保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を表出できる。
透析ケア ◎内田 雅子 ★城下 弘一 ★佐々木 美乃	講義 15時間	【科目のねらい】末期腎不全の病態と透析療法による合併症を理解し、必要な治療とそれに伴う自己管理について学ぶ。そして、慢性透析者がその人らしい生活を送られるように支援するための、患者教育と心理社会的援助方法に関する知識・技術を修得する。さらに、これらが慢性透析者とその家族の生活・人生にどのような影響を与えるのかを病みの軌跡の視点から理解する。 【到達目標】 ①末期腎不全の病態、透析療法の原理、働きについて理解する。 ②自己管理の教育と支援に必要な知識と技術を学ぶ。 ③透析療法と自己管理が透析者とその家族の生活・人生に与える影響について理解する。
重症集中ケア ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★小山 昭人	講義 15時間	【科目のねらい】重症集中ケアを必要とする患者の身体的、心理的、社会的側面を理解し、患者とその家族に適切な看護援助をするために、集中治療看護の概念、沿革、集中治療を受ける患者にみられる特徴的な病態とその治療・ケアの方法について学ぶ。 【到達目標】 ①集中治療と看護の歴史の変遷、特徴、役割を理解する。 ②重症集中ケアが必要な患者の身体的・心理的・社会的特徴及び家族の特徴を理解する。 ③集中治療を必要とする患者の病態と患者・家族への看護援助方法を理解する。 ④集中治療領域における倫理的課題について考察する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
救急看護学 ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人	講義 15時間	【科目のねらい】 救急患者に適切な看護を提供するために、救急患者の特徴と病態を理解し、それらをもたらす疾患と各症状、必要な処置・治療に関する知識を習得する。 【到達目標】 ①救急医療・救急看護の特徴と役割、現状について理解する。 ②救急患者にみる多彩な病態と治療及び看護について理解する。 ③生命危機状況にある患者・家族の心理状態と心のケアの必要性を理解する。 ④脳死と臓器提供について理解し、救急医療・看護の課題を考察する。
放射線医療管理論 ◎★池田 光 ★宮崎 知保子	講義 15時間	【科目のねらい】 医療を含め、さまざまな領域で利用されている放射線の物理学的性質、生物学的作用に関する基礎的知識を理解する。また、医療の分野を中心とした放射線利用、防護・障害防止の考え方について学ぶ。 【到達目標】 放射線の基礎を学習し、無用な不安を払拭するとともに、適切な防御を学習する。現在の医療は、診断、治療ともに、放射線機器なしでは成立しない。一般撮影、CT検査、RI検査など診断について、また放射線治療の基礎知識をあわせて習得する。
ペリネイタルケア ◎吉川 由希子 渡邊 由加利	講義 15時間	【科目のねらい】 周産期にある母体、胎児、新生児を中心に、低出生体重児や早産児などの特徴や援助技術について学習する。また、母親を中心とした家族への支援や育児指導、保健センターにおけるさまざまな相談窓口などの社会資源の活用についても学ぶ。 【到達目標】 ①胎児期の成長発達と母体の健康管理について理解できる。 ②周産期にみられる母体の異常や胎児・新生児の異常と医療のあり方について理解できる。 ③低出生体重児や早産児の特徴と正常な成長発達を促すために必要な援助について理解できる。 ④母親を中心とした家族への支援のあり方と育児指導、及び社会資源について理解できる。
バリアティブケア ★石垣 靖子	講義 15時間	【科目のねらい】 治癒が困難な状態にある対象とその家族の心理的特徴を理解し、QOLを最良のものにするために必要な知識や技術を学ぶ。また、終末期の全人的なケアにおける理念、倫理的諸問題を理解し、ケアを提供する上で必要な技術の原理を理解し、その基本的な方法を習得する。 【到達目標】 ①バリアティブケアとはどのような医療・ケアなのかを説明できる。 ②バリアティブケアを受ける対象とその家族が直面するトータルペイン（全人的苦痛）について説明できる。 ③バリアティブケアの最終目標である、患者・家族のクオリティ・オブ・ライフを維持・向上するための看護師の役割について考えることができる。
寒冷地医療 ★前沢 政次	講義 15時間	【科目のねらい】 積雪寒冷地の環境や生活について理解するとともに、寒冷地であることによる保健・医療・福祉分野における特徴や課題などについて学ぶ。また、寒冷地において人々が安全で安心して生活するための健康増進や看護・介護などの援助方法についても学ぶ。 【到達目標】 寒冷地特有の問題を住民生活の場から感知し、保健・医療・福祉・教育の場で活用できる知識・技術・態度を身につける。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
地域看護援助論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美 保田 玲子 櫻井 蘭子 松村 寛子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 地域看護活動に特徴的な援助方法の基盤となる基本的な理論、知識及び技法について学ぶ。特に、個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法、特定の集団に特徴的な問題を解決するための援助方法について理解を深める。また、地域における看護職の機能と役割を理解し、地域ニーズに対応した保健活動の展開と実践方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域看護の対象となる人々の特性を理解し、セルフケア能力を高めるための効果的な援助方法（健康相談、健康診査、家庭訪問、地域組織活動）を説明または実践することができる。 ② 地域看護活動（行政、産業、学校）の目的、目標、役割、機能を説明することができる。 ③ 個人・集団への看護活動や地区情報から特定集団や地域の健康課題を明確にし、ニーズに対応した保健活動の展開を考察することができる。
看護教育学 定廣 和香子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 看護教育の基本となる教育の目的と概念、日本における看護教育制度、看護教育におけるカリキュラムのプロセス、教授・学習、評価といった看護教育の展開の過程について理解し、教育の現状と今後の課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護教育学の構造・基本概念を理解する。 ② 看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。 ③ 看護教育カリキュラム編成・授業計画の立案・教育評価の基本を理解する。
学部連携演習 ◎スーディ神崎 和代 樋之津 淳子 清水 光子 須田 恭子 吉川 由希子 星 美和子 渡邊 由加利 河村 奈美子 櫻井 蘭子 進藤 ゆかり 三上 智子 ◎酒井 正幸 エル サニ マロアン 武田 亘明 張 浦華 フィッシャー ニーナ 細谷 多聞 斉藤 雅也 那須 聖 福田 大年 山田 良 三谷 篤史	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 看護学部及びデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に、両学部共同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護及びデザインの自己の専門性について理解を深める。 ② 異分野である相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 ③ 学際的視点からの課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営協議会
及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
地域看護技術論 ◎保田 玲子 加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 櫻井 蘭子 松村 寛子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 地域看護援助論をふまえ、地域看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、特定集団、地域集団を対象に特徴的な健康課題をもつ事例について看護過程を展開しながら学ぶ。また、地域看護活動を実践していくために必要な基本的知識・技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生が自ら主体的に習得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①演習を通して生活の場における健康課題を理解し、対象者の主体性や予防的な対処能力を育むための支援計画を立案できる。 ②地域看護実践で用いられる基本的な技術を修得し、地域を看護する上でそれらを用いる意義を説明することができる。
ヘルスプロモーション活動論 ◎加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 保田 玲子 櫻井 蘭子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 ヘルスプロモーション（人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス）の理論を理解する。また、ヘルスプロモーションの活動事例である住民一人ひとりの健康づくり活動を支援する活動や施策について学ぶほか、これらの活動や施策において看護職が果たすべき役割や機能について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ヘルスプロモーションの理論・目的・関連施策を健康観の変遷とともに述べることができる。 ②保健師による地域や組織へのヘルスプロモーション支援技術を説明することができる。 ③実習地域のヘルスプロモーション活動の概要を述べるができる。
地域看護学臨地実習 ◎新納 美美 加藤 登紀子 清水 光子 保田 玲子 櫻井 蘭子 松村 寛子	実習 135時間	<p>【科目のねらい】 地域住民の生活に直接触れ、多様な健康レベルの個人・家族、特定集団・地域を対象とした保健師活動に積極的に参画し、地域看護の基礎的知識・技術の活用方法について理解する。また、地域全体の健康レベルの把握・分析・評価の実際を学び、地域の健康課題の解決に向けた保健計画の策定や社会資源の開発など、組織的な取り組みを可能にするための保健師の活動を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域看護の基礎知識と技術を活用し、対象（個人・家族）が健康的な生活を自律して送れるよう支援する方法を理解する。 ②地域全体の健康レベルを把握・分析し、地域の健康課題の解決・改善のための地域診断の意義や集団への具体的な支援方法について理解する。 ③健康を守る国・地方自治体の施策を保健サービスとして直接地域住民に働きかけ、同時に住民のニーズをくみとり施策化に提言していく重要な役割を保健師が担っていることを理解する。 ④多様な組織に所属する看護職（保健師・看護師）の活動の違いと共通の専門性について理解する。 ⑤学生として地域社会や組織の秩序を理解し、その中で自らに課せられた責任を果たしながら主体的・積極的に行動する。
看護管理学 河野 総子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 病院などにおける看護組織について理解し、看護組織を運営していくために必要な組織論・リーダーシップ論・管理理論・リスクマネジメントの基礎的な理解などについて学び、より良い看護を提供するための管理方法と今日的課題について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護管理の目的を理解し、チーム連携のリーダーとしての役割を担う基礎的概念を学ぶ。 ②看護活動そのものが専門職者としての自己成長に深く関わるものであること、および組織内キャリア発達の重要性を理解し、主体的に活動を展開する基礎を構築する。 ③専門職としてのキャリア開発と集合教育やOJTの意義と実際を学び、専門職業人の現任教育の必要性について理解する。 ④施設受療から在宅までの継続的看護のあり方について検討し、今後の看護連携が展望できる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
看護情報学 ★佐藤 ひとみ	講義 7時間	<p>【科目のねらい】 データと情報の違いを理解し、どのようなデータを情報として看護に活用するかを理解できる。看護の分野で情報科学をどのように活用しているか、その上で守らなければならない倫理や法的根拠を知り、今後の活用について考えることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①どのようにデータを情報として活用するかを理解する。 ②看護分野での情報科学技術の活用について理解する。 ③情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を理解する。
災害看護学 ◎太田 晴美 ★浅井 康文	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 災害時において看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携について、災害が健康へ及ぼす影響とともに学ぶ。具体的には、災害直後・初期に発生する人々のニーズと健康問題の理解、被災者にもたらす中・長期的な身体的・心理的・社会的な影響と看護の役割について考察する。また、緊急救援活動についても考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害看護の基礎的知識を理解する。 ②災害時の医療・看護活動の実際を知り、今日的課題を考察する。 ③災害が人々の生活に及ぼす影響を理解する。 ④災害時の看護者役割を述べるができる。
国際看護学 ◎スーディ神崎 和代 大野 夏代	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 諸外国の社会、経済、教育、文化的な相違の理解の基に諸外国の看護の仕組みや実際を学ぶ。また、日本の国際的看護活動の歴史と現状を知る。国際的見地から看護を学習することで地球上の人々の健康課題に対する看護貢献の在り方を考え、異文化に於ける看護・医療サービス提供者としての姿勢を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①国際看護における基本的な概念を説明できる。 ②国（文化・国策）によって異なる看護システム・特徴の説明ができる。 ③世界の人々の健康問題を、地域（国）格差に焦点を当てて説明できる。 ④看護分野における国際協力活動の課題を考察することができる。
国際保健学 ★玉城 英彦	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 主にWHOの活動を通じて国際保健活動について触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康について学ぶ。 ②WHOの組織と活動を理解する。 ③わが国のODAについて学ぶ。
医療経営学 スーディ神崎 和代	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 経済活動の構造と動態を踏まえて、国民経済に占める医療経済の位置づけ、医療資源の配分、医療費の配分について学習する。少子・高齢社会の日本現状の視点から医療経済を考察し、介護保険、医療保険を含む看護・医療・福祉サービスの質と経済効果のバランスなど医療経済の側面を理解する。医療経営の戦略、医療組織の在り方、顧客満足度評価の基礎を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本の医療経済の国民経済に占める割合、医療資源の配分の仕組みを理解する。 ②少子化と高齢者人口増加の国民経済への影響を理解する。 ③社会保障制度と市場原理、ケアサービスの質と経済効果のバランスの在り方を理解する。 ④医療経営の組織の仕組み、医療経営の戦略、顧客満足度の評価の基礎を理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
医療安全管理論 ◎河野 総子 ★阿部 順子	講義 15時間	【科目のねらい】医療看護の安全システムにおけるリスクマネジメントの実際的な運用事例について学習する。さらに、医療における安全管理と医療の質の関連性、評価方法等についても理解する。 【到達目標】 ①医療安全保障のための社会システム・院内システム（病院組織）におけるリスクマネジメントの考え方とその取り組みを学び、医療安全管理の重要性を理解する。 ②ケア実施に伴い発生しやすい事故事例について学び、医療の質について考える。 ③医療安全管理と医療の質との関連について学び、その評価方法について理解する。
現代専門職論 ◎須田 恭子 中村 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】現在、保健・医療・福祉のさまざまな分野で活動している方々の職業観、専門職観あるいは人生観等を通して、これからの看護専門職のありようを考える。 【到達目標】 ①それぞれの専門分野の特殊性を理解し、各分野におけるこれからの方向性がわかる。 ②それぞれの活動内容との出会いと専門職者としての個々の人生の中から、職業観の拡充を図ることができる。
学部連携演習 ◎河野 総子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 大野 夏代 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 保田 玲子 ◎齋藤 利明 吉田 恵介 矢部 和夫 羽深 久夫 中原 宏 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良 酒井 正幸 杉 哲夫 石崎 友紀 張 浦華 三谷 篤史 城間 祥之 細谷 多聞 望月 澄人 大淵 一博 武邑 光裕 吉田 和夫 上遠野 敏 フィッシャー ニーナ エル サニ マロアン	演習 60時間	【科目のねらい】看護学部及びデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に、両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。 【到達目標】 ①看護及びデザインの専門性について理解を深める。 ②相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 ③課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
ヘルスケア マネジメント実習 ◎河野 総子 内田 雅子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーダイ神崎 和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 須田 恭子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 渡邊 由加利 太田 晴美	実習 135時間	<p>【科目のねらい】 病院または在宅等における組織的な看護ケアを提供するためのシステムの構築、運営とマネジメント機能について、実践的組織活動を通してヘルスケアマネジメントを学ぶ。具体的には、学生自身が関心のある領域について、これまでの授業で学んできた知識・技術を、実践を通して確認することにより、理論と実践を結び付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①チームの一員として役割を担うことができる。 ②ケア実現のためのマネジメント能力を養うことができる。 ③危機発生時の対処方法を理解し、リスクマネジメントができる。 ④看護師の倫理綱領を遵守し、保健医療専門職として責任ある行動をとることができる。 ⑤既習の知識と技術の統合・活用を通して自己の課題を見出すことができる。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
卒業研究 ◎松浦 和代 内田 雅子 加藤 登紀子 河野 總子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーデイ神崎 和代 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 清水 光子 須田 恭子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 保田 玲子 渡邊 由加利 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 蘭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子	演習 120時間	<p>【科目のねらい】 4年間の集大成として、学生自身が関心のある看護の領域や臨床事例を選択し、自らの問題意識をもって研究課題を追求し、研究の基本的な過程をたどりながら論文にまとめます。この過程を通して、学生が、看護に係る現象や援助の方法、看護職としての役割、について認識を深めることをねらいとします。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護領域に研究課題を見出すことができる。 ②研究の基本的なステップに基づいて、研究計画書を立案することができる。 ③研究計画書に基づいて、研究活動を遂行できる。 ④研究成果を、抄録にまとめ、発表することができる。 ⑤研究活動を通して、自己の看護観や専門職者としての役割を洞察できる。

4) 実習概要

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成21年6月8日～12日	市立札幌病院	84人
		市立札幌病院静療院	10人
		札幌市はるにれ学園	6人
		札幌市かしわ学園	6人
		札幌市みかほ整肢園	6人
		札幌市ひまわり整肢園	6人
		札幌市第二かしわ学園	9人
		札幌市あかしあ学園	9人
		札幌市中央老人福祉センター	16人
		札幌市東老人福祉センター	16人
		札幌市厚別老人福祉センター	13人
		札幌市豊平老人福祉センター	13人
		札幌市南老人福祉センター	13人
		札幌市西老人福祉センター	13人
		札幌市中央区介護予防センター大通公園	3人
		札幌市東区介護予防センター北栄	9人
		札幌市豊平区介護予防センター美園	3人
		札幌市南区介護予防センターまこまない	18人
		札幌市手稲区介護予防センター中央・鉄北	3人
		札幌北訪問看護ステーション	4人
		札幌東訪問看護ステーション	4人
札幌白石訪問看護ステーション	4人		
札幌清田訪問看護ステーション	4人		
札幌西訪問看護ステーション	4人		
札幌厚別訪問看護ステーション	4人		
札幌あゆみの園	32人		
札幌市中央健康づくりセンター	24人		
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成21年10月19日～23日	市立札幌病院	216人
		手稲溪仁会病院	116人
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成21年5月25日～6月5日	市立札幌病院	486人
		手稲溪仁会病院	252人
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成21年11月2日～20日	市立札幌病院	676人
		手稲溪仁会病院	247人
		KKR札幌医療センター	130人

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
老年看護学臨地実習 I	平成21年5月11日～15日	札幌市中央老人福祉センター	24人
		札幌市東老人福祉センター	27人
		札幌市厚別老人福祉センター	24人
		札幌市豊平老人福祉センター	27人
		札幌市南老人福祉センター	15人
		札幌市西老人福祉センター	27人
		札幌市白石老人福祉センター	27人
		札幌市清田老人福祉センター	12人
		札幌市北老人福祉センター	27人
		札幌市手稲老人福祉センター	27人
成人看護学臨地実習 II	平成21年6月22日～7月31日	市立札幌病院	764人
精神看護学臨地実習	平成21年6月22日～7月31日	市立札幌病院静療院	260人
		札幌花園病院	176人
		中江病院	257人
在宅看護学臨地実習	平成21年6月22日～7月31日	札幌市北区第2地域包括支援センター	24人
		札幌市東区第1地域包括支援センター	20人
		札幌市豊平区第1地域包括支援センター	20人
		東相談センター	12人
		白石相談センター	12人
		豊平相談センター	12人
		総合支援センターえがお	24人
		中央相談センター	8人
		北相談センター	12人
		南相談センター	8人
		西相談センター	8人
		手稲相談センター	8人
		札幌手稲訪問看護ステーション	24人
		札幌厚別訪問看護ステーション	8人
		札幌西訪問看護ステーション	24人
		札幌東訪問看護ステーション	22人
		札幌北訪問看護ステーション	22人
		札幌白石訪問看護ステーション	22人
		訪問看護ステーションあいしん	16人
		来夢ライン訪問看護ステーション	16人
来夢ライン療養通所介護事業所	8人		
はまなす訪問看護ステーション	14人		
札幌市白石区第1地域包括支援センター	8人		
居宅介護支援事業所 西円山敬樹園	16人		
札幌市北区第1地域包括支援センター	6人		
札幌市中央区第1地域包括支援センター	8人		

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
在宅看護学臨地実習	平成21年6月22日～7月31日	札幌市西区第2地域包括支援センター	17人
		札幌市白石区第2地域包括支援センター	22人
		指定居宅介護支援事業所 東札幌	22人
		指定居宅介護支援事業所デイ・グリューネン	22人
		KKR札幌医療センター訪問看護室	16人
		札幌徳州会病院在宅医療室	34人
		札幌市南区第1地域包括支援センター	6人
		札幌市東区第2地域包括支援センター	8人
		訪問看護ステーションみなみ	8人
		訪問看護ステーションまこまない	8人
		訪問看護ステーションちゅうおう	8人
		訪問看護ステーションとよひら	8人
		東苗穂訪問看護ステーション	22人
		禎心会東訪問看護ステーション	22人
母性看護学臨地実習	平成21年11月24日～12月25日 平成22年1月18日～2月5日	市立札幌病院	311人
		札幌医科大学附属病院	102人
		天使病院	136人
		北海道社会保険病院	120人
小児看護学臨地実習	平成21年11月24日～12月18日 平成22年1月18日～29日	市立札幌病院	169人
		札幌医科大学附属病院	60人
		KKR札幌医療センター	157人
		天使病院	71人
		札幌市みかほ保育園	9人
		札幌市山の手保育園	18人
		札幌市若草保育園	9人
		札幌市新川保育園	9人
		札幌市青葉保育園	6人
		札幌市豊園保育園	15人
		札幌市美園保育園	6人
		札幌市新琴似保育園	9人
		札幌市山の手乳児保育園	16人
		札幌市澄川乳児保育園	10人
		札幌市北乳児保育園	6人
		札幌市菊水乳児保育園	10人
		札幌市東札幌乳児保育園	16人
		札幌市豊園乳児保育園	10人
		東区保育・子育て支援センター	12人
		西区保育・子育て支援センター	6人
手稲区保育・子育て支援センター	33人		
豊平区保育・子育て支援センター	12人		
清田区保育・子育て支援センター	12人		

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成21年11月24日～12月18日 平成22年1月18日～29日	西円山病院	273人
		慈啓会病院	105人
		介護老人保健施設 グラーネ北の沢	168人
地域看護学臨地実習	平成21年6月15日～7月24日	中央保健センター・中央区役所	100人
		北保健センター・北区役所	120人
		東保健センター・東区役所	120人
		白石保健センター・白石区役所	110人
		豊平保健センター・豊平区役所	110人
		西保健センター・西区役所	110人
		厚別保健センター・厚別区役所	50人
		手稲保健センター・手稲区役所	50人
		清田保健センター・清田区役所	50人
		南保健センター・南区役所	50人
		札幌市総務局職員部・札幌市職員共済組合健康管理センター	11人
		北海道労働保健管理協会	11人
		北洋銀行本店医務室	9人
		ダイエー健康保険組合健康管理センター	6人
		札幌鉄道病院	4人
		札幌がん検診センター	14人
		日本通運株式会社札幌支店	10人
		花王株式会社北海道地区健康相談室	10人
北海道農業団体健康保険組合	9人		
北海道警察本部	3人		
ヘルスケアマネジメント実習	平成21年9月28日～10月16日	市立札幌病院	324人
		市立札幌病院静療院	72人
		旭山病院	24人
		天使病院	48人
		KKR札幌医療センター	168人
		手稲溪仁会病院	132人
		札幌厚生病院	96人
		札幌鉄道病院	72人
		介護老人保健施設 プラットホーム	72人
厚別老人保健施設 デイ・グリューネン	36人		

5) 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）

教育GP「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」平成21年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成21年6月5日	全学FD研修会「組織的な教育改善活動を活発化するために（講師：山口大学 大学教育センター教授 小川勤）」を実施。（参加者：47名）
平成21年5月～7月	札幌市立大学で育成した模擬患者38名に対し、5回のフォローアップ研修を実施。
平成21年9月3日	模擬患者のために特別講演会（講師：岡山SP研究会 代表 前田純子）を実施。（参加者：45名）
平成21年11月14日 ～15日	医学教育セミナーとワークショップを岐阜大学と共催で実施。（学外参加者10名）
平成21年12月1日 ～11月25日	客観的評価のため、学生にOSCEオリエンテーションを実施し、各学年の到達目標について説明。（1年生：12月1日（火）、2年生：11月25日（水）、3年生・4年生：11月20日（金））
平成21年12月10日	FD研修会「OSCE評価と有効な教育的フィードバック。（講師：東京大学医学部附属病院総合研修センター長 北村聖）」を実施。（参加者：23名）
平成21年12月17日	OSCEの実施にあたって、模擬患者への説明及び教員との意見交換会を開催。（参加者：30名）
平成22年1月7日～8日	教育GP合同フォーラムに参加。（5名）
平成22年2月10日	FD研修会「模擬患者に対する教員の教育的役割について（講師：本学講師 渡邊由加利）」を実施。（参加者：29名）
平成22年2月15日	本学の実習先から担当者を招いて臨地実習指導者会議を開催。（参加者：197名）
平成22年2月19日 ～2月26日	各学生にOSCEを実施し、個別フィードバックを実施。（1年生：2月19日（金）、2年生：2月22日（月）、3年生：2月26日（金）、4年生：2月23日（火）） OSCEの実施に際し、岐阜大学医学部教育開発研究センター教授 鈴木康之氏を招聘
平成22年3月26日	本年度の教育GPの取り組みについて成果発表を行うとともに、意見交換会を開催。（参加者：106名）

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

5 その他

1) ゲストスピーカー

① 共通教育

授業科目	年月日	講師
札幌を学ぶ	平成21年4月17日	上田 文雄 (札幌市長)
	平成21年5月8日	築島 健 (札幌市保健福祉局 精神保健福祉センター所長)
	平成21年5月15日	長沢 誠 (気象予報士)
	平成21年5月22日	坪田 靖 (札幌市市民まちづくり局 総合交通計画部 交通計画課長)
	平成21年5月29日	服部 十郎 (社)北海道被爆者協会 常務理事)
	平成21年6月5日	長谷部 英司 (札幌市市民まちづくり局 市民自治推進室長)
	平成21年6月19日	クイン 明美 (NPO法人「飛んでけ!車いす」の会 事務局長)
	平成21年6月26日	三井 雅勝 (札幌市観光文化局 観光部 観光企画課 観光イベント担当課長)
	平成21年7月3日	竹中 万紀子 (東海大学非常勤講師)
	平成21年7月10日	横内 龍三 (株)北洋銀行 取締役頭取)
平成21年7月17日	鳥田 英二 (映画監督・北海道情報大学准教授)	
平成21年7月24日	中川 智義 (札幌市子ども未来局 子ども育成部 子ども企画課長)	

② デザイン学部

授業科目	年月日	講師
ロボティクス	平成21年4月23日	曾我 卓之 (ビー・エル・オートテック(株) 生産部 開発グループ)
感性デザイン論	平成21年4月24日	岡崎 章 (拓殖大学 工学部 工業デザイン学科 教授)
デザインマネジメント	平成21年6月12日	名児耶 秀美 (アッシュコンセプト(有) 代表取締役) 砂口 あや (アッシュコンセプト(有))
卒業研究	平成21年6月9日	浦尾 画三 (有)トリトーン、作曲家)
環境計画論	平成21年6月24日	寛 裕介 (株)博報堂 博報堂生活総合研究所 研究員)

授業科目	年月日	講師
ヒューマンファクターズ入門	平成21年7月6日	土屋 雅人 (法政大学 工学部 システム工学科 教授)
環境計画論	平成21年7月15日	麻生 嘉 (自営業)
感性デザイン論	平成21年7月17日	名見耶 秀美 (アッシュコンセプト(有) 代表取締役)
ユニバーサルデザイン論	平成21年7月24日	島山 彰文 (北海道医療大学 心理科学部 言語聴覚療法学科 准教授)
感性科学	平成21年10月20日	椎塚 久雄 (工学院大学 教授)
	平成21年12月8日	岡崎 章 (拓殖大学 工学部 工業デザイン学科 教授)
メディア芸術論	平成21年12月16日	Krystian Woznicki (Publisher' Berline Garette')
	平成21年12月18日	笠木 日南子 (名古屋美術館 学芸課 学芸員)

③ 看護学部

授業科目	年月日	講師
保健医療福祉制度論	平成21年4月22日	矢野 公一 (札幌市保健福祉局 衛生研究所長)
現代専門職論	平成21年4月27日	橋本 道政 (札幌市子ども未来局長)
老年看護学概論	平成21年5月8日	小野 弘 (所属なし)
精神看護技術論	平成21年5月8日	佐々木 里美 (札幌市病院局 看護部(静療院) 看護師) 東谷 敬介 (札幌市病院局 看護部(静療院) 看護師) 大宮 益代 (中江病院 看護部 看護師)
ヘルスプロモーション活動論	平成21年5月14日	波川 京子 (札幌医科大学 保健医療学部 看護学科 准教授)
医療情報	平成21年5月20日	山本 裕之 (札幌市病院局 経営管理部 総務課 情報システム担当係長)
リハビリテーション看護学	平成21年5月22日	藪中 弘美 (札幌社会福祉専門学校 専任講師)
看護初期実習	平成21年5月26日	油谷 清美 (社)北海道総合在宅ケア事業団 訪問看護部 副主幹)
看護管理学	平成21年5月27日	近藤 とさえ (札幌市病院局 看護部長) 樋口 晴美 (手稲溪仁会病院 看護部長) 野中 浩美 (愛心メモリアル病院 看護部長)

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目	年月日	講師
医療安全管理論	平成21年6月2日	斉藤 容子 (札幌市病院局 感染管理推進室 感染管理担当課長)
看護管理学	平成21年6月3日	鹿内 あずさ (天使大学 看護栄養学部 看護学科 講師) 田村 緑 (東札幌病院 訪問看護ステーション 所長) 原 まゆみ (愛心メモリアル病院 地域連携室 所長)
保健医療福祉制度論	平成21年6月5日	岩尾 貢 (介護老人福祉施設サンライフたきの里 施設長)
	平成21年6月17日	武田 純子 (有)ライフアート 代表取締役)
	平成21年6月21日	永田 久美子 (認知症介護研究・研修東京センター 主任研究主幹)
環境保健	平成21年7月16日	宮本 啓二 (札幌市保健福祉局 保健所 生活衛生担当部長)
小児看護技術論	平成21年10月13日	高野 良子 (天使大学 看護栄養学部 栄養学科 准教授)
地域看護援助論	平成21年10月22日	石坂 直子 (増毛町役場福祉厚生課 保健指導係長兼居宅介護支援事業所長)
援助の人間関係論	平成21年10月23日	松本 典子 (札幌医科大学附属病院 看護部 副部長)
老年看護援助論	平成21年10月23日	谷 規久子 (国際医療福祉大学 准教授)
基礎看護技術論	平成21年10月26日	齋竹 一子 (NPO法人動作介助研究会)
小児看護技術論	平成21年10月27日	牧田 靖子 (札幌市病院局 看護部 看護師)
地域看護援助論	平成21年10月28日	松木 美穂 (北海道石狩保健福祉事務所 保健福祉部 保健福祉企画課 保健推進係長)
	平成21年10月28日	澤田 明美 (札幌市保健福祉局 保健所感染症総合対策課 結核対策係長)
	平成21年10月29日	鈴木 敦子 (元看護教諭会会長)
老年看護技術論	平成21年10月29日	荻安 誠 (北海道医療大学 心理科学部 言語聴覚療法学科 教授)
地域看護援助論	平成21年11月2日	横尾 由起子 (ダイエー健康保険組合健康管理センター 副チーフ保健師)
老年看護技術論	平成21年11月5日	鈴木 英樹 (キラライフ 北とくらしと地域ケア研究所 代表)
小児看護技術論	平成21年11月10日	加藤 尚子 (子供の安全ネットワーク・ジャパン)

授業科目	年月日	講師
がん看護学	平成21年12月10日	高口 弘美 (札幌市病院局 看護部 看護師)
健康教育指導法	平成22年1月7日	田頭 正一 (財札幌健康スポーツ財団 中央健康づくりセンター 健康運動指導士)
在宅看護援助論	平成22年1月8日	石崎 剛 (札幌市厚別地域包括支援センター 地域包括支援主任・管理者)
がん看護学	平成22年2月10日	河村 真理子 (有)はるか 代表)

2) 特別講義

年月日	タイトル	講師
平成21年9月29日	i Movieによる映像編集ワークショップ	大 淵 一博 (札幌市立大学 デザイン学部 講師)
平成21年9月25日	看護学部特別講義	細川 大介 (視覚障がい者) 相澤 友子 (札幌市病院局 地域連携センター 看護相談室)
平成21年9月30日	木工室安全講習会	上 遠 野 敏 (札幌市立大学 デザイン学部 教授)
平成22年3月24日	AdobeCS2によるデザインワークショップ	大 淵 一博 (札幌市立大学 デザイン学部 講師)

3) 科目等担当講師懇談会

年月日	対象者及び出席者数	内容
平成22年2月15日	臨地実習指導者会議 実習先指導担当者 (197人)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上の目標等の説明 ・成績評価方法等の説明 ・その他遵守事項の説明 ・意見交換等
平成22年3月17日	デザイン学部科目担当非常勤講師 (10人)	
平成22年3月24日	共通教育科目担当非常勤講師 (5人)	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営協議会及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

Ⅲ 研究活動

1 研究活動概要

本学では、教育研究上の特徴として「デザイン学部と看護学部の連携」ならびに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」ならびに「産業・文化の振興、まちづくりや、市民の健康保持・増進への貢献により大きな価値を生み出す『知と創造』の拠点形成」を掲げている。

平成21年度は、この特徴と目的を念頭に置き、デザイン学部教員34名、看護学部教員40名、計74名が研究活動を行った。

「デザイン学部と看護学部の連携」の観点からは、両学部の教員が協働しながらそれぞれの専門知識と技術を活かし、「小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討」や「IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作」などを通じて、保健・医療・福祉等のテーマで学部間共同研究を推進した。

「幅広いネットワーク」の観点からは、医療福祉機関との連携により地域課題の解決を目指して、「看護学部と病院の人材育成連携活動の評価研究に向けて－相互影響の記述－」や、「夕張市における在宅ケア従事者間の連携促進を意図した教育的介入」などの研究を遂行した。また、「地域における通信・放送融合型モバイルコンテンツサービスに関する共同研究」などを通じて、産業界等との連携により研究を行った。

「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」の観点からは、「デザイナーの職能資格認証研究」のほか、「看護学教育における模擬患者（SP；Simulated Patient）養成プログラムの開発と検証－SPの達成感に焦点をあてて－」、「看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発」、「客観的臨床能力試験（OSCE）による卒業時看護技術到達度評価に向けた教授法の検証」などにおいて、看護技術向上教育を目的とした研究に取り組んだ。

「産業・文化の振興、まちづくりや、市民の健康保持・増進への貢献により大きな価値を生み出す『知と創造』の拠点形成」の観点からは、まちづくりの推進に貢献することを目的として、「札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究」、「シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究」、「南区ユニバーサルデザイン・ウォーキングマップ及びその活用に関する研究」、「第14回札幌市都市景観賞」PRに関する研究」や札幌市円山動物園に関わる受託研究などを実施した。

このほか、福祉機器等のユニバーサルデザイン研究、地域景観再生に係る研究、看護現場における環境改善や従事者支援に係る研究など、多様なテーマとアプローチによる研究に取り組んだ。

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会
及び教育研究
経営審議会
看護協議会

IX
学内運営の概要

X
資料

2 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
原田 昭	・札幌市立大学外部連携研究環境構築のための研究
吉田 恵介	・地域景観資源評価手法の開発と景観デザイン計画
武邑 光裕	・札幌市地下歩行空間におけるCGMコンテンツ活用を基盤とする創造都市さっぽろ施策及び都市ブランド形成の研究
石崎 友紀	・道具学の探究、地域様式のデザイン製品（プロダクト、クラフト、福祉機器などの造形デザイン）造形教育、ビークル・リベリィデザイン
上遠野 敏	・現代美術創作研究 ・同時代の美術研究 ・日本の美意識の研究
齋藤 利明	・オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
酒井 正幸	・ユニバーサルデザイン研究 ・環境教育フィールドとしての芸森キャンパスの活用のための基礎研究 ・動物園のランドデザイン研究
城間 祥之	・3D CADによるRapid Prototyping 向き形状モデリングに関する研究
杉 哲夫	・プロダクトデザイン事例研究およびデザイン開発 ・デザイナーの職能資格認証研究
中原 宏	・市街地の形態と構造に関する研究
羽深 久夫	・北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 ・米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用 ・日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 ・世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	・ドイツと日本における無子の増加に関する研究 ・超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン ・日本の長期出生動向に関する分析
望月 澄人	・CGアニメーションの制作
矢部 和夫	・湿原景観の保全と再生に関する研究
吉田 和夫	・組織活性化におけるVI（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について
エル サニ マロアン	・Current global development of online based media archives especially focusing on the activities of educational institutions
武田 亘明	・ICTを活用したメディア教育の研究 1) 情報を読み解く力の育成教育に関する研究 2) 手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発
張 浦 華	・製品形態における感性評価プロセスに関する研究
フィッシャー ニーナ	・Current global development of online based media archives especially focusing on the activities of educational institutions ・Research about the necessity of an International Contemporary Art Biennial for the cultural and structural development of the region (continuous research from 2009)
細谷 多聞	・環境情報の電子化とその活用に関する研究
町田 佳世子	・笑顔の相互作用効果の基礎的研究 ・コミュニケーション能力評価方法の開発 ・英語教育の教育内容構成に関わる言語学的研究成果の検討
大 瀨 一 博	・デザイン学習者向け教材の開発と教育効果測定に関する研究

教員名	研究課題
柿山 浩一郎	・製品・サービス発想における、リアルタイム集団アイデア発想システムの検証
小宮 加容子	・障害児用ジョイスティック操作訓練システムの開発
斉藤 雅也	・建築環境教育・住まい方支援のための教材・学習プログラムの開発
那須 聖	・現代建築・都市における外部空間の中の内部性
福田 大年	・コンテンツデザインにおける情報デザインの有効性についての研究
松井 美穂	・アメリカ南部女性文学におけるジェンダーとセクシュアリティ
三谷 篤史	・ボイスコイルアクチュエータを用いた振動機構の開発 ・北海道の地域性を生かした動物ロボット玩具の開発
山田 良	・地域再生を目的とした景観再評価に関する研究（札幌地区におけるアート展開催、公共空間制作を通じて）
片山 めぐみ	・積雪寒冷地域における在宅高齢者の外出行動と施設配置に関する研究 ・動物園における動物とヒトとのコミュニケーションを考慮した展示デザインに関する研究
上田 裕文	・風景イメージ調査手法の確立
須之内 元洋	・ユーザー主導型の札幌イベントサイト「SAPPORO COLOR」のメディア展開について
棟方 渚	・人間と持続的なインタラクションを実現する人工物の開発

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	・成人看護学領域における看護技術獲得とその検証
内田 雅子	・慢性疾患をもつ成人のセルフ・モニタリングと自己理解を促進する援助方法の開発
加藤 登紀子	・女性管理職の昇格における影響要因と昇格後の活動の変化
河野 總子	・看護職の組織コミットメントと職務満足調査－看護管理者が副院長である施設と看護部長の施設の比較検討－ ・ナースステーションにおける看護作業環境の改善に向けた基礎的研究
坂倉 恵美子	・地域高齢者のソーシャルサポート・ネットワークと医療費の関連 ・積雪寒冷地高齢者の主観的幸福感の関連要因 ・安全な入浴方法開発のための基礎的研究
定廣 和香子	・看護実践場面における看護師の行動に関する研究－安全管理行動に焦点を当てて－
スーディ神崎 和代	・在宅ケアに関する国際比較調査 ・日本の地方在住高齢者の転倒と関連要因（沖家室島）
樋之津 淳子	・OSCEによる1～3年次の基礎看護技術の到達度評価について
松浦 和代	・小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討
宮崎 みち子	・胎児の生きる権利に関する研究 ・看護実践における倫理的ジレンマに関する研究
山本 勝則	・看護における他者理解
大野 夏代	・指圧・マッサージ、手洗いなど看護技術に関する研究 ・国内における国際協力活動の実践と課題の整理 ・病床環境の整備に関する研究
清水 光子	・保健師の継続訪問によるマネジメント
須田 恭子	・札幌在住の身体障害者支援：災害対策支援に着目したマップ開発
守村 洋	・メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害者への地域生活支援および自殺予防に関する研究）
吉川 由希子	・e-learning を用いた小児看護学領域の自己学修教材の有効性の検討

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	研究課題
菊地 ひろみ	・在宅・病院間の看護情報共有様式の実用化
佐藤 公美子	・占領期における看護改革に関する研究 ・OSCEトライアルにおける1年次課題の妥当性の検証
菅原 美樹	・救急・クリティカルケア領域に従事する看護師の職業的体験の意味に関する研究
杉田 久子	・クリティカルケア看護師のexpertiseの探究 看護師のexpertiseの概念分析
新納 美美	・人の成熟を促すコミュニティの形成に関する研究－暴力問題に関連したヘルスケアの現状と課題に関する検討－
藤井 瑞恵	・循環器疾患などの生活習慣病に関する疫学的研究
星 美和子	・Self-Transcendence、Vulnerability及びWell-beingに関する研究及び看護知識の構造における中範囲理論についての研究
村松 真澄	・口腔アセスメントと口腔ケアプロトコルに関する研究 ・地域自立高齢者の口腔の健康と主観的幸福感に関する研究
保田 玲子	・地方都市高校生の性に対する知識、態度および行動
渡邊 由加利	・産褥期におけるリラクゼーションの方法の検討 ・母性看護学領域におけるOSCE課題とその評価
太田 晴美	・アクションリサーチ（SSM）による看護師教育支援：災害看護への動機づけ
神島 滋子	・脳損傷の認知機能障害スクリーニングツールの開発に向けた研究
河村 奈美子	・発達段階各期における精神保健と看護
櫻井 繭子	・支援専門職に関する研究
進藤 ゆかり	・痛みを抱えた高齢者や積雪寒冷地域に居住する高齢者の健康生活に関する研究 ・老年看護教育に関する研究
多賀 昌江	・周産期医療のグリーフケアを支援するデザイン研究：死産児を安置するための棺「エンゼルセット」の開発
照井 レナ	・認知症高齢者に対する米国発新型アクティビティ・ツールの日本文化を踏襲した応用－異文化アセスメントに基づく構築－
松村 寛子	・保健師の育児支援に関する研究
三上 智子	・ロイシンリッチリピート蛋白質の進化速度の研究
工藤 京子	・呼吸器疾患患者会における日常生活の工夫と医療講演の効果
小坂 美智代	・外来治療を受けるがん患者の対処の「柔軟性」に関する研究
鶴木 恭子	・重曹による清拭が皮膚表面に与える影響
原井 美佳	・高齢者の心地よい排泄ケアの検討
淵本 雅昭	・急性期における意識障害患者の意識回復に向けた実証的研究～複数の感覚刺激を用いた口腔ケア～

3 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
杉 哲 夫	三輪自転車のリデザインおよび市場導入研究
小宮 加容子	フレンドリーな電動車いす操作インターフェースの開発
松 井 美 穂	モダニズム期のアメリカ南部文学におけるFrances Newmanの作品の意義について
山 田 良	地域再生を目的とした空間作品に関する実践的研究／定山溪温泉地区、大通り市街地（シャワー通り）、モエレ沼公園での各プロジェクトを通じて
上 田 裕 文	東アジア観光市場における北海道イメージ形成に関する研究
棟 方 渚	人間のモチベーション維持を可能とするインタラクティブシステムの構築
守 村 洋	医療現場における自殺予防 ～連携体制のあり方と今後の方向性～
菊地 ひろみ	在宅分野の看護技術に関する学生の経験および臨地指導に関する調査
新 納 美 美	看護学士課程に在籍する学生の看護の概念的理解の成熟とその関連要因に関する研究

共同研究

教員名	研究課題
◎フィッシャー ニーナ エル サニ マロアン 須之内 元洋	創造都市（Creative City）におけるハイブリッドメディアおよび市民生成メディア環境（Citizen Generated Media Environment）の研究
◎内田 雅子 中村 恵子 須田 恭子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 測本 雅昭	看護学部と病院の人材育成連携活動の評価研究に向けて－相互影響の記述－
◎スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ 照井 レナ	夕張市における在宅ケア従事者間の連携促進を意図した教育的介入
◎渡邊 由加利 山本 勝則 須田 恭子 吉川 由希子 工藤 京子 測本 雅昭	看護学教育における模擬患者（SP；Simulated Patient）養成プログラムの開発と検証－SPの達成感に焦点をあてて－

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
12	9	7	4	19	13

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

4 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費補助金

研究代表者	研究課題	研究種目（交付元）	金額（円）
中村 恵子	看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	390,000
原 俊彦	札幌市の少子化：政令指定都市の出生力のシステム・ダイナミック・モデル構築	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	910,000
矢部 和夫	太平洋沿岸の泥炭地湿原における高茎湿生草原の成立・維持機構の解明とその保全	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	2,470,000
張 浦華	形態に対する快・不快反応の計測システムの構築	基盤研究(B)一般 ((独)日本学術振興会)	2,210,000
三谷 篤史	フェムト秒レーザ加工表面を用いた対称振動輸送における微小物体のダイナミクスの解明	若手研究(B) (文部科学省)	1,950,000
定廣 和香子	看護系大学における安全管理技術教育プログラムの開発	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	910,000
樋之津 淳子	客観的臨床能力試験 (OSCE) による卒業時看護技術到達度評価に向けた教授法の検証	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,300,000
松浦 和代	小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	910,000
守村 洋	精神障害者の地域生活における 'Empowerment' のあり方と援助の方向性	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	780,000
佐藤 公美子	占領期の看護管理政策に関する考察 - GHQ/SCAP文書による歴史的的分析 -	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,300,000
村松 真澄	薬剤を服用している地域自立高齢者の口腔の健康と主観的幸福感に関する研究	若手研究 (スタートアップ) ((独)日本学術振興会)	1,547,000
太田 晴美	アクションリサーチ (SSM) による看護師教育支援：災害看護への動機づけ	若手研究(B) (文部科学省)	3,120,000
神島 滋子	脳損傷患者の認知機能評価方法の開発 - LOCFASの臨床応用に向けて	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	2,730,000
河村 奈美子	動物との交流をめぐる認知症高齢者のコミュニケーションの発展性：縦断的観察から	若手研究(B) (文部科学省)	1,040,000
櫻井 蘭子	メンタルヘルス問題事例の職場復帰の様相 - 事例性の構造化 -	若手研究(B) (文部科学省)	780,000
進藤 ゆかり	帯状疱疹後神経痛を抱えた高齢者の慢性疼痛との共存の過程	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,170,000
照井 レナ	訪問看護師の主観的責任の様相と勤務継続意志の関連	若手研究(B) (文部科学省)	650,000
松村 寛子	母乳育児中断予測に関する尺度の開発～地域における母乳育児支援に向けて～	若手研究(B) (文部科学省)	384,057

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営協議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額（円）
武 邑 光 裕	札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究	札幌市市長政策室	8,000,000
酒 井 正 幸	ユニバーサルデザイン視点からの動物園のビジュアルアイデンティティ研究	札幌市環境局	500,000
羽 深 久 夫	シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	札幌市南区	997,500
羽 深 久 夫	南区ユニバーサルデザイン・ウォーキングマップ及びその活用に関する研究	札幌市南区	496,650
矢 部 和 夫	「円山動物園の森」ビオトープの生物多様性向上のための研究	札幌市環境局	500,000
吉 田 和 夫	カタログの企画及び製作研究	株式会社特殊衣料	600,000
細 谷 多 聞	身体的ストレス環境におけるリスクマネジメントのためのウェアラブル体調モニターシステム開発	(独)科学技術振興機構	1,666,000
大 瀨 一 博	世界に向けて札幌市のPRを目的とするグリーティングカードの作成研究	札幌市総務局	32,000
斉 藤 雅 也	高揚感と居住快適性を創出する動物舎デザインの研究	札幌市環境局	1,000,000
那 須 聖	「第14回札幌市都市景観賞」PRに関する研究	札幌市市民まちづくり局	689,535
須之内 元洋	都市型イベントのCGM型オンラインメディア形成に関する研究	NPO法人北海道デザインネットワーク	230,000

共同研究費

研究代表者	研究課題	助成元	金額（円）
武 邑 光 裕	地域における通信・放送融合型モバイルコンテンツサービスに関する共同研究	札幌総合情報センター株式会社	2,750,000
矢 部 和 夫	北海道生物多様性保全モニタリングに関する研究	北海道環境科学研究センター (地方独立行政法人北海道総合研究機構 環境・地質研究本部)	909,000
細 谷 多 聞	中小製造業における戦略的デザイン活用支援ツールの開発	北海道立工業試験場	250,000

研究補助金

研究代表者	研究課題	助成元	金額（円）
スーディ神崎 和代	IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作	厚生労働省 平成21年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）	6,857,000

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

5 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額（円）
中村 恵子	看護の資質向上のため	医療法人社団碩心会 心臓血管センター北海道大野病院	800,000
中村 恵子	札幌市民のニーズに応じた教育活動支援のため	特定医療法人 鳩仁会	300,000
中村 恵子	1. 教育を基にした人材育成のための支援 2. 看護教育の促進・強化	(医)徳洲会 札幌徳洲会病院	300,000
羽深 久夫	収蔵に関する基礎的研究	札幌三信倉庫(株)	95,000
矢部 和夫	「ウトナイ湖の水位変化が北西岸湿地のハンノキ林や他の群落の分布に与える影響の評価」に対する研究助成	(財)リバーフロント整備センター	1,000,000

6 海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成21年4月11日 ～19日	三谷 篤史	スペイン	研究用資料調査、5th IEEE/IES International Conference on Mechatronics参加・発表
平成21年4月20日 ～26日	杉 哲夫	イタリア	ミラノサローネ2009視察
平成21年4月26日 ～5月5日	エルサニマロアン フィッシャー ニーナ	ドイツ	exhibition (Galerie EIGEN + ART, Leipzig)
平成21年6月1日 ～5日	上田 裕文	ロシア	日本とロシアの自然風景の評価・比較研究に関する現地調査
平成21年6月16日 ～24日	エルサニマロアン フィッシャー ニーナ	ドイツ・ロシア	Preparation, Film Screening, Jury and Panel Discussion (Media Forum, Moscow International Film Festival)
平成21年6月28日 ～7月7日	宮崎 みち子	南アフリカ	第24回国際看護師協会4年毎大会参加・発表
平成21年7月12日 ～22日	上田 裕文	ドイツ	風景イメージに関する研究発表会出席、樹木墓地・エコミュージアム視察
平成21年7月14日 ～18日	町田 佳世子	オーストラリア	The 11th International Pragmatics Conference発表
平成21年7月20日 ～24日	スーディ神崎 和代	イギリス	8th IAHSa学会研究発表及びシンポジストとしてのシンポジウム参加
平成21年7月24日 ～27日	坂倉 恵美子	台湾	日本と台湾の交流と共同研究の打ち合わせ
平成21年7月31日 ～8月2日	スーディ神崎 和代	アメリカ	Translational research資料収集及び日本看護科学学会スピーカー面接
平成21年8月2日 ～9月25日	エルサニマロアン フィッシャー ニーナ	ドイツ	展覧会準備・開催等 (Kunstverein Wolfsburg, Kunstverein Heidelberg, Berlinische Galerie, Museum of Modern Art)
平成21年8月14日 ～21日	坂倉 恵美子 河村 奈美子 進藤 ゆかり	オーストラリア	The 4th International Conference on Community Health Nursing Research参加・発表
平成21年8月15日 ～21日	新納 美美	オーストラリア	The 4th International Conference on Community Health Nursing Research参加・発表、シドニー大学視察研修・学部スタッフとの交流・発表

期間	教員名	目的国	目的
平成21年8月15日 ～21日	保田 玲子	オーストラリア	The 4th International Conference on Community Health Nursing Research参加・発表
平成21年8月24日 ～28日	張 浦華	韓国	ANBD（アジアネットワークビヨンドデザイン組織）展覧会、NBD事務局会議、大学見学、情報収集
平成21年8月30日 ～9月6日	樋之津 淳子	アメリカ	アメリカにおけるがん専門看護についての研修
平成21年9月1日 ～8日	守村 洋	フィンランド	研究「医療現場における自殺予防－連携体制のあり方と今後の方向性－」現地視察
平成21年9月22日 ～30日	羽深 久夫	フィンランド・ドイツ	フィンランドにおける木造建築・病院建築の調査、ハメルンリンナにおける歴史的建造物の調査、ミュンヘン工科大学の建築学教育の調査
平成21年9月25日 ～27日	原田 昭	台湾	ANBD（アジアネットワークビヨンドデザイン組織）理事総会・台南展出席
平成21年10月11日 ～24日	武邑 光裕	オーストラリア・オランダ・オーストリア	共同研究打合せ、学術交流検討、国際フェスティバル・ストレンジャーフエスティバル参加、視察（Hilversum Media Park, Institute for Sound and Vision, Musium quarter, メディアアートセンター、アルスエレクトロニカ）、創造都市施策・創造産業振興政策ヒアリング調査
平成21年10月16日 ～24日	須之内 元洋	オランダ・オーストリア	国際フェスティバル・ストレンジャーフエスティバル参加、視察（Hilversum Media Park, Institute for Sound and Vision, Musium quarter, メディアアートセンター、アルスエレクトロニカ）、創造都市施策・創造産業振興政策ヒアリング調査
平成22年2月14日 ～23日	上田 裕文	ドイツ	日独世界遺産コロキウム参加・発表、ドレスデンヴァルトシュロッセン橋視察
平成22年2月22日 ～3月12日	エルサニマロアン フィッシャーニーナ	オーストラリア	Adelaide Festival of the Artsでのアーティストパネルトーク・アーティストワークショップ・ビデオ上映
平成22年2月28日 ～3月4日	原田 昭	フランス	KEER2010国際学会出席・講演・研究発表
平成22年3月20日 ～24日	三上 智子	中国	PepCon2010国際学会出席
平成22年3月21日 ～27日	松井 美穂	アメリカ	エモリー大学・ジョージア工科大学図書館での調査

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

7 個人別業績一覧

デザイン学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
原田 昭	<著書> 1 Chickens and Humans in Thailand: Their Multiple Relationships and Domestication	共著	平成21年3月	The SHAM Society、 pp.352 - 373
	<学術論文> 1 A Kansei Model for Preferences of Chicken Appearance in Chang Rai and Okinawa	共著	平成22年3月	Arts Et Metiers Paris Tech, Paris、 2009、第3回、pp.1823 - 1834
	2 都市の品質とサービスの設計	単著	平成21年5月	人間中心機構学会、2009、 第3回、pp.1 - 18
	3 デザインと看護の横断型連携教育 -サービスの設計-	共著	平成21年10月	横断型基幹科学研究団体連 合、2009、第3回、pp.28 - 37
	<学会発表> 1 サービスの設計	共同	平成22年1月	日本感性工学会
	2 A Kansei Model for Preferences of Chicken Appearance in Chang Rai and Okinawa	共同	平成22年3月	KEER 2010国際学会
	<招聘講演> 1 特別講演：横断型連携教育と感性工学		平成21年8月	Asia Network Beyond Design Association、韓国・祥明大学
	2 Key note speech: Service Design with Kansei Engineering		平成22年3月	KEER 2010国際学会、PARIS
	<作品発表> 1 City A	共同	平成21年8月 ～9月	Asia Network Beyond Design 2009, CHEONAN (韓国祥明 大学ギャラリー)
	2 City B	共同	平成21年9月 ～10月	Asia Network Beyond Design 2009, TAINAN (崑山科技大 学ギャラリー)
	3 City E	共同	平成21年10月	Asia Network Beyond Design 2009, Tianjin (天津美術学院 ギャラリー)
	4 City D	共同	平成21年11月	Asia Network Beyond Design 2009, Nara (奈良県文化会館 ギャラリー)
吉田 恵介	<その他の論文> 1 松浦武四郎が歩いた道	単著	平成21年7月	北海道野生生物基金、20号、 pp.41 - 44
	<作品発表> 1 携帯椅子	共同	平成21年10月	札幌デザインウィーク2009
武邑 光裕	<著書> 1 Japan als Aquarium	単著	平成21年4月	Berliner Gazette
	<調査研究報告書> 1 「地域における通信・放送融合型モバイルコンテ ンツサービスに関する共同研究」	共著	平成21年3月	札幌市総合情報センター
	2 札幌駅前地下歩行空間・北2条エリアにおけるコン tent流通モデルの調査・研究	共著	平成21年3月	札幌市

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
石崎友紀	<著書> 1 つくってあそぼ 4～7月号 2 ペットボトルでエコ工作 3 つくってあそぼ 8～12月号 4 つくってあそぼ 1～3月号	共著 共著 共著 共著	平成21年4月 平成21年7月 平成21年9月 平成22年1月	NHK出版、pp.49 - 50 NHK出版、pp.23 - 52 NHK出版、pp.49 - 50 NHK出版、pp.49 - 50
	<学術論文> 1 日本語表現が導く国際競争力のあるモノづくり思考1	単著	平成21年3月	道具学会事務局、15号、pp.2 - 9
	<学会発表> 1 高齢者向け歩行補助器具の提案 2 動物型ロボット玩具の開発 3 握力障害児にも使える御道具箱 4 引きこもり部屋の椅子	共同 共同 共同 共同	平成21年6月 平成21年6月 平成22年1月 平成22年1月	日本デザイン学会 日本デザイン学会 道具学会 道具学会
	<作品発表> 1 テーブルウエア 2 テーブルウエア	単独 単独	平成21年7月 平成22年3月	アセンブリ展 日本クラフト展
	<入選・受賞> 1 テーブルウエア入選・日本クラフト展	単独	平成22年3月	(社)日本クラフトデザイン協会
	上遠野敏	<実践報告書> 1 幌内布引アートプロジェクト 炭鉱の遺産を掘り起こす#2	単著	平成22年3月
<作品発表> 1 Image of mirror: Fra Angelico		単独	平成21年4月 ～平成22年3月	札幌アーティストギャラリー 常設展示
2 Image of mirror: Ophelia		単独	平成21年4月 ～平成22年3月	札幌アーティストギャラリー 常設展示
3 陽光の聖堂		単独	平成21年8月 ～11月	幌内布引アートプロジェクト
4 風のささやき		単独	平成21年8月 ～11月	幌内布引アートプロジェクト
5 夢かなえ地藏		単独	平成21年8月 ～11月	幌内布引アートプロジェクト
6 黒い狩人の往来		単独	平成21年8月 ～11月	幌内布引アートプロジェクト
7 作品パネル		単独	平成21年11月 ～12月	幌内布引アートプロジェクト 報告展in札幌
8 作品パネル		単独	平成21年12月 ～平成22年1月	幌内布引アートプロジェクト 報告展in岩見沢
齋藤利明	<学会発表> 1 「デザインと看護の横断型連携教育」	共同	平成21年12月	第3回横幹連合コンファレンス
	<作品発表> 1 「薄紅梅」「吉野」「立葵」「鶯草」「朝霞」「白露」「紫陽花」「玉藻」「白木蓮」「茱萸」「微睡み」「雪柳」「木霊」「杏」「あやとり」「ほおずき」「花水木」「リラ」「コナ」	単独	平成21年11月 ～12月	齋藤利明人形展 (金沢市三田ギャラリー)

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
酒井正幸	<学術論文> 1 A Prototype manufacturing process for a health care IT appliance: a case study on an artery pulse monitoring system (APMOS)	共著	平成21年8月	IJIDeM (International Journal on Interactive Design and Manufacturing), Springer, 3巻3号、pp.135 - 146
	2 ラフ集合を用いた家電製品の視覚的な使いやすさの調査分析	共著	平成21年11月	日本感性工学会、9巻1号、pp.61 - 68
	3 現実と仮想経験の融合による動物園の顧客満足度向上案の検証	共著	平成22年2月	日本感性工学会、9巻2号、pp.445 - 452
	<調査研究報告書> 1 ユニバーサルデザイン視点からの動物園のデジタルアイデンティティ研究	共著	平成22年3月	札幌市円山動物園受託研究報告書
	2 「円山動物園の森」ビオトープの生物多様性向上のための研究	共著	平成22年3月	札幌市円山動物園受託研究報告書
城間祥之	<学会発表> 1 高齢者による操作用語の視覚的使いやすさへの影響評価	共同	平成21年6月	日本人間工学会第50回大会
	2 操作用語ピクトグラムの視覚的使いやすさの研究	共同	平成21年9月	日本デザイン学会第一支部大会
城間祥之	<シンポジウム> 1 サービス工学シンポジウムin北海道 パネリスト		平成22年2月	産業技術総合研究所サービス工学研究センター
	<学術論文> 1 A Prototype manufacturing process for a health care IT appliance: a case study on an artery pulse monitoring system (APMOS)	共著	平成21年8月	IJIDeM (International Journal on Interactive Design and Manufacturing), Springer, 3巻3号、pp.135 - 146
	2 RESEARCH ON PRODUCT DESIGN AID SYSTEM BASED ON KANSEI ANALYSIS THROUGH THE PRODUCT IMAGE	共著	平成22年1月	Proc. International Workshop on Advanced Image Technology 2010, IWAIT 2010 (CD-ROM出版)、1巻1号、pp.1 - 4
	<学会発表> 1 パッケージデザインによる商品の付加価値創造 - 果実ペースト氷菓「よいちの恵み」のデザインとその印象度評価 -	共同	平成21年9月	第11回日本感性工学会大会
	2 製品利用目的の理解度差抽出を目的としたオンラインアンケートの設計	共同	平成21年9月	第11回日本感性工学会大会
	3 妊娠22週未満の死産児を安置する棺のデザイン研究	共同	平成21年9月	第50回日本母性衛生学会
	4 デザインと看護の横断型連携教育	共同	平成21年12月	第3回横幹連合コンファレンス
5 札幌における学生クリエイター育成・支援プログラムの提案とその可能性について	共同	平成22年1月	感性フォーラム札幌2010	
6 RESEARCH ON PRODUCT DESIGN AID SYSTEM BASED ON KANSEI ANALYSIS THROUGH THE PRODUCT IMAGE	共同	平成22年1月	IWAIT (International Workshop on Advanced Image Technology) 2010	
城間祥之	<招聘講演> 1 Sapporo-Delft Design Workshop 2006 - An International Workshop for Product Design Students -	単独	平成21年11月	清華大学美術学院

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
杉哲夫	<著書> 1 プロダクトデザイン	共著	平成21年7月	ワークスコーポレーション、pp.50 - 53
	<学術論文> 1 A Prototype manufacturing process for a health care IT appliance: a case study on an artery pulse monitoring system(APMOS)	共著	平成21年8月	IJIDeM(International Journal on Interactive Design and Manufacturing), Springer, 3巻3号、pp.135 - 146
	<招聘講演> 1 ブランド開発技術研修会「実践・開発 授産施設のブランディングとは」	共同	平成22年3月	きょうされん北海道支部
中原宏	<学術論文> 1 フラクタル解析による札幌市街地の形状と成長過程に関する考察	単著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.33 - 39
羽深久夫	<調査研究報告書> 1 北の民家モデル基本的な考え方（平成21年度国土交通省地域木造住宅市場活性化推進事業報告書） 2 シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	共著 単著	平成22年2月 平成22年3月	NPO法人北の民家の会 札幌市立大学羽深研究室
	<実務関係書> 1 札幌市文化財読本「開拓使木造建築見学ガイド」	共著	平成21年6月	札幌市文化財課
	<実務関係報告書> 1 南区ウォーキングマップ	共著	平成21年9月	札幌市南保健センター
	<学会発表> 1 札幌市立大学研究交流会パネルセッション 看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究	共同	平成21年9月	札幌市立大学
原俊彦	<著書> 1 人口構造と地方都市：札幌市とフライブルグ市のマクロ社会学的比較、本沢巳代子、ヘルント・フォン・マイデル編、『総合叢書 家族のための総合政策〈2〉市民社会における家族政策』	共著	平成21年12月	信山社出版、pp.193 - 215
	<学術論文> 1 札幌市の少子化：人口移動と性比の変化、『人口学研究』	単著	平成21年11月	日本人口学会、45号、pp.21 - 35
	2 加速する人口減少と地域社会の持続可能性、「特集地方の現在」特集論文、『季刊 家計経済研究』	単著	平成22年1月	家計経済研究所、85号、pp.24 - 33
	3 札幌市の配偶関係別純移動率 2000年 - 2005年の推計	単著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.41 - 49
<書評> 1 【新刊短評】大野晃著『限界集落と地域再生』（北海道新聞社・2008年・313p）『人口学研究』	単著	平成21年5月	日本人口学会、44号、pp.69 - 70	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
原 俊 彦	<辞書・辞典> 1 『現代人口辞典』	共著	平成22年1月	原書房、人口学研究会編、pp.20、pp.27 - 28、pp.55、pp.227
	<その他の論文> 1 「地域人口の将来：人口減少と人口構造の変化」[平成21年度 社会保障・人口問題基礎講座 配布資料]	単著	平成21年10月	財団法人厚生統計協会、pp.263 - 295
	<学会発表> 1 札幌市の少子化：人口移動と性比 2 札幌市の配偶関係別純移動率 2000年 - 2005年の推計	単独 単独	平成21年6月 平成21年9月	日本人口学会 人口学会・東日本部会
望 月 澄 人	<その他の論文> 1 Asia Network Beyond Design 2009天安展作品集 2 Asia Network Beyond Design 2009台南展作品集 3 Asia Network Beyond Design 2009天津展作品集 4 Asia Network Beyond Design 2009奈良展作品集	共著 共著 共著 共著	平成21年8月 平成21年9月 平成21年10月 平成21年11月	Asia Network Beyond Design、p.91 Asia Network Beyond Design、p.91 Asia Network Beyond Design、p.90 Asia Network Beyond Design、p.90
	<作品発表> 1 fruits 03 2 fruits 07 3 fruits 08 4 fruits 09 5 fruits 10 6 アニメーション「視線で味わう果実」 7 fruits 04	単独 単独 単独 単独 単独 単独 単独	平成21年8月 平成21年8月 平成21年8月 平成21年8月 平成21年8月 平成21年8月 平成21年9月	Asia Network Beyond Design 2009天安展 地球色展 地球色展 地球色展 地球色展 地球色展 Asia Network Beyond Design 2009台南展
	8 fruits 05 9 fruits 06 10 アニメーション「視線で味わう果実」他3点	単独 単独 単独	平成21年10月 平成21年11月 平成21年11月	Asia Network Beyond Design 2009天津展 Asia Network Beyond Design 2009奈良展 softCREAM
	<入選・受賞> 1 Asia Network Beyond Design 2009 (グランプリ)	単独	平成21年10月	Asia Network Beyond Design
	<学術論文> 1 登別市キウシト湿原における排水路への堰設置による水位回復	共著	平成21年10月	日本気象学会北海道支部、61号、pp.19 - 27
	<調査研究報告書> 1 勇払川・安平川流域に残存する湿原群落の現状解析とモニタリング手法の検討 in 北海道生物多様性保全モニタリングに関する研究	単著	平成22年3月	北海道環境科学研究センター、pp.13 - 32
	<学会発表> 1 北海道太平洋沿岸のウトナイ湿原における高茎湿生草原とハンノキ林の分布動態の解析 2 北海道勇払地方における安平川河道閉鎖後の残存フェン群落の種組成と分布パターンの変化	共同 共同	平成21年9月 平成22年3月	日本陸水学会 日本生態学会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
吉田和夫	<作品発表> 1 サインデザイン：桑園キャンパス・サインデザイン（外壁サイン、大学院棟入り口、西側入り口表示塔） ・媒体広告：北海道新聞5段広告、デザインウィーク等協賛イベントパンフレット用広告、地下鉄構内電飾広告 ・その他：デザイン学部オープンキャンパス用説明パネル、配布リーフレット、正面看板	単独	平成21年4月～平成22年3月	札幌市立大学VI（ビジュアルアイデンティティ）に関連したデザインの実制作
武田亘明	<学術論文> 1 パーソナルブランド構築とキャリアデザインのためのプレゼンテーションデザイン教育	共著	平成21年5月	日本教育工学会、10巻3号、pp.73 - 80
張浦華	<実務関係報告書> 1 ECO-DESIGN SUMMER WORKSHOP 2009（CD付き）	単著	平成22年3月	札幌市立大学デザイン学部製品コース
	<学会発表> 1 モノレター -モノ語りによるエコデザインへのアプローチ 2 札幌の地区特性の色彩表現に関する研究	共同	平成22年1月	感性工学会
	<作品発表> 1 City A	共同	平成21年8月～9月	Asia Network Beyond Design 2009, CHEONAN（韓国祥明大学ギャラリー）
	2 City B 3 City E 4 City D	共同 共同 共同	平成21年9月～10月 平成21年10月 平成21年11月	Asia Network Beyond Design 2009, TAINAN（崑山科技大学ギャラリー） Asia Network Beyond Design 2009, Tianjin（天津美術学院ギャラリー） Asia Network Beyond Design 2009, Nara（奈良県文化会館ギャラリー）
細谷多聞	<学会発表> 1 病室環境における看護作業の「快適性」実現のための提案型研究 2 デザインマネジメントゲームの開発(1) 3 デザインマネジメントゲームの開発(2) 4 デザインマネジメントゲームの概要 5 中小製造業における戦略的デザイン活用支援ツールの開発 6 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第3報	共同 共同 共同 共同 共同	平成21年8月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年9月	日本人間工学会 日本感性工学会 日本感性工学会 日本デザイン学会 日本デザイン学会
	<招聘講演> 1 プロトタイプ表現とデザインの実験提案		平成21年9月	日本デザイン学会 情報デザイン研究部会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
町田 佳世子	<学術論文> 1 コミュニケーションの有能感が意欲に及ぼす直接的・間接的影響の解析	単著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.7 - 14
	2 ポジティブ感情の喚起要因と機能に関する研究の現状と展望	単著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.27 - 31
	<学会発表> 1 コミュニケーションの意欲維持にかかわる諸要因	単独	平成21年6月	日本コミュニケーション学会第39回年次大会
	2 Power Management in Ordinary Conversation	単独	平成21年7月	11th International Pragmatics Conference Melbourne, Australia
大瀨 一博	<調査研究報告書> 1 ユニバーサルデザイン視点からの動物園のビジュアルアイデンティティ研究	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.10 - 11
	<学会発表> 1 色彩分析ソフトウェア群HTMX Suiteの開発	共同	平成21年9月	第11回日本感性工学会大会
	<調査研究報告書> 1 多様な学生層への対応が必要な大学全入時代の為の、理解度把握教育手法の開発	単著	平成21年6月	平成19、20年度 文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書
	2 2009年度厚労省老人保健健康増進推進事業報告書 E-KANGO Project 2009 IT活用による遠隔看護サービス (E-KANGO) の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1 - 4、67 - 72
柿山 浩一郎	3 高揚感と居住快適性を創出する動物者デザインの研究 3) 総合水鳥舎の色彩デザインの監修	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.3 - 1 ~ 3 - 11
	4 ユニバーサルデザイン視点からの動物園のビジュアルアイデンティティ研究	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.4 - 7
	<解説文> 1 臨床看護「手を洗いたくなるシリーズ」No6	共著	平成21年6月	へるす出版、35巻7号、pp.5 - 6
	2 臨床看護「うがい」をしましょうシリーズ」No2	共著	平成22年2月	へるす出版、36巻2号、pp.5 - 6
	<学会発表> 1 パーソナルブランド構築とキャリアデザインのためのプレゼンテーションデザイン教育	共同	平成21年5月	日本教育工学会
	2 動物型ロボット玩具の開発 -北海道らしさを生かしたデザインの一提案-	共同	平成21年6月	日本デザイン学会
3 製品利用目的の理解度差抽出を目的としたオンラインアンケートの設計	共同	平成21年9月	日本感性工学会	
小宮 加登子	<調査研究報告書> 1 ユニバーサルデザイン視点からの動物園のビジュアルアイデンティティ研究	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.13 - 16
	<学会発表> 1 障害児用ジョイスティック操作練習システムの開発 2 障害者自動車運転用ステアリングノブの設計 -評価と考察-	単独 単独	平成21年6月 平成21年9月	日本デザイン学会 ヒューマンインタフェース

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
齊藤 雅也	<学術論文> 1 ヒトの想像温度と環境調整行動に関する研究 -夏季の札幌における大学研究室を事例として 2 現実と仮想経験の融合による動物園の顧客満足度向上研究	単著 共著	平成21年12月 平成21年12月	日本建築学会環境系論文集 74巻646号、pp.1299 - 1306 日本感性工学会論文誌 9巻2号、pp.169 - 176
	<実務関係書> 1 北方型住宅の熱環境計画2010 (4. 開口部の計画、5. 防暑計画)	単著	平成22年1月	(社)北海道建築技術協会、 pp.88 - 113
	<解説文> 1 北海道の建築の新しい方向性を探って	単著	平成22年1月	(社)北海道建築士事務所協会、 ひろば、pp.42 - 43
	<実践報告書> 1 積雪寒冷地の札幌で高齢者を健やかに生きるための知恵	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第 4巻第1号(第2部)、pp.81 - 85
	<調査研究報告書> 1 高揚感と居住快適性を創出する動物舎デザインの研究 (1. 光・熱環境に配慮した新は虫類館 (仮称) のデザイン監修)	単著	平成22年2月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1 - 53
	<学会発表> 1 北海道の住宅における暖房方法と暖房時の居間室温・着衣量に関する調査研究 2 寒冷地における高齢者の冬季入浴時における生理・心理反応に関する実測調査 3 ヒトの温度感覚と環境調整行動に関する研究 (その3. 想像窓面温度と環境調整行動) 4 北海道における冬季暖房時の居間室温・着衣量に関する調査 5 寒冷地における高齢者の入浴前後の生理反応に関する実測 6 動物園のオランウータン展示施設における環境エンリッチメントが生体と観覧者の行動に与える影響 7 寒冷地における高齢者の入浴前後の温熱生理・心理に関する基礎的研究 8 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第3報 試作モデルの熱性能に関する被験者実験 9 ミズゴケ屋上緑化の熱収支に関する研究	共同 共同 単独 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成21年7月 平成21年7月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年10月 平成21年11月 平成21年12月	第81回日本建築学会北海道支部研究発表会 第81回日本建築学会北海道支部研究発表会 日本建築学会2009年度大会 日本建築学会2009年度大会 空気調和・衛生工学会学術講演会 日本動物心理学会第69回大会 第68回日本公衆衛生学会総会 第29回日本看護科学学会学術集会 日本農業気象学会北海道支部2009年大会
	10 ヒトの明るさ感と明るさの調整行動プロセスに関する研究 11 日常暴露している光・温熱環境がヒトの明るさ感・温冷感に与える影響 12 昼と夕方におけるヒトの明るさ感の解明 13 住まい手の想像温度と温熱快適性の関係 冬季札幌の場合 14 ヒトが夏季に快適に感じる温度の地域性に関する研究-札幌と熊本の小学児童を対象にして- 15 ミズゴケ屋上緑化の熱収支	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月 平成22年3月	空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 空気調和・衛生工学会北海道支部第44回学術講演会 日本農業気象学会2010年全国大会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
齊藤雅也	<シンポジウム> 1 生体と観覧者の改修前後の行動比較によるオランウータン舎のデザイン検証	共同	平成21年12月	Support for African and Asian Great Apes (SAGA) SAGA 12 シンポジウム
	<招聘講演> 1 住まいの内外の自然を〈感じる・理解する・創造する〉	単独	平成21年8月	日本建築学会北海道支部・日本建築家協会北海道支部第15回ジョイントセミナー
那須聖	<学会発表> 1 札幌市立大学研究交流会パネルセッション 看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究	共同	平成21年9月	札幌市立大学
	<作品発表> 1 環境に架け渡す橋梁状建築	共同	平成21年7月	日本建築学会北海道支部「アーキニアリングデザイン展」北海道展
福田大年	<実践報告書> 1 作品紹介「ミルクラフトプロジェクトー地元企業と地元クリエイターの協同による札幌発オリジナル『エコ・パッケージ』ブランドの開発」	単著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.65 - 68
	<調査研究報告書> 1 2009年度厚労省老人保健健康増進推進事業報告書 E-KANGO Project 2009-IT活用による遠隔看護サービス (E-KANGO) の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書
	<作品発表> 1 「play1」、「play2」、「play3」、「play4」(ポスター連作4枚) 2 オリジナルパッケージブランド「ミルクラフト」	共同 共同	平成21年8月 平成21年9月	Asia Network Beyond Design 2009 札幌アートディレクターズクラブ「コンペティション&アワード2009」
	3 「プティ・ペタル」(ケーキのデザイン)	共同	平成21年11月	企画イベント「札幌デザインウィーク2009 札幌デザインスイーツ」
松井美穂	<学術論文> 1 Taming of the Tomboy and Her Queer Resistance: Reading the Unspoken Fear/Desire in <i>The Member of the Wedding</i>	単著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.15 - 25

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
三谷篤史	<著書> 1 Mechatronic Systems Applications (978-953-307-040-7)	共著	平成22年3月	Intech、pp.263 - 280
	<学術論文> 1 のこぎり歯形状を有する表面によるマイクロパーツの輸送（計測データに基づく接触モデルの定式化と凝着力の解析）	共著	平成21年4月	日本機械学会論文集C編、75巻752号、pp.942 - 949
	2 Submillimeter Micropart Feeding Along an Asymmetric Femtosecond-Laser-Microfabricated Surface	共著	平成21年6月	International Journal of Automation Technology、3巻1号、pp.151 - 156
	3 フェムト秒レーザ・ダブルパルス加工による非対称表面を用いたマイクロパーツの輸送	共著	平成21年12月	日本機械学会論文集C編、75巻760号、pp.3267 - 3275
	<その他の論文> 1 Si異方性エッチング技術による鋸歯状振動搬送路の作製	共著	平成21年7月	北海道イノベーション創出ナノ加工・計測支援ネットワーク、pp.161 - 162
	<学会発表> 1 Evaluation of Asymmetric Microfabricated Surfaces Using Femtosecond Laser Process for Microparts Feeding	共同	平成21年4月	Intl. Conf. Mechnatronics 2009
	2 非対称な形状を有する表面によるサブミリサイズマイクロパーツの水平対称振動輸送－フェムト秒レーザ加工表面を用いた輸送におけるダイナミクスの解析	共同	平成21年5月	Robomec 2009
	3 動物型ロボット玩具の開発	共同	平成21年6月	日本デザイン学会2009年度春季大会
	4 ロータリーエンコーダを用いた電子楽器の開発	共同	平成21年6月	日本デザイン学会2009年度春季大会
	5 のこぎり歯形状を有する表面によるサブミリサイズマイクロパーツの水平対称振動輸送 ～輸送方向の周波数依存性に関する検証～	共同	平成21年9月	精密工学会2009年度秋季大会
6 Evaluation of Tribology Characteristics of Asymmetric Surfaces Fabricated by Femtosecond Laser Process for Microparts feeding	共同	平成21年9月	World Tribology Congress 2009	
7 動物型ロボット玩具の開発	共同	平成21年9月	日本デザイン学会第一支部会	
8 ロータリーエンコーダを用いた電子楽器の開発	共同	平成21年9月	日本デザイン学会第一支部会	
山田良	<学会発表> 1 風景を喚起する環境芸術試論	単独	平成21年10月	環境芸術学会
	<シンポジウム> 1 アートによる地域再生	単独	平成21年10月	環境芸術学会
	<招聘講演> 1 アーキテクチャ・コミュニケーション 2 アートによる地域再生	単独 単独	平成21年6月 平成21年11月	アイランド・デザイン学会 北海道芸術学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
山田良	<作品発表> 1 Vertical Landscape	単独	平成21年4月 ～11月	札幌芸術の森美術館 「Vertical Landscape」
	2 中里重地プロジェクト	共同	平成21年7月	越後妻有アート・トリエンナーレ2009
	3 Emerging Landscape	単独	平成21年12月 ～平成22年3月	関口雄揮記念美術館 「Emerging Landscape」
	4 Perception Corridor	単独	平成21年12月	北海道立近代美術館 水脈の肖像09「Perception Corridor」
	5 Breathing Landscape	単独	平成22年1月	小樽旧三井銀行 小樽アートプロジェクト2010
	<入選・受賞> 1 定山溪温泉Night River Installation SDA賞	単独	平成21年12月	日本サインデザイン協会
上田裕文	<学術論文> 1 風景イメージスケッチ手法の構築に関する研究	単著	平成21年10月	日本都市計画学会、44巻3号、pp.37 - 42
	<調査研究報告書> 1 「Comparison of Natural Landscape Evaluation Between Japan and Russia - Final Report -」	共著	平成22年3月	平成20 - 21年度日本学術振興会二国間交流事業・共同研究報告書、pp.70 - 90
	2 「北海道の景観資源整備にむけた風景イメージの研究」	共著	平成22年3月	平成21年度(財)北海道開発協会開発調査総合研究所、pp.253 - 287
	<その他の論文> 1 北海道の景観資源整備にむけた風景イメージの研究	共著	平成21年11月	日本観光研究学会、24巻、pp.101 - 104
	<学会発表> 1 風景イメージスケッチ手法を用いた森林イメージの国際比較研究	単独	平成21年6月	平成21年度日本造園学会全国大会
	2 風景イメージスケッチ手法を用いた森林イメージの日露比較	単独	平成21年9月	平成21年度日本造園学会北海道支部大会
	3 風景イメージスケッチ手法の構築に関する研究	単独	平成21年11月	日本都市計画学会第44回学術研究論文発表会
	4 北海道の景観資源整備にむけた風景イメージの研究	共同	平成21年11月	第24回日本観光研究学会全国大会
<シンポジウム> 1 Ways of seeing the Landscape in Germany and Japan 2 Landscape Image Sketches of 'Forest' - the Results of Students in Irkutsk			平成22年2月 平成21年8月	World Heritage for Tomorrow: What, How and For Whom? JAPAN-RUSSIA Joint Research Project and Scientific Seminar

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
片山めぐみ	<学術論文> 1 北海道住宅供給公社による昭和40・50年代のコンクリートブロック造住宅における間取りの決定プロセスと住意識に関する考察	共著	平成21年4月	日本建築学会計画系論文集、638巻、pp.727 - 734
	2 積雪寒冷の過疎地域における温泉施設を活用した高齢者サービスの事例調査	共著	平成21年6月	日本建築学会技術報告集、15巻30号、pp.511 - 514
	3 知床における住民の自然とのかかわりと居住地に対する誇りの意識の地域差	単著	平成22年3月	ランドスケープ研究、2巻、pp.21 - 27
	<調査研究報告書> 1 高揚感と居住快適性を創出する動物舎デザインの研究 (2. 生息地域の特徴を活かしたアジア館のデザイン監修)	単著	平成22年2月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.30 - 44
須之内洋	<学会発表> 1 動物園における放飼場と観覧空間との連続性を考慮した展示デザインの手法 - 欧米の動物園にみる展示デザインの事例研究	単独	平成21年5月	展示学会
	2 歩行移動時の高揚感に影響を及ぼす経路の物理的要因 - 動物園のランドスケープイマージョンにおける経路デザインに関する考察 -	共同	平成21年7月	日本建築学会北海道支部
	3 動物園のオランウータン展示施設における環境エンリッチメントがオランウータンと観覧者の行動に与える影響 (ポスター発表)	共同	平成21年11月	SAGA(アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い)
	4 動物園のオランウータン展示施設における環境エンリッチメントがオランウータンと観覧者の行動に与える影響	共同	平成22年1月	動物心理学研究
須之内洋	<作品発表> 1 Eurasian Retreat	共同	平成21年8月	MAGICAL CAMP

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

看護学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
中村 恵子	<学会発表>			
	1 衝撃的な出来事を体験した重症患者と家族をケアする看護師の職業的体験の意味	共同	平成21年7月	第5回日本クリティカルケア看護学会
	2 ICUでの術後疼痛管理における看護師の役割と課題	共同	平成21年7月	第5回日本クリティカルケア看護学会
	3 看護学教育における模擬患者養成プログラムの開発と評価	共同	平成21年10月	日本看護学会
	4 看護系大学における学年別OSCEの取り組み－3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析－	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会
	5 衝撃的なケア体験が看護師の援助過程に及ぼす影響	共同	平成22年3月	第37回日本集中治療医学会
<シンポジウム>				
1 シンポジスト 日本救急看護学会の立場から救急医療再生を考察する			平成21年7月	日本病院学会
内田 雅子	<著書>			
	1 看護診断のためのよくわかる中範囲理論	共著	平成21年6月	学研、pp.51 - 60
<シンポジウム>				
1 看護実践における事例研究	共同	平成21年7月		第3回日本慢性看護学会学術集会
河野 總子	<学会発表>			
	1 札幌市立大学研究交流会パネルセッション 看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究	共同	平成21年9月	札幌市立大学
2 看護系大学における学年別OSCEの取り組み－3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析－	共同	平成21年11月		第29回日本看護科学学会学術集会
坂倉 恵美子	<学術論文>			
	1 札幌・福井における冬季入浴時の室温変化に対する高齢者の血圧変化	共著	平成21年6月	日本建築学会北海道支部研究報告書、No82、pp.299 - 302
	2 積雪寒冷の過疎地域における温泉施設を活用した高齢者サービスの実態調査	共著	平成21年6月	日本建築学会技術報告書15巻30号、pp.511 - 514
	3 寒冷地における高齢者の入院前後の生理反応に関する実測	共著	平成21年9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp.1275 - 1278
	4 寒冷地における高齢者の入浴前後の温熱生理・心理に関する基礎的研究	共著	平成21年10月	日本公衆衛生学会雑誌、56巻10巻、2009、pp.234
	<その他の論文>			
1 台湾台南市「共栄コミュニティ」を訪ねて	単著	平成22年3月		札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.77 - 80
2 積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵	共著	平成22年3月		札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.81 - 88

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
坂倉 恵美子	<学会発表>			
	1 看護大学4年生に対する就職前スキルアップコース が与える影響	共同	平成21年6月	日本看護研究学会第20回北 海道地方会学術集会
	2 S大学老年看護臨地実習を履習した学生による実習 評価	共同	平成21年6月	日本看護研究学会第20回北 海道地方会学術集会
	3 The subjective well-being of urban elderly Japanese in a winter climate.	共同	平成21年8月	ICCHNR
	4 Determinative Factors of Subjective Well-Being and Characteristics of Daily Behavior among the Home- Dwelling Elderly in Special Heavy Snow Areas.	共同	平成21年8月	ICCHNR
	5 老年看護学修過程における学生の高齢者イメージ 変化に関する研究	共同	平成21年9月	日本老年看護学会
	6 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に 関連する要因	共同	平成21年9月	日本看護協会
	7 看護学教育のロールモデル行動の一考察	共同	平成21年9月	日本看護教育学会
	8 積雪寒冷地に居住する高齢者のQOLに影響を与え る要因研究	共同	平成21年10月	日本公衆衛生学会
	9 高齢者の入浴前後の温熱生理・心理に関する基礎 的研究	共同	平成21年10月	日本公衆衛生学会
	10 積雪寒冷地高齢者の主観的幸福感の関連要因の検討	共同	平成21年11月	日本看護科学学会
11 看護系大学における学年別OSCEの取り組み -3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修 行動目標の分析-	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学 術集会	
<入賞・受賞>				
1 Determinative Factors of Subjective Well-Being and Characteristics of Daily Behavior among the Home- Dwelling Elderly in Special Heavy Snow Areas. 国際 学術会議（主受賞者等）最優秀ポスター賞	共著	平成21年8月	ICCHNR	
定廣 和香子	<著書>			
	1 看護実践・教育のための測定用具ファイル第2版	共著	平成21年9月	医学書院、pp.43 - 62
	<学術論文>			
	1 わが国の看護技術に関する概説書の分析 -生活行動を支援する看護技術に焦点を当てて	共著	平成22年3月	群馬県立県民健康科学大学、 5巻、pp.73 - 88
<解説文>				
1 「看護基礎・継続教育による研究成果活用の推進」 シンポジウムの司会にあたって	単著	平成21年8月	日本看護教育学会、 18巻2号、pp.17 - 17	
<学会発表>				
1 チュートリアル方式による教育的支援技術教育プ ログラムの開発	共同	平成21年9月	日本看護技術学会	
2 看護場面における看護師行動に関する研究-診断・ 治療を支援する技術の提供場面に焦点を当てて-	共同	平成21年9月	日本看護技術学会	
スナイ 神崎 和代	<学術論文>			
1 The relationship between time spent outdoors, falls, and fall risk among the community-dwelling elderly in rural japan	単著	平成21年10月	J for the home healthcare and hospice professional、 27巻9号、pp.570	

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会・経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	
スー デー 神崎 和代	<その他の論文> 1 手を洗いたくなるシリーズNo6 ポスター(臨床看護) 2 終焉を看取るホーム (vol.60) 3 VAPの予防と口腔ケアー応用編	共著 単著 単著	平成21年6月 平成21年7月 平成21年10月	へるす出版、35巻7号、pp5-6 ケアライフクラブ事務局、60巻、pp.2 日本看護協会出版、pp.76	
	<調査研究報告書> 1 2009年度厚労省老人保健健康増進推進事業報告書 E-KANGO Project 2009 IT活用による遠隔看護サービス (E-KANGO) の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1 - 4、67 - 72	
	<学会発表> 1 Qualitative study on a Shokibotakino Porogram in Japan 2 Effectiveness of Education for Community healthcare Providers in Yubari-City where the city failed 3 夕張市の後期高齢者における食品摂取の多様性に関連する要因 4 新型アクティビティ・ツール「メモリーマジック」の効果 5 Evaluation of a New Activity Tool, Memory Magic, by the Staff-Focusing on the Elderly with Dementia in Japan 6 製品利用目的の理解度差抽出を目的としたオンラインアンケートの設計 7 妊娠22週未満の死産児を安置する棺のデザイン研究 8 看護系大学における学年別OSCEの取り組み -3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析-	単独 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成21年7月 平成21年7月 平成21年8月 平成21年8月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年11月	8th IAHS APHPE プライマリーケア学会 プライマリーケア学会 WANS 日本感性工学学会 日本母性衛生学会 第29回日本看護科学学会学術集会	
	<実践報告書> 1 看護教育への模擬患者活用 2 OSCEにおけるコミュニケーションスキルの評価	共著 共著	平成21年11月 平成22年3月	看護展望、34巻12号、pp67-71 看護展望、35巻4号、pp.10-15	
	<学会発表> 1 看護学教育における学年別客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み 2 看護系大学における学年別OSCEの取り組み -3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析-	共同 共同	平成21年9月 平成21年11月	日本看護学教育学会第19回学術集会 第29回日本看護科学学会学術集会	
	<著書> 1 小児看護学概論-子どもと家族に寄り添う援助 2 小児看護技術-子どもと家族の力を引き出す技 3 医療保育テキスト 日本医療保育学会認定医療保育専門士研修用テキスト第3版 4 病気の子どもの心理社会的支援入門第2版	共著 共著 共著 共著	平成21年4月 平成21年5月 平成21年7月 平成21年9月	南江堂、pp.25-31 南江堂、pp.1-12 加藤文明社、pp.195-202、pp.238-249 ナカニシヤ出版、pp.55-80、pp.251-272	
	樋之 津 淳子				
	松浦 和代				

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
松浦和代	<学術論文> 1 医学部生の健康状態に影響を及ぼす生活習慣要因の検討 2 新人看護師の職業性ストレス反応と「自己決定型学習の準備性」に関する検討	共著 単著	平成21年12月 平成21年12月	日本看護研究学会雑誌、32巻5号、pp.51 - 62 北海道大学大学院教育学研究院紀要、109号、pp.93 - 107
	<その他の論文> 1 病棟保育士導入期の成功例・失敗例 2 医療依存度の高い子どもの「生活の質」を保証するための支援	単著 共著	平成21年7月 平成21年11月	小児看護（へるす出版）、32巻8号、pp.1117 - 1122 日本小児看護学会、18巻3号、pp.85 - 90
	<調査研究報告書> 1 平成21年度農林水産省食育先進地実証推進事業北海道における食育先進地モデル実証事業報告書 2 平成21年度農林水産省食育先進地実証推進事業報告書	共著 共著	平成22年2月 平成22年3月	日本ハム、pp.86 - 93 公益財団法人すこやか食生活協会、pp.89 - 112
	<実践報告書> 1 2009JICA青年研修（マレーシア・感染症対策）受託報告－研修準備・実施について－	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集第2部、4巻1号、pp.86 - 96
	<学会発表> 1 院内看護研究研修会の実績とその評価 2 学士課程の第4学年助産選択学生の学習過程とその成果 看護基礎教育の視点から 3 学童の医療的ケアに関わる保健・医療・福祉・介護・教育関係者の学習ニーズ 4 専門科目連携を目指す看護学部FD研修会の取組 5 小児看護学領域におけるe-Learningを活用した自己学修用教材の検討 6 看護系大学における学年別OSCEの取り組み－3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析－ 7 新生児型感性教材モデルの開発に基礎的関する検討第3報 試作モデルの熱性能に関する被験者実験	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成21年6月 平成21年8月 平成21年8月 平成21年9月 平成21年9月 平成21年11月 平成21年11月	第19回日本看護研究学会北海道地方会学術集会 第35回日本看護研究学会学術集会 全国病弱教育研究会第11回大会 第59回東北・北海道地区大学一般教育研究会 日本看護学教育学会第19回学術集会 第29回日本看護科学学会学術集会 第29回看護科学学会学術集会
	<シンポジウム> 1 医療依存度の高い子どもの「生活の質」を保証するための支援 2 食育シンポジウム2009 in さっぽろ	共同 共同	平成21年7月 平成21年12月	日本小児看護学会第19回学術集会 平成21年度農林水産省「食育先進地モデル実証事業」
	<入賞・受賞> 1 第19回日本看護研究学会北海道地方会 奨励賞	共同	平成21年6月	第19回日本看護研究学会北海道地方会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
宮崎 みち子	<学会発表> 1 看護における倫理的ジレンマの一端－日本の場合	単独	平成21年6月	第24回国際看護師協会4年毎大会
	2 看護教育における学年別客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み	共同	平成21年9月	第19回日本看護学教育学会
	3 看護系大学における学年別OSCEの取り組み－3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析－	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会
山本 勝則	<学会発表> 1 精神科看護継続教育プログラムに向けたの学習ニーズと影響要因	共同	平成21年8月	日本看護研究学会
	2 実習直前に感じる不安感への介入－学生の不安と教員の介入－	共同	平成21年9月	日本応用心理学会
大野 夏代	<その他の論文> 1 OSCEにおけるコミュニケーションスキルの評価	共著	平成22年3月	看護展望、35巻4号、pp.10 - 15
	<実践報告書> 1 2009JICA青年研修（マレーシア・感染症対策）受託報告	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.89 - 96
	<学会発表> 1 病室環境における看護作業の「快適性」実現のための提案型研究	共同	平成21年8月	第17回看護人間工学部会
	2 外国人を対象とした健康相談に関する文献検討	単独	平成21年9月	国際看護研究会第12回学術集会
	3 専門科目連携を目指す看護学部FD研修会の取組	共同	平成21年9月	第59回東北・北海道地区大学一般教育研究会
	4 「看護における指圧・マッサージ研修会」18年の成果と課題	共同	平成21年9月	第19回日本看護学教育学会
	5 「看護における指圧・マッサージ研修会」18年の成果と課題－経絡理論を基盤にした指圧／マッサージ手技を看護ケアに導入する	共同	平成21年9月	日本看護技術学会第8回学術集会
6 看護学教育における学年別客観的臨床能力試験(OSCE)の取組み「学年別OSCEの運営について」	共同	平成21年9月	第19回日本看護学教育学会	
<シンポジウム> 1 国際化社会の妊娠・子育て「外国での出産・育児の体験から助産師である私が考えること」	単独	平成21年9月	第50回日本母性衛生学会学術集会	
清水 光子	<実践報告書> 1 2009JICA青年研修（マレーシア・感染症対策）受託報告	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.89 - 95
	<学会発表> 1 The subjective well-being of urban elderly Japan in a winter climate	共同	平成21年8月	第4回国際地域看護学会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
須田 恭子	<学会発表>			
	1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験（OSCE）の取組	共同	平成21年8月	日本看護学教育学会
	2 救急部門に看護師2年目の職場適応に関する体験の特徴	共同	平成21年11月	日本救急看護学会
	3 新人看護師の適応力を強化するための看護管理者への提言	共同	平成21年11月	日本救急看護学会
	4 救急看護師の職場適応に促す支援モデル開発 5 看護学教育における模擬患者養成プログラムの開発と評価	共同 共同	平成21年11月 平成21年11月	日本救急看護学会 日本看護科学学会
守村 洋	<学術論文>			
	1 自殺予防の「最前線」三次救急施設で苦悩する看護師を支える取り組み	単著	平成21年12月	医学書院、73巻12号、pp.31 - 35
	<調査研究報告書>			
	1 救急外来へ搬入される自殺企図患者に適切に対応し、再企図を防止するための「スタッフ向け研修」の企画と「よくある質問集」の作成	共著	平成22年3月	厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究」平成21年度総括・分担研究報告書、pp.13 - 33
	<その他の論文>			
	1 交流集会V「自殺予防と救急看護」概要	単著	平成21年4月	日本救急看護学雑誌、10巻3号、pp.52 - 53
	2 自殺予防と救急看護 自殺企図者に対する救急外来（ER）・救急科・救命救急センターにおける手引き. 日本臨床救急医学会『自殺未遂者のケアに関する検討委員会』の取り組み	共著	平成21年4月	日本救急看護学雑誌、10巻3号、pp.59 - 63
	<解説文>			
	1 精神看護の実践	単著	平成21年9月	かっこう、69号、pp.4 - 5
	<学会発表>			
1 「自殺企図者に対する救急外来（ER）・救急科・救命救急センターにおける手引き」作成の意義	共同	平成21年6月	第12回日本臨床救急医学会	
2 交流集会「自殺予防と救急看護」のアンケート結果から～自殺企図者のケアに対する今後の方向性～	共同	平成21年11月	第11回日本救急看護学会学術集会	
3 看護系大学における学年別OSCEの取り組み－3年次課題の評価項目と看護実践能力項目・学修行動目標の分析－	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会	
<シンポジウム>				
1 三次救急施設で救命された自殺企図患者のその後の心身ケアについて －うつ病患者の自殺企図を中心に－		平成21年7月	第6回日本うつ病学会	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	
吉川 由希子	<著書> 1 小児看護学技術	共著	平成21年5月	南光堂、pp.13 - 44	
	<学会発表> 1 小児看護学領域におけるe-Learningを活用した自己学修用教材の検討	共同	平成21年9月	日本看護教育学会	
	2 看護学教育における模擬患者養成プログラムの開発と評価 3 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討第3報 試作モデルの熱性能に関する被験者実験	共同 共同	平成21年11月 平成21年11月	日本看護科学学会 日本看護科学学会	
菊地 ひろみ	<学術論文> 1 多発性硬化症患者のQOL評価に関する当事者の見解	共著	平成21年6月	日本難病看護学会、第13巻3号、pp.230 - 235	
	<調査研究報告書> 1 2009年度厚労省老人保健健康増進推進事業報告書 E-KANGO Project 2009 IT活用による遠隔看護サービス (E-KANGO) の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1 - 4、67 - 72	
	<学会発表> 1 Effectiveness of Education for Community Healthcare Providers in Yubari-City Where the City Failed 2 夕張市の後期高齢者における食品摂取の多様性に関連する要因 3 多発性硬化症療養者の心理社会的要因とQOL 4 IT活用による看護情報授受に向けたインターネット環境と職員レディネスの検討	共同 共同 単独 共同	平成21年7月 平成21年8月 平成21年8月 平成22年1月	第一回アジア太平洋ヘルスプロモーション健康教育学会 2009年プライマリケア関連学会連合学術集会 第14回日本難病看護学会 第14回日本在宅ケア学会学術集会	
菅原 美樹	<学会発表> 1 衝撃的な出来事を体験した重症患者と家族をケアする看護師の職業的体験の意味 2 OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発への取り組み -2年次OSCEの課題達成度と評価内容の検討- 3 衝撃的なケア体験が看護師の援助過程に及ぼす影響否定的な影響に対する対処行動について	共同 共同 共同	平成21年5月 平成21年11月 平成22年3月	第5回日本クリティカルケア看護学会学術集会 第29回日本看護科学学会学術集会 第37回日本集中治療医学会学術集会	
	杉田 久子	<学会発表> 1 クリティカルケア実践における看護師のexpertiseの概念分析	単独	平成21年7月	第5回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	新納 美美	<学会発表> 1 閉鎖的環境下で高ストレスな対人援助業務に従事する職員を支える職場組織の検討 医療観察法病棟に勤務する看護師のストレス対処経験から 2 The expected outcome of employees' mental health promotion in the context of community approach for healthy work organization : A qualitative study of Japanese employees' expected working experiences	単独 単独	平成21年6月 平成21年8月	日本産業精神保健学会 ICCN (国際地域看護学会)

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
藤井 瑞恵	<学術論文> 1 夜間・休日における在宅糖尿病患者の電話相談	共著	平成22年3月	看護総合科学研究会誌、12巻1号、pp.25
	<実践報告書> 1 2009JICA 青年研修（マレーシア・感染症対策）受託報告－研修準備・実施について－	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.89
	<学会発表> 1 糖尿病専門外来の診療時外電話相談において看護師が認識する外来患者の状況と対応困難	共同	平成21年8月	日本看護研究学会
	2 外来糖尿病患者からの診療時間外相談電話を受ける病棟看護師の相談ニーズ対応体制への展望 3 OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラム開発への取り組み 4 変形性膝関節症を患った在宅老年者が、手術を検討するプロセス	共同 共同 共同 共同	平成21年11月 平成21年11月 平成21年11月 平成21年11月	日本看護科学学会 日本看護科学学会 日本看護科学学会 日本看護科学学会
星 美和子	<学会発表> 1 札幌市立大学研究交流会パネルセッション 看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究	共同	平成21年9月	札幌市立大学
村松 真澄	<学術論文> 1 看護教育の立場から	単著	平成21年4月	日本口腔ケア学会雑誌、Vol.3、No.1、pp.65 - 66
	2 看護師の立場から、歯科との連携を考える	単著	平成21年6月	日本歯周病学会会誌2009、51巻、p.94
	3 地域支援医療部での活動をもとに「摂食・嚥下と口腔ケア」に関する看護教育の実践	単著	平成21年7月	日本在宅医学会雑誌、Vol.11、No.1、pp.80 - 83
	4 看護師が担う効果的な口腔ケア	単著	平成21年7月	Dental Medicine Research Vol.29 (2) pp.183 - 184
	5 Relationships between Oral Conditions and Physical Performance in a Rural Elderly Population in Japan	共著	平成21年10月	International Dental Journal (2009) 59巻、pp.369 - 375
	6 重度心身障害児における口腔ケアシステムの確立に向けて－J. Eilersの口腔アセスメントと口腔ケアプロトコルの有効性の検証－	共著	平成22年1月	第40回日本看護学会論文集－看護総合－、40巻、pp.192 - 194
	<調査研究報告書> 1 「薬剤を服用している地域自立高齢者の口腔の健康と主観的幸福感に関する研究」	単著	平成22年3月	札幌市立大学看護学部村松真澄
	<その他の論文> 1 特集！在宅医療「在宅医療と口腔ケア」	単著	平成21年4月	南山堂、治療Vol.91、No.5、pp.1523 - 1527 2009
	2 口腔ケアのための唾液の知識	単著	平成21年6月	ベストナース、20巻6号、pp.13 - 15
	3 老人介護における口腔衛生のアプローチ－口腔乾燥と口喝患者に対するソニックケアの役割	単著	平成21年9月	Dental Products News、178号、pp.20 - 23
4 消化器疾患患者の口腔ケア	単著	平成21年10月	日経研出版、消化器肝胆膵ケアVol.14、No.4、pp.2 - 9	
5 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 口腔ケア基礎知識編－口腔と全身疾患との関係	共著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol.25、No.12、pp.18 - 21	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
村松 真澄	6 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 口腔ケア技術編－口腔アセスメントと口腔ケアプロトコル	単著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.32-33
	7 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 口腔ケア技術編－口腔ケアの基本技術－物品編 ケア用品紹介	単著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.34-36
	8 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 口腔ケア技術編－口腔ケアの基本技術 方法編－ ケアの種類と基本的な手技紹介	単著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.37-40
	9 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 義歯装着患者の場合	共著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.41-46
	10 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 安全・安楽なケア	単著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.47-49
	11 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 口腔ケア技術編－口腔ケアとナースの感染予防	単著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、p.50
	12 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 症状・状態別 口腔ケア応用編－がん患者の口腔 ケア	共著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.93-98
	13 【病棟でもココまでできる口腔ケア実践ガイド】 症状・状態別 口腔ケア応用編－こんな時どうす る？口腔ケアQ&A	共著	平成21年10月	日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ Vol25、No12、pp.99-104
	14 歯科医科連携による口腔機能向上は高齢者のQOL を高める1) 看護師による高齢者の口腔ケア	単著	平成21年12月	Geriatric Medicine (老年医学) Vol.47、No12、pp.1583-1588
	<学会発表>			
	1 看護師の日常的口腔ケアプロトコルの変更による 口腔環境の改善に関連する口腔内の要因の検討 について	単独	平成21年4月	第63回日本口腔科学会総会
	2 高齢者の咀嚼能力の改善が栄養状態や体力に及ぼ す影響について	共同	平成21年6月	第20回日本老年歯科医学会 総会・学術大会
	3 高齢者の薬剤の使用状況と唾液分泌能との関係 －調剤薬局における実態調査	共同	平成21年6月	第20回日本老年歯科医学会 総会・学術大会
	4 地域自立高齢者の口腔の主観的健康感と医療費と の関係	共同	平成21年6月	第20回日本老年歯科医学会 総会・学術大会
5 入院患者の摂食・嚥下障害スクリーニングの実態 調査～聖隷式質問用紙を用いて～	共同	平成21年7月	第40回日本看護学会（看護 総合）	
6 重症心身障害児者における口腔ケアシステムの確 立に向けて－J. Eilresの口腔アセスメントと口腔ケ アプロトコルの有用性の検証	共同	平成21年7月	第40回日本看護学会（看護 総合）	
7 Determinative Factors of Subjective Well-Being and Characteristics of Daily Behavior among the Home-Dwelling Elderly in Special Heavy Snow Areas.	共同	平成21年8月	Health in Transition Reserching For the Future	
8 高齢者の唾液分泌能と主観的健康感・幸福感との 関連－PGCモラルスケールおよび主観的健康感 について	共同	平成21年9月	日本老年看護学会第14回学 術集会	
9 老年看護学学修過程における学生の高齢者イメ ージ変化に関する研究 －2年次老年看護学概論前後の比較－	共同	平成21年9月	日本老年看護学会第14回学 術集会	
10 入院患者の摂食・嚥下障害リスク要因の検討 ～聖隷式質問用紙を用いて～	共同	平成21年9月	日本老年看護学会第14回学 術集会	

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
村松 真澄	11 積雪寒冷地に居住する高齢者のQOLに影響を与える要因研究	共同	平成21年10月	第68回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.217
	12 共分散構造分析による高齢者の主観的幸福感と食行動、運動機能、口腔機能についての研究入	共同	平成21年11月	第74回日本民族衛生学会総会
	13 「積雪寒冷地の地域自立高齢者が感じている口腔の健康状態と主観的幸福感の実態調査」	共同	平成21年11月	第6回日本口腔ケア学会
	14 口腔ケア実施者の教育に関する検討 －相互実習による教育効果 第1報－	共同	平成21年11月	第6回日本口腔ケア学会
	15 「高齢者の唾液分泌能と主観的幸福感との関連 －改訂PGCモラルスケール及び口腔乾燥問診表との関係」	単独	平成21年11月	第29回日本看護科学学会集会
	16 積雪寒冷地高齢者の主観的幸福感の関連要因の検討 －改訂版PGCモラル・スケールを用いた横断研究－	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会集会
	17 手術時手洗い法の再検討 －完全ウォーターレス擦式手洗い法の検証	共同	平成22年2月	第40回日本手術看護学会北海道地区学会
	<シンポジウム> 1 歯科衛生士・口腔ケアメディカルスタッフシンポジウム有病者・高齢者医療における口腔ケア歯科衛生士・メディカルスタッフの役割		平成21年5月	第52回日本歯周病学会春季学術集会
	<招聘講演> 1 ここがポイント高齢者の口腔看護	単独	平成21年9月	第14回日本老年看護学会
	<入賞・受賞> 1 Determinative Factors of Subjective Well-Being and Characteristics of Daily Behavior among the Home-Dwelling Elderly in Special Heavy Snow Areas. The Lisbeth Hockey Prize for best poster (学会大会長賞)	共著	平成21年8月	第4回国際地域看護学会 (ICCHNR)
保田 玲子	<学術論文> 1 HIV検査とエイズの知識・偏見 ～北海道・市町村議会議員の調査から～	共著	平成22年2月	日本エイズ学会誌、12巻1号、pp.42 - 48
	<調査研究報告書> 1 専門科目連携を目指す看護学部FD研修会の取り組み	共著	平成21年12月	第59回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.44 - 48
	<学会発表> 1 地方都市中学生を対象とした性に関する実態調査 2 地方都市高校生の性に対する態度および行動に関する調査－性感染症知識との関連－ 3 地方都市高校生の性に対する態度および行動に関する調査－保護者との関係について－	共同 共同 共同	平成21年6月 平成21年6月 平成21年6月	第50回日本社会医学学会 第50回日本社会医学学会 第50回日本社会医学学会
	4 The correlation between the length of participation in local group activities and the health conditions and attitudes toward community of the members of local health promotion groups	単独	平成21年8月	The 4th International Conferences on Community Health Nursing Research
	5 専門科目連携を目指す看護学部FD研修会の取り組み	共同	平成21年9月	第59回東北・北海道地区一般家養育研究会
	6 学年別のOSCEの運営について	共同	平成21年9月	日本看護教育学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
渡邊 由加利	<その他の論文> 1 模擬患者参加型学習における課題・経済的問題	共著	平成21年11月	メディカルフレンド 看護展望、34巻12号、pp.67 - 71
	<学会発表> 1 看護学教育における模擬患者養成プログラムの開発と評価	共同	平成21年11月	日本看護科学学会
太田 晴美	<学会発表> 1 院内看護研究研修会実績とその評価	共同	平成21年6月	日本看護研究学会北海道地方会
	2 中規模病院での災害看護教育の実施報告	共同	平成22年2月	第15回日本集団災害医学会総会・学術集会
	<シンポジウム> 1 アクションリサーチ (SSM) による看護師教育支援 - 災害看護への動機づけ -		平成22年2月	日本アクションリサーチ協会
神島 滋子	<著書> 1 ナーシング・グラフィカEXリハビリテーション看護「高次脳機能障害」	共著	平成22年3月	メディカ出版、pp.114 - 125
	<学術論文> 1 自立生活を回復させるニューロリハビリ看護；運動失調があってものがつかめない	単著	平成21年8月	メディカ出版、 BRAIN Nursing (夏季増刊)、 pp.135 - 144
	2 自立生活を回復させるニューロリハビリ看護；高次脳機能障害のため行動できない、覚えられない	単著	平成21年8月	メディカ出版、 BRAIN Nursing (夏季増刊)、 pp.145 - 155
	3 自立生活を回復させるニューロリハビリ看護；呼吸する	単著	平成21年8月	メディカ出版、 BRAIN Nursing (夏季増刊)、 pp.166 - 186
	4 看護に生かせる海外文献この1本／急性期の脳卒中患者の早期からの可動を促す援助 (mobilization)	単著	平成22年1月	メディカ出版、 BRAIN Nursing、pp.62
	5 ここまでできる！合併症を起こさない術後看護～あなたの看護技術のみせどころ (プランナー)	共著	平成22年2月	メディカ出版、 BRAIN Nursing、pp.13 - 51
	<学会発表> 1 集中治療室で発生する音の実態調査	共同	平成21年9月	第36回日本脳神経看護研究学会
2 脳損傷患者における認知機能評価ツールの開発	共同	平成21年10月	第33回日本高次脳機能障害学会	
3 OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラム開発への取り組み～2年次生の課題達成度と評価内容の検討～	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会	

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
河村 奈美子	<学会発表>			
	1 パースレビューが産婦の分娩体験に与える影響について：レビューの効果を考察する	共同	平成21年7月	日本看護学会（母性看護）
	2 Indirect Human-Animal Communication: A zootos visit program for Japanese Psychiatric Patients	共同	平成21年8月	国際地域看護学会(ICCHNR)
	3 看護学教育における学年別客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み：学年別OSCEの運営について	共同	平成21年9月	日本教育学会
	4 飼育体験による動物園と中学校の教育連携：社会・職業体験として	共同	平成22年3月	ヒトと動物の関係学会
5 飼育体験がもたらす動物園・動物・飼育員に対する印象の変化	共同	平成22年3月	ヒトと動物の関係学会	
櫻井 繭子	<学会発表>			
	1 北海道における産業看護職の実態調査（第2報） 看護対象と産業保健活動に関して	共同	平成21年5月	第82回日本産業衛生学会
2 北海道における産業看護職の実態調査（第3報） 過重労働とメンタルヘルス対策の状況	共同	平成21年5月	第82回日本産業衛生学会	
進藤 ゆかり	<学術論文>			
	1 寒冷地における高齢者の冬季入浴時の生理・心理反応に関する実測	共著	平成21年7月	日本建築学会北海道支部研究報告集、82巻、pp.299 - 302
	2 寒冷地における高齢者の冬季入浴前後の生理反応に関する実測	共著	平成21年9月	空気調和・衛生工学大会学術講演論文集、pp.1275 - 1278
	<実践報告書>			
	1 積雪寒冷地の札幌で高齢者を健やかに生きるための知恵	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.81 - 85
	<学会発表>			
	1 寒冷地における高齢者の冬季入浴時の生理・心理反応に関する実測	共同	平成21年8月	日本建築学会北海道支部学会
	2 The subjective well-being of urban elderly Japanese in a winter climate	共同	平成21年8月	The 4th international conference on community health nursing research
	3 Subjective well-being and daily activity patterns of the elderly in underpopulated areas with cold, snowy climate.	共同	平成21年8月	The 4th international conference on community health nursing research
	4 老年看護学学修過程における学生の高齢者イメージの変化に関する研究	共同	平成21年9月	日本老年看護学会第14回学術集会
	5 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究	共同	平成21年9月	第40回日本看護学会－老年看護－
	6 高齢者の入浴前後の温熱生理・心理に関する基礎的研究	共同	平成21年10月	第68回日本公衆衛生学会
	7 積雪寒冷地に居住する高齢者のQOLに影響を与える要因研究	共同	平成21年10月	第68回日本公衆衛生学会
8 積雪寒冷地高齢者の主観的幸福感の関連要因の検討	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会	
<入賞・受賞>				
1 Subjective well-being and daily activity patterns of the elderly in underpopulated areas with cold, snowy climate. 最優秀ポスター賞（グランプリ）	共同	平成21年8月	The 4th international conference on community health nursing research	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
多賀昌江	<学会発表>			
	1 助産院で初めて夫立ち会い分娩をした夫の内的経験と育児期への影響	単独	平成21年5月	第65回日本助産師学会
	2 高齢者による操作用語の視覚的使いやすさへの影響評価	共同	平成21年6月	第50回日本人間工学会
	3 操作用語とピクトグラム視覚的つかいやすさの研究	共同	平成21年9月	第3回日本デザイン学会第1支部大会
	4 妊娠24週未満の死産児を安置する「棺」の基礎的研究	共同	平成21年9月	第39回北海道母性衛生学会
	5 排泄時の消音行為と羞恥の意識 -日本人女性と諸外国女性との比較-	単独	平成21年9月	国際看護研究会第12回学術集会
6 妊娠22週未満の死産児を安置する「棺」のデザイン研究	共同	平成21年9月	第50回日本母性衛生学会	
照井レナ	<調査研究報告書>			
	1 2009年度厚労省老人保健健康増進推進事業報告書 E-KANGO Project 2009 IT活用による遠隔看護サービス (E-KANGO) の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作	共著	平成22年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1 - 4、67 - 72
	<学会発表>			
	1 高齢者による操作用語の視覚的使いやすさへの影響評価	共同	平成21年6月	日本人間工学会
	2 Effectiveness of Education for Community Healthcare Providers in Yubari-City Where the City Failed	共同	平成21年7月	APHPE
	3 Evaluation on a New Activity Tool, Memory Magic, by the Staff -Focusing on the Elderly with Dementia in Japan-	共同	平成21年9月	WANS
	4 夕張市の後期高齢者における食品摂取の多様性に関連する要因-財政破綻後の実態調査から-	共同	平成21年9月	プライマリ・ケア学会
	5 新型アクティビティ・ツール「メモリー・マジック」の効果-認知症型グループホームのケア・スタッフへの教育効果-	共同	平成21年9月	プライマリ・ケア学会
6 男性介護者の捉えた訪問看護師との協働的パートナーシップの様相	共同	平成21年10月	日本看護学会	
7 操作用語とピクトグラム視覚的使いやすさの研究	共同	平成21年10月	日本デザイン学会第一支部大会	
8 IT活用による看護情報授受に向けたインターネット環境と職員レディネスの検討	共同	平成22年1月	日本在宅ケア学会	
原井美佳	<その他の論文>			
	1 寒冷地における高齢者の冬季入浴時における生理・心理反応に関する実測調査	共著	平成21年7月	日本建築学会北海道支部研究報告書、82巻、pp.299 - 302
	2 寒冷地における高齢者の入浴前後の生理反応に関する実測	共著	平成21年9月	空気・調和・衛生工学会大会学術論文集、pp.1275 - 1278
	<実務関係報告書>			
1 積雪寒冷地の札幌で高齢者を健やかに生きるための知恵-平成20年度札幌市立大学市民講座への取り組み-	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.81 - 85	
2 2009JICA青年研修(マレーシア・感染症対策)受託報告-研修準備・実施について-	共著	平成22年3月	札幌市立大学研究論文集、第4巻第1号、pp.89 - 95	

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
原井 美佳	<学会発表>			
	1 The subjective well-being of urban elderly Japanese in a winter climate.	共同	平成21年8月	国際地域看護学会
	2 Determinative Factors of Subjective Well-Being and Characteristics of Daily Behavior among the Home-Dwelling Elderly in Special Heavy Snow Areas.	共同	平成21年8月	国際地域看護学会
	3 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究－人生経験からの検討－	共同	平成21年9月	日本看護学会 老年看護
	4 寒冷地における高齢者の入浴前後の温熱生理・心理に関する基礎的研究	共同	平成21年9月	日本建築学会北海道支部研究発表会
	5 老年看護学学修過程における学生の高齢者イメージ変化に関する研究－2年次老年看護学概論前後の比較－	共同	平成21年10月	日本老年看護学会
	6 寒冷地における高齢者の入浴前後の温熱生理・心理に関する基礎的研究	共同	平成21年10月	第68回日本公衆衛生学会
	7 積雪寒冷地に居住する高齢者のQOLに影響を与える要因研究	共同	平成21年10月	第69回日本公衆衛生学会
	8 積雪寒冷地高齢者の主観的幸福感と生活関連要因の検討－改訂版PGCモラル・スケールを用いた横断研究－	共同	平成21年11月	日本看護科学会
9 混合性尿失禁を有する女性への支援	単独	平成21年11月	愛知排泄ケア研究会	
瀧本 雅昭	<著書>			
	1 エキスパートナースガイド 急変時対応とモニタリング	共著	平成21年8月	照林社、pp.226 - 233
	2 呼吸管理中の急変予測と対応	共著	平成21年10月	メディカ出版、pp.43 - 50
	<その他の論文>			
	1 対光反射の観察法とエビデンス	単著	平成21年4月	Brain Nursing、メディカ出版、25巻4号、pp.460 - 460
	2 決定版 Q&Aでわかる長期人工呼吸装着患者のケア～連載にあたって～	単著	平成21年6月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻6号、pp.535 - 535
	3 看護に生かせる海外文献 人工呼吸器を使用した意識障害患者、鎮静下にある患者の痛みを評価するBehavioural Pain Scaleの使用	単著	平成21年6月	Brain Nursing、メディカ出版、25巻6号、pp.596 - 596
	4 わが国における長期人工呼吸の現状	共著	平成21年7月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻7号、pp.640 - 644
	5 脳幹部の疾患ではないが意識がない	単著	平成21年8月	Brain Nursing、メディカ出版、2009夏季増刊号、pp.62 - 73
	6 長期人工呼吸器装着患者のケア 対象となる患者さんは？成人編	共著	平成21年8月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻8号、pp.740 - 744
	7 長期人工呼吸器装着患者のケア 対象となる患者さんは？小児編	共著	平成21年9月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻9号、pp.836 - 840
8 急性期人工呼吸器管理から長期人工呼吸器管理に移るときのポイント	共著	平成21年10月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻10号、pp.940 - 944	
9 慢性疾患に対する人工呼吸療法の導入	共著	平成21年11月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻11号、pp.1052 - 1057	
10 長期人工呼吸器装着患者のケア～機種選択はどうする？	共著	平成21年12月	呼吸器ケア、メディカ出版、7巻12号、pp.1160 - 1165	
11 慢性期人工呼吸器ケアの実際（ウィーニングを含めて）	共著	平成22年1月	呼吸器ケア、メディカ出版、8巻1号、pp.2 - 8	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
測本 雅昭	<学会発表>			
	1 背面開放座位が遷延性意識障害患者の脳に及ぼす影響	共同	平成21年9月	日本脳神経看護研究学会
	2 ファウラー位が意識障害患者の脳波に及ぼす影響	共同	平成21年9月	日本脳神経看護研究学会
	3 OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発への取り組み-2年次OSCEの課題達成度と評価内容の検討-	共同	平成21年11月	日本看護科学学会
4 看護学教育における模擬患者養成プログラムの開発と評価	共同	平成21年11月	日本看護科学学会	
三上 智子	<学術論文>			
	1 Analyses of non-leucine-rich repeat (non-LRR) regions intervening between LRRs in proteins	共著	平成21年1月	Biochimica et Biophysica Acta、10巻1790号、pp.1217 - 1237
	<学会発表>			
	1 Understanding of lipid nutrition and dietary habits with intake of food high in fat and oil in male and female vocational school and university students in Japan	共同	平成21年10月	19th International Congress of Nutrition
	2 ロイシンリッチリピートに介在するアイランド領域の起源と進化の研究	共同	平成21年10月	第82回日本生化学会
3 Non-Leucine rich repeat, Island region intervening between LRRs in proteins	共同	平成22年3月	Pepcon 2010	
4 Evolution, Function and Structure of Leucine-rich Repeats	共同	平成22年3月	Pepcon 2010	
5 Toll様受容体の分子進化	単独	平成22年3月	2010年度日本生物物理学会北海道支部例会	
工藤 京子	<学会発表>			
	1 看護学教育における模擬患者養成プログラムの開発と評価	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会
2 OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラム開発への取り組み-2年次生の課題達成度と評価内容の検討-	共同	平成21年11月	第29回日本看護科学学会学術集会	
鶴木 恭子	<調査研究報告書>			
	1 重曹使用による清拭が皮膚表面に与える影響	単著	平成21年9月	日本看護技術学会
<学会発表>				
1 重曹使用による清拭が皮膚表面に与える影響	単独	平成21年9月	日本看護技術学会第8回学術集会	

8 学会及び研究会における活動

デザイン学部

教員名	所属学会・研究会等
原田 昭	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 参与/論文誌審査編集委員 ・日本デザイン学会 学会各賞審査委員 ・Asia Network Beyond Design Association 会長 ・日本認知科学会
吉田 恵介	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造園学会 副支部長/評議員 ・環境情報科学センター論文査読委員 ・日本デザイン学会環境デザイン部会 幹事(北海道)
武邑 光裕	<ul style="list-style-type: none"> ・日本予防医学リスクマネジメント学会 理事/北海道支部会長 ・芸術科学会 ・情報文化学会 ・ACM (Association for Computing Machinery)
石崎 友紀	<ul style="list-style-type: none"> ・道具学会 理事/研究委員会委員長 ・日本デザイン学会 ・環境芸術学会 ・芸術工学会 ・北海道芸術学会 ・(社)日本クラフトデザイン協会 ・北海道インテリアプランナー協会
齋藤 利明	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術工学会 ・北海道芸術学会
酒井 正幸	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人間工学会 北海道支部役員 ・日本感性工学会 ・日本デザイン学会 ・日本ヒューマンインタフェース学会
城間 祥之	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 理事/論文審査委員 ・Scientific Committee, International Conference on Kansei Engineering and Emotion Research 2010 委員/論文審査委員 ・The Eighth International Symposium on Tools and Methods of Competitive Engineering TMCE2010 論文審査委員 ・芸術工学会 校閲委員 ・日本機械学会 ・精密工学会 デジタルスタイルデザイン研究分科会 委員 ・日本設計工学会 ・情報処理学会 ・IEEE (The Institute of Electrical and Electronic Engineers, Inc.) ・ACM (Association for Computing Machinery)
杉 哲夫	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 ・日本感性工学会
中原 宏	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道都市地域学会 論文査読委員 ・日本都市計画学会 ・日本建築学会 ・日本公衆衛生学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	所属学会・研究会等
羽深 久夫	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 建築歴史・意匠委員会日本建築史小委員会委員／論文集委員会査読委員 ・日本建築学会 北海道支部歴史意匠専門委員会委員／「北海道における建築歴史学の研究史」調査研究委員会委員 ・日本建築学会・日本技術者教育認定機構 「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム審査委員 ・建築史学会 ・日本生活文化史学会 ・日本家政学会 ・北海道考古学会
原 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道社会学会 理事／研究活動委員会 委員長 ・日本人口学会 編集委員会委員 ・日本家族社会学会 『家族社会学研究』専門委員 ・日本政治学会 ・日本情報考古学会
望月 澄人	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・イメージ ・Asia Network Beyond Design
矢部 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造園学会北海道支部 常任理事 ・日本生態学会 ・応用生態工学会 ・日本陸水学会 ・日本湿地学会
武田 亘明	<ul style="list-style-type: none"> ・教育とコンピュータ利用研究会 副会長 ・社情報処理学会 ・日本教育情報学会 ・日本教育工学会 ・日本工学協会 理事 ・北海道中国哲学会
張 浦華	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 ・日本デザイン学会
細谷 多聞	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 ・芸術工学会 理事／研究推進委員会 ・日本看護科学学会
町田 佳世子	<ul style="list-style-type: none"> ・社大学英語教育学会（JACET）北海道支部 研究企画委員 ・日本コミュニケーション学会北海道支部 役員 ・International Communication Association ・International Pragmatics Association ・社大学英語教育学会（JACET）全国大会準備委員会 委員 ・日本語用論学会 ・外国語教育メディア学会 ・日本カリキュラム学会
大淵 一博	<ul style="list-style-type: none"> ・電子情報通信学会 ・日本教育工学会 ・日本感性工学会 ・日本看護学教育学会

教員名	所属学会・研究会等
柿山 浩一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 広報委員会 幹事 ・日本感性工学会 論文編集委員会 委員 ・Asia Network Beyond Design 理事（札幌事務局）
小宮 加容子	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンインタフェース学会 ・計測自動制御学会 ・日本リハビリテーション学会 ・日本機械学会 ・日本福祉のまちづくり学会 ・日本感覚統合学会 ・日本デザイン学会 ・玩具福祉学会
齊藤 雅也	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 環境工学本委員会熱環境運営委員会委員／環境工学本委員会熱環境運営委員会バイオクライマティックデザイン小委員会委員／地球環境本委員会地球環境時代における教育小委員会／論文集委員会 ・日本建築学会北海道支部 北海道支部 建築作品発表会委員会委員／北海道支部 環境工学専門委員会委員／特定課題研究委員会・住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握・委員 ・空気調和・衛生工学会 ・日本太陽エネルギー学会 ・日本デザイン学会 ・日本感性工学会 ・日本看護科学学会 ・日本公衆衛生学会
那須 聖	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 北海道支部常議員／北海道支部建築計画専門委員会委員／設計競技委員会北海道支部委員 ・北海道芸術学会 ・形の科学会
福田 大年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 ・情報文化学会
松井 美穂	<ul style="list-style-type: none"> ・日本アメリカ文学会 北海道支部編集委員（査読者）／北海道支部会計監査 ・アメリカ学会 ・日本英文学会 ・日本ウィリアム・フォークナー協会 ・Carson McCullers Society
三谷 篤史	<ul style="list-style-type: none"> ・日本トライボロジー学会 北海道トライボロジー研究会 委員 ・日本機械学会／ロボティクス・メカトロニクス部門技術委員会第1支部幹事 ・日本ロボット学会 ・精密工学会 ・計測自動制御学会 ・IEEE（The Institute of Electrical and Electronic Engineers, Inc.） ・IEEE/RSJ 2009 International Conference on Intelligent RObots and Systems（IROS2009）論文査読委員
山田 良	<ul style="list-style-type: none"> ・環境芸術学会 ・北海道芸術学会 ・アメリカ・ランドスケープデザイン学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	所属学会・研究会等
上田 裕文	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造園学会北海道支部 幹事 ・日本都市計画学会 ・農村計画学会 ・環境情報科学センター ・日本観光研究学会
片山 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 環境心理・生理小委員会 委員／北海道支部環境工学専門委員会 委員 ・日本造園学会 ・日本展示学会 ・人間・環境学会 ・日本老年看護学会 ・動物心理学会
須之内 元洋	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科学会 ・ACM (Association for Computing Machinery) ・情報処理学会

看護学部

教員名	所属学会・研究会等
中村 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本救急看護学会 代表理事 ・日本臨床救急医学会 理事 ・日本看護管理学会 監事／評議員 ・日本クリティカルケア看護学会 監事／評議員 ・日本看護科学学会 第29回学術集会企画委員／第30回学術集会会長 ・日本看護診断学会 評議員／理事長諮問会議委員 ・日本集団災害医学会 評議員 ・日本健康科学学会 ・日本災害看護学会 査読委員 ・日本老年看護学会 ・日本病院管理学会 ・日本がん看護学会 ・日本糖尿病教育・看護学会 ・日本難病看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本集中治療医学会 ・日本看護教育学学会 ・日本看護学教育学会
内田 雅子	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性看護学会 評議員／研究交流推進委員／専任査読委員／第4回日本慢性看護学会学術集会企画委員 ・日本赤十字看護学会 専任査読委員 ・日本クリティカルケア看護学会 第6回学術集会プログラム委員／実行委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員／事務局
河野 總子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学教育学会 査読委員 ・日本看護科学学会 社会貢献委員／第30回学術集会企画委員及び市民公開講座委員 ・社団法人日本看護協会 日本看護学会 ・北海道救急医学会 ・日本看護研究学会 ・日本病院・医療管理学会 ・北日本看護学会 ・日本災害看護学会 ・医療経済学会 ・組織行動学学会 ・日本医学看護学教育学会
坂倉 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員／編集委員長 ・日本看護技術学会 第8回学術集会企画委員／プログラム委員長／査読委員 ・日本看護研究学会 第20回北海道地方会学術集会 大会長 ・日本看護学教育学会 査読委員 ・日本老年看護学会 ・日本家族看護学会 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本高齢者虐待防止学会 ・北海道医学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	所属学会・研究会等
定廣 和香子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護教育学学会 評議員／看保連代表委員／20周年記念大会企画委員 ・日本看護技術学会 評議員／査読委員 ・日本看護学教育学会 評議員／編集委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員／編集委員 ・Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International ・医療の質と安全学会
スーディ神崎 和代	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員及びプログラム委員長／査読委員 ・国際感染予防学会 ・国際医療の質学会 ・日本在宅ケア学会 ・日本看護学教育学会 ・北海道公衆衛生学会 ・日本プライマリ・ケア学会 ・北海道民族学会
樋之津 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人間工学会 看護人間工学部会長／研究誌編集委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員／実行委員長 ・日本看護研究学会 第20回北海道地方会学術集会実行委員 ・日本保健医療行動科学学会 ・日本泌尿器科学学会 ・日本がん看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護技術学会 ・日本老年泌尿器科学学会
松浦 和代	<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児看護学会 査読委員／第19回学術集会企画委員 ・第14回日本看護サミット北海道'09 企画運営委員 ・日本看護研究学会 第20回北海道地方会学術集会実行委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員／プログラム委員 ・全国病弱教育研究会 第11回全国病弱教育研究会大会長／北海道ブロック世話人代表 ・日本小児保健学会 ・日本母性衛生学会 ・日本看護学教育学会 ・北海道小児保健研究会 評議員
宮崎 みち子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道公衆衛生学会 評議員 ・北海道母性衛生学会 ・日本母性衛生学会 ・日本助産学会 ・日本看護Critical Thinking研究会 ・日米法学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会会計／企画委員 ・日本医事法学会 ・日本生命倫理学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護倫理学会 ・国際看護研究会

教員名	所属学会・研究会等
山本 勝則	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会 ・日本看護研究学会 ・日本応用心理学会 ・日本病院・地域精神医学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会企画委員／実行委員 ・日本行動分析学会 ・日本発達心理学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本赤十字看護学会 ・日本精神科看護技術学会
大野 夏代	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護研究会 第12回学術集会 準備委員／第12回学術集会 実行委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会プログラム委員 ・看護実践における指圧マッサージ研究会 運営委員 ・日本看護研究学会 ・日本渡航医学会 ・日本国際保健医療学会 ・日本人間工学会
清水 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道衛生公衆衛生セミナー ・北海道公衆衛生学会 評議員 ・日本看護科学学会 第30回学術集會市民公開講座委員 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会
須田 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護管理学会 ・日本家族看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本救急看護学会 ・日本クリティカルケア看護学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集會事務局／懇親会委員長 ・日本看護研究学会
守村 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・日本質的心理学会 第6回大会事務局長 ・日本臨床救急医学会 自殺企図者のケアに関する検討委員会委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集會渉外・交渉委員長 ・日本精神障害者リハビリテーション学会 ・日本社会福祉学会 ・日本地域福祉学会 ・日本社会福祉実践理論学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本救急看護学会 ・北星学園大学社会福祉学会 ・日本自殺予防学会 ・日本うつ病学会 ・産業保健師メンタルヘルス研究会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	所属学会・研究会等
吉川 由希子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児看護学会 第19回学術集会企画委員 ・全国病弱教育研究会 第11回大会企画実行委員長 ・日本看護科学学会 第30回学術集会会計 ・日本小児保健学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本医療保育学会 ・日本学校保健学会 ・日本母性衛生学会 ・日本家族看護学会
菊地 ひろみ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本難病看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本プライマリ・ケア学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会プログラム委員 ・日本在宅ケア学会 ・北海道公衆衛生学会
菅原 美樹	<ul style="list-style-type: none"> ・日本クリティカルケア看護学会 理事／選挙管理委員／専任査読委員／第6回学術集会事務局長 ・日本救急看護学会 評議員／JNTEC実行委員／実技セミナー将来構想検討特別委員会 ・日本循環器看護学会 専任査読委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会事務局 ・日本看護学教育学会 ・日本災害看護学会 ・日本集中治療医学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本看護研究学会
杉田 久子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 第30回学術集会実行委員 ・日本クリティカルケア看護学会 第6回学術集会実行委員 ・日本救急看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護技術学会 ・日本集中治療医学会看護部会 ・日本赤十字看護学会 ・千葉看護学会
新納 美美	<ul style="list-style-type: none"> ・日本アディクション看護学会 評議員／大会実行委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会プログラム委員 ・日本産業精神保健学会 ・日本地域看護学会 ・職業性ストレス研究会 ・日本公衆衛生学会 ・日本ブリーフサイコセラピー学会 ・日本産業衛生学会
藤井 瑞恵	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会事務局／市民公開講座委員 ・日本看護技術学会 ・日本看護学教育学会 ・日本糖尿病教育・看護学会 査読委員／第14回学術集会企画委員 ・日本糖尿病学会 ・日本看護学会

教員名	所属学会・研究会等
星 美和子	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing ・ 日本看護学教育学会 ・ 日本看護科学学会 第30回学術集会実行委員 ・ 日本看護管理学会
村松 真澄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本口腔ケア学会 評議員 ・ 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 評議員 ・ 日本老年看護学会 第14回学会企画委員／実行委員 ・ 日本看護研究学会 第20回北海道地方会学術集会実行委員 ・ 日本看護科学学会 第30回学術集会懇親会委員 ・ 日本公衆衛生学会 ・ 日本がん看護学会 ・ 日本老年歯科医学会 ・ 日本有病者歯科医療学会 ・ 日本口腔科学会 歯科・口腔看護領域看護研究会 ・ 北海道歯学会 ・ 北海道口腔ケア研究会 設立コアメンバー（企画担当） ・ 北海道プライマリ・ケア研究会 ・ 旭川口腔ケア普及研究会 幹事 ・ ドライマウス研究会 ・ 医療・福祉タウン研究学会 ・ 日本口腔科学会 ・ 日本看護学教育学会 ・ 日本保健福祉学会 ・ 家族システム研究会
保田 玲子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本保健医療行動科学会 ・ 日本看護科学学会 第30回学術集会編集委員 ・ 日本地域看護学会 ・ 日本公衆衛生学会 ・ 日本社会医学会
渡邊 由加利	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本母性衛生学会 ・ 日本助産学会 ・ 日本看護学教育学会 ・ 日本看護科学学会 第30回学術集会実行委員 ・ 日本人間工学会
太田 晴美	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本臨床救急医学会 地域救急医療体制検討委員会委員／トリアージナース育成に関する合同委員会委員 ・ 日本集団災害医学会 セミナー委員会セミナー実行部会委員 ・ 日本災害看護学会 ・ 日本看護学教育学会 ・ 日本看護科学学会 第30回学術集会渉外・交渉委員 ・ 日本看護管理学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	所属学会・研究会等
神島 滋子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本脳神経看護研究学会 評議員／北海道地方部会副会長／第36回日本脳神経看護研究学会 事務局長 ・日本看護科学学会 第30回学術集会会計 ・日本救急看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本高次脳機能障害学会（旧 日本失語症学会） ・日本公衆衛生学会 ・日本更年期医学会 ・日本看護学教育学会 ・日本クリティカルケア看護学会 第6回学術集会企画委員
河村 奈美子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神保健看護学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会懇親会委員 ・日本老年精神医学会 ・日本質的心理学会 ・ヒトと動物の関係学会 ・日本看護研究学会 ・日本地域看護学会 ・日本認知症ケア学会 ・日本アディクション看護学会
櫻井 繭子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本産業衛生学会 産業看護部会幹事 ・日本産業衛生学会北海道地方会 産業看護部会幹事 ・北海道公衆衛生学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会実行委員 ・日本公衆衛生学会 ・日本地域看護学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本産業精神保健学会 ・日本看護研究学会 ・第20回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会企画運営委員
進藤 ゆかり	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピスケア研究会 ・日本家族看護学会 ・看護総合科学研究会 ・日本老年看護学会 第14回学術集会実行委員 ・日本公衆衛生学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会編集委員 ・日本看護学教育学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本看護研究学会 第20回北海道地方会学術集会実行委員
多賀 昌江	<ul style="list-style-type: none"> ・日本渡航医学会 評議委員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会実行委員 ・国際看護研究会 第12回学術集会実行委員 ・日本助産学会 ・日本文化人類学会 ・北海道民族学会 ・日本母性衛生学会 ・日本人間工学会 ・日本看護学教育学会 ・日本人間工学会看護人間工学部会 ・北海道母性衛生学会

教員名	所属学会・研究会等
照井 レナ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本公衆衛生学会 ・北海道公衆衛生学会 ・日本地域看護学会 ・日本在宅ケア学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会事務局 ・日本人間工学会看護人間工学部会 ・日本人間工学会 ・日本プライマリ・ケア学会 ・日本医療・病院管理学会 ・日本看護学教育学会 ・北海道医療大学看護福祉学部学会
原井 美佳	<ul style="list-style-type: none"> ・日本老年看護学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会懇親会委員 ・日本看護管理学会 ・日本看護学教育学会 ・日本死の臨床研究会 ・日本公衆衛生学会 ・第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会実行委員
淵本 雅昭	<ul style="list-style-type: none"> ・日本クリティカルケア看護学会 第6回学術集会プログラム委員・実行委員／事務局 ・日本救急看護学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本集中治療医学会 ・日本看護学教育学会 ・日本脳神経看護研究学会 第36回日本脳神経看護研究学会学術集会事務局／評議員 ・日本看護科学学会 第30回学術集会事務局
三上 智子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 第30回学術集会編集委員 ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本生化学学会 ・日本母性衛生学会 ・北海道小児保健研究会 ・日本小児看護学会 第19回学術集会企画・実行委員 ・第11回全国病弱教育研究会 実行委員
工藤 京子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学教育学会 ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会事務局 ・日本創傷治癒学会 ・日本クリティカルケア看護学会 第6回学術集会事務局 ・日本慢性看護学会
鶴木 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 第30回学術集会実行委員 ・日本人間工学会 看護人間工学部会 ・日本看護技術学会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

IV 社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 地域との連携研究

研究課題	期間	概要	連携先
シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	平成21年4月30日 ～平成22年3月15日	シーニックバイウェイ制度を活用した南区のまちづくりを研究することを目的として、①街並みの景観の調査研究、②南区の映像やマップ等を活用した情報発信の調査研究、③南区ブランド形成に向けた調査研究、④会議等への参画とまちづくりに向けた政策提言を行った。	札幌市南区
「第14回札幌市都市景観賞」PRに関する研究	平成21年5月29日 ～平成21年11月17日	札幌市民の都市景観に対する理解を深め、市民による積極的な景観形成への関わりを創出することを目的とし、市民参加のワークショップや現地調査を通じて景観への意識を啓蒙するとともに、第14回札幌市都市景観賞の周知、広報の効果的な方法を検討、実行した。また、企画及び景観賞選考への市民の参加状況と都市景観賞の結果をもとに、ワークショップや周知・広報の方法の効果について評価を行った。	札幌市市民まちづくり局
高揚感と居住快適性を創出する動物舎デザインの研究	平成21年6月1日 ～平成22年2月26日	札幌市円山動物園の新爬虫類館、アジア館について、飼育動物の本来生息地域の特徴を活かしたデザインの監修を行った。また、類人猿館・屋外放養場の架空デザイン、総合水鳥舎の色彩デザイン監修を行った。	札幌市環境局
ユニバーサルデザイン視点からの動物園のビジュアルアイデンティティ研究	平成21年6月1日 ～平成22年2月26日	札幌市円山動物園内のモデル経路とサイン配置計画策定に関わる研究を実施した。また、園内の案内系・誘導系・記名系サインについて、ユニバーサルデザイン視点からの視認性の検証結果をふまえてデザイン提案を行った。	札幌市環境局
「円山動物園の森」ビオトープの生物多様性向上のための研究	平成21年6月1日 ～平成22年2月26日	前年度に行った札幌市円山動物園周辺の森林群の調査をふまえて、「円山動物園の森」ビオトープの生物多様性向上を目的として、①ササ除去による山野草回復試験、②外来種除去による山野草回復試験、③導入候補小動物の現状把握と地図化、④小動物の生育環境のモニタリングにより調査実験研究を行った。	札幌市環境局

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

研究課題	期間	概要	連携先
札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究	平成21年7月10日 ～平成22年3月31日	前年度に行った札幌駅前地下歩行空間北2条交差点エリアのメディア環境のコンセプト及びコンテンツイメージに関する調査の結果をふまえて、次世代行政広報としての当該エリア使用方策と多様な公共広告モデルの検討を目的として、次のとおり調査研究を実施した。①姉妹都市間の映像交流や空間演出の実証テストをふまえて発信コンテンツの生成モデルと編成を検証、②CGMコンテンツ発信とパブリックアクセス・CGM広告の可能性を探るための札幌発コンテンツ文化を考えるワークショップを開催、③運営計画を策定、④コンテンツを生成・配信するためのICTシステムをモデル化し、その要件を定義した。	札幌市市長政策室
南区ユニバーサルデザイン・ウォーキングマップ及びその活用に関する研究	平成21年7月10日 ～平成22年3月31日	南区内のウォーキングコースを調査・再開発し、子どもから高齢者まで、見やすく使いやすいユニバーサルデザインに配慮したウォーキングマップを作成することを目的として、マップのデザイン研究を実施した。さらに、その活用方法についても検討し、マップ活用案に関する助言を行った。	札幌市南区
世界に向けて札幌市のPRを目的とするグリーティングカードの作成研究	平成21年10月9日 ～平成21年12月31日	札幌市が海外に送るグリーティングカードのデザイン研究を実施し、学生25名が制作研究に関わった。海外に向けて札幌市をPRできるような地域性、季節感、札幌の持つ暖かさというメッセージ性、また送り主の品位とイメージに配慮した内容で、地域コンテンツの制作という側面を意識して取り組み、デザイン提案を行った。	札幌市総務局

2) 高大連携

①デザイン学部 第3回高大連携公開講座

開催日	高校名	参加生徒数	タイトル	担当教員
平成21年12月8日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌星園高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 市立札幌大通高等学校	41名	空間のメッセージ	那須 聖
			コンテンツデザインについて	福田 大年

②看護学部 高大連携講座

開催日・期間	学校名	受講者数	受講科目名	担当教員
平成21年4月7日 ～平成22年2月8日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌藻岩高等学校	17人	5人 看護学原論（講義・15時間）	◎河野 總子 定廣 和香子
			4人 地域保健学概論（講義・15時間）	◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美
			3人 人間発達援助論（演習・30時間）	◎宮崎 みち子 松浦 和代 内田 雅子 坂倉 恵美子
			5人 チーム医療論（講義・15時間）	◎河野 總子 中村 恵子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

③看護学部 模擬授業

開催日・期間	学校名	受講者数	受講科目名	担当教員
平成21年10月10日	北海道札幌旭丘高等学校 市立札幌大通高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校 北海道札幌藻岩高等学校	73人	認知症	スーディ神崎 和代
			リプロダクティブヘルス・ライツ	宮崎 みち子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

3) 高校等出前講義

開催日	高校名等	テーマ	担当教員
平成21年7月23日	北海道帯広緑陽高等学校	映像デザインの方法	望月 澄人
平成21年7月30日	北海道看護協会	看護への道	吉川 由希子
平成21年8月25日	北海道旭川北高等学校	空間をつくる	那須 聖
平成21年9月13日	札幌市立大学 十勝地区進学相談会 (会場：北海道帯広柏葉高等学校)	ものづくりの楽しさとそのプロセス	杉 哲夫
		プロジェクトめがね ～空間デザインの魅力～	山田 良
		ライフサイクルからみたおとなの看護	内田 雅子
		ライフサイクルからみた子どもの看護	吉川 由希子
平成21年11月6日	北海道札幌北陵高等学校	空間デザインの魅力	山田 良
		母子保健	清水 光子
平成21年11月10日	北海道札幌旭丘高等学校	4次元のデザイン	細谷 多聞
平成21年11月11日	北海道札幌新川高等学校	看護系大学ではどんなことを学ぶか	山本 勝則
平成21年11月11日	北海道札幌開成高等学校	人の感性（心）を読めるヒト。それがデザイナーだ！	柿山 浩一郎
平成21年11月19日	北海道札幌平岸高等学校	人間と看護	定廣 和香子
平成21年12月10日	北海道苫小牧東高等学校	「わかりやすさ」をデザインする	酒井 正幸

4) 学生参加事業

参加日・期間	内容	主催者	参加学生数	担当教員
平成21年4月～ 平成22年3月	産学デザイン実験プロジェクト「のぐちファミリー」イメージキャラクター	野口観光	9人	上遠野 敏
平成21年4月～6月	市立赤平総合病院 医師確保募集ポスター制作事業 春バージョン（企画・運営）	札幌市立大学	2人	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成21年4月25日	ねんりんピック北海道・札幌2009「けんこう☆ふれあいピック」	ねんりんピック北海道・札幌2009	30人	守村 洋
平成21年5月6日 ～11日	美術部ノメノン「18展」	ivory	18人	上遠野 敏
平成21年5月12日 ～8月25日	日本質的心理学会 第6回大会ポスター制作：学内より募集、コンペ形式で選考されたものを制作	日本質的心理学会 第6回大会実行委員会	16人	吉田 和夫
平成21年5月20日 ～6月15日	ミュージック・ジャケットギャラリー2009出展：出展依頼を受け有志制作／サッポロファクトリーにて開催	MJG & epa事務局	5人	吉田 和夫
平成21年5月23日	SMFカウンセリング&カンパセーション2009	札幌メディア・アート・フォーラム	16人	武田 亘明
平成21年5月24日	国道453号線の歩道部分の約110の花壇のデザイン、花植等	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会	8人	羽深 久夫 那須 聖

参加日・期間	内容	主催者	参加 学生数	担当教員
平成21年6月21日、 22日	SMFワークショップ2009	札幌メディア・アート・フォーラム	10人	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年 須之内 元洋
平成21年7月～9月	市立赤平総合病院 医師確保募集ポスター制作事業 夏バージョン(ターゲットユーザマップに基づくデザイン提案)(企画・運営)	札幌市立大学	12人	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成21年7月25日	線路の灯り展インスタレーション	三笠炭鉱の記憶再生塾	11人	上 遠野 敏
平成21年7月25日	ふれあい・ハッピーサマーフェスティバル よさこい真花演舞	ふれあい	18人	守村 洋
平成21年7月30日、 31日	LCCM住宅設計部会 札幌会議	日本サステイナブルビルディング コンソーシアム	6人	斉藤 雅也
平成21年8月7日	SMF研究会	札幌メディア・アート・フォーラム	10人	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年 須之内 元洋
平成21年8月8日	グローリアホーム介護ボランティア	グローリアホーム	3人	村松 真澄
平成21年8月19日	清田老人福祉センター健康フェスタ	清田老人福祉センター	3人	村松 真澄
平成21年8月23日	「こまおか夏祭り」のポスター・チラシ作成及び当日の支援	札幌市保養センター駒岡	3人	羽深 久夫
平成21年9月 ～11月	「ウェルピアひかりの」イメージキャラクター作成	札幌市都市局	5人	上 遠野 敏
平成21年9月 ～11月	幌内布引アートプロジェクト	炭鉱の記憶推進事業団	20人	上 遠野 敏
平成21年9月12日	「けんこうフェスタ2009 in ちゅうおう」	けんこうフェスタinちゅうおう実行委員会	11人	清水 光子 須之内 元洋
平成21年9月12日	「けんこうフェスタ2009 in ちゅうおう」リーフレット及びポスター制作	けんこうフェスタinちゅうおう実行委員会	4人	福田 大年
平成21年9月12日、 13日	SMFトライアル2009	札幌メディア・アート・フォーラム	5人	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年 須之内 元洋
平成21年9月20日、 21日	第3回日本デザイン学会第一支部会関連ワークショップ「inp-act」企画・運営担当学生ならびに参加学生サポート	日本デザイン学会第一支部会	5人	細谷 多聞 福田 大年
平成21年9月26日、 27日	第4回アイアンフィルムメーカーコンテスト	札幌国際短編映画祭	10人	武田 亘明
平成21年9月26日、 27日	当日のボランティアとして会場案内や受付など	第14回日本老年看護学会	14人	村松 真澄
平成21年9月27日	第9回ロボット・トライアスロン in 札幌	ロボット・トライアスロン実行委員会	10人	三谷 篤史

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

参加日・期間	内容	主催者	参加学生数	担当教員
平成21年10月 ～12月	市立赤平総合病院 医師確保募集ポスター制作事業 秋バージョン（オンライン投票システムによるデザイン評価）（企画・運営）	札幌市立大学	5人	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成21年10月9日 ～12月21日	札幌市長グリーティングカード制作	札幌市国際部	25人	大 瀨 一 博
平成21年10月23日 ～11月10日	ウィズユーカードデザイン制作	札幌市交通局	16人	吉 田 和 夫
平成21年10月23日 ～11月10日	円山動物園活性化企画の提案	札幌市円山動物園	7人	吉 田 和 夫
平成21年10月28日 ～11月3日	札幌デザインウィーク2009ワークショップ「遊び」企画・運営	札幌デザインウィーク2009 実行委員会	20人	那 須 聖 柿山 浩一郎 福 田 大 年 須之内 元洋
平成21年11月5日 ～3月31日	授産施設木工製品開発支援	きょうされん北海道支部	20人	杉 哲 夫 小 宮 加 容 子
平成21年11月21日	第12回さっぽろ・こころの健康まつり よさこい真花演舞	さっぽろ・こころの健康まつり 実行委員会	18人	守 村 洋
平成21年11月28日 ～11月30日	（福）さっぽろひかり福祉会「ひかり工房」の札幌マルシェ出店に関する各種 デザイン制作	サッポロ・マルシェ・プロジェクト協議会	2人	福 田 大 年
平成21年12月13日	「もみじ台の地域の大広間」支援	札幌市市民まちづくり局	6人	坂 倉 恵 美 子
平成22年1月～3月	市立赤平総合病院 医師確保募集ポスター制作事業 冬バージョン（アナログ+デジタル投票システムによるデザイン評価）（企画・運営）	札幌市立大学	10人	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成22年1月10日 ～2月10日	札幌狸小路商店街15秒CMコンテスト	シアターキノ	12人	武 田 亘 明
平成22年1月16日 ～2月14日	あかりメッセージ2010さっぽろ（芸術の森工芸館）への学生作品展示	（財）札幌市芸術文化財団 （社）日本インダストリアルデザイナー協会 札幌市立大学	16人	杉 哲 夫 三 谷 篤 史
平成22年1月23日	雪明かりの祭典	札幌市南区芸術の森地区まちづくりセンター 札幌市南区 芸術の森地区連合町内会 札幌市芸術文化財団 関口雄揮記念美術館	22人	羽 深 久 夫
平成22年1月29日	SMF研究会	札幌メディア・アート・フォーラム	10人	武 邑 光 裕 武 田 亘 明 福 田 大 年 須之内 元洋
平成22年2月10日	SMFシンポジウム	札幌メディア・アート・フォーラム	10人	武 邑 光 裕 武 田 亘 明 福 田 大 年 須之内 元洋

参加日・期間	内容	主催者	参加 学生数	担当教員
平成22年2月10日	メッセージムービーサミット2010	札幌市円山動物園、北海道コカ・コーラボトリング(株)、札幌市立大学デザイン学部	29人	大 瀨 一 博
平成22年2月28日	日本教育工学会 学会ロゴマーク制作	日本教育工学会	2人	大 瀨 一 博
平成22年3月13日	北海道環境工学系卒業研究発表会 (EGG's 2010) への参加 (研究発表・企画運営)	日本建築学会北海道支部 環境工学専門委員会	9人	齊 藤 雅 也
平成22年3月19日 ～ 31日	札幌市青少年科学館ロボットコーナー リニューアルに伴う学生の作品展示	札幌市青少年科学館	14人	三 谷 篤 史

5) その他の地域貢献諸活動

参加日・期間	内容	主催者	教員名
平成21年4月 ～平成22年3月	札幌市在住の重度身体障害者への日常生活支援	札幌市立大学	須 田 恭 子
平成21年4月 ～平成22年3月	NHK教育テレビ「つくってあそぼ」造形指導	日本放送協会	石 崎 友 紀
平成21年4月～ 9月	定山溪地区アート展 企画・運営	定山溪観光協会	山 田 良
平成21年4月 ～平成21年10月	認知症対応プログラム構築・導入協力	KOBELCO グループ	スーディ神崎 和代
平成21年4月～ 11月	シャワー通り商店街 パブリックスペース設営	さっぽろシャワー通り商店街	山 田 良
平成21年4月 ～平成21年12月	小規模多機能施設 定期的にケアスタッフ会議 出席・ケア技術指導 (いばらき会)	(医)風神の湯	スーディ神崎 和代
平成21年4月 ～平成22年3月	十代の性の健康支援ネットワーク作り事業支援	日本女医会ゆいネット札幌会議	宮 崎 み ち 子
平成21年4月 ～平成22年3月	NPO法人こころ 心の健康相談	NPO法人こころ	櫻 井 蘭 子
平成21年4月 ～平成22年3月	赤平市立病院医師確保プロジェクト (調整、審査)	市立赤平病院	スーディ神崎 和代
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	子どもの心臓を守る会北海道支部 事務局協力	子どもの心臓を守る会 北海道支部	松 浦 和 代
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	学校卒業後の医療的ケアを考えようネット 研修会企画運営	学校卒業後の医療的ケアを考 えようネット	松 浦 和 代
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	札幌地区重症心身障害児 (者) を守る会 相談業務	札幌地区重症心身障害児 (者) を守る会	松 浦 和 代
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	北海道看護協会「まちの保健室」	北海道看護協会	宮 崎 み ち 子
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	2009年デザインウィーク組織運営	デザインウィーク実行委員会	吉 田 恵 介
平成21年4月30日、 7月7日、10月8日	NUDA北のユニバーサルデザイン協議会 第4回～第6回サロン (運営)	北のユニバーサルデザイン 協議会	酒 井 正 幸 柿 山 浩 一 郎 小 宮 加 容 子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

参加日・期間	内容	主催者	教員名
平成21年5月25日	NUDA北のユニバーサルデザイン協議会 通常総会（企画・運営）	北のユニバーサルデザイン 協議会	酒井 正幸 柿山 浩一郎 小宮 加容子
平成21年6月	「創造都市とブランド構築」	札幌商工会議所	武邑 光裕
平成21年6月1日 ～平成22年2月28日	札幌市円山動物園 新は虫類館（仮称）デザ インワーキング	札幌市円山動物園	斉藤 雅也
平成21年6月11日、 12日	寿都町の街づくり支援組織の運営参加	寿都町	原田 昭
平成21年6月19日 ～22日	JICE 看護学部責任者、プログラム企画、運営	札幌市立大学	スーディ神崎 和代
平成21年6月22日	JICEとのワークショップ企画・実施	札幌市立大学	スーディ神崎 和代 斉藤 雅也
平成21年7月～11月	札幌デザインウィークネット広報	NPO法人北海道デザインネッ トワーク	須之内 元洋
平成21年7月11日	北海道精神障害者回復者クラブ連合会・総会運営	北海道精神障害者回復者クラ ブ連合会	守村 洋
平成21年7月25日	ふれあい・ハッピーサマーフェスティバル	ふれあい	守村 洋
平成21年7月29日 ～7月31日	サマーアートキャンプIN江別（江別市共催）の 子どもキャンプのスタッフ	アトリエ陶	矢部 和夫
平成21年8月7日 ～10日	第36回北海道つぼみの会サマーキャンプ	北海道つぼみの会	吉川由希子
平成21年8月8日、 平成22年3月2日	グローリアホーム介護ボランティア及び研究発 表会	グローリアホーム	村松 真澄
平成21年8月19日	清田老人福祉センター健康フェスタ	札幌市社会福祉事業団	村松 真澄
平成21年8月25日	2009第5回「地球色展」パンフレットデザイン	地球色展	望月 澄人
平成21年8月30日 ～31日	Living Library in 札幌	札幌市立大学附属図書館	武邑 光裕 上遠野 敏 三谷 篤史
平成21年9月～11月	「ウェルピアひかりの」 イメージキャラクター作成協力	札幌市都市局	上遠野 敏
平成21年9月5日	文化庁 文化芸術創造都市ネットワーク会議	文化庁、都市文化創造機構	武邑 光裕
平成21年9月5日 ～9月6日	いきいき福祉2009出展 （展示パネル制作、及び現地での説明員）	いきいき福祉・健康フェア 2010実行委員会	酒井 正幸 柿山 浩一郎 小宮 加容子
平成21年9月6日	桑園大運動会支援	桑園地区連合町内会体育部	進藤 ゆかり
平成21年9月12日	「けんこうフェスタ2009 in ちゅうおう」	けんこうフェスタinちゅうおう 実行委員会	城間 祥之 清水 光子
平成21年9月17日	桑園文化祭支援	桑園地区連合町内会	進藤 ゆかり
平成21年10月 ～12月	ミュンヘンクリスマス市 イルミネーション制作協力	札幌市国際部	上遠野 敏
平成21年10月5日	北海道都市計画公聴会公述	北海道建設部	中原 宏

参加日・期間	内容	主催者	教員名
平成21年10月7日 ～平成22年3月10日	(福)さっぽろひかり福祉会 ひかり工房に対するデザイン提案	(福)さっぽろひかり福祉会	齋藤 利明
平成21年10月13日 ～平成22年1月19日	北海道ブランド・シンボルマーク作成に関する 協力	北海道経済部商工局	原田 昭 望月 澄人
平成21年10月28日 ～11月3日	札幌デザインウィーク2009 野外での遊びワーク ショップ(企画・運営)	札幌市立大学 デザイン学部	柿山 浩一郎 那須 聖 福田 大年 須之内 元洋
平成21年10月28日 ～11月9日	JICA青年研修「感染症対策・マレーシア」	研修委託機関 JICA札幌 研修受託機関 札幌市立大学 看護学部	中村 恵子 大野 夏代 松浦 和代 清水 光子 藤井 瑞恵 原井 美佳
平成21年10月28日	JICA青年研修「感染症対策・マレーシア」 CDCガイドラインに基づく感染症対策(講義)	研修委託機関 JICA札幌 研修受託機関 札幌市立大学 看護学部	スーディ神崎 和代
平成21年10月28日	札幌デザインウィーク2009 ユニバーサルデザ インフォーラム2009(企画・運営)	北のユニバーサルデザイン 協議会	酒井 正幸 柿山 浩一郎 小宮 加容子
平成21年11月2日	JICAの北海道大学歯学部見学をサポート	研修委託機関 JICA札幌 研修受託機関 札幌市立大学 看護学部	村松 真澄
平成21年11月5日 ～平成22年3月10日	特定非営利活動法人 地域活動支援センター いちょうの会に対するデザイン提案	NPO法人地域活動支援センター いちょうの会	齋藤 利明
平成21年11月5日 ～平成22年3月31日	(福)さっぽろひかり福祉会「パン工房ひかり」に 対するデザイン提案・デザイン活動のサポート	(福)さっぽろひかり福祉会	福田 大年
平成21年11月6日	JICA青年研修「感染症対策・マレーシア」 看 護系大学における感染症対策の現状と課題－臨 地看護学実習における感染症予防－(講義)	研修委託機関 JICA札幌 研修受託機関 札幌市立大学 看護学部	吉川 由希子
平成21年11月6日	JICA青年研修「感染症対策・マレーシア」 Asepsis and Infection Contorol: What and How We Teach in an Undergraduate Class(講義)	研修委託機関 JICA札幌 研修受託機関 札幌市立大学 看護学部	星 美和子
平成21年11月7日	中江病院メディカルフェスティバル	中江病院	守村 洋
平成21年11月9日 ～平成22年3月7日	NPO小樽ワークス「田上義也記念室」開設準備	NPO小樽ワークス	那須 聖
平成21年12月21日	JICA研修「南西アジア・大洋州地域IT人材育成 コース」(講義) A Research on Prototype Manufacturing of IT Appliances in Sapporo Region - A Challenge of Sapporo IT Carrozzeria -	研修委託機関 JICA札幌 研修受託機関 札幌ITフロント	城間 祥之
平成22年1月～3月	桑園地域ネットワーク会議	桑園地域交流ネットワーク	新納 美美
平成22年1月21日	全道産学官ネットワーク推進協議会	全道産学官ネットワーク 推進協議会	城間 祥之

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

参加日・期間	内容	主催者	教員名
平成22年2月1～2日	Sapporo 2 project	S-Air	須之内 元洋
平成22年2月11日	雪まつり会場における参加型プロジェクトの企画提案評価ワークショップ（企画・運営）	北のユニバーサルデザイン協議会	酒井 正幸 柿山 浩一郎 小宮 加容子
平成22年2月15日	北国の「温房」と「涼房」をデザインする	北海道旭川西高等学校サイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP2009）	斉藤 雅也

6) その他新聞・雑誌等への掲載

掲載日	内容	掲載媒体	教員名
平成21年4月	Webサイト「mosslinkage」の「Creative Focus」にインタビュー掲載	http://www.mosslinkage.com/interview/creative_focus/futaba.html	福田 大年
平成21年4月～平成22年3月	北海道新聞コラム「魚眼図」毎月連載、年12回	北海道新聞	武邑 光裕
平成21年5月4日	取材記事掲載：ネットで手軽に日記人気の「ブログ」にも要注意	北海道新聞	大 瀨 一博
平成21年5月4日	NUDAの研修会にて講演「車いすの操作サポートシステムの開発」記事掲載	北海道新聞	酒井 正幸 柿山 浩一郎 小宮 加容子
平成21年5月13日	「エゾヒグマ館 楽しみ！－円山動物園 来春完成予定」	読売新聞	片山 めぐみ
平成21年5月15日	看護教育者の眼①：実践者から基礎教育者へ	現代社 総合看護第44巻第2号	中村 恵子
平成21年5月18日	「赤平総合病院の医師確保に助力 札幌の学生がポスター」（赤平の活動）	朝日新聞	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成21年5月18日	「医師不足の市立赤平総合病院応援 体験視察会ポスター 市立大生がデザイン」（赤平の活動）	北海道新聞	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成21年5月18日	「医師募集ポスター 学生ら制作」（赤平の活動）	読売新聞	スーディ神崎 和代 柿山 浩一郎
平成21年5月20日	「雪まつり 改善策探る」（NUDAの活動）	北海道新聞	酒井 正幸 柿山 浩一郎 小宮 加容子
平成21年5月21日	さっぽろシャワー通り Anonymous Garden	北海道新聞	山田 良
平成21年6月	今日からできる口腔ケア誤嚥性肺炎の予防と口腔乾燥の緩和で快適な生活を	北海道難病連低肺の会誌第83号	村松 真澄
平成21年6月2日～平成22年3月2日	番組「飛び出せ車いす（60分）」の担当（1回/月、6月～）	三角山放送局	小宮 加容子
平成21年6月8日	北海道アートエリア（アーティスト紹介）	北海道新聞	山田 良
平成21年6月9日	歯周病 早産のリスクに＊道医療大・古市教授ら研究＊炎症性物質が引き金に＊妊娠前からのケア必要	北海道新聞	村松 真澄

掲載日	内容	掲載媒体	教員名
平成21年6月16日	NPO法人北の民家の会総会	北海道建設新聞	羽 深 久 夫
平成21年6月19日	札幌市立大学デザイン学部「景観研究会」との共同ワークショップ「都市景観ワークショップ」の紹介	北海道新聞	那 須 聖
平成21年7月1日	有病者・高齢者医療における歯科衛生士・口腔ケアメディカルスタッフの役割	DENTAL TRIBUNE	村 松 真 澄
平成21年8月9日	古民家再生事例シンポジウム	北海道新聞	羽 深 久 夫
平成21年8月11日	「赤ちゃんとお別れ 対面・抱っこで大切な時を」	北海道新聞	多 賀 昌 江
平成21年8月15日	看護教育者の眼②：新しい教育へのカリキュラムづくり	現代社 総合看護第44巻第3号	中 村 恵 子
平成21年8月15日	現代の「結婚の現場」を考える 北大で来月15日 有識者ら公開シンポジウム	朝日新聞	原 俊 彦
平成21年8月30日	STV・「24時間テレビ」出演	札幌テレビ放送	齋 藤 利 明
平成21年8月31日	Living Library in 札幌	北海道新聞	武 邑 光 裕 上 遠 野 敏 三 谷 篤 史
平成21年9月14日	現場から晩婚化を科学する	北海道新聞	原 俊 彦
平成21年9月15日	NHK・大学院教育改革支援プログラム 院生WG第1回シンポジウム「現代日本の結婚」	日本放送協会	原 俊 彦
平成21年9月17日、 18日	定山溪アート縁日	北海道新聞	山 田 良
平成21年9月23日	炭鉱遺産を芸術空間に	北海道新聞	上 遠 野 敏
平成21年10月1日	ランニングコストを考えた家づくり	リプラン北海道 Vol.86 AUTUMN & WINTER (pp.98-99)	斉 藤 雅 也
平成21年10月3日	北海道の炭鉱廃虚を空間アートに 自然との調和表現	共同通信、全国36紙に掲載	上 遠 野 敏
平成21年10月4日	炭鉱遺産アートと融合	北海道新聞	上 遠 野 敏
平成21年10月6日	子育てワンポイント 「妊娠したら①重大な体の変化、病院へ」	北海道新聞	多 賀 昌 江
平成21年10月12日	「婚活」専門家と学ぼう	北海道新聞	原 俊 彦
平成21年10月14日	NHK・まるごと北海道 幌内布引アートプロジェクト	日本放送協会北海道	上 遠 野 敏
平成21年10月16日	さっぽろ見聞録 「大学生のものづくり」テレビ放映	J：COM札幌及びWeb http://sapporo.jcommunity.net/contents/kenbunroku/backnumber/_1445.html	三 谷 篤 史
平成21年10月20日	子育てワンポイント 「妊娠したら②パートナーの心に耳傾けて」	北海道新聞	多 賀 昌 江
平成21年10月25日	NPO法人北の民家の会 国土交通省平成21年度 地域木造市場活性化推進事業採択	北海道住宅通信	羽 深 久 夫

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

掲載日	内容	掲載媒体	教員名
平成21年10月27日	子育てワンポイント 「妊娠したら③「里帰り」分娩予約確認を」	北海道新聞	多賀 昌江
平成21年10月28日	HBCテレビ番組「Hana*テレビ」で、札幌デザインウィーク2009の札幌市立大学主催ワークショップ「遊び」紹介	北海道放送	柿山 浩一郎 那須 聖 福田 大年 須之内 元洋
平成21年10月28日	NHK番組「まるごとニュース北海道」で、「札幌デザインウィーク2009 札幌デザインスイーツ」出展作品紹介	日本放送協会	福田 大年
平成21年10月30日	感染症対策に意欲ーマレーシアの医師ら12人	読売新聞	大野 夏代
平成21年10月30日	マレーシアから札幌に医療研修「感染症対策」テーマに	朝日新聞	大野 夏代
平成21年10月30日	札幌で感染症対策学ぶーマレーシアからJICA研修生	北海道新聞	大野 夏代
平成21年11月3日	子育てワンポイント 「妊娠したら④心と体準備 産む力を」	北海道新聞	多賀 昌江
平成21年11月10日	子育てワンポイント 「妊娠したら⑤出産立ち会い夫の意思尊重を」	北海道新聞	多賀 昌江
平成21年11月12日	NPO法人北の民家の会「北の民家モデル構築と普及推進プロジェクト」講習会	北海道建設新聞	羽深 久夫
平成21年11月15日	看護教育者の眼③：大学教育において実践力のある看護師育成への試み	現代社 総合看護第44巻第4号	中村 恵子
平成21年11月16日	デザイナー故森正洋氏の作品写真、スケッチなどDB化へ	佐賀新聞	須之内 元洋
平成21年11月17日	子育てワンポイント 「妊娠したら⑥出産 夫の共感が妻の支え」	北海道新聞	多賀 昌江
平成21年11月19日	NPO法人北の民家の会「北の民家モデル構築と普及推進プロジェクト」講習会	北海道建設新聞	羽深 久夫
平成21年11月23日	清华国際学術芸術・設計学術月－专访札幌市立大学校长原田昭	「芸術中国」TVインタビュー	原田 昭
平成21年11月24日	子育てワンポイント 「妊娠したら⑦陣痛のときは力を抜いて」	北海道新聞	多賀 昌江
平成21年11月25日	NPO法人北の民家の会「北の民家モデル構築と普及推進プロジェクト」講習会	北海道住宅通信	羽深 久夫
平成21年11月27日	高齢者と睡眠－寝室環境整え熟睡	読売新聞	スーディ神崎 和代
平成21年12月1日	KOBELCO NEWSNET 「認知症対応 ふるさとプログラム」	KOBELCO NEWSNET	スーディ神崎 和代
平成21年12月～	野口観光「のぐちくん」マスコットキャラクターCM、広告	道内民放各社、読売新聞、北海道新聞	上遠野 敏
平成21年12月2日	子育てワンポイント 「妊娠したら⑧産後、泣きたいときは泣いて」	北海道新聞	多賀 昌江

掲載日	内容	掲載媒体	教員名
平成21年12月10日	NPO法人北の民家の会「北の民家モデル構築と普及推進プロジェクト」講習会	北海道住宅通信	羽 深 久 夫
平成21年12月13日	食育シンポジウム2009 in さっぽろ	北海道新聞	松 浦 和 代
平成21年12月25日	NPO法人北の民家の会「北の民家モデル構築と普及推進プロジェクト」講習会	北海道住宅通信	羽 深 久 夫
平成22年1月1日	認知症対応「ふるさとプログラムユニット」	ケアライフクラブ新年号	スーディ神崎 和代
平成22年1月8日	「fruits 05」と表現活動の背景について	ICCアドバイザーコラム	望 月 澄 人
平成22年1月21日	Twitterを活用した地域活性化についての記事	北海道新聞	須之内 元洋
平成22年1月29日	介護従事者の連携強化	北海道新聞	スーディ神崎 和代
平成22年2月7日	小樽アートプロジェクト	北海道新聞	山 田 良
平成22年2月8日	「札幌市立大が公開講座－エゾヒグマ館のデザインなど円山の取り組み学ぶ」	北海道建設新聞	片山 めぐみ
平成22年2月15日	看護教育者の眼④：大学における実学	現代社 総合看護第45巻第1号	中 村 恵 子
平成22年3月1日	患者、医療現場が切望する歯科参入	DENTAL TRIBUNE	村 松 真 澄
平成22年3月5日	手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発 コメント	北海道通信日刊教育版	武 田 亘 明
平成22年3月10日	NPO法人北の民家の会「北の民家モデル構築と普及推進プロジェクト」講習会	北海道住宅通信	羽 深 久 夫
平成22年3月24日	学部連携教育（3月）	北海道新聞	酒 井 正 幸
平成22年3月26日	ケアプロフィール口腔ケア効果的取組への技術サポート	北海道医療新聞	村 松 真 澄
平成22年3月31日	団体・施設紹介 札幌市立大学看護学部	北海道の公衆衛生2010第36号 pp.81 - 86 北海道公衆衛生協会	中 村 恵 子 加 藤 登 紀 子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

2 公開講座開催実績

1) 市民セミナー・市民講座

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成21年7月2日	2009ミラノサローネに見るプロダクトデザイン	杉 哲夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	21
平成21年10月2日	一次産業発のデザインとサービス設計	梅原 真 (梅原デザイン研究所)	83
平成21年10月6日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋①】 積雪寒冷地・札幌で健康に暮らすための口腔保健	村松 真澄 (札幌市立大学 看護学部講師)	25
平成21年10月31日	地域社会・市民の命を守る救急搬送と救急医療の連携	菅原 美樹 (札幌市立大学 看護学部講師) 佐々木 靖 (札幌市消防局 救急課長)	31
平成21年11月3日	コンピュータグラフィックスと可能性	望月 澄人 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	29
平成21年11月5日	【心の健康に効くコミュニケーションのデザイン①】 対人コミュニケーションとは何か	町田 佳世子 (札幌市立大学 デザイン学部准教授)	49
平成21年11月17日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋②】 積雪寒冷地の高齢者にとって入浴習慣が抱えるリスク	羽山 広文 (北海道大学 工学研究科教授)	26
平成21年11月26日	【心の健康に効くコミュニケーションのデザイン②】 心の健康を支えるコミュニケーションの実践	新納 美美 (札幌市立大学 看護学部講師)	48
平成21年12月3日	【心の健康に効くコミュニケーションのデザイン③】 遠隔コミュニケーションツールの開発	柿山 浩一郎 (札幌市立大学 デザイン学部講師)	36
平成21年12月7日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋③】 簡単に実践できる安全で快適な入浴方法	坂倉 恵美子 (札幌市立大学 看護学部教授) 斉藤 雅也 (札幌市立大学 デザイン学部講師)	20
平成21年12月17日	【心の健康に効くコミュニケーションのデザイン④】 人を元気にするコミュニケーションデザイン	町田 佳世子 (札幌市立大学 デザイン学部准教授)	36
平成22年1月12日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋④】 冬こそ健康づくり！しなやかな重心移動で転倒予防	鈴木 英樹 (北のくらしと地域ケア研究所 所長)	55
平成22年1月22日	CGMが拓くジャパンコンテンツの未来	夏野 剛 (慶應義塾大学特別招聘教授、ドワンゴ取締役) 木本 直美 (経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課 課長補佐) 久保 壽光 (クリプトンフューチャーメディア(株)) 栗本 拓也 (有)イオシス 代表取締役) 武邑 光裕 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	99

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成22年2月7日	「さっぽろ発の動物園デザイン」 － 円山動物園における飼育展示施設デザインの 取り組み－	酒井 正幸 (札幌市立大学 デザイン学部教授) 矢部 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授) 片山 めぐみ (札幌市立大学 デザイン学部助教) 木戸 環希 (元札幌市立高等専門学校講師) 朝倉 卓也 (円山動物園飼育員) 野谷 悦子 (フリーライター)	18
平成22年2月16日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋⑤】 高齢期の回想法 － 日常生活での「回想法」の活用法－	坂倉 恵美子 (札幌市立大学 看護学部教授) 森 浩義 (エディアワークス 代表理事)	31

2) 専門セミナー・専門講座

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成21年5月8日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅰ 景観デザイン①】 景観のとらえ方と景観形成	吉田 恵介 (札幌市立大学 デザイン学部長)	25
平成21年5月16日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅰ 景観デザイン②】 地域景観保全に配慮した英国の観光事例に学ぶ	太田 広 (元在エディンバラ総領事館勤務)	17
平成21年5月16日	【訪問看護スキルアップ講座2009①】 フィジカルアセスメント講座	門脇 睦子 (社)北海道総合在宅ケア事業団 苫小牧地域訪問看護ステーション 所長)	35
平成21年5月29日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅰ 景観デザイン③】 癒しのヘルスケア環境をデザインする	長澤 泰 (工学院大学 建築学科教授)	18
平成21年5月30日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅰ 景観デザイン④】 都市景観形成の経済的価値と評価	大庭 哲治 (京都大学 大学院)	24
平成21年6月5日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅰ 景観デザイン⑤】 景観デザインと街の環境色彩	中井 和子 (中井景観デザイン研究室)	27
平成21年6月12日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅱ 環境デザイン①】 エコロジカルデザイン	矢部 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	19
平成21年6月20日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅱ 環境デザイン②】 街なか資源を活かす徒歩回遊支援システム	内田 敬 (大阪市立大学 大学院工学研究科都市系専攻准教授)	11

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 及び教育研究審議会 役員会 経営審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成21年6月30日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅱ 環境デザイン③】 日独のエコ・グリーンツーリズム	フंक・カロリン (広島大学 総合科学研究科准教授)	24
平成21年7月10日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅱ 環境デザイン④】 さるく博 環境負荷の少ない都市イベント	茶谷 幸治 (関西学院大学 社会学部)	18
平成21年7月11日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅱ 環境デザイン⑤】 都市にも循環と共生の場面に満ちた暮らしのデザインを パーマカルチャーの可能性	酒匂 徹 (NPO岩手こども環境研究所 理事)	14
平成21年8月28日	医療・看護の分野における雇用管理について	寺山 洋一 (厚生労働省 前看護職員確保対策官)	63
平成21年9月15日	臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座	河内 香久子 (治療室シーズ 院長)	42
平成21年10月23日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅲ まちのデザイン①】 史づくり：江戸時代のまちづくりとこれからの札幌の街並み	羽深 久夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	32
平成21年11月7日	臨床看護に必要な看護技術－口腔ケアと食べる支援	村松 真澄 (札幌市立大学 看護学部講師) 田中 靖代 (気の里ナーシングホーム 施設長)	72
平成21年11月13日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅲ まちのデザイン②】 道づくり：ドイツにおける新たな交通システムの取組み(share space system)	村上 敦 (在フライブルグ環境ジャーナリスト)	48
平成21年11月14日	【訪問看護スキルアップ講座2009②】 認知症ケア講座	スーディ神崎 和代 (札幌市立大学 看護学部教授)	69
平成21年12月5日	【看護サービスの質保証と評価－質の考え方とエクセルの活用－①】 看護の原点	金井 一薫 (東京有明医療大学 看護学部長、ナイチンゲール看護研究所長)	62
平成21年12月9日	【看護サービスの質保証と評価－質の考え方とエクセルの活用－②】 看護の質の指標	河野 総子 (札幌市立大学 看護学部教授)	58
平成21年12月15日	【看護サービスの質保証と評価－質の考え方とエクセルの活用－③】 データの収集	大淵 一博 (札幌市立大学 デザイン学部講師)	47
平成21年12月18日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅲ まちのデザイン③】 学づくり：栗山町と旧雨煙別小学校再生プロジェクト	中田 信広 (榊中田建築設計 代表取締役)	32
平成21年12月19日	【看護サービスの質保証と評価－質の考え方とエクセルの活用－④】 データの分析とその活用	河野 総子 (札幌市立大学 看護学部教授) 大淵 一博 (札幌市立大学 デザイン学部講師)	46

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成22年1月22日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅲ まちのデザイン④】 森づくり：北海道の森林と林業の再生プロジェクト	平井 卓郎 (北海道大学 大学院農学研究科教授)	19
平成22年2月19日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅲ まちのデザイン⑤】 地づくり：札幌市の地域プロジェクト	山田 良 (札幌市立大学 デザイン学部講師)	24
平成22年3月19日	【景観・環境・暮らしを考える－札幌まちづくり大学Ⅲ まちのデザイン⑥】 人づくり：東川町の君の椅子プロジェクトと北海道の文化	磯田 憲一 (北海道文化財団 理事長)	21

3) 学術交流協定記念特別講演会

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成21年7月21日	北京オリンピックに見る現代中国のデザイン	鄭曙暘 Zheng Shuyang (清華大学美術学院 院長)	72

4) デザイン学部・附属図書館共催 市民公開講座

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成21年7月30日	95万人の祈り －「国宝 阿修羅展」の実現－	金子 啓明 (奈良興福寺国宝館館長・東京国立博物館特任研究員・札幌市立大学非常勤講師)	32

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営協議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

3 社会における活動

デザイン学部

教員名	名称／自治体名・主催団体名
原田 昭	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市円山動物園市民会議委員長／札幌市 ・札幌医科大学6大学連携事業外部評価委員会／北海道 ・寿都街づくり交付金事業外部評価委員会委員長／寿都町 ・社団法人日本インダストリアルデザイナー協会／JIDA
吉田 恵介	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の審議会委員長／札幌市
武邑 光裕	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化人材育成委員会／経済産業省 ・創造都市さっぽろ推進会議委員長／札幌市 ・都市文化創造機構理事／都市文化創造機構 ・札幌市都心まちづくり市長特別顧問／札幌市 ・北海道商工業振興審議会委員長／北海道庁 ・地域ブランドづくりのためのデザイン・IT活用委員会委員長／北海道庁 ・Film北海道ネットワーク会議委員／北海道庁 ・芸術の森協議会会長／芸術の森協議会 ・札幌メディアアートフォーラム運営委員長／札幌メディアアートフォーラム ・札幌ビエンナーレ検討委員会／札幌ビエンナーレ実行委員会 ・全北海道広告協会協会賞審査委員長／全北海道広告協会 ・(財)デジタルコンテンツ協会 評議員／(財)デジタルコンテンツ協会 ・NPO都市文化創造機構 理事／NPO都市文化創造機構
石崎 友紀	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の森工芸部専門委員／札幌市 ・公共建築の日ポスターデザインコンテスト審査員／北海道開発局
上 遠野 敏	<ul style="list-style-type: none"> ・空知地域づくり推進委員会委員&ガイドマニアル専門部会／空知総合振興局 ・産学デザイン実験プロジェクト「野口観光」イメージキャラクター開発アートディレクター／野口観光 ・「ウエルピアひかりの」イメージキャラクター愛称選考委員会副委員長／札幌市 ・幌内布引アートプロジェクト アートディレクター／NPO法人炭鉱の記憶推進事業団 ・npo炭鉱の記憶推進事業団会員／炭鉱の記憶推進事業団 ・札幌ビエンナーレ検討委員会&コンセプト小委員会委員／札幌ビエンナーレ検討委員会
齋藤 利明	<ul style="list-style-type: none"> ・あけぼのアート&コミュニティーセンター管理運営団体選定委員会／札幌市 ・まるごとブランド化検討委員会／美唄市 ・「アール・ボックス」評議委員／札幌駅総合開発株式会社 ・「中学生向け薬物乱用防止ポスター」の作品審査委員長／札幌オーロラライオンズクラブ ・テレビ日本美術家協会 北海道支部 理事／テレビ日本美術家協会
酒井 正幸	<ul style="list-style-type: none"> ・さっぽろスタイル推進会議／札幌市 ・図書館協議会／札幌市 ・札幌市円山動物園ビオトープ協議会／札幌市 ・道新ぶんちゃん写生コンクール審査員／北海道新聞八日会札幌中央支部 ・北のユニバーサルデザイン協議会副理事長／北のユニバーサルデザイン協議会 (NUDA)
城間 祥之	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道経済産業局「北海道MOTコンソーシアム (推進協議会)」／経済産業省 ・(財)札幌市芸術文化財団評議員選定委員会／札幌市 ・北海道地域イノベーション協働体／北海道 ・NPO法人「札幌ITフロント」理事／札幌ITフロント

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

教員名	名称／自治体名・主催団体名
杉 哲夫	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌スタイルデザイン開発プロジェクト副会長／札幌市 ・地域活性化支援アドバイザー／札幌市 ・(社)日本インダストリアルデザイナー協会 アクレジット委員会委員／(社)日本インダストリアルデザイナー協会 ・札幌スタイルデザイン開発プロジェクト砂場シート開発プロジェクトリーダー／札幌市 ・三輪自転車 サンダスプロジェクト／(株)Will-E ・札幌スタイルデザイン開発プロジェクトイヤーマフ開発プロジェクト／札幌市
中原 宏	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道建築士審査会会長／北海道 ・北のまちづくり賞選考委員会委員長／北海道 ・北海道都市計画公聴会公述人／北海道 ・札幌市中高層建築物紛争調整委員会委員／札幌市
羽深 久夫	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市文化財審議会委員／札幌市 ・商店街等と連携したコミュニティビジネス事業企画提案選考委員会委員／札幌市 ・豊平館耐震補強等検討委員会委員（委員長代理）／札幌市 ・喜茂別町観光案内板選考委員会委員／喜茂別町 ・札幌市南区シーニックバイウエイ検討協議会委員／札幌市 ・札幌市南区シーニックバイウエイルート運営代表者会議委員／札幌市 ・札幌市南区シーニックバイウエイ地域づくり部会委員／札幌市 ・(財)札幌市芸術文化財団札幌芸術の森オリジナルグッズ作成委員会委員／札幌市芸術文化財団 ・札幌市南区ユニバーサルデザイン・ウォーキングマップ作成実行委員会委員長／札幌市 ・平成21年度国土交通省地域木造住宅市場活性化推進事業「北の民家モデル構築と普及促進プロジェクト」実行委員会委員長／国土交通省 ・平成21年度産学官連携支援事業「勇払郡厚真町における歴史文化創造産業創出のための産学官連携推進事業」実行委員会委員長／北海道 ・札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会委員／札幌市 ・札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議特別委員／札幌市 ・札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会委員／札幌市 ・札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会委員／札幌市保養センター駒岡 ・札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員（石山商店街振興組合理事として）／札幌市南区石山商店街振興組合 ・NPO法人北の民家の会理事長・事務局／NPO法人北の民家の会 ・NPO法人日本民家再生協会会員／NPO法人日本民家再生協会 ・NPO法人アルテピアッツァ美唄会員／NPO法人アルテピアッツァ美唄 ・芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会会員／芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会
原 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> ・国立社会保障人口問題研究所研究評価委員／厚生労働省 ・(財)北海道女性協会女性プラザ運営協議会委員／北海道
望月 澄人	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌デジタル創造プラザICCアドバイザー（入居者選定他）／札幌市産業振興財団 ・北海道ブランドデザイン部会／北海道 ・感性に訴えるIT活用コンテンツビジネス創造研究会座長／北海道情報産業クラスター・フォール ・日本APEC貿易担当大臣会合ポスター アートディレクター／2010年APEC貿易担当大臣会合北海道・札幌実行委員会
矢部 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・植生凡例検討委員会／環境省 ・釧路湿原自然再生協議会／環境省・国交省・農水省・北海道 ・美々川自然再生事業技術検討委員会／北海道 ・北海道環境審議会生物多様性保全部会／北海道 ・円山動物園の森協議会／札幌市 ・平岡公園はらっぱ会議／札幌市 ・成東・東金食虫植物群落作業部会／千葉県山武市

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会・経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

教員名	名称／自治体名・主催団体名
吉田 和夫	<ul style="list-style-type: none"> 北海道ブランド発信戦略協議会デザイン部会部会長／北海道 札幌市都市景観審議会／札幌市 広告アドバイザー会議／札幌市 札幌スタイルコンペティション実行委員会／札幌市 中央区広報PR用ロゴデザイン選考委員会／札幌市 福住シンボルマーク公募作品選考支援委員長／福住連合町内会・札幌市福住町づくりセンター SAPPOROエコデザインプロジェクト2009実行委員会／SAPPOROエコデザインプロジェクト2009実行委員会 エコデザインアワード2009作品展審査会／SAPPOROエコデザインプロジェクト2009実行委員会
武田 亘明	<ul style="list-style-type: none"> 北海道放課後子どもプラン推進委員会委員長／北海道 北海道学校支援地域本部事業運営協議会委員長／北海道 「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会委員／北海道 北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会委員長／北海道 札幌市市民情報センター指定管理者選定委員会委員長／札幌市 札幌市市民情報センターあり方検討委員会副委員長／札幌市 創造都市さっぽろ（Sapporo ideas city）グラフィックデザイン産業振興会議／札幌市 札幌国際短編映画祭「アイアン・フィルムメーカー・コンテスト」審査委員長／札幌国際短編映画祭実行委員会 札幌メディア・アート・フォーラム 副会長／運営副委員長／札幌メディア・アート・フォーラム 北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会理事／北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会 北海道札幌藻岩高等学校学校評議員／北海道札幌藻岩高等学校 札幌市立西岡小学校評議員／札幌市立西岡小学校 バーチャル雪まつり実行委員会事務局代表／バーチャル雪まつり実行委員会
張 浦華	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市円山動物園ホームページ編集委員会／札幌市
細谷 多聞	<ul style="list-style-type: none"> 札幌スタイル ブランドマネジメント委員会／札幌市 札幌スタイル デザイン開発プロジェクト／札幌市 札幌スタイル 推進会議／札幌市 札幌スタイル 認証審査委員会／札幌市 札幌市円山動物園 ホームページ編集委員会／札幌市 北海道デザインマネジメントフォーラム 理事／北海道デザインマネジメントフォーラム 北海道感性産業開発ネットワーク 事務局／北海道感性産業開発ネットワーク デザインメソッド研究会／デザインメソッド研究会 札幌市円山動物園 スノーフェスティバル 実行委員／札幌市
町田 佳世子	<ul style="list-style-type: none"> 北海道ブランド発信戦略協議会デザイン部会委員／北海道 (財)札幌市水道サービス協会評議員／札幌市 札幌家庭裁判所参与員／裁判所
柿山 浩一郎	<ul style="list-style-type: none"> 北海道ブランド発信戦略協議会デザイン部会委員／北海道 北のユニバーサルデザイン協議会企画運営委員／北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA）
小宮 加容子	<ul style="list-style-type: none"> 北のユニバーサルデザイン協議会企画運営委員／北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA）
斉藤 雅也	<ul style="list-style-type: none"> LCCM住宅研究・開発委員会LCCM住宅設計部会委員／国土交通省 BIS認定制度試験講習委員会委員／(社)北海道建築技術協会 札幌市都市局札幌市円山動物園新は虫類館新築工事に係る建築設計及び設備設計プロポーザル選定委員／札幌市 Member/Low Ex Network（The Network of the International Society for Low Exergy Systems in Buildings） 高齢者入浴問題に関する研究会／日本建築学会北海道支部特定課題研究委員会・福井県衛生研究所・お風呂ネットふくい

教員名	名称／自治体名・主催団体名
那須 聖	・札幌市都市景観審議会委員／札幌市 ・札幌南シーニックバイウエイルート運営代表者会議景観部会委員／札幌市 ・北翔大学「学び直しセミナー」教育プログラム評価委員／北翔大学
福田 大年	・札幌メディア・アート・フォーラム運営委員／札幌メディア・アート・フォーラム ・札幌アートディレクターズクラブ運営委員／札幌アートディレクターズクラブ
三谷 篤史	・ロボット・トライアスロン運営委員会委員／ロボット・トライアスロン運営委員会 ・北海道光科学技術委員会委員／北海道光科学技術委員会
山田 良	・札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会委員／札幌市 ・北欧建築デザイン協会会員／北欧建築デザイン協会
須之内 元洋	・ビエンナーレ検討委員会／ビエンナーレ検討委員会 ・札幌メディア・アート・フォーラム運営委員／札幌メディア・アート・フォーラム

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

看護学部

教員名	名称／自治体名・主催団体名
中村 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ・医道審議会保健師助産師看護師部会／厚生労働省 ・日本看護協会認定看護師制度委員長／日本看護協会 ・日本看護協会専門看護師実行委員／日本看護協会 ・日本看護系大学協議会診療行為に関連した死亡事故分析モデル事業の看護系調査員／日本看護系学会協議会
坂倉 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道建築審査会／北海道 ・札幌市介護認定審査会／札幌市 ・札幌市社会福祉協議会／札幌市 ・もみじ台まちづくり会議「地方まちづくり部会」／札幌市市民まちづくり局
樋之津 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・(独)日本学術振興会科学研究費委員会専門委員／文部科学省
松浦 和代	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度農林水産省「食育先進地モデル実証事業」実行委員会／札幌市
宮崎 みち子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道看護協会教育委員／北海道看護協会 ・生命尊重センター：エンブリオ北海道／エンブリオ北海道
大野 夏代	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市教育委員会中高一貫教育検討協議会委員／札幌市 ・北海道看護協会札幌第一支部選挙管理委員長／北海道看護協会
清水 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市地域包括支援センター運営協議会委員／札幌市 ・桑園地区民生委員・児童委員推薦準備会委員／札幌市 ・けんこうフェスタinちゅうおう実行委員会委員／けんこうフェスタinちゅうおう実行委員会 ・(福)札幌市中央区社会福祉協議会理事／札幌市 ・北海道看護協会推薦委員会委員／北海道看護協会
須田 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道看護協会一般理事／北海道看護協会
守村 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市社会福祉協議会権利擁護審査会／札幌市 ・札幌市社会福祉協議会社会福祉総合センター管理運営委員会委員長／札幌市 ・北海道精神保健福祉士協会 ・NPO法人すみれ会理事／NPO法人すみれ会 ・第12回さっぽろ・こころの健康まつり実行委員長／さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会 ・札幌市精神科救急情報センター相談員／札幌市
吉川 由希子	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)北海道看護協会 学会委員会委員／(社)北海道看護協会
菅原 美樹	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の人材養成システムの確立（看護職キャリアシステム構築プラン）ペーパーレフェリー／文部科学省高等局 ・日本看護系大学協議会診療行為に関連した死亡事故分析モデル事業の看護系調査員／日本看護系学会協議会 ・日本看護協会認定看護師実行委員会（救急看護）委員／日本看護協会
村松 真澄	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道歯科保健医療推進委員会委員／北海道 ・北海道口腔ケア研究会／北海道口腔ケア研究会 ・上川中部地域歯科保健推進協議会・旭川口腔ケア普及会幹事／上川中部地域歯科保健推進協議会 ・食コミュニケーション研究所理事／食コミュニケーション研究所
渡邊 由加利	<ul style="list-style-type: none"> ・全国助産師教育協議会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

4 非常勤講師実績

デザイン学部

教員名	大学等の名称	科目名
吉田 恵介	札幌市立高等専門学校専攻科	都市計画設計演習、環境デザイン特論Ⅱ
武邑 光裕	北海道大学大学院	アート・マネジメント論演習
石崎 友紀	札幌市立高等専門学校専攻科	近代デザイン史特論
上遠野 敏	北海道教育大学 北海道情報大学 札幌市立高等専門学校専攻科	実験芸術Ⅲ 芸術演習 修了制作
酒井 正幸	札幌市立高等専門学校専攻科	修了制作
城間 祥之	札幌市立高等専門学校専攻科	画像設計演習、修了制作
羽深 久夫	札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザイン専攻実習、建築史特論
原 俊彦	東海大学大学院 北星学園大学	人口・社会動態特論 福祉社会学
吉田 和夫	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン特論Ⅲ、修了制作
エル サニ マロアン	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン専攻実習
武田 亘明	北星学園大学 北海学園大学 札幌市立高等専門学校専攻科	ソフトウェア基礎 視聴覚教育メディア論 視覚デザイン特別演習
フィッシャー ニーナ	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン専攻実習
細谷 多聞	札幌市立高等専門学校専攻科	材料科学論、工業デザイン特別演習、修了制作
町田 佳世子	東海大学大学院	コミュニケーション特論
柿山 浩一郎	札幌市立高等専門学校専攻科	修了制作
小宮 加容子	札幌市立高等専門学校専攻科	工業デザイン専攻実習、工業デザイン特論Ⅱ
斉藤 雅也	札幌市立高等専門学校専攻科	環境設備特論
那須 聖	札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザイン専攻実習、建築構造設計特論、建築計画特論
福田 大年	北翔大学 北海道教育大学	卒業研究 デザイン史
松井 美穂	北星学園大学 北海学園大学	アメリカ小説研究AⅠ、アメリカ小説研究AⅡ 英米文学講読Ⅰ、英米文学講読Ⅱ
三谷 篤史	札幌市立高等専門学校専攻科	材料力学論、工業デザイン特別演習
山田 良	札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザイン専攻実習、建築構造設計特論、空間造形特別演習、修了制作
上田 裕文	札幌市立高等専門学校専攻科	環境保全論
片山 めぐみ	札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザイン専攻実習、建築構造設計特論、立体造形表現法特別演習、住居形態特論
須之内 元洋	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン特論Ⅰ、視覚デザイン特論Ⅱ

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

看護学部

教員名	大学等の名称	科目名
中村 恵子	自治医科大学大学院	クリティカルケア看護学講義Ⅱ
	北里大学大学院	クリティカルケア看護学Ⅰ
	青森県立保健大学大学院	救急看護学特論
	青森県立保健大学地域連携・国際センター 天使大学大学院	リーダーシップ、救急看護概論、リスクマネジメント 教育評価
加藤 登紀子	天使大学	公衆衛生看護学特論Ⅰ
	札幌医科大学	産業看護論
	札幌医科大学大学院	地域生活支援看護学特講
河野 總子	旭川医科大学	看護管理学特論
	北海道医療大学大学院	看護管理特論
坂倉 恵美子	放送大学	卒業研究
山本 勝則	島根大学医学部	成人看護学演習、成人看護学特論
守村 洋	西札幌病院附属札幌看護学校	精神看護概論Ⅰ
吉川 由希子	名寄市立大学短期大学部	小児保健Ⅰ
菊地 ひろみ	札幌医科大学	在宅看護活動論
佐藤 公美子	駒澤大学	現代経済事情Ⅲ

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

IV 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

5 専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

1) 専門職支援

開催日・期間	内容	対象者	主催者	教員名
平成21年4月25日	厚真町古民家現地再生工事解体现場見学会	建築設計・施工関係の技術者	NPO法人 北の民家の会	羽深 久夫
平成21年6月13日、 10月3日、11月9日、 11月16日、12月21日、 12月22日、 平成22年2月22日	講演会及び講習会の企画・運営	建築設計・施工関係の技術者	NPO法人 北の民家の会	羽深 久夫
平成21年10月17日 ～18日	箱館奉行所復原現場見学会	建築設計・施工関係の技術者	NPO法人 北の民家の会	羽深 久夫
平成21年10月30日	サインデザイン協会北海道支部講演会	サインデザイナー、 インテリアデザイナー	サインデザイン協会 北海道支部	山田 良
平成22年1月21日	2009年度 BIS断熱施工技術者養成講習	建築設計・施工技術者	社団法人 北海道建築技術協会	斉藤 雅也
平成22年1月27日	2009年度 BIS断熱施工技術者更新講習	建築設計・施工技術者	社団法人 北海道建築技術協会	斉藤 雅也
平成22年2月28日	古民家移築再生現場見学会	建築設計・施工関係の技術者	NPO法人 北の民家の会	羽深 久夫

2) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成21年4月2日	新人研修 「コミュニケーションとは何か」	(株)ITコミュニケーションズ	町田 佳世子
平成21年4月4日	鬼太鼓のお面制作ワークショップ	大通高校和太鼓伝統芸能部	上遠野 敏
平成21年4月29日	車いすの操作サポートシステムの開発	NUDA	小宮 加容子
平成21年5月9日	トークセッション「前田麦×Futaba：イラストレーターという仕事」	アップルストア札幌	福田 大年
平成21年5月23日	札幌芸術の森美術館ボランティアスタッフ対象講演「公共空間におけるアートプロジェクトの意義と可能性」	札幌芸術の森美術館	山田 良
平成21年6月20日、 7月4日	都市景観ワークショップ	札幌市	那須 聖
平成21年6月22日	ノボビルスク日本語青年訪問団対象講義と演習「3Dコンピュータグラフィックスの世界」	札幌市立大学	望月 澄人
平成21年6月29日	第2回南区まちづくりセンター所長勉強会「歴史的建造物を通じた南区におけるまちづくりの可能性」	札幌市南区	羽深 久夫
平成21年8月8日	厚真町の茅葺き民家について	NPO法人北の民家の会	羽深 久夫
平成21年8月8日	平成21年度新人教育プログラム2年次研修会「ポジティブなコミュニケーションが導く人間関係」	(社)北海道理学療法士会	町田 佳世子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成21年8月10日	第3回特別支援教育における情報教育研修会・実技研修会「情報創造教育～クリエイティブ市民の育成教育～」	北海道特別支援教育ICT活用プロジェクト	武田 亘明
平成21年8月11日、9月25日	プレゼンテーション基礎講座「人にわかりやすく伝えるための極意」	さっぽろ雇用創出推進協議会	柿山 浩一郎
平成21年9月15日	「日本の結婚動向と札幌市の特異性について」公開シンポジウム	北海道大学大学院文学研究科大学院教育改革支援プログラム	原 俊彦
平成21年10月1日	石狩市立緑苑台小学校PTA文化交流事業「これからつきたい子どもの力」	石狩市立緑苑台小学校父母と先生の会	武田 亘明
平成21年10月8日	緑化技術（ビオトープ）	札幌市公園緑化協会	矢部 和夫
平成21年10月9日	第15回 社会保障・人口問題基礎講座「地域人口の将来：人口減少と人口構造の変化」	(財)厚生統計協会	原 俊彦
平成21年10月13日	「独身者はどこで「出会って」いるのか？人口移動とカップリングの関係」	NPO法人 さっぽろ自由学校「遊」	原 俊彦
平成21年10月23日	平成21年度学校支援地域本部事業地域コーディネーター研修会「学校と地域の連携とコーディネーターの役割」	北海道教育委員会	武田 亘明
平成21年10月28日	平成21年度十勝地区小・中学校放送教育研究大会「メディアリテラシーの基礎基本」	十勝地区小・中学校放送教育研究会	武田 亘明
平成21年11月1日	国境を越えるデザイン	北海道インテリアプランナー協会、(株)カンディハウス	那須 聖
平成21年11月6日	「家族－今とこれからのあり方」	札幌市男女共同参画センター	原 俊彦
平成21年11月14日	みやこユニバーサルデザイン賞講演会「五感で楽しむ動物園（動物園とユニバーサルデザイン）」	京都市	酒井 正幸
平成21年11月28日	「炭鉱の遺産を掘り起こす #1赤平、#2幌内布引&妻有同行記」	CAI02	上遠野 敏
平成21年12月19日	円山動物園の森ボランティア講習会「ファールしてみませんか？」	札幌市円山動物園	酒井 正幸
平成21年12月26日	「炭鉱の遺産を掘り起こす #1赤平、#2幌内布引&妻有同行記」	岩見沢マネジメントセンター	上遠野 敏
平成22年1月8日、9日	創造都市政策セミナー「創造都市と創造産業」	文化庁、都市文化創造機構	武邑 光裕
平成22年1月29日	環境工学の視点を活かす建築のパッシブデザイン	北海道工業大学空間創造学部建築学科	斉藤 雅也
平成22年2月2日～2月23日	さっぽろ市民カレッジ2009秋冬期講座市民活動系まちづくりコース「街並探訪」	ちえりあ	那須 聖 羽深 久夫
平成22年2月25日	「札幌の都市計画と未来」（さっぽろ緑花園芸学校・市民講座）	(財)札幌市公園緑化協会	中原 宏
平成22年3月9日	札幌市立大学特別講義 クイーンズランド工科大学札幌市立大学合同シンポジウム	札幌市立大学	齋藤 利明 杉 哲夫 武邑 光裕 吉田 恵介
平成22年3月10日	ブランド開発技術研修会「実践・開発 授産施設のブランディングとは」	きょうされん北海道支部	齋藤 利明 杉 哲夫 福田 大年
平成22年3月30日	北のまちづくり賞表彰式講演「地域資源を活かしたまちづくり」	北海道建設部	中原 宏

看護学部

1) 専門職支援

① 認定看護管理者制度サードレベル教育課程

平成21年度受講者12名(修了者12名)。受講者は第Ⅰ～Ⅲ期全期間(計8週39日間)を受講。

★印：非常勤講師

開講期間	教科目／ 時間／単位	単元	講義・演習 (時間数)	講師	
第Ⅰ期(15日間) 平成21年8月24日 ～9月11日	保健医療 福祉政策論／ 30時間／2単位	社会保障の概念	講義(3)	★寺山 洋一	
		諸外国の保健医療福祉	講義(3)	スーディ神崎和代	
		保健医療福祉政策	講義(3)	★山田 雅子	
		看護制度・政策	講義・演習(6)	★丸山 知子 ★山田 雅子	
		制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	講義・演習(6)	★大田 すみ子	
		保健医療福祉政策論	演習(9)	★上田 順子 河野 總子	
	第Ⅱ期(14日間) 平成21年11月16日 ～12月4日	保健医療 福祉組織論／ 45時間／3単位	保健医療福祉サービスのマーケティング	講義・演習(6)	★松下 博宣
			地域保健医療福祉計画	講義(6)	★飯田 晃
			組織デザイン論	講義・演習(9)	★永池 京子
			ヘルスケアサービスの連携	講義(12)	★若山 登美子 ★佐々木 由紀子 中村 恵子
	第Ⅲ期(10日間) 平成22年1月18日 ～1月29日	経営管理論／ 75時間／5単位	保健医療福祉組織論	演習(12)	★児玉 真利子 ★佐々木 由紀子 河野 總子
			医療福祉と経済論	講義・演習(6)	★高木 安雄
医療福祉経営			講義・演習(12)	★徳田 禎久 河野 總子	
財務管理			講義・演習(6)	★玉川 真弓	
経営分析			講義・演習(6)	★水野 克也	
ヘルスケアサービスの経営と質管理・ 経済性			講義・演習(12)	★陣田 泰子 ★宮城 領子	
看護経営の今後のあり方			講義・演習(15)	スーディ神崎和代	
経営管理論	演習(18)	★近藤 ときえ ★今野 多美子 ★須藤 由利子 ★村田 加代子 河野 總子			

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

開講期間	教科目／時間／単位	単元	講義・演習(時間数)	講師
第Ⅰ期(15日間) 平成21年8月24日 ～9月11日	経営者論／ 30時間／2単位	経営者論	講義(6)	中村 恵子
		管理者の倫理的意思決定	講義(6)	★石垣 靖子 中村 恵子
		起業家論	講義(6)	★原田 典子
		経営者論演習1	演習(6)	★武田 洋子 ★西川 優子 ★松田 久代 河野 總子
第Ⅱ期(14日間) 平成21年11月16日 ～12月4日	経営者論／ 30時間／2単位	経営者論演習2	演習(6)	★武田 洋子 ★西川 優子 ★松田 久代 河野 總子
※その他／ 30時間		開講式・終講式、ガイダンス、全体会、小論文プレゼンテーション、情報文献検索、プレゼンテーション講評、課題演習(交渉術)、レポート作成、特別講義		

② その他

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成21年4月 ～平成22年3月	北海道大野病院看護部教育支援	北海道大野病院看護職	北海道大野病院	太田 晴美
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	研究教育支援活動	看護職	札幌徳洲会病院	吉川 由希子 菊地 ひろみ 村松 真澄 照井 レナ 河村 奈美子
平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	心臓血管センター北海道大野病院研修「看護研究」	看護師	北海道大野病院	松浦 和代
平成21年4月17日	簡単に効果的な口腔ケア	看護師	浜松医大病院 看護部	村松 真澄
平成21年5月8日	KKR札幌医療センター「実習指導者研修会」	看護師	KKR札幌医療センター	松浦 和代
平成21年5月9日	市立室蘭総合病院 看護研究講義	看護職	市立室蘭総合病院	吉川 由希子
平成21年5月15日	高齢者事業の質－終焉を看取る	看護師、管理者、介護福祉士	神鋼ケアライフ社	スーディ神崎 和代
平成21年5月21日 ～23日	北海道看護協会「臨床における看護研究の基礎研修会」	看護職	(社)北海道看護協会	吉川 由希子
平成21年5月23日	北星学園大学社会福祉学部FD「札幌市立大学のOSCEについて」	北星学園大学社会福祉学部教員	北星学園大学	守村 洋
平成21年5月23日	札幌シニア福祉機構・介護者自身のストレスマネジメント	介護職	札幌シニア福祉機構	守村 洋
平成21年5月27日	北海道看護協会「臨地実習指導者研修会」	看護職	(社)北海道看護協会	松浦 和代

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成21年6月～10月	看護過程研修	看護職	札幌南一条病院	星 美和子
平成21年6月～2月	看護研究指導	看護職	市立札幌病院	佐藤 公美子 星 美和子
平成21年6月11日	臨床看護研究支援	看護師	札幌中央病院 看護部	内田 雅子
平成21年6月18日 ～20日	北海道看護協会「臨床における看護 研究の基礎研修会」	看護職	(社)北海道看護協会	吉川 由希子
平成21年6月23日	高齢者の口腔ケア	看護師	西成病院看護部	村松 真澄
平成21年6月25日	リーダーシップ	認定看護師受講者	青森県立保健大学	中村 恵子
平成21年6月26日、 7月9日	救急看護概論	認定看護師受講者	青森県立保健大学	中村 恵子
平成21年6月26日	認知症の遅延策	看護師、管理者、 介護福祉士	エレガーノ甲南	スーディ神崎 和代
平成21年6月28日、 10月24日、12月5日、 12月6日	救急看護師の役割	看護師	日本救急看護学会	中村 恵子
平成21年7月2日	リスクマネジメント	認定看護師受講者	青森県立保健大学	中村 恵子
平成21年7月3日	ファーストレベル講義「看護管理概説」	看護職	青森県看護協会	中村 恵子
平成21年7月14日	高齢者の口腔ケア	看護師	中空知地域看護職 員連携推進会	村松 真澄
平成21年7月14日	北海道大野病院看護部院内急変対応 コース	北海道大野病院看護職	北海道大野病院	太田 晴美 測本 雅昭
平成21年7月16日、 8月6日、10月2日	IMSグループ看護部新卒入職者面談	看護師	IMSグループ病院	大野 夏代
平成21年7月25日	がん患者の口腔ケア	看護師	札幌医科大学 看護部	村松 真澄
平成21年8月8日	高齢者の口腔ケアについて	看護師	日高町立 門別国民保険病院	村松 真澄
平成21年8月25日、 10月27日	看護師研修会 看護過程	看護職	北海道大野病院	渡邊 由加利
平成21年8月27日	札幌市在宅福祉サービス協会・南区 ホームヘルパー研修会	介護職	札幌市在宅福祉 サービス協会	守村 洋
平成21年9月1日、 3日	平成21年度保健師助産師看護師実習 指導者講習会「看護過程」第3・4回	看護職	北海道保健福祉部	内田 雅子
平成21年9月4日	摂食・嚥下障害を助ける口腔ケア	医療従事者	(福)北海道ハピネス	村松 真澄
平成21年9月25日、 10月9日、23日、30日	看護過程研修	看護師	札幌中央病院	菅原 美樹 測本 雅昭 工藤 京子
平成21年9月29日	研修会講師「保健師に期待される役割」	保健師	札幌市保健所	中村 恵子
平成21年9月29日	保健師にとっての地区活動	保健師	札幌市保健所	保田 玲子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成21年10月3日	教員FD「学生の実践力育成と教育力向上のためのOSCEの取組」	日本赤十字 広島看護大学教員	日本赤十字広島看護大学	中村 恵子
平成21年10月19日	口腔ケアに関する知識・技術を学び、患者に合わせた口腔ケアが実践できる	看護師	砂川市立病院 看護部	村松 真澄
平成21年10月20日	平成21年度看護師救急医療業務実地修練-合同研修講義「救急患者への対応とトリアージ」	看護師	(独)国立病院 機構研修センター	中村 恵子
平成21年10月20日	呼吸療法口腔ケアについて	看護師	北海道大野病院看護部	村松 真澄
平成21年10月24日	「口腔ケアと摂食嚥下リハビリテーション研修会」	看護師	(社)北海道看護協会	村松 真澄
平成21年10月28日	北海道社会福祉協議会・講演「高齢者のうつ」(養護老人ホーム・経費老人ホーム・ケアハウス合同勉強会)	介護職	北海道社会福祉協議会	守村 洋
平成21年11月4日、5日	2009年度研修 No.56 看護研究4クリティーク	看護職	(社)大阪府看護協会	内田 雅子
平成21年11月7日	「看護研究における統計の基礎」	看護職	北海道救急・集中看護研究会	神島 滋子
平成21年11月9日	北海道大野病院看護部院内急変対応コース	北海道大野病院看護職	北海道大野病院	太田 晴美 本 雅昭
平成21年11月12日	認知症ケア従事者にもとめられるもの	保健師、看護師、 介護福祉士	日本認知症グループホーム協会	スーディ神崎 和代
平成21年11月13日	中堅看護師のためのリーダーシップ研修	看護職	大野病院	星 美和子
平成21年11月14日、15日	第34回医学教育セミナーとワークショップ「看護学教育におけるOSCEの取り組みと模擬患者養成」	医療職	岐阜大学医学部 医学教育開発センター (MEDC)	中村 恵子 坂倉 恵美子 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 須田 恭子 吉川 由希子 杉田 久子 藤井 瑞恵 渡邊 由加利 本 雅昭 三上 智子 鶴木 恭子
平成21年11月15日	「食べることを支える」	看護職	日本脳神経看護研究学会北海道地方部会	神島 滋子
平成21年11月16日	「高齢者の特性を理解する」	看護師	市立札幌病院 看護部	坂倉 恵美子
平成21年11月24日	認知症ケア従事者にもとめられるもの	保健師、看護師、 介護福祉士	日本認知症グループホーム協会	スーディ神崎 和代

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成21年11月30日	日本産業衛生学会北海道地方会産業看護部会 平成21年度産業看護研修会（企画・運営）	看護職	日本産業衛生学会北海道地方会産業看護部会	櫻井 蘭子
平成21年12月	研修会「看護実践能力育成に向けた看護実践」	看護師	日本看護学校施設協議会	中村 恵子
平成21年12月1日	病棟の看護研究で使う看護統計学	看護師	札幌徳洲会病院看護部	村松 真澄
平成21年12月2日、3日	「訪問看護師養成講習」	訪問看護師	社北海道看護協会	菊地 ひろみ
平成21年12月3日	糖尿病療養指導の評価：事例検討入門－看護実践の評価と洗練のために	看護師	大阪大学医学部附属病院	内田 雅子
平成21年12月4日	「いきいきと輝きながら働くために」	釧路地方の看護師・保健師・ヘルパー・ケースワーカー	(福)ハート釧路	新納 美美
平成21年12月4日	認知症ケア従事者にもとめられるもの	保健師、看護師、介護福祉士	日本認知症グループホーム協会	スーディ神崎 和代
平成21年12月4日	研修会「札幌市立大学におけるOSCE：課題調整・遠泳を中心に」	看護実践キャリア開発センター職員	京都府立医科大学看護学科・病院	中村 恵子
平成21年12月5日	これからの介護保険施設等における看護リーダー研修会 看護リーダー看護の機能を発揮するために「口腔ケアと摂食嚥下」	看護師	社北海道看護協会	村松 真澄
平成21年12月19日	研修会講師「救急看護認定看護師の将来展望」	看護師	日本看護協会	中村 恵子
平成22年1月9日	教員FD「OSCEとSP養成」	日本赤十字広島看護大学教員	日本赤十字広島看護大学	中村 恵子
平成22年1月9日	日本赤十字広島看護大学FD研修会「本学における模擬患者養成の実践について」	看護教員	日本赤十字広島看護大学	渡邊 由加利
平成22年1月21日、25日	ファーストレベル講義「看護管理概説」	看護職	北海道看護協会	中村 恵子
平成22年1月29日	帯広市・平成21年度自殺予防対策講演会	看護師・保健師	帯広市	守村 洋
平成22年2月13日	第1回老いと病の文化研究会～高齢者の認知症を考える～	看護師	NPO法人老いと病の文化研究所われもこう	山本 勝則
平成22年2月22日～3月26日	北海道看護研究学会に係る研究指導	看護職	北海道看護協会	吉川 由希子
平成22年3月4日	NST講演会「口腔ケア」	医療従事者	旭川市立病院	村松 真澄
平成22年3月6日	口から食べられる理想に向かって－高齢者の口腔ケアについて	医療従事者	北海道医療大学同窓会	村松 真澄
平成22年3月18日	札幌市・自殺予防対策講演会	看護師・保健師	札幌市	守村 洋

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

2) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教 員 名
平成21年5月18日	今日からできる口腔ケア－誤嚥性肺炎の予防と口腔乾燥の緩和で快適な生活を	北海道難病連低肺の会	村松 真澄
平成21年5月19日	「ママさん教室」および「すこやか子育て支援」の講師 演題「知っておきたい子どもの応急手当」	千歳市教育委員会	菅原 美樹
平成21年6月3日	北海道社会福祉協議会・生きがいクリエイター養成講座「集団心理」	北海道社会福祉協議会	守村 洋
平成21年6月4日	札幌市社会福祉協議会・ボランティア研修センター講演会「メンタルヘルスのススメ」	札幌市社会福祉協議会	守村 洋
平成21年7月25日、11月22日、12月26日、27日	American Heart Association Basic Life Support Healthcare Provider Course	American Heart Association	湊本 雅昭
平成21年9月5日	「いまここからはじめる職場のメンタルヘルス」	自治労北海道留萌地方本部	新納 美美
平成21年9月11日	ボランティア研修セミナー アニマル・セラピー	(福)札幌市社会福祉協議会	河村 奈美子
平成21年9月19日	札幌市精神障害者家族会・精神療養講座「精神看護の実践」	札幌市精神障害者家族会	守村 洋
平成21年10月5日	「いまここからはじめる職場のメンタルヘルス ひとりひとりのセルフケア」	自治労赤井川村職員組合	新納 美美
平成21年10月16日	ドマーニ神戸認知症特別ユニットオープニング記念講演「認知症をケアする－その人を中心に、最後まで」	KOBELCOグループ	スーディ神崎 和代
平成21年10月22日～23日	訪問看護師養成講座「対象者論」	北海道看護協会	スーディ神崎 和代
平成21年11月4日	介護予防教室「札幌で健康に暮らすための口腔保健」	札幌市社会福祉事業団	村松 真澄
平成21年11月14日、15日	第34回医学教育セミナーとワークショップ 看護教育におけるOSCEの取り組みと模擬患者養成	岐阜大学医学教育開発研究センター（共催 札幌市立大学教育GP）	渡邊 由加利
平成21年12月1日	新琴似北中学校総合学習「進路を考えるとときに～10代へのメッセージ」	新琴似北中学校	太田 晴美
平成22年1月29日	平成21年度第2回中央区接遇・サービスアップ研修「コミュニケーションの二面性とずれの解消」	札幌市中央区	山本 勝則
平成22年2月9日、10日	認定看護管理者研修「看護の質評価」	北海道看護協会	河野 總子
平成22年2月10日	西区西野地区福祉のまち推進センター出張研修会・「メンタルヘルスのススメ」	札幌市社会福祉協議会	守村 洋
平成22年2月27日	卒業生の成熟とコーティング	3病院連携研修	河野 總子
平成22年2月27日	平成21年度株式会社えがお社内介護実践報告会	(株)えがお	山本 勝則
平成22年3月22日	「心のメンテナンスと危機管理 ころの健康を維持しSOSに気づくために」	初山別村	新納 美美

6 国際交流実績

年月日	内容	
平成21年6月22日	受入	インドからJICE「21世紀東アジア青少年大交流会」参加者（20名）及び引率者（2名）が来学、デザイン及び看護学に関するワークショップと交流会を実施
平成21年7月9日	受入	ロシア・ノボシビルスク市から日本語青年団が来学（4名）、デザイン学部教員によるレクチャー及び施設見学
平成21年7月18日 ～ 22日	受入	中国・清華大学美術学院から、学術交流協定締結のため関係者が来学（2名）、調印式及び記念講演会を開催
平成21年8月5日	受入	デザイン学部において、台湾・雲林科技大学から情報交換及び交流のため学生（22名）と教員（5名）を受入
平成21年8月11日 ～ 14日	受入	デザイン学部において、台湾・華梵大学から学生交流ワークショップ開催のため学生（8名）と教員（2名）を受入
平成21年10月28日 ～ 11月9日	受入	看護学部において、JICA保健医療／感染症対策研修員（マレーシア）を受入（12名）
平成21年11月22日 ～ 25日	派遣	招待講演及び学術交流の打合せのため、中国・清華大学美術学院訪問（教員2名）

7 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	49	1	50
会議	170	11	181
学会・研究会等	44	0	44
その他	21	0	21
合計	284	12	296

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

V キャリア支援活動

1 デザイン学部

1) 概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的として、平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議（毎月1回程度）において学生への支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

平成20年4月にはキャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制を開始した。また、キャリア支援室は、後援会からの支援により、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成21年5月には就職相談員1名を配置し、木目細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績については、下記のとおりである。

4年生（1期生）への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職相談員を配置（平成21年5月） ・個別指導（就職相談、面接対策、履歴書対策など）（平成21年5月～） ・学内企業説明会（平成21年11月） ・求人情報の提供（掲示、メール）
3年生（2期生）への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援室の開設（平成21年4月） ・キャリアガイダンス（平成21年4月～平成22年1月） ・就職応援ハンドブックの作成、配布（平成21年4月） ・進路希望調査（平成21年10月） ・学内企業説明会（平成21年12月） ・求人情報の提供（掲示、メール）
就職先の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問（PR活動、求人開拓）（平成21年8月～平成22年2月） ・企業向けパンフレット作成・発送（平成21年8月）
後援会からの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン系就職講話（平成21年10月） ・履歴書用証明写真撮影補助（平成22年1月） ・就職先開拓支援（平成21年8月～）

2) 支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、本委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局（学生課学生支援係、就職相談員）によって行われている。主な役割分担として、事業の企画・運営は本委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援係が、学生相談のうち専門分野に関わることはゼミ担当教員が、就職活動全般に関わることはキャリア支援センター配属の就職相談員及び学生支援係がそれぞれ行っている。

3) 就職・進学結果
平成22年3月卒業生（1期生）

<p>就 職</p>	<p>■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業など） アトリエタイク(株)、(株)インサイト、(株)オズ（2）、須田建築設計事務所、(株)ニトリパブリック、ノースウインメディア(株)、NPO法人 hip-a（2）、(株)ビックバンプロジェクト（漫画家島本和彦氏プロダクション）、(株)フラミンゴ・スタジオ、(有)文平銀座</p> <p>■情報通信業（放送、ゲームソフト、インターネット関連、映像制作など） ウェブクリエーション(株)、(株)エイチ・アイ・デイ、(株)エイベック研究所（5）、(株)SPフォーラム、NTTコムテクノロジー(株)、(株)共同テレビジョン、クリプトン・フューチャー・メディア(株)、(株)デーコム、(株)DCアーカイブズ、北海道日興通信(株)、起業（映像制作ユニット）</p> <p>■製造業（印刷、食品など） (株)いたがき、エステー(株)、極東高分子(株)、(株)ケイシイシイ（LeTAO）（2）、(株)須田製版、松原産業(株)、(株)柳月、(株)ロイズコンフェクト</p> <p>■卸売業、小売業 (株)ジュンテンドー、(株)セイコーマート、長谷川産業(株)（スイートデコレーション）（2）、ハミューレ(株)、(株)北海道ライフデパートメント、(株)ユナイテッドアローズ、(株)良品計画（無印良品）</p> <p>■公務、芸術・文化団体 (財)札幌市芸術文化財団、札幌市役所（技術職：建築）、札幌市役所（事務職）、東京都江戸川区（技術職：土木造園）、北海道警察、盛岡市役所（技術職：建築）</p> <p>■宿泊業、飲食サービス業 (株)グランビスタ ホテル&リゾート（札幌グランドホテル）、(株)サイゼリア、ワタミ(株)</p> <p>■建設業 飯田ウッドワークシステム(株)、(株)熊谷組</p> <p>■金融業、保険業 (株)北海道銀行</p> <p>■運輸業、郵便業 日本郵政グループ（郵便事業(株)、札幌三信倉庫(株)</p> <p>■その他サービス業 起業（ネイルサロン）、公立大学法人札幌市立大学（臨時職員）</p>
<p>進学</p>	<p>札幌市立大学大学院（13）、札幌市立大学研究生（4）、千葉大学大学院（2）、北海道大学大学院（4）</p>

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

IV 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

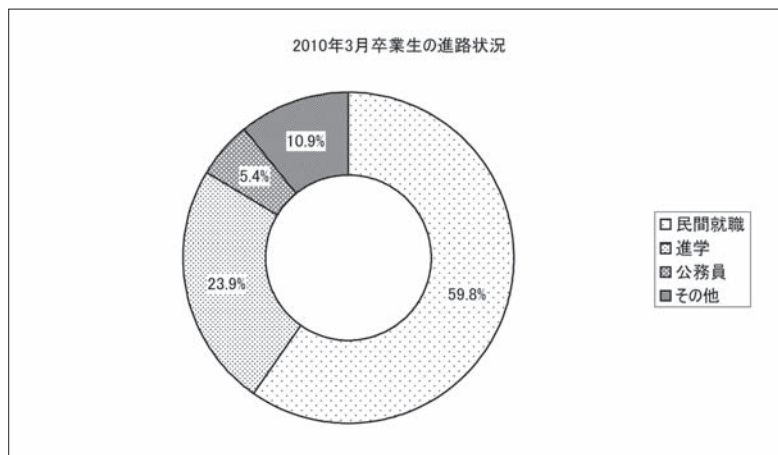
IX 学内運営の概要

X 資料

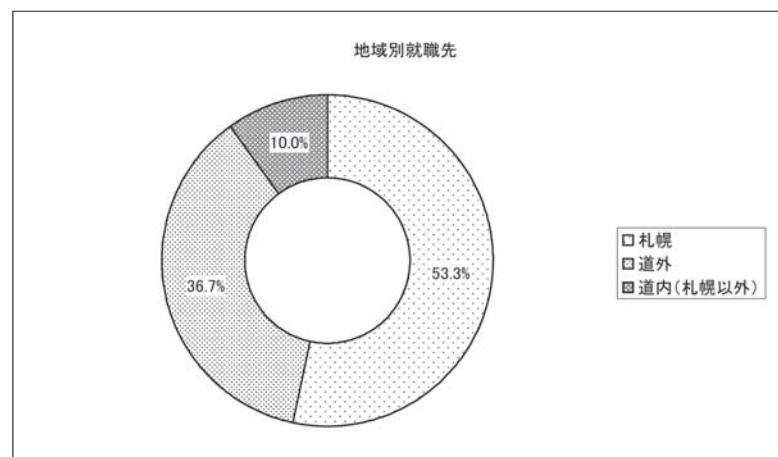
(1期生)

札幌市立大学デザイン学部 2010年3月卒業生 就職状況

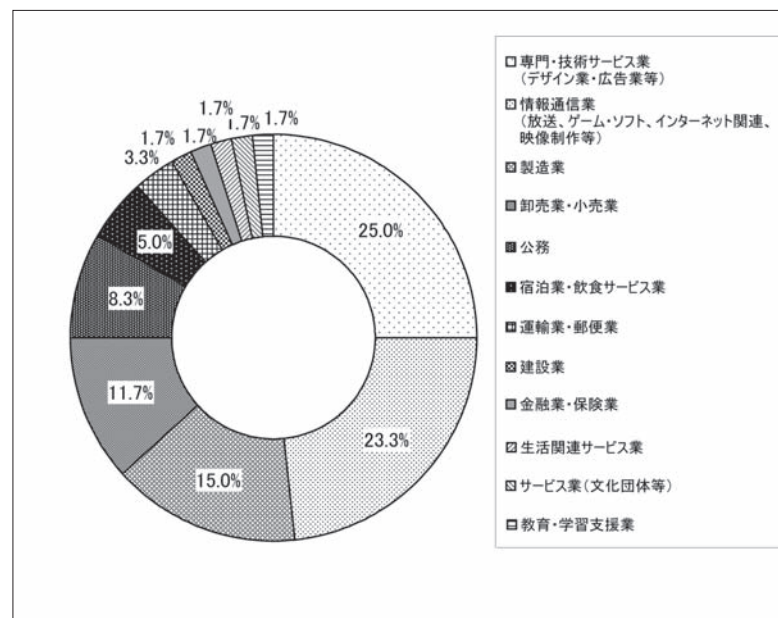
進路状況	人
民間就職	55
進学	22
公務員	5
その他	10
合計	92



地域別就職先	人
札幌	32
道外	22
道内(札幌以外)	6
合計	60



産業分類別就職先	人
専門・技術サービス業 (デザイン業・広告業など)	15
情報通信業 (放送、ゲーム・ソフト、インターネット関連、映像制作など)	14
製造業	9
卸売業・小売業	7
公務	5
宿泊業・飲食サービス業	3
運輸業・郵便業	2
建設業	1
金融業・保険業	1
生活関連サービス業	1
サービス業(文化団体等)	1
教育・学習支援業	1
合計	60



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

(1期生)

札幌市立大学デザイン学部 2010年3月卒業生 進路決定状況 (概要)

1. コース別進路状況

コース	在籍者①	1. 就職希望		内定者(起業含)※1		2. 非就職希望			進学先決定者※3⑦	3. 併願就職・進学
		②	内公務員志望	③	内公務員	④(⑤+⑥)	進学希望⑤	その他※2⑥		
空間	25	14	3	12	3	11	10	1	10	0
製品	14	7	-	7	-	7	6	1	6	0
コンテンツ	18	13	-	11	-	5	5	0	5	0
メディア	35	31	2	30	2	4	2	2	2	0
合計	92	65	5	60	5	27	23	4	23	0
割合	100%	70.7%	5.4%	92.3%	-	29.3%	25.0%	4.3%	100%	0%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷①	⑥÷①	⑦÷⑤	

(備考)

※1: 就職希望者に対する内定者の割合

※2: 非就職希望のうち、進学希望以外の者(アーティスト志望や公務員浪人など、将来的な就職(フリーランス、起業含む)に関する進路選択をした者)

※3: 進学希望者に対する進学先決定者の割合

○参考:

平成21年度大学など卒業予定者の就職内定状況調査(平成22年4月1日現在)[厚生労働省]

・大学の就職内定率[全国] 91.8%(前年同期39ポイント減)

・大学の就職内定率[北海道・東北] 89.3%(〃 20ポイント減)

2. 内定先の内訳(市内28社32人、道内5社6人、道外16社20人)

コース	道内企業(札幌市内含む)(本社所在市)	道外企業
空間	飯田ウッドワークシステム㈱[札幌](サッシ設計) ㈱ケイシイシイ(ルタオ)[道内](菓子製造販売) 札幌三信倉庫㈱[札幌](運輸業) 札幌市(技術:建築)[札幌](公務員) ノースウインメディア㈱[札幌](広告代理店) ハセガワグループ(長谷川産業㈱)[札幌](家具等製造・販売)2人	㈱熊谷組(ゼネコン) ㈱サイゼリア(飲食店) ㈱ジュンテンドー(生活用品販売) 東京都江戸川区[技術:造園](公務員) 盛岡市役所(公務員)
製品	㈱いたがき[道内](革製品製造) ㈱グランビスタホテル&リゾート(札幌グランドホテル)[札幌](ホテル) ㈱ケイシイシイ(ルタオ)[道内](菓子製造販売) 助札幌市芸術文化財団[札幌](団体) ハミューレ㈱[札幌](衣料品製造販売) ㈱北海道ライフデパートメント[札幌](卸売・小売:野菜・食品) ㈱柳月[道内](菓子製造販売)	
コンテンツ	㈱エイチ・アイ・デイ[札幌](STV系列/情報通信業) ㈱オズ[札幌](デザイン事務所) 極東高分子㈱[道内](印刷、パッケージデザイン) ㈱DCアーカイブズ[札幌](WEBコンテンツ企画・デザイン) 北海道日興通信㈱[札幌](情報通信) ㈱ビックバンプロジェクト(漫画家島本和彦氏プロダクション) [札幌](アシスタント) 起業[札幌](ネイルサロン) 起業:フリーランス映像ユニット[札幌](映像制作)	アトリエタイク㈱(デザイン事務所) エステー㈱(日用品製造) ㈱デーコム(情報通信業)
メディア	㈱インサイト[札幌](広告代理店) ウェブクリエーション㈱[札幌](WEBコンサルティング) ㈱オズ[札幌](デザイン事務所) クリプトン・フューチャー・メディア㈱[札幌](ソフトウェア開発) 札幌市(事務)[札幌](公務員) 札幌市立大学臨時職員[札幌](大学事務) 須田建築設計事務所[札幌](設計) ㈱須田製版[札幌](印刷・広告) ㈱セイコーマート[札幌](コンビニ事業) ㈱ニトリパブリック[札幌](広告代理店) 日本郵政グループ(郵便事業㈱)[札幌](運輸・郵便) NPO法人 h.i.p-a[札幌](デザイン事務所) ㈱北海道銀行[札幌](金融) 北海道警察[札幌](公務員) 松原産業㈱グラフィックスプリント事業部[道内](印刷) ㈱ロイズコンフェクト[札幌](菓子製造販売)	㈱エイバック研究所(経営コンサルティング事業)5人 ㈱SPフォーラム(経営コンサルティング事業) N T Tコムテクノロジー㈱(情報通信業) ㈱共同テレビジョン(番組制作) ㈱文平銀座(デザイン事務所/ブックデザイン) ㈱ユナイテッドアローズ(アパレル) ㈱良品計画(無印良品/札幌)(雑貨販売) ワタミ㈱(飲食店、介護事業) ㈱フラミンゴ・スタジオ(デザイン事務所)
小計	33社 39人	17社 21人
合計	50社 60人	

3. 進学状況（大学院19人／研究生5人）

空間	大学院	北海道大学大学院工学研究科（1人）、札幌市立大学大学院デザイン研究科（7人）	8
	研究生	札幌市立大学研究生（2人）	2
製品	大学院	千葉大学大学院工学研究科（2人）、北海道大学大学院環境科学院（1人）、札幌市立大学大学院デザイン研究科（2人）	5
	研究生	札幌市立大学研究生（1人）	1
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院デザイン研究科（4人）	4
	研究生	札幌市立大学研究生（1人）	1
メディア	大学院	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院（2人）	2
	研究生	札幌市立大学研究生（1人）	1
合計		大学院 19人 研究生 5人	24

2 看護学部

1) 概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部におけるキャリア支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取り組みを軸に、次のような活動計画を定めた。①看護学部キャリア支援室の整備、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリアハンドブックの編纂、④看護学部キャリア支援ガイダンスの実施、⑤進路相談日の定期化、⑥各種就職説明会の開催、⑦国家試験自主ゼミの組織化。

これらの活動は、学生のニーズに合う内容であること、キャリア支援として学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭におき、進路希望調査の結果や進路相談における学生の声を重視し、これらを十分に反映させながら実施に努めている。

2) 支援体制

看護学部キャリア支援委員6名により、次のとおり年間活動及び週2回の進路相談を行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、月1回自主ゼミリーダー会議を行った。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

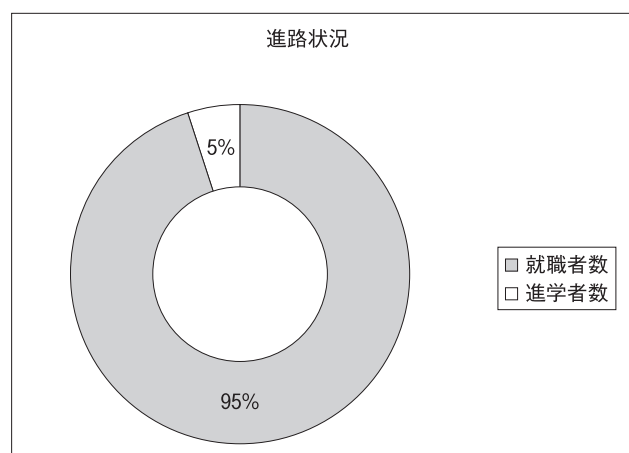
月	4年次生	3年次生
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期ガイダンス ・国家試験受験ガイダンス ・第1回進路希望調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期ガイダンス ・キャリアハンドブック配布
5月		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス ・看護師模擬試験 	
7月		
8月		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・後期ガイダンス ・看護師模擬試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期ガイダンス ・第1回進路希望調査
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策自主ゼミ結成 ・公務員受験希望者ガイダンス
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師模擬試験 ・保健師模擬試験 ・再学修セミナー（6週間） ・国家試験受験願書説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市公務員受験希望者ガイダンス
12月		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師模擬試験 ・再学修セミナー（2週間） ・看護師模擬試験 ・保健師模擬試験（2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師就職説明会 ・助産師課程進路説明会
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・学内就職説明会 ・低学年用国家試験模擬試験
3月		

3) 就職・進学の結果

① 進路状況

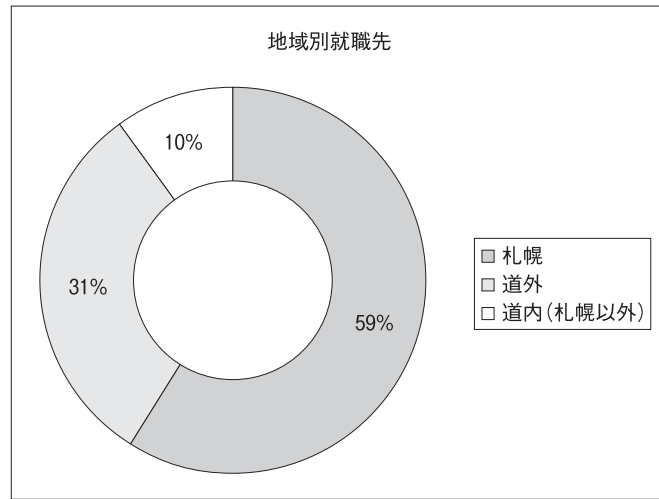
(単位：人)

	在籍数	進学者数	就職者数	内定率
学生数	87	4	83	100%
(うち編入学)	8	0	8	100%



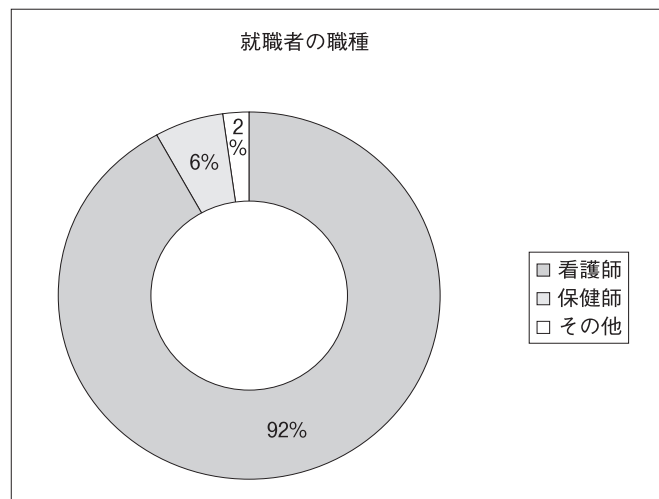
② 地域別就職先

地域別就職先	人
札幌	49
道外	26
道内（札幌以外）	8
合 計	83



③ 就職者の職種

就職者の職種	人
看護師	76
保健師	5
その他	2
合 計	83



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営協議会
及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

Ⅵ 平成22年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果していくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探求心を持って、柔軟に物事を考え、自主的・意欲的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、地域に根ざした医療に貢献する意志と責任感を備えた人

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会
及び教育研究
経営審議会
看護委員会

IX
学内運営の概要

X
資料

② 平成22年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

(単位：人)

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80	54	14	12	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80	48	-	32	若干名	-

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成21年11月2日 ～ 11月6日	平成21年11月21日	平成21年12月4日 【入学手続期間】 平成21年12月4日 ～ 12月10日
	私費外国人留学生(※)	平成22年1月25日 ～ 2月3日	平成22年2月25日	平成22年3月8日 【入学手続期間】 平成22年3月8日 ～ 3月15日
一般選抜	前期日程	平成22年1月25日 ～ 2月3日	平成22年2月25日	平成22年3月8日 【入学手続期間】 平成22年3月8日 ～ 3月15日
	後期日程(※)	平成22年1月25日 ～ 2月3日	平成22年3月12日	平成22年3月23日 【入学手続期間】 平成22年3月23日 ～ 3月27日

(※)は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	一般選抜	一般選抜	デザイン学部 デザイン学科
看護学部 看護学科			

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等
		教科	科目名等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地歴公民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政経」から1科目	
		数学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から1科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
	後期日程	国語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数学	「数Ⅰ・数A」	
看護学部 看護学科	前期日程	国語	「国」（古文・漢文を含む。）	面接
		数学	「数Ⅰ・数A」	
		理科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から2科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

③ 平成22年度3年次編入学者選抜概要

募集人員

学部・学科名	募集人員
デザイン学部デザイン学科	20人
看護学部看護学科	10人

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科	平成21年6月23日 ～ 6月30日	平成21年7月25日	芸術の森キャンパス	平成21年8月5日 【入学手続期間】 平成21年8月5日 ～ 8月11日
看護学部 看護学科	平成21年8月13日 ～ 8月19日	平成21年9月12日	桑園キャンパス	平成21年9月29日 【入学手続期間】 平成21年9月29日 ～ 10月7日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	54	164	158	60	58
	後期日程	14	180	98	14	12
特別選抜	推薦入学	12	38	38	12	12
	社会人	若干名	1	1	0	0
	私費外国人留学生	若干名	2	2	1	1

看護学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	141	138	48	47
特別選抜	推薦入学	32	90	90	32	32
	社会人	若干名	35	35	3	3

b. 入学者の内訳

(単位：人)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	83	35	39	9	18	65
看護学部	82	42	37	3	11	71
合計	165	77	76	12	29	136

② 編入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：人)

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間	20	7	6	3	3
	製品		3	3	2	1
	コンテンツ		4	4	3	3
	メディア		7	7	3	3
	計	20	21	20	11	10
看護学部		10	28	28	11	9

b. 入学者の内訳

(単位：人)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	10	5	0	5	4	6
看護学部	9	4	5	0	1	8
合計	19	9	5	5	5	14

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

2 大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科 修士課程

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科】

本研究科は、地域社会全体に内在するさまざまな課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化などの振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりとする。

<デザイン研究科の求める学生像>

- 1 デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
- 2 各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科】

本研究科では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、さまざまな形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりとする。

<看護学研究科の求める学生像>

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

② 平成22年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：人)

研究科・専攻名	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜 （私費外国人留学生）
デザイン研究科 デザイン専攻	18	若干名	若干名
看護学研究科 看護学専攻	18（一般選抜、特別選抜を含む）		

※デザイン研究科の特別選抜（社会人・私費外国人留学生）の若干名は一般選抜の募集人員18人に含む。

選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成22年1月8日 ～1月15日	平成22年2月13日、 2月14日	平成22年2月26日 【入学手続期間】 平成22年2月26日 ～3月5日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成22年1月15日 ～1月22日	平成22年2月6日	平成22年2月15日 【入学手続期間】 平成22年2月15日 ～2月19日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			

試験会場

研究科・専攻名	試験会場
デザイン研究科デザイン専攻	芸術の森キャンパス
看護学研究科看護学専攻	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	入学者の選抜は、本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験、英語）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 （社会人・私費外国人留学生）	入学者の選抜は、本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	入学者の選抜は、本学大学院が実施する筆記試験（英語、専門科目）、面接（口頭試問含む）及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 （社会人・私費外国人留学生）	

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科

(単位：人)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	26	24	16	15
特別選抜（社会人）	若干名	7	7	4	3
特別選抜（私費外国人留学生）	若干名	0	0	0	0

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

看護学研究科

(単位：人)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	21	21	18	18
特別選抜（社会人）					
特別選抜（私費外国人留学生）		0	0	0	0

b. 入学者の内訳

(単位：人)

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	18	16	2	0	10	8
看護学研究科	18	15	3	0	2	16
合計	36	31	5	0	12	24

3 助産学専攻科

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的とする。
これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりとする。

<助産学専攻科の求める学生像>

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追求できる人

② 平成22年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：人)

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10

選抜日程

出願期間	試験日	合格発表等
平成22年2月8日 ～ 2月15日	平成22年3月3日	平成22年3月17日 【入学手続期間】 平成22年3月17日 ～ 3月24日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	入学者の選抜は、本学専攻科が実施する筆記試験（専門科目（看護学一般）、小論文）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：人)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	12	12	10	9

b. 入学者の内訳

(単位：人)

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
9	8	1	0	(-)	9

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営協議会及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

Ⅶ 附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス図書館……………延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス図書館……………延べ床面積／ 500㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成22年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	うち 視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子 ジャーナル
芸術の森 キャンパス図書館	58,752	8,362	2,822	67,114	348	384	384
桑園 キャンパス図書館	28,066	1,292	911	29,358	1,066	653	1,422
合計	86,818	9,654	3,733	96,472	1,414	1,037	1,806

3) 年間受入状況

区分		和	洋	計	
芸術の森 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,736	367	2,103
		寄贈	129	41	170
		計	1,865	408	2,273
	雑誌 (種)	購入	38	10	48
		寄贈	34	0	34
		計	72	10	82
桑園 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,964	102	2,066
		寄贈	34	0	34
		計	1,998	102	2,100
	雑誌 (種)	購入	74	5	79
		寄贈	1	0	1
		計	75	5	80

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

Ⅶ 附属図書館

VII 役員会、経営協議会
及び教育研究協議会

IX 学内運営の概要

X 資料

2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平日：午前9時～午後9時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時（平日）
休館日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する18歳以上の方

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）
市民等学外者	3冊	図書：2週間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）

4) 年間利用者数・貸出冊数等

図書館の名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス図書館	学生・教職員	276	22,725	4,402	9,983	15	58
	市民等学外者	276	860	295	694	0	0
桑園 キャンパス図書館	学生・教職員	272	46,796	4,834	10,937	90	557
	市民等学外者	272	796	230	516	0	0
合計		—	71,177	9,761	22,130	105	615

ILL：Inter-Library Loan

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

1) 役員会

回数	開催日	議題
第1回	平成21年5月12日	・大学院の設置認可申請について ・大学院担当教員の定年等の取扱いについて
第2回	平成21年6月1日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程の一部を改正する規程について
第3回	平成21年6月23日	・平成20事業年度業務の実績に関する報告について ・平成20年度決算について ・自己点検・評価結果について
第4回	平成21年8月24日	・平成20事業年度実績報告の評価結果について
第5回	平成21年9月4日	・大学院設置に係る補正申請及び意見対応について ・助産師養成課程について ・公立大学法人札幌市立大学理事長の任期に関する規程(案)について
第6回	平成21年10月26日	・平成22年度予算編成方針について ・助産学専攻科設置に伴う学則の改正及び規則の制定について ・助産学専攻科学納金に係る料金上限認可申請について
第7回	平成21年11月30日	・公立大学法人札幌市立大学中期計画変更案について ・平成20事業年度業務実績評価に対する対応案について ・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について
第8回	平成22年3月23日	・平成22年度年度計画及び予算について ・自己点検・評価及び認証評価の実施について ・規則等の制定及び改正について

2) 経営審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成21年5月12日	・大学院の設置認可申請について ・大学院担当教員の定年等の取扱いについて
第2回	平成21年6月1日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程の一部を改正する規程について
第3回	平成21年6月23日	・平成20事業年度業務の実績に関する報告について ・平成20年度決算について ・自己点検・評価結果について ・平成23年度入学者選抜の変更について
第4回	平成21年7月27日	・公立大学法人札幌市立大学理事長選考会議委員の選出について
第5回	平成21年8月24日	・平成20事業年度実績報告の評価結果について ・人事・給与関係規程の整備について
第6回	平成21年9月4日	・大学院設置に係る補正申請及び意見対応について ・助産師養成課程について
第7回	平成21年10月26日	・平成22年度予算編成方針について ・助産学専攻科学納金に係る料金上限認可申請について
第8回	平成21年11月30日	・公立大学法人札幌市立大学中期計画変更案について ・平成20事業年度業務実績評価に対する対応案について ・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

回数	開催日	議題
第9回	平成22年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学職務手当に関する細則の制定について ・公立大学法人札幌市立大学特殊勤務手当に関する細則の制定について
第10回	平成22年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度年度計画及び予算について ・自己点検・評価及び認証評価の実施について ・規則等の制定及び改正について ・アドミッションポリシーの改正について

3) 教育研究審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成21年5月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の設置認可申請について ・大学院担当教員の定年等の取扱いについて
第2回	平成21年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20事業年度業務の実績に関する報告について ・平成20年度決算について ・自己点検・評価結果について ・平成23年度入学者選抜の変更について
第3回	平成21年7月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学理事長選考会議委員の選出について
第4回	平成21年8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20事業年度実績報告の評価結果について
第5回	平成21年9月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院設置に係る補正申請及び意見対応について ・助産師養成課程について
第6回	平成21年10月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン研究科及び看護学研究科入学者選抜について ・助産学専攻科設置に伴う学則の改正及び規則の制定について
第7回	平成21年11月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学中期計画変更案について ・平成20事業年度業務実績評価に対する対応案について
第8回	平成22年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市立大学学則の改正について ・公立大学法人札幌市立大学教育研究組織の長の選考及び任期に関する規則等の改正について ・公立大学法人札幌市立大学学位規則の改正について ・公立大学法人札幌市立大学転学部規程の制定について ・サテライトキャンパスについて
第9回	平成22年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学履修等に関する規則の改正について ・公立大学法人札幌市立大学学生懲戒規程及び公立大学法人札幌市立大学学生表彰規程の制定について
第10回	平成22年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度年度計画及び予算について ・自己点検・評価及び認証評価の実施について ・規則等の制定及び改正について ・アドミッションポリシーの改正について

2 役員及び審議会委員名簿 (平成22年3月31日現在)

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
理事	中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
理事	金井 英明	(学)札幌静修学園 理事長
理事	津川 敏典	(財)さっぽろ産業振興財団 専務理事
理事	横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役頭取
監事	藤田 美津夫	弁護士
監事	山崎 駿	公認会計士

2) 経営審議会委員

氏名	現職
原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
津川 敏典	札幌市立大学 理事
横内 龍三	札幌市立大学 理事
菊嶋 明廣	札幌商工会議所 常務理事
平本 健太	北海道大学大学院経済学研究科 教授
松平 英明	(財)札幌市芸術文化財団 副理事長
山岸 正美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
若山 登美子	(社)北海道看護協会 会長
山崎 亘	札幌市立大学 事務局長

3) 教育研究審議会委員

氏名	現職
原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中村 恵子	札幌市立大学 理事
金井 英明	札幌市立大学 理事
大田 すみ子	(社)日本看護協会 北海道地区理事
丹羽 祐而	札幌市教育委員会 委員長
吉田 恵介	札幌市立大学 デザイン学部長
武邑 光裕	札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授
山崎 亘	札幌市立大学 事務局長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

Ⅸ 学内運営の概要

1 部局長会議

1) 年間活動概要

平成20年度は、下記の構成員により、原則として月1回（第1水曜日）開催し、法人の経営及び大学の教育研究を円滑に行うために必要な連絡、調整、協議を行った。

2) 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月2日	・なし（報告事項のみ）
第2回	平成21年4月16日	・看護学研究科への助産師養成課程の設置について ・平成22年度デザイン学部3年次編入学生募集要項について
第3回	平成21年4月28日	・札幌市立大学大学院設置認可申請について
第4回	平成21年5月7日	・大学院設置認可申請に係る役員会、審議会審議事項について ・大学院担当教員の定年等の取り扱いについて ・「北海道地区FD・SD推進協議会」幹事校の要請について ・日本学術振興会特別研究員(PD)の受け入れについて
第5回	平成21年5月18日	・新型インフルエンザ対策について
第6回	平成21年5月28日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程の一部を改正する規程案について
第7回	平成21年6月3日	・学内基幹ネットワークシステムの整備について ・平成23年度入学者選抜の変更について ・札幌市立大学設置計画履行状況調査について ・大学院開設に向けた今後の進め方について ・平成20年度決算について ・6月23日の役員会、審議会審議事項について
第8回	平成21年6月18日	・なし（報告事項のみ）
第9回	平成21年7月1日	・学内基幹ネットワークシステムの整備について ・新型インフルエンザ等感染症に関する休暇の取り扱い等について ・理事長選考会議の設置について
第10回	平成21年8月6日	・人事、給与関係規程の整備について ①育児休業及び介護休業等に関する規程について ②給与規程の改正について ③臨時職員勤務条件等の改正について ・本学学生・教職員が新型インフルエンザに感染した場合の対応について ・大学院設置認可申請に係る意見伝達について
第11回	平成21年8月24日	・大学院設置に係る補正申請及び意見対応について ・助産師養成課程について
第12回	平成21年9月2日	・新型インフルエンザへの対応について ・北海道地区大学図書館職員研究集会当番館について
第13回	平成21年10月7日	・両研究科入学者選抜について ・助産学専攻科設置に伴う学則改正及び規則案について ・助産学専攻科学納金に係る料金上限認可申請について ・平成22年度予算編成方針案について ・平成22年度運営費交付金要求案について ・サテライトキャンパスについて
第14回	平成21年11月4日	・卒業式について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

回数	開催日	議題
第15回	平成21年11月20日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について
第16回	平成21年12月9日	・なし（報告事項のみ）
第17回	平成21年12月15日	・2010年度デザイン学部カリキュラム変更について
第18回	平成22年1月6日	・学則改正及び履修等に関する規則の改正について（デザイン学部カリキュラムの一部変更） ・転学部規程の制定について ・平成22年度入学式及び卒業式の日程について ・平成23年度入学者選抜試験実施日程について ・卒業証書・学位記について ・大学施設の学外者への貸し出しについて
第19回	平成22年2月3日	・履修等に関する規則の改正について ・学生懲戒規程及び学生表彰規程の制定について ・学生表彰要領の制定について ・芸術の森キャンパスの食堂・売店運営事業者の公募について
第20回	平成22年3月9日	・大学院開設に伴う関係規程の制定及び改正について ・アドミッションポリシーの変更について ・推薦入学における入学前教育の導入について ・学内委員会について ・平成22年度予算について ・SCUマークについて ・自己点検評価及び認証評価の実施について ・教員評価制度について
第21回	平成22年3月12日	・学内委員会について ・退職手当に係る関係規程の改正について ・特任教員に関する規程案について ・芸術の森キャンパスクローバーホール食堂運営業者について
第22回	平成22年3月18日	・大学院開設に伴う関係規程の制定及び改正について ・労働基準法改正に伴う関係規程の改正について ・大学院及び専攻科開設に伴う授業料関係規程の改正について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田 昭	理事長・学長
中村 恵子	副学長・看護学部長
吉田 恵介	デザイン学部長
武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
山崎 亘	事務局長

◎印：議長

2 企画戦略会議

1) 年間活動概要

企画戦略会議は、計10回開催し、平成20事業年度業務実績報告書について審議を行うとともに、実績報告書に対する札幌市地方独立行政法人評価委員会からの評価案や平成21年度の年度計画の進捗状況、大学院設置に伴う中期計画の変更、平成22年度の年度計画策定などについて審議した。

また、第3回及び第5～7回の会議においては、サテライトキャンパスについて審議を行い、施設の移転を決定した。

2) 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年6月3日	・平成20年度業務実績報告書について
第2回	平成21年8月10日	・平成20事業年度に係る業務の実績に関する評価案について
第3回	平成21年11月4日	・公立大学法人札幌市立大学中期計画変更案について ・平成20事業年度業務実績評価に対する対応案について ・サテライトキャンパスについて
第4回	平成21年11月20日	・公立大学法人札幌市立大学中期計画変更案について ・平成20事業年度業務実績評価に対する対応案について ・平成21年度計画の進捗状況について
第5回	平成21年12月15日	・サテライトキャンパスについて
第6回	平成21年12月24日	・サテライトキャンパスについて
第7回	平成22年1月6日	・サテライトキャンパスについて
第8回	平成22年2月24日	・平成22年度年度計画について
第9回	平成22年3月9日	・平成22年度年度計画について
第10回	平成22年3月12日	・平成22年度年度計画について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田 昭	理事長・学長
中村 恵子	副学長・看護学部長
吉田 恵介	デザイン学部長
武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
山崎 亘	事務局長

◎印：議長

3 教授会

1) デザイン学部教授会

① 年間活動概要

デザイン学部教授会は、平成21年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、施設整備及びその他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

② 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月1日	・ 新任事務局長あいさつ ・ デザイン学部の教育について ・ 新任教員の紹介
第2回	平成21年4月15日	・ 既修得単位の認定について ・ 科目等履修生（市立高専）の決定について ・ 学生の休学について ・ 平成22年度、23年度の入試について
第3回	平成21年5月20日	・ 平成23年度入試について
第4回	平成21年6月17日	・ 科目等履修生及び聴講生の募集について
第5回	平成21年7月15日	・ 代議員会の設置について ・ 学生の休学について ・ 札幌市立高等学校校長会との高大連携に係る協定書の取り交わしについて
第6回	平成21年9月16日	・ 学生の復学及び休学期間の延長について ・ 学生の休学について ・ 科目等履修生の選考について ・ 転学部に係る規程について ・ 研究生制度について ・ 公欠制度について
第7回	平成21年10月21日	・ コース別プレゼンテーション実施について ・ 転学部に係る規程について ・ 感染症による出欠の取り扱いについて ・ 後期科目授業評価アンケートの実施について
第8回	平成21年11月18日	・ 学部長の選考等について ・ 特別選抜について ・ 学生の休学について ・ 感染症による出欠の取り扱いについて ・ 後期授業評価アンケートの実施について
第9回	平成21年12月16日	・ 編入学試験合格者の入学辞退について ・ 特別選抜の結果について ・ 次年度の学事暦について ・ 次年度のカリキュラムについて ・ シラバスの作成について
第10回	平成22年1月20日	・ 学生の退学について ・ 科目等履修生・聴講生及び研究生の募集について ・ アドミッションポリシーの変更及び入学前教育の検討について ・ 表彰制度について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

回数	開催日	議題
第11回	平成22年2月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員会の設置について ・学生の休学（延長）について ・学生の復学について ・優秀卒業研究の表彰について ・市立高専専攻科生対象の科目等履修生の募集について ・科目等履修生の入学許可について
第12回	平成22年3月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン学部4年生の卒業判定について ・学長優秀賞の選定について
第13回	平成22年3月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の退学について ・学生の休学について ・学生の復学について ・進級判定について ・学長奨励賞の選考について

③ 議長及び構成員

議長：吉田恵介（デザイン学部長） 構成員：デザイン学部教授、准教授、講師、助教

2) 看護学部教授会

① 年間活動概要

看護学部教授会は、平成21年度に臨時教授会1回を含む13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、第1期生の卒業判定、施設整備及びその他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

② 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学者について ・入学辞退について ・入学者の決定について ・成績優秀な学生の履修登録について ・教授会議事録の署名者について
第2回	平成21年4月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学者について ・3年次編入学者の既修得単位認定について ・1年次入学者の既修得単位認定について ・大学院について ・教員の補充人事について
第3回	平成21年5月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜に係る検討について ・クォーター科目の試験について
第4回	平成21年6月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生及び聴講生について ・看護専門科目の英語名称について
第5回	平成21年7月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・転学部願の受理について ・定期試験について ・科目の英語名称について
臨時	平成21年8月26日	・なし（報告事項のみ）

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会 及び 教育 研究 審議 委員会
IX 学内運営の概要
X 資料

回数	開催日	議題
第6回	平成21年9月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・退学について ・休学について ・転学部規定について ・研究生制度について ・公欠制度について ・専攻科準備に伴う体制について
第7回	平成21年10月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学について ・助産学専攻科の設置について ・転学部規定について ・大学院、専攻科説明会（学部学生向け）の実施体制について ・平成22年度担当科目の検討に係る代議員会の設置について ・卒業研究について ・授業評価アンケート実施方法の変更について ・学事暦について ・新型インフルエンザ等による出欠の取り扱いについて
第8回	平成21年11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長の選考について ・休学について ・中期計画について ・平成22年度科目担当者について ・アドミッションポリシーについて ・学部連携演習について ・地域実習について
第9回	平成21年12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長候補者の推薦について ・休学について ・クォーター科目の試験について ・助産学専攻科の入学者選抜について ・多様な入学者選抜方法の導入について
第10回	平成22年1月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割について ・学事暦について ・定期試験について ・科目等履修生・聴講生の募集について ・研究生の募集について ・入学前における学習喚起の方策について ・学生の表彰制度について
第11回	平成22年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業判定について ・学科長・専攻科長の選考について ・科目等履修生の選考について ・復学について ・学生表彰について
第12回	平成22年3月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・特任教授の選考について ・休学及び復学について ・進級判定について ・学生の表彰について ・ティーチング・アシスタントについて ・資格取得等による単位認定基準について

③ 議長及び構成員

議長：中村 恵子（副学長・看護学部長）

構成員：看護学部教授、准教授、講師、助教

4 附属図書館

1) 年間活動概要

平成21年度は9回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。

主な協議内容は、次年度実施予定のシステム変更に伴うICタグに関する調査検討、図書購入選定方針、附属図書館ニュースレター「のほほん」3号の発刊、芸術の森キャンパス図書館の書架の増設、次年度の大学院開設に伴う必要事項の決定、図書館ホームページのリニューアル等であった。

この他、本館主催の「Living Library」*（8月29日・30日）や、デザイン学部との共催による公開講座（「九十五万人の祈り『国宝阿修羅展』の実現」、7月30日、講師：金子啓明氏）の実施、文献検索講習会の開催（6月5日・7月15日・7月24日）、学生のコンペ形式により選定された図書館ノベルティの「しおり」の作成等の各種事業を行った。

※さまざまな人を「本」と見立て、参加者がその当事者から話を聞く企画

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月8日	・図書館への学生参加について ・平成21年度の図書購入予算・計画について ・ICタグについて
第2回	平成21年6月5日	・蔵書点検に伴う休館について ・未製本雑誌の廃棄について ・リクエスト図書購入選定基準について ・他大学図書館利用の際の注意について ・Living Libraryについて
第3回	平成21年7月1日	・専門教育図書等のうち看護共通経費について ・ICタグ方式とバーコード方式について ・札幌市立大学年報掲載原稿の依頼について
第4回	平成21年8月3日	・図書システムの検討について ・札幌市立大学年報掲載原稿について
第5回	平成21年9月28日	・第55回北海道地区大学図書館職員研究集会開催の当番館について ・2010年の電子ジャーナルの契約について
第6回	平成21年10月28日	・ニュースレター「のほほん」の発行について ・2010年の電子ジャーナルの契約について ・看護学部の特別選抜入試の実施に伴う桑園図書館の開館時間の短縮及び臨時休館について
第7回	平成21年12月8日	・札幌市立大学附属図書館ノベルティ製作のための学内コンペティション企画書(仮)について ・平成22年度和雑誌の選定について ・芸術の森ライブラリー 2階書架の増設について ・図書館ホームページについて ・大学院用図書の購入について
第8回	平成22年1月28日	・桑園ライブラリーの書架増設について ・図書館ホームページのリニューアルについて ・平成22年度の年度計画について ・大学院生図書貸出について
第9回	平成22年3月15日	・図書館ホームページのリニューアルについて ・平成21年度業務実績報告書について ・図書館案内の印刷について ・桑園ライブラリーの書架について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VII 役員会 経営審議会 及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
上遠野 敏	デザイン学部教授
斉藤 雅也	デザイン学部講師
三谷 篤史	デザイン学部講師
棟方 渚	デザイン学部助手
加藤 登紀子	看護学部教授
渡邊 由加利	看護学部講師
神島 滋子	看護学部助教
上田 理子	事務局地域連携担当課長

◎印：附属図書館長

5 地域連携研究センター

1) 年間活動概要

平成21年度は、地域連携研究センターの活動を機能的に行うため、産学連携部門、人材育成・地域貢献部門、国際交流部門の3部門を立ち上げ、構成員を各部門に配置した。

各部門全体の情報交換並びにセンターとしての運営を統括するために、センター長及び部門長を構成員とする運営会議を立ち上げ、平成21年度は計11回開催した。運営会議では、学外との共同研究・受託研究及び寄附金の受入について協議したほか、地域連携事業、公開講座、研究交流会、清華大学との協定締結等について協議を行った。

事業面では、国際交流部門では、清華大学との協定締結等以外にも「21世紀東アジア青少年大交流会」（6月22日、日本国際協力センター主催）や、「ノボシビルスク日本語青年訪問団」（7月9日、札幌国際プラザ主催）等の受入を行った。産学連携部門では、「けんこうフェスタ 2009 in ちゅうおう」（9月12日、同実行委員会主催）に、企画段階での助言や当日のブース運営を学生とともにするなど、さまざまな面での協力をした。また、人材育成・地域貢献部門が中心となり、市民ならびに職能人を対象とした公開講座を積極的に開催し、成果を得た。

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月20日	・2009年度の地域連携研究センターの部門について ・21世紀東アジア青少年大交流会への協力要請について ・受託研究、共同研究、寄附の申し込みについて ・「環境広場さっぽろ2009」出展について
第2回	平成21年5月22日	・受託研究の申し込みについて ・21世紀東アジア青少年大交流会への協力要請について ・2009年度公開講座の企画について
第3回	平成21年6月18日	・共同研究、受託研究の受け入れについて ・清華大学美術学院との調印式について ・研究交流会の企画運営について ・(仮)札幌圏大学PRコーナーへの参加要請について
第4回	平成21年7月10日	・共同研究、受託研究の受け入れについて ・「けんこうフェスタ2009 in ちゅうおう」について ・年報について

回数	開催日	議題
第5回	平成21年9月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究の受け入れについて ・2009年度公開講座の企画について ・SCU Journal of Design & Nursing 2009年度投稿要領について ・札幌時計台ライオンズクラブからの協力要請について ・北海道ブランド・シンボルマーク作成に関する協力のお願について
第6回	平成21年10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究の受け入れについて ・2009年度学術奨励研究費（国際学会発表者補助）の追加募集について ・サードレベルの図書購入について ・清華大学への本学関係者の訪問について ・2009年度公開講座の追加企画について ・2009年度年度計画の進捗状況について
第7回	平成21年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度サードレベル教育課程の実施について
第8回	平成21年12月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年度道民カレッジ「ほっかいどう学大学放送講座」の参加について ・2010年度年度計画について
第9回	平成22年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年度公開講座の企画について ・「札幌花と緑のまちづくり」事業の共催について
第10回	平成22年2月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附金の受け入れについて ・公開講座の共催について
第11回	平成22年3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究の受け入れについて ・平成22年度公開講座企画(案)について ・平成21年度実績報告書について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田 昭	理事長・学長
○武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
○河野 總子	看護学部教授
城間 祥之	デザイン学部教授
エルサニマロアン	デザイン学部准教授
大淵 一博	デザイン学部講師
斉藤 雅也	デザイン学部講師
三谷 篤史	デザイン学部講師
須之内 元洋	デザイン学部助教
スーディ神崎 和代	看護学部教授
清水 光子	看護学部准教授
佐藤 公美子	看護学部講師
新納 美美	看護学部講師
西野 守彦	事務局次長・桑園事務室長
上田 理子	事務局地域連携担当課長
大井 康	リエゾン担当コーディネーター（オブザーバー）

◎印：議長・センター長 ○印：副センター長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

6 アドミッションセンター

1) 年間活動概要

入学者選抜試験及びそれに伴う試験区分ごとの従事者説明会の実施、入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成21年度は計10回の会議を開催し、前年度の結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領の策定、入学者選抜試験に係る現状分析及びアドミッションポリシーの改訂等を行った。また、平成22年4月に開設の大学院デザイン研究科・看護学研究科、助産学専攻科の入学者選抜試験を実施した。

学生募集に係る具体的な取り組みとして、オープンキャンパス、高校訪問及び進学相談会等についての企画・運営を行った。

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月16日	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度入学者選抜の実施結果の公表について 平成22年度入学者選抜要項について 平成22年度3年次編入学学生募集要項について 平成22年度入学者選抜スケジュール 平成23年度入学者選抜の検討について 入試問題の作成依頼について 進学相談会への参加について 平成21年度オープンキャンパスについて アドミッションセンター活動予定
第2回	平成21年5月18日	<ul style="list-style-type: none"> 高校訪問の実施及び進学相談会の参加について 大学資料の一斉送付について 入学者の追跡調査について
第3回	平成21年6月8日	<ul style="list-style-type: none"> 本学独自開催の進学相談会について 平成21年度第1回オープンキャンパスについて 進学情報誌及び進学情報サイトへの大学情報の掲載について 大学入試センター試験について
第4回	平成21年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度デザイン学部3年次編入学試験実施要領について 平成22年度学生募集要項（特別選抜）について 本学独自開催の進学相談会について 平成22年度入学者選抜実施要項（文部科学省）への対応について
第5回	平成21年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度看護学部3年次編入学試験実施要領について 平成22年度学生募集要項（一般選抜）について 平成21年度第2回オープンキャンパスについて
第6回	平成21年10月14日	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度年度計画の進捗状況について 新型インフルエンザに対応した入試実施対策について
第7回	平成21年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> 新型インフルエンザに対応した入試実施対策について 平成22年度特別選抜試験実施要領について 平成22年度入試に係る追試験実施スケジュールについて 平成22年度大学入試センター試験の共同実施について
第8回	平成21年12月9日	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度一般選抜試験等における追試験の実施について 平成23年度入学者選抜試験実施日程について 平成22年度広報計画（進学情報サイト、進学情報誌）について 多様な入学者選抜方法の導入について

回数	開催日	議題
第9回	平成22年1月13日	・看護学部アドミッションポリシーの変更について ・多様な入学者選抜方法の導入について ・平成22年度年度計画について ・平成22年度オープンキャンパス実施日程について ・北海道進学コンソーシアムの活動について
第10回	平成22年2月10日	・平成22年度一般選抜及び私費外国人留学生特別選抜試験実施要領について ・入学者選抜実施要項（文部科学省）への対応について ・平成21年度年度計画実績報告（アドミッションセンター分）について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎中村 恵子	副学長・看護学部長
○吉田 恵介	デザイン学部長
杉 哲夫	デザイン学部教授
武田 亘明	デザイン学部准教授
細谷 多聞	デザイン学部准教授
山田 良	デザイン学部講師
内田 雅子	看護学部教授
樋之津 淳子	看護学部教授
吉川 由希子	看護学部准教授
星 美和子	看護学部講師
安立 卓也	事務局学生課長
徳永 信之助	事務局桑園担当課長

◎印：議長・センター長 ○印：副センター長

7 キャリア支援センター

1) 年間活動概要

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置された。平成21年度は、両学部に関係する協議事項がなかったことから開催していない。

2) 運営会議開催状況

平成21年度は開催していない。

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎吉田 恵介	デザイン学部長
○中村 恵子	副学長・看護学部長
齋藤 利明	デザイン学部教授
松浦 和代	看護学部教授
西野 守彦	事務局次長・桑園事務室長

◎印：議長・センター長 ○印：副センター長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

8 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

① 年間活動概要

平成21年度の自己点検・評価委員会では、平成20年度に行った第1回目の自己点検・評価の結果を報告書として刊行した。また、平成20年度の自己点検・評価活動の反省を踏まえ、スケジュール検討、学内体制の検討、マニュアル作成、他大学の事例調査等を行い、平成22年度に着手する自己点検・評価活動の準備を本格化させた。この自己点検・評価の結果として作成した自己点検・評価報告書は、平成23年度に申請する予定の認証評価に使用することとなる。

その他としては、平成21年度の年度計画及び実績報告に関わる取りまとめを行った。開催回数は計7回であった。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年10月14日	・自己点検・評価及び認証評価のスケジュールについて ・自己点検・評価の進め方について ・平成21年度年度計画の進捗状況について
第2回	平成21年11月11日	・平成20年度の自己点検・評価の検証について ・平成20年度自己点検・評価報告書の校正作業について ・平成21年度年度計画の進捗状況について
第3回	平成21年12月9日	・平成20年度の自己点検・評価の検証について
第4回	平成22年1月13日	・平成22年度の自己点検・評価の視点について ・平成22年度年度計画について
第5回	平成22年2月10日	・平成22年度自己点検・評価の実施に向けた準備について ・平成22年度年度計画について
第6回	平成22年3月10日	・平成22年度自己点検・評価の実施に向けた準備について ・平成21年度実績報告について
第7回	平成22年3月25日	・平成22年度自己点検・評価の実施に向けた準備について ・平成21年度実績報告について

2) 総務委員会

① 年間活動概要

総務委員会は、平成21年度に10回の委員会を開催し、「2009年度入学式」の実施、平成20年度年報の企画・編集及び作成、防災訓練の企画・検討及び実施、大学施設の学外者利用の検討、「2009年度卒業式」の企画・検討及び実施、「2010年度入学式」の企画・検討及び実施準備等を行った。

このほか、節電の啓発等のエコ対策の取り組み等、他の学内委員会等の所管事項に属さない案件についても所管し、多様な取り組みを行った。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月22日	・平成21年度の主要検討事項について ・大学施設の学外者利用について ・平成20年度年報について ・卒業式について
第2回	平成21年5月27日	・大学施設の学外者利用について ・学生の大学施設の休日利用について ・平成20年度年報について ・防災訓練及び救急救命講習について
第3回	平成21年6月24日	・平成20年度年報について ・エコの取り組みについて ・大学施設の学外者利用について
第4回	平成21年7月22日	・防災訓練について
第5回	平成21年9月24日	・平成20年度年報について ・平成21年度「年度計画」の進捗状況の総務委員会関係分について ・施設・備品整備について
第6回	平成21年10月28日	・平成21年度「年度計画」の進捗状況の総務委員会関係分について ・卒業式について
第7回	平成21年11月25日	・大学施設の学外者利用について
第8回	平成21年12月24日	・大学施設の学外者利用について ・卒業式について ・平成22年度年度計画案の策定について
第9回	平成22年1月28日	・平成22年度年度計画案の策定について ・卒業式について ・入学式について
第10回	平成22年3月16日	・卒業式について ・平成21年度業務実績報告書の作成について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

3) FD委員会

① 年間活動概要

平成21年度は、FD委員会として、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。11回開催したFD委員会では、FD活動の方針について論議するとともに、ひとつひとつのFD活動について、実施前後にその内容の確認・検証を行っている。

平成21年度の具体的な活動は、全学FD研修会（4回）、各学部のFD研修会（11回）、学外研修会への教職員派遣（9回延べ23人）、授業評価アンケートの効果的な活用、教員相互の授業参観等である。新たな取り組みとして、教員が授業評価アンケートを受けて作成する「集計結果に関する所見」を、本学学生及び教職員へ公開することとし、学生への直接的フィードバックの取り組みも開始した。

また、平成21年度に発足した「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、大学間のFD活動交流にも関わっている。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月22日	・平成21年度年度計画について ・前期授業参観について ・平成20年度FD研修会に関するアンケートについて ・北海道地区大学等FD・SDネットワーク準備委員会委員について ・第1回北海道地区大学等FD・SDネットワーク準備委員会報告
第2回	平成21年6月2日	・平成20年度後期分 授業評価アンケート集計結果に関する所見の集約状況及び公表について ・北海道地区FD・SD推進協議会幹事校について ・第2回北海道地区大学等FD・SDネットワーク準備委員会報告 ・学外FD研修会への参加について
第3回	平成21年6月24日	・平成20年度後期分 授業評価アンケート集計結果に関する所見の集約状況及び公表について ・学外FD研修会報告 ・学外FD研修会への参加について ・北海道地区大学等FD・SDネットワーク準備委員会報告
第4回	平成21年7月28日	・平成20年度後期分 授業評価アンケート集計結果に関する所見の公表について ・学外FD研修会報告 ・学外FD研修会への参加について
第5回	平成21年9月28日	・平成20年度後期分 授業評価アンケート集計結果に関する所見の公表について ・北海道地区FD・SD協議会設立総会について ・学外FD研修会報告 ・学外FD研修会への参加について ・平成21年度年度計画の進捗状況について
第6回	平成21年10月28日	・北海道地区FD・SD協議会設立総会について ・教員相互の授業参観について ・学外FD研修会への参加について ・平成21年度前期分 授業評価アンケート集計結果に関する所見の提出について
第7回	平成21年11月19日	・教員相互の授業参観について ・前期科目の授業評価アンケートに関する所見の提出について ・シラバスの記載方法等の指導・助言について ・学外研修会報告

回数	開催日	議題
第8回	平成21年12月22日	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地区FD・SD推進協議会幹事会報告 学外研修会報告 授業評価アンケート所見の提出について
第9回	平成22年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度年度計画について 北海道地区FD・SD推進協議会への情報提供について 授業評価アンケートの所見の公開について 学外研修会への参加について
第10回	平成22年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度FD委員会実績について FD研修会に関するアンケートの実施について FD研修会申請書の様式変更について 授業評価アンケートの所見の公開について 学外研修会の報告について
第11回	平成22年3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度FD委員会実績について FD研修会に関するアンケートの実施について FD研修会申請書の様式変更について 授業評価アンケートの所見の公開について 平成21年度業務実績報告書の作成について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

4) 広報・情報委員会

① 年間活動概要

平成21年度に計12回の委員会を開催した。

広報関係では大学公式ホームページのリニューアル、大学案内、ポスター制作について検討し、公募型プロポーザル方式で業者を選定して、平成23年1月4日に全面的なホームページのリニューアルを実施した。平成21年12月にロゴマーク2種類を商標登録したことに伴い、ロゴマークの使用に係るガイドラインを検討し、制定した。

また、大学歌について検討し、学生とともに大学歌制作ワーキングを結成し、学内公募により大学歌を制作して平成22年3月の卒業式で披露した。

情報関係では、基幹ネットワークについて検討し、整備した。また、教員からの要望について検討した。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度版大学案内について ・平成23年度版大学案内について ・公式ホームページのリニューアルについて ・シンボルマークの商標登録について ・平成21年度の広報計画について ・大学グッズの制作について ・協賛広告について ・地下鉄電照広告の改修について ・オープンキャンパスのノベルティについて ・グローバルIPアドレスの回収について ・基幹ネットワークの調達について ・大学歌について
第2回	平成21年5月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスノベルティの仕様について ・アラウンドビューシステムについて ・パンフレット及びホームページの一括発注について ・基幹ネットワークについて ・教員からの要望について ・サーバメンテナンスによるWeb閲覧使用の一時停止について ・大学歌について ・大学映像について
第3回	平成21年6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・アラウンドビューシステムについて ・パンフレット並びにホームページのコンセプト及びスケジュールについて ・基幹ネットワークについて ・専攻科棟アトリエのネットワーク変更について ・大学歌ワーキングメンバー追加について ・大学歌制作スケジュールについて
第4回	平成21年7月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市立大学年報（平成20年度）掲載原稿の提出について ・ロゴマーク商標登録の出願について ・アラウンドビューについて ・北海道新聞への広告掲載について ・パンフレット及びホームページの制作スケジュール及び企画審査会について ・メーリングリストの申請について ・大学歌について ・ホームページのトップページについて

回数	開催日	議題
第5回	平成21年8月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学祭ホームページのリンク設置について ・本学ホームページの構築・管理・運営の今後の方向性について ・ホームページリニューアル今年度実施内容について ・企画審査会について ・広告協賛に係る予算執行について ・ウイルス対策の実施について ・基幹ネットワーク整備の進捗状況について
第6回	平成21年9月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・公式ホームページへのデジタルパンフレットのリンクについて ・企画審査会への質問に対する回答について ・芸術の森校舎停電に伴う情報システムの影響について ・コンピューターウイルス対策について ・認証システムとWebメールについて ・メールの運用ポリシーについて ・大学歌について
第7回	平成21年10月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・企画審査会の結果について ・委託予定業者からの企画提案と、今後の進め方について ・教員からの要望について ・基幹ネットワーク整備について ・大学歌歌詞投票結果について ・大学歌曲募集方法について ・大学歌応募者への謝礼について ・大学院新聞広告掲載の予算執行について
第8回	平成21年11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページリニューアル及びパンフレットの企画提案について ・地下鉄電照広告について ・ロゴマークの商標登録について ・教員からの要望について ・教員用Webメールでのメーラー使用及びメールの自動転送について
第9回	平成21年12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページリニューアルの進捗について ・平成23年度大学案内の企画提案について ・バス車内音声及びデジタル表示広告の継続申し込みについて ・読売新聞への無料記事掲載について ・地下鉄電照広告について ・広報及びロゴマーク使用に関するルールづくりについて ・教員からの要望について ・大学歌の進捗について
第10回	平成22年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの企画提案について ・ホームページリニューアルの進捗について ・平成22年度計画について ・広報及びロゴマーク使用に関するルールづくりについて ・教員からの要望について ・回線障害について ・大学歌の題名及び歌詞について ・曲の投票結果の発表方法について ・応募者への謝礼について ・表彰式及び記念品贈呈式について ・CD作成について ・合唱団募集について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

回数	開催日	議題
第11回	平成22年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度業務実績報告について ・平成22年度広報計画について ・大学映像について ・SCUマークガイドラインについて ・広報提案「さっぽろ・えきバス・ナビ」について ・教員からの要望について ・大学院、専攻科のネットワークについて ・大学歌の学内への周知について ・合唱団について
第12回	平成22年3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・SCUマーク使用ガイドラインについて ・パンフレットの企画提案について ・キャンパス間の回線について ・教員用及び学生用Webメールについて

5) 教務・学生委員会

① 年間活動概要

教務・学生委員会は、平成21年度に11回の委員会を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の専門教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭に関することなどについて議論を重ねたほか、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教務・学生委員会の活動計画について ・新入生の既修得単位の認定について ・授業評価アンケートの結果について ・学部連携演習の進捗状況について ・学生の表彰制度について
第2回	平成21年5月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度前期履修登録状況について ・奨学金（日本学生支援機構）の申請状況について（在学採用） ・平成21年度前期の授業料減免対象者について ・学生の表彰制度について
第3回	平成21年6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金（日本学生支援機構）の推薦について ・授業評価アンケートについて
第4回	平成21年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験について ・研究生制度について ・教育情報システムについて ・感染症等に係る学生の欠席の扱いについて ・学生アンケートについて ・大学祭について
第5回	平成21年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生の選考状況について ・転学部について ・教育情報システムについて ・インフルエンザ等にかかる公欠制度について ・後期ガイダンスについて ・学生アンケートについて ・奨学金の追加採用について ・大学祭について
第6回	平成21年10月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究生制度について ・授業評価アンケートについて ・転学部について ・研究生制度について ・インフルエンザ等にかかる公欠制度について ・卒業に向けたサポート体制について ・売店の設置について ・学事暦について ・大学祭について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

回数	開催日	議題
第7回	平成21年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の共通教育科目について ・学事暦について ・授業評価アンケートについて ・年度計画について ・インフルエンザ等にかかる公欠制度について ・学生アンケートについて ・売店にかかるアンケートについて ・平成21年度後期の授業料減免対象者について
第8回	平成21年12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割、カリキュラムについて ・学事暦について ・卒業認定の通知について ・授業評価アンケートについて ・学生アンケートについて ・売店にかかるアンケートについて ・年度計画について
第9回	平成22年1月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割について ・学事暦について ・年度計画について ・非常勤講師との懇談について ・後期定期試験の実施について ・編入学生の既修得単位の認定について ・在学生による学生情報ハンドブックの作成について
第10回	平成22年2月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学生の既修得単位の認定について ・TA制度の導入について ・年度計画について ・非常勤講師との懇談について ・学生の表彰制度について ・前期ガイダンスにおける学生への配布物について ・平成22年度の学生専用バスについて
第11回	平成22年3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・TA実施要綱について ・共通教育科目の資格取得による単位認定について ・平成21年度業務実績報告について ・前期ガイダンスについて ・履修登録確認期間中の修正の届出について

6) 倫理委員会

① 年間活動概要

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成21年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第2水曜日に委員会を開催した（計12回開催）。年間の審査申請総数は49件であり、1回当たり平均4.1件の審査を実施した（最大審査件数11件）。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成20年度に引き続き、法律家を外部委員として委嘱することとし、中村隆弁護士が委員として審査に加わった。

このほか、審査申請様式・手順等について、ワーキンググループを組織して見直しを図るとともに、基本資料の改訂版を作成した。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月8日	・研究倫理審査（4件） ・副委員長の選出について ・審査申請様式・手順等の見直しに係るワーキンググループの選出について
第2回	平成21年5月15日	・研究倫理審査（7件）
第3回	平成21年6月10日	・研究倫理審査（5件）
第4回	平成21年7月8日	・研究倫理審査（8件）
第5回	平成21年8月12日	・研究倫理審査（11件） ・全学FDの周知について
第6回	平成21年9月9日	・研究倫理審査（2件）
第7回	平成21年10月14日	・研究倫理審査（2件）
第8回	平成21年11月10日	・研究倫理審査（2件）
第9回	平成21年12月9日	・研究倫理審査（2件）
第10回	平成22年1月13日	・研究倫理審査（3件）
第11回	平成22年2月10日	・申請要領等、基本資料の改訂について
第12回	平成22年3月10日	・研究倫理審査（3件） ・申請要領等、基本資料の改訂について

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営協議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

7) 大学院設置特別委員会

① 年間活動概要

本学では中期目標・中期計画において、学部を基礎を置く大学院を設置することを定めており、大学開学当初より大学院設置特別委員会を立ち上げ、その開設に向けて検討を進めてきた。

平成21年度の本委員会においては、平成20年度に策定した大学院基本計画を踏まえ、大学院設置の趣旨・目的、地域貢献の考え方及び育成する人材像、更にそれを具現化する教育課程の編成内容と実施方法、施設・設備の整備計画等について、より具体的な協議・検討を重ね、設置認可申請書に盛り込むべき設置計画の内容を固めた。

この内容に従い、平成21年5月、文部科学省に対して「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を提出し、同年10月に同省から設置認可を得た。

本委員会は計7回開催しており、上述の申請内容に関する検討を行った他、申請途中の8月時点で文部科学省から付された審査意見への対応及び補正申請書の作成に当たって、学内の意見調整を図った。さらに、翌22年4月に開設される大学院教育を円滑かつ効率的に運営する観点から、学内運営体制や教授会規則等について検討を行った。

また、専門分野に関する事項を検討するため、本委員会の下に研究科毎に開設準備会議を設け、管理運営に関する具体的な検討を行った。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年4月2日	・研究科連携科目について ・研究科教授会規則について
第2回	平成21年4月10日	・研究科連携科目について ・研究科教授会規則について
第3回	平成21年4月16日	・研究科連携科目について ・大学院設置認可申請書(案)について ・文部科学省との事務相談について
第4回	平成21年4月28日	・大学院設置認可申請書(案)について
第5回	平成21年5月7日	・大学院設置認可申請書(案)について ・大学院の運営体制について
第6回	平成21年8月6日	・なし(報告事項のみ)
第7回	平成21年8月24日	・大学院設置に係る補正申請及び意見対応について

8) 教員評価制度特別委員会

① 年間活動概要

教員評価制度特別委員会は、これまでの業績に対する評価の試行結果を精査し、各年度業績に係る自己申告項目を確定させた。一方、評価結果の給与、研究費、任期更新等への反映については、試行の過程及び評価結果から得られた課題等を踏まえ検討を行い、制度導入に向け平成22年度に引き続き検討することとした。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成21年10月8日	・平成20年度分教員評価申告書について
第2回	平成21年12月9日	・平成20年度分教員評価申告書について（ワーキンググループ報告）
第3回	平成22年3月9日	・平成20年度分教員評価申告書について ・年度計画について

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営協議会
及び教育研究協議会

IX
学内運営の概要

X
資料

9) 委員会委員名簿

区分	委員会名	委員名	
		教職員名	所属・職位等
学内委員会 常置委員会	自己点検・評価委員会	◎吉田 和夫 杉 哲夫 張 浦華 山本 勝則 藤井 瑞恵 村松 真澄 渡辺 春志	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局経営企画担当課長
	総務委員会	◎中村 恵子 望月 澄人 中原 宏 矢部 和夫 加藤 登紀子 須田 恭子 菊地 ひろみ 加賀 賢治	副学長・看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局総務課長
	FD委員会	◎城間 祥之 吉田 恵介 張 浦華 片山 めぐみ 松浦 和代 大野 夏代 保田 玲子 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン学部教授 デザイン学部長 デザイン学部准教授 デザイン学部助教 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	広報・情報委員会	◎羽深 久夫 吉田 和夫 フィッシャー ニーナ スーデー神崎 和代 守村 洋 佐藤 公美子 太田 晴美 上田 理子	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局地域連携担当課長
	教務・学生委員会	◎吉田 恵介 酒井 正幸 中原 宏 原 俊彦 町田 佳世子 樋之津 淳子 宮崎 みち子 清水 光子 菅原 美樹 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

区分	委員会名	委員名		
		教職員名	所属・職位等	
学内委員会	常置委員会	倫理委員会	◎坂倉 恵美子 石崎 友紀 矢部 和夫 松井 美穂 加藤 登紀子 定廣 和香子 吉川 由希子 中村 隆 上田 理子	看護学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 弁護士 事務局地域連携担当課長
	特別委員会	大学院設置特別委員会	◎中村 恵子 原田 昭 吉田 恵介 武邑 光裕 城間 祥之 渡辺 春志	副学長・看護学部長 理事長・学長 デザイン学部長 附属図書館長・デザイン学部教授 デザイン学部教授 事務局経営企画担当課長
	教員評価制度特別委員会	◎吉田 恵介 中村 恵子 武邑 光裕 原 俊彦 柿山 浩一郎 河野 總子 松浦 和代 加賀 賢治	デザイン学部長 副学長・看護学部長 附属図書館長・デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部教授 事務局総務課長	
衛生委員会	芸術の森地区衛生委員会	◎西野 守彦 石崎 友紀 羽深 久夫 松井 美穂	事務局次長・桑園事務室長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師	
	桑園地区衛生委員会	◎西野 守彦 新納 美美 進藤 ゆかり 照井 レナ	事務局次長・桑園事務室長 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教	
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎中原 宏 町田 佳世子 柿山 浩一郎 那須 聖 福田 大年 須之内 元洋	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教
	学生支援委員会	◎酒井 正幸 原 俊彦 フィッシャー ニーナ 細谷 多聞 小宮 加容子 上田 裕文	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教	

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

区分	委員会名	委員名	
		教職員名	所属・職位等
学部委員会	デザイン学部 キャリア支援委員会	◎斎藤 利明 杉 哲夫 武田 亘明 斉藤 雅也 福田 大年	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
	教務委員会	◎樋之津 淳子 須田 恭子 星 美和子 保田 玲子 河村 奈美子 小坂 美智代 多賀 昌江 照井 レナ 三上 智子 松村 寛子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教
	看護学部 学生支援委員会	◎宮崎 みち子 大野 夏代 菅原 美樹 村松 真澄 進藤 ゆかり 淵本 雅昭 工藤 京子 鶴木 恭子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
	キャリア支援委員会	◎松浦 和代 守村 洋 菊地 ひろみ 藤井 瑞恵 櫻井 繭子 原井 美佳	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教

◎印：委員長

9 FD・SD活動

① 年間活動概要

- ・大学事務に精通した高い専門性を有する職員を育成するため、公立大学協会や日本学生支援機構等が実施する学外研修会等に派遣を行った。
学外における研修等には14件、延べ25人が参加した。
- ・平成22年2月に実施した新規採用職員研修において、新規採用職員3名のほか、既に在職している職員で受講を希望する職員10名が受講した。
- ・3月24日に全学FD・SD研修会を実施した（教育評価のアウトカムの分析について 教職員47人参加）

② 開催状況

平成22年2月1日～2日 新規採用職員研修

③ FD・SD研修会の実施

全学FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成21年 6月5日	FD	組織的な教育改善活動を活発化するために ～山口大学の場合～	桑園：講義室1 芸森：大講義室（遠隔）	デザイン教員19人、 看護教員21人、 事務職員7人、計47人
平成21年 9月8日	FD	研究における倫理の今日的動向と研究倫理	桑園：大会議室 芸森：大会議室（遠隔）	デザイン教員11人、 看護教員34人、 事務職員5人、計50人
平成21年 10月22日	FD・SD	学生支援・修学支援を考える ～大学教員にとっての課題とは	芸森：大講義室 桑園：講義室1（遠隔）	デザイン教員12人、 看護教員15人、 事務職員15人、計42人
平成22年 3月24日	FD	教育評価のアウトカムの分析について	サテライトキャンパス	デザイン教員16人、 看護教員23人、 事務職員8人、計47人

デザイン学部 FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成21年 4月1日	FD	デザイン学部教員としての心構え （吉田デザイン学部長）	理事会室	新任教員3人
平成21年 11月12日	FD	デザイン学部コースごとのプレゼンテーション～コース間連携の可能性と具体的提案～	C-102教室	デザイン教員24人、 事務職員2人、計26人

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営協議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
IV 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

看護学部 FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成21年 4月15日	FD	卒業研究を支援する(3) -平成20年度研究方法論の概要と模擬指導ワークショップ	講義室4、看護演習室1～3、演習室1・2	看護教員36人
平成21年 5月20日	FD	教育GP各実施部門の運営実施と評価報告	講義室4	看護教員25人、事務職員3人、計28人
平成21年 9月16日	FD	母性看護学領域における授業と実習展開の概要	講義室1	看護教員33人
平成21年 9月17日	FD	看護技術としての指圧マッサージ研修会	4階実習室	看護教員21人
平成21年 9月29日	FD・SD	高校教育の現状と課題について (看護学部FD、全学SD研修会)	桑園：講義室1 芸森：大会議室（遠隔）	看護教員27人、デザイン教員3人、事務職員12人、計42人
平成21年 10月27日	FD	平成20年度OSCEの評価から次年度に向けて	講義室3	看護教員28人
平成21年 12月10日	FD	OSCE評価と有効な教育的フィードバック	講義室4	看護教員23人
平成22年 2月3日	FD	看護管理領域における授業とヘルスケアマネジメント実習展開の概要	講義室4	看護教員26人
平成22年 2月10日	FD	教育GP模擬患者に対する教員の教育的役割について	講義室4	看護教員29人

X 資 料

1 中期計画（平成22年1月25日 変更認可）

公立大学法人札幌市立大学は、デザイン学部と看護学部並びにそれぞれの学部を基盤とした大学院研究科を有する札幌市立大学を設置・管理運営する上での目標である中期目標を達成するために、次のとおり中期計画を策定する。

第1 中期計画の期間

中期計画の期間は、平成18年4月1日から平成24年3月31日までの6年間とする。

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

(学部教育)

- ア 将来の職業人としての自覚・責任の涵養を基礎として、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を養うとともに、それぞれの専門分野に求められる知識・技術等を体系的に養う。
- イ インターンシップによる就業体験、医療機関等の実習、起業（アントレプレナーシップ）に対応した教育など実践的な能力を養う。
- ウ 産業界、保健・医療・福祉機関、大学、行政等と連携した教育を行うとともに、本学の持つ様々な知的資源を地域に還元する仕組みをつくり、市民文化の向上やまちづくりに幅広く貢献する。
- エ 学生による授業評価アンケートを平成18年度から導入するほか、卒業生からの情報収集、追跡調査等多様な方法により、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証する方策を整備する。

(大学院教育)

- ア デザイン研究科では、「課題解決能力」、「創造力」、「企画調整能力」及び「実践能力」を兼ね備えた高度なデザイン能力を有し、さらに地域社会と連携しながら産業、芸術・文化等のまちづくり振興に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成する。
- イ 看護学研究科では、「高度な臨床看護実践能力」、「分析・判断・行動・評価能力」、「統合・調整能力」及び「健康づくり支援能力」を兼ね備え、地域社会に貢献する高度専門職業人及び看護学の発展に寄与する研究者・教育者を育成する。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- (ア) 本学の教育理念に基づき使命感及び勉学意欲を持った学生を確保するため、明確な入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定・公表する。
- (イ) アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜、推薦入学、社会人及び私費外国人留学生選抜を実施するほか、AO（アドミッション・オフィス）入試等多様な選抜方法の導入を検討する。
- (ウ) 平成20年度から3年次編入学を実施するなど、より高度な学習ニーズに対応する方策を整備する。
- (エ) 入学者選抜方法の事後評価を継続的に行い、次年度以降の入学者選抜方法の改善・充実を図る。
- (オ) 上記事項を機動的・専門的に実施するため、平成18年度に教職員で構成するアドミッションセンター等の専門組織を設置する。

イ 教育課程

(学部教育)

- (ア) 共通教育科目においては、「日本語表現法」、「プレゼンテーション」、「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。また、デザイン学部と看護学部の学生が共に学習することによって、両学部の交流を深めるとともに、「スタートアップ演習」を始め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れることにより、広い視野を持つことができるよう教育課程を編成する。
- (イ) 各学部は当該学部の共通教育の位置付けを明確にし、共通教育と専門教育の体系性を考慮しながら、早期から専門教育を履修する教育課程を編成する。
- (ウ) 「学部連携演習」など学部間の有機的な連携による授業を展開することにより、学生の専門性を拡充し、もって専門教育の充実を図る。
- (エ) 他大学との連携による単位互換、入学前・後の取得単位の認定など単位制度の柔軟な運用について具体的な充実策

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

を検討し、順次、整備・拡充する。

(オ) 「スタートアップ演習」や「学部連携演習」では地域社会や学外機関と連携したフィールドワーク、調査研究等実践的な授業を展開するほか、寒冷地の特長を生かした「寒冷地デザイン」、「寒冷地医療」など、地域をテーマとした教育を進める。

(大学院教育)

- (ア) 教育課程に関する目標を達成するために学士課程との連携を保ちながら、必要な授業科目及び研究指導を組織的・体系的に展開する教育課程を編成する。
- (イ) 各研究科及び専攻分野に関する高度な専門的知識及び能力を修得させるとともに、専攻分野の基礎的素養を涵養する教育課程を編成する。
- (ウ) 研究科及び専攻の特性に応じて、高度な専門性が求められる職業に従事する人材を育成する分野、領域、コースを設けて、より実践的な教育を展開する。

ウ 教育方法及び履修指導方法

- (ア) 2キャンパス
- a 両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目及び両研究科の学生が合同で学ぶ研究科連携科目を開講する際は、学生が同日中に2つのキャンパス間を移動することのないよう教育課程及び時間割編成に配慮する。
- b 図書の検索、貸出し・返却はどちらの図書館においても行えるようにする。
- c 遠隔授業の増加及びeラーニング等による芸術の森と桑園キャンパスとの間のネットワーク上の情報量の増加に合わせ、適正な情報システムの拡張を図る。

(イ) 多様な授業・履修形態

- a 学問分野の特性に応じ、講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査などを実施する。また、大学院においては、研究成果の発表や学会、研究会への参加を支援する。
- b 社会人学生ニーズ等に対応し、科目等履修生制度、聴講生制度、研究生制度、特別聴講学生制度を導入するとともに、長期履修学生制度等の導入について検討する。
- c 大学院では、社会人の学生などが勤務を継続しながら、学習することができる環境を提供するため、夜間や特定の時間又は時期に授業又は研究指導を行うなど、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を実施するとともに、長期履修学生制度を実施する。

(ウ) 実践的な授業の重視

- a デザイン関連企業・団体、保健・医療・福祉関係機関等社会の多様な組織と連携したインターンシップ・学外実習、臨地実習等を行い、より実務的な経験を得る機会の拡充を図る。
- b 豊富な実務経験を持つ専任教員や企業人等の非常勤講師を活用するなど職業人育成のため実学の充実を図る。
- c 専門知識と高度な技術を系統的に学習できるように体系付け、演習と実習を多く取り入れた教育課程を編成するなど職業人育成に即した授業を行う。

(エ) 履修指導方法

- a シラバスは、学習到達目標が明確になるように作成し、ホームページ等で公開する。また、学生の意見を聴取するなどして一層の質的充実を図る。
- b 全教員を対象として、各分野におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
- c 学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を可能とする Semester制を実施する。
- d 多様化する学生の資質・学力に対応して共通教育科目を充実・強化するとともに、必要に応じてリメディアル教育（補完授業）の導入を検討する。
- e 履修科目の過剰登録を防ぐ登録単位の上制限など単位の実質化のための措置を講じる。
- f 大学院設置後には、演習・実習等におけるTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入するとともに、少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング、遠隔授業等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態や制度を整備する。
- g 将来の進路に沿って適切に科目を履修できるよう、具体的な履修モデルを提示するとともに継続的な改善・工夫を図る。
- h 大学院においては、学生の研究テーマに沿った指導教員を個別に定め、履修指導から学生生活相談、研究指導までを一貫して責任を持って対応する体制を構築する。

- エ 学生の成績評価
- (ア) 教育課程に適した公平かつ適切な成績評価を可能とする基準を設定する。
 - (イ) 教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を継続的に検討し、成績評価制度の充実・改善を図る。
 - (ウ) 成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準をシラバス、ホームページ等で公開する。
 - (エ) 成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度を検討するほか、表彰制度の整備、充実を図り、学生の研究・学習意欲を高める。
 - (オ) 学生からの成績評価に対する照会等の窓口を設置する。
- (3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
- ア 適正な教員の配置
- (ア) 学部の完成年次である平成21年度まで順次教員を採用し、教員組織を完成させる。その間に教育に関する目標を達成するため、授業科目や教育課程の見直しが行われた場合には、求められる教員の資質、研究実績等を把握し、必要に応じ教員組織を見直す。
 - (イ) 大学院整備等で新たに必要となる教員を採用する場合には、将来的な教員の年齢構成等にも配慮する。
 - (ウ) 平成19年度に実施される学校教育法の改正に対応し、准教授並びに助教及び助手の適切な任用及び配置を行う。
 - (エ) 教育現場と実務の積極的な交流により教育研究の充実を図るため、客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入する。
 - (オ) 教育効果を上げるため、授業形態、受講者数等に応じてTA制度を導入する。
- イ 教員の資質の維持向上
- 次の取組を開学初年度から順次実施する。
- (ア) FDの実施体制
- FDについては、専任教員の代表により構成するファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を設置し、当該委員会を中心に進行する。
- (イ) 授業開始前の対応
- a 各教員が、授業内容・方法を決定するに当たり、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について理解するために、これらの事項に関する学長、学部長等による研修等を行う。
 - b 大学での授業が未経験の教員に対しては、大学における教育制度の基本的な枠組みを理解させるために、FD委員会により、学校教育法等に係る研修を行う。
 - c 教員が作成するシラバスについて、FD委員会において、その記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成し、希望する教員に対して、記載方法等の指導・助言を行う。
- (ウ) 授業開始後の対応
- 学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
- (エ) その他の研修及び研究
- FDに関する講演会の開催、FDに関する意見、情報等の交換を行う場の設定、FDに関する研究会、研修会等への教職員の派遣等の取組を行う。
- ウ 教育環境の整備
- (ア) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院が使用しなくなる施設・設備の効果的な転用を図るため、教職員による施設利用の委員会を組織し、計画的な施設整備・改修を進める。
 - (イ) 施設利用の点検・評価を行い、産学連携等に資する研究・実験スペースを確保するとともに、共用スペースや福利厚生施設の効果的で効率的な運用を図る。
 - (ウ) 学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を整備するとともに、多様な授業形態を支援するために、平成18年度からeラーニングシステム、遠隔授業システム等を導入する。
 - (エ) 備品・図書等整備のために教職員による委員会を組織し、年次整備計画の着実な実施を進めるとともに、毎年度、見直し等の計画調整を行い、良好な教育研究環境を整備する。
 - (オ) 図書等の整備は、札幌市立高等専門学校からの移管図書約30,100冊、札幌市立高等看護学院からの移管図書約5,400冊に開学準備に揃えた約5,900冊の図書に加え、平成18年度には約6,500冊、平成19年度には約7,400冊を整備する。それ以降も図書や視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等の充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

- (ア) 学生の修学・進路・生活及び心身の健康等にわたる各種相談等に教員が直接かつ柔軟に対応する体制を設ける。
- (イ) 学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般（ハラスメント対策を含む。）を支援する体制を充実する。特に、平成18年度から専門的な職員を配置するなど学生の心身の健康の保持増進とカウンセリングのための機能強化を検討する。
- (ウ) 学生の意見・要望を反映させるため、学生支援委員会などを設置し、学生に対するアンケート等を通じて、学生生活の実態や意向を把握しながら、学生生活を充実させる。
- (エ) 学生の自主的学習、課外活動などを支援するため、自家用車による通学ができるよう駐車場の整備について検討する。
- (オ) 豊かなキャンパスライフを送るため、課外活動の活性化を支援するとともに、課外活動施設・設備の充実を図る。また、食堂・売店等の福利厚生施設等を充実させる。
- (カ) 就職情報の収集・提供を一元化し、進路相談に応じる窓口を設置するとともに、学生の就職に関する戦略を構築し、キャリア教育、インターンシップ、就職ガイダンス等を充実するなど積極的に就職活動を支援する委員会などの学内体制を平成20年度までに整備する。
- (キ) 行政、地元の企業や関係機関・団体と連携した学生の就職支援体制の整備を推進する。
- (ク) 経済的理由により修学の継続が困難な学生に対する授業料の減免等、学生納付金の減免制度を整備する。あわせて、各種奨学金制度の活用を支援するほか、多様な奨学金制度の創設について検討する。
- (ケ) 後援会・同窓会等の組織を設け、これらと連携し、学生生活の充実を図る。

イ 留学生及び障がいのある学生に対する支援

- (ア) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。
- (イ) 障がいのある学生に対する修学上の支援と相談体制を構築する。また、必要に応じて設備・機器によるバリアフリー支援も併せて実施する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

- (ア) デザイン分野については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上等に寄与する研究を行う。
- (イ) 看護分野については、看護の基礎的な研究に加え、地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。
- (ウ) 環境、健康、生活、情報等をキーワードに両分野の共同研究に積極的に取り組み、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインや看護等新しい研究領域の開拓を目指す。
- (エ) 自主研究に加えて、期間を限った受託・共同型の研究に組み込み、特に競争的外部研究費を導入した学内外で行う特徴あるプロジェクト型研究を推進する。

イ 研究の水準及び研究成果

- (ア) 研究者を受け入れやすい環境（客員研究員・研修員制度、研修派遣制度等）を整備し、国内外の大学や研究機関及び民間企業等との研究者の人事交流を推進する。
- (イ) 大学の知を社会に還元するために、公開講座、研究会、講演会等の開催や広報活動を積極的に行う。
- (ウ) 研究成果は紀要に掲載するとともに、教員一覧、研究内容の紹介等の情報をホームページ等において公開する。また、国内外を対象とした大学の教育・研究に関わる広報を充実させる。
- (エ) 産業界等との連携を深め、共同研究等を推進する体制を整備するとともに地域課題に対応した研究を促進する。特に、高度化・複雑化する社会の中で、大学院を設置することにより、新たな解決策の創出に向けた先端的かつ実践的な研究を推進し、複合的な地域課題の解決に積極的に取り組む。
- (オ) 研究成果を教育課程にフィードバックすることにより、教育課程の一層の充実を図る。
- (カ) 研究成果は定期的に自己点検・評価、外部評価を行い、研究活動の検証体制を整備する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

- (ア) 個人研究費については、固定的に配分する資金以外に、職業人の育成に資する教育にフィードバックできる研究、地域貢献やデザインと看護の連携に資する研究等大学において重点的に取り組むべき研究等に研究費を厚く配分し、中期目標の達成及び中期計画・年度計画の遂行を確保するために、教員からの申請等に基づき、学長等の判断により配分先を決定できる資金を、平成18年度に設ける。
- (イ) 平成22年度をめどに、教員が行う教育、研究、学内運営、地域貢献等の業績を評価する制度を導入するとともに、

その評価の結果を研究費に反映させることとし、研究環境の向上のための研究資金獲得に対するインセンティブを与える。

- (ウ) 共同研究費については、平成18年度から、地域貢献に資する共同研究に重点的に配分するとともに、そのうちの一定部分について、デザインと看護の連携に関する教員の共同研究のための研究費とし、デザインと看護の連携に関する研究を推進する。

イ 研究の実施体制

- (ア) 附属研究所（地域連携研究・支援センター）

地域社会への貢献を具体的に展開するために、平成19年度以降に附属研究所（地域連携研究・支援センター）を設置することとし、以下のような機能を整備する。また、こうした機能や取組を効果的に進めるために、平成18年度中にネットワークの拠点となる都心部サテライト施設を設置し、リエゾンオフィス機能を設ける。

a 産学公連携の促進機能

地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を支援する。

b デザインと看護の共同研究機能

デザイン・看護両学部との連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療・福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。また、デザインと看護の共同研究や異分野との横断的な取組により、市民の豊かな生活や健康を支援する。

c 地域の健康支援機能

看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談・指導窓口の設置や、地域看護や在宅看護、介護に関する相談・研修等を通じて、市民のあらゆる健康な生活を支援する。

- (イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

各学部あるいは両学部における研究は、産・看・学・公の連携による取組を特色とし、基礎研究に配慮しつつ萌芽的・先端的研究への支援体制を整備し、学術研究の活性化と卓越した研究に取り組む。

また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する体制を整備する。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

- (1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

- (ア) IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。
- (イ) 医療・看護・介護機器やバリアフリー住宅に関する研究開発等に取り組む。
- (ウ) 地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。
- (エ) 地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に係る成果の他自治体への提供等に取り組む。

イ 教育面での貢献

- (ア) リカレント教育、公開講座等の教育機能、企業等との窓口機能等を持った都心部サテライト施設を平成18年度中に設置する。また、都心部サテライト施設では、遠隔授業に対応した多様なメディア機器等の整備や情報ネットワーク等の充実を図る。
- (イ) 市内の生涯学習機関等と連携した多様なメニューを提供するとともに、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等への需要にこたえる各種プログラムを開発する。
- (ウ) 平成18年度から、本学の教職員及び学生以外の市民に対して、図書館を開放する。
- (エ) 高校生対象の公開授業・授業聴講制度等高校生が大学の講義を受講できるシステムの整備、高校関係者との協議会の設置等、高等学校との連携を強化する。また、小中学生に対しても大学の持つ教育機能を提供する。
- (オ) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の並存期間中における両校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力する体制を構築する。

ウ 大学間連携

大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施などの施策について検討し、順次整備する。

エ 札幌市との連携

上記取り組みのうち、札幌市の行政施策と関連する部分については、札幌市が設立する公立大学法人であるメリットを生かして、当該施策との緊密な連携によって、様々な地域課題の解決に積極的に取り組み、地域貢献を実現する。

オ 大学院における取組

大学院では、先端的かつ高度な教育・研究に取り組み、学際的・実践的な教育・研究能力を持ち地域に貢献する高度専門職業人や研究者・教育者を輩出する。また、地域や産業の振興など地域に関連する様々な課題を研究し、その成果を積極的に地域に還元する。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

(ア) 海外の大学・研究機関等との連携や協定による研究者・学生の交流制度等の充実を推進する。

(イ) 海外の優れた研究機関等との連携による国際共同研究を推進するとともに、国際会議等を開催し、研究活動の相互交流を促進する。

(ウ) UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関へ参加する。

(エ) 上記事項を推進するため、国際交流の企画と推進を行う体制を整備する。

イ 留学生の受入

(ア) 海外の交流協定校等との教育研究の連携を強化するとともに、交流の実効性を高めるための明確な受入方針を確立する。

(イ) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

平成18年度中に、公立大学法人全体の経営戦略を、役員会等の審議を経て、理事長が策定する。

イ 役員会及び理事のサポート

平成18年度から、理事長及び理事を構成員とし、中期目標、中期計画、予算・決算、重要な組織の設置・廃止等公立大学法人における最重要事項を審議する役員会を設置する。

理事は、複数任命するとともに、それぞれの理事が専門性を発揮して理事長をサポートするために、理事の役割を分担する。

ウ 企画戦略室の設置等

平成18年度から、理事長、学内理事、部局長等を構成員とし、公立大学法人の運営に係る戦略を企画・立案する企画戦略室を設置するとともに、事務局に、企画戦略室に係る業務をサポートする職員を5人程度配置する。

エ 学内の資金配分

(ア) 研究費については、平成18年度から、個人研究費の一定割合を公立大学法人に留保し、それを理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に厚く配分する仕組みを導入する。

(イ) 研究費以外の予算についても、平成19年度予算以降は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮して、理事長が予算編成方針を策定し、予算を重点的に配分するとともに、理事長が裁量により配分することができる資金を設けるなど、理事長が戦略的かつ柔軟に予算編成・資金配分を行うことができる仕組みを導入する。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

次の取組を平成18年度から実施する。

(ア) 役員会の構成員となる理事には、経営、財務、地域貢献、産・看・学・公連携等に係る専門家・有識者である学外者を積極的に登用する。

(イ) 経営審議会では、委員の半数以上を学外委員とすることを義務付け、その学外委員には、公立大学法人の経営に関する有識者として、他大学の教員、民間企業関係者等を登用する。

(ウ) 教育研究審議会にも、札幌市立大学の教育研究に対する外部からの意見を取り入れるために、デザイン又は看護に係る教育研究の有識者、後期中等教育関係者等2人程度の学外委員を登用する。

イ 教授会等

(ア) 効果的かつ効率的に法人・大学運営を行うために、重要事項の審議は、できる限り役員会並びに経営審議会及び教育研究審議会にゆだね、教員の法人・大学運営に対する負荷を軽減し、より良い教育研究環境を提供するため、教授会及び学内委員会の審議事項を厳選するとともに、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。

(イ) 民主的な学内運営に配慮し、意思決定プロセスの明確化・透明化を図るため、原則的に役員会等の重要な会議の議事内容にすべての教職員がアクセスすることができるようにするなど、情報の共有化を進める。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。特に、執行状況を把握するための一定期間ごとの役員会等への業務実績報告、点検・評価委員会への業務執行データの蓄積等を行い、これらのデータを評価に生かすことができるような措置を講ずる。

イ 経営資源の管理・活用

理事長を始めとする経営層が、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」といった公立大学法人の経営資源を把握するとともに、これらの経営資源を業務運営の改善及び効率化のために有効に活用する。特に、公立大学法人の運営によって得られた知識、技術等の「情報」は、まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」となる本学を運営する上で極めて重要な経営資源であることから、情報システム等を用いた情報の共有化を徹底し、その情報を教育研究の活性化や地域貢献に活用する。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

学内委員会では、教職員が一体となって公立大学法人を運営する体制を構築し、その企画立案・業務執行体制を強化するために、教員のみを構成メンバーとするのではなく、事務局職員もメンバーとする。

イ 専門性の高い事務局体制

高い専門性を有する事務局職員を確保するために、当初は相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れる。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

学部・学科については、中期目標期間中の平成21年度に完成年次を迎えることから、完成年次までは、現在の体制を維持する。

平成22年度以降については、教育研究に対する社会的動向やニーズ、自己点検・評価、認証評価機関の評価結果、地方独立行政法人評価委員会の評価結果等を踏まえて、学部・学科体制について検討する。

(2) 助産学専攻科

少子高齢社会の進行に伴い、助産師が担う役割は急速に拡大しており、幅広い専門知識・実践力を有する助産師の育成を図るため、修業年限1年の助産学専攻科を平成22年度に開設する。

(3) 大学院

大学院については、より高度な専門性を有する人材の育成、研究機能の向上を通じた一層の地域貢献の実現等に必要なるものであることから、学部基礎を置く大学院として、段階的に修士課程及び博士課程を設置することとし、具体的な設置時期、専攻分野、定員等について検討を進める。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

(ア) 任期制について

平成18年度から全教員に5年の任期制を導入し、任期の更新に業績評価結果を反映させることにより、教員の士気の高揚、教員組織の活性化を図る。

(イ) 任用制度について

教育現場と実務の積極的な交流を行うために客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入するとともに、さまざまな知識・経験を有する教職員を任用するために、公立大学法人であるメリットを生かして、本学における教育研究への支障が生じないよう配慮しつつ、裁量労働制などの柔軟な勤務形態、兼業許可制度などを導入する。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

複雑化・高度化する事務に対応するため、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

(ア) 教員が行う教育研究活動等を活性化させるとともに、教員の資質向上を図るため、教育、研究、学内運営、地域貢献等に関する業績を公正・公平に、かつ、客観的・多面的に評価する業績評価制度を導入するとともに、その評価結果を給与、研究費、任期の更新、昇任等に反映させる。

(イ) 具体的な制度導入については、平成18年中に教員の業績評価制度並びに業績の評価結果を反映させる事項及び方法について検討する。

その検討結果に基づいて、平成19年及び平成20年の2年間にわたり教員の業績評価制度を試行的に実施し、平成21年から教員の業績評価制度を本格的に導入するとともに、平成22年度から給与、研究費、昇任等にその評価結果を反映させる。

(ウ) 教員に支給する給与及び研究費に評価結果を反映させる割合については、徐々にその割合を高くしていくこととする。

(エ) 事務局職員についても、その勤務成績を適切に評価するため、公正・公平で客観的な評価システムについて検討の上、実施する。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

学部 completion に向けて教員採用を行いながら、中・長期的な大学運営や教育研究活動の展開を把握するとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(1) 財務会計システム、教学システム、図書システム等を導入することにより事務の効率化・合理化を図る。

(2) 事務処理の効率化・合理化のため、電子化された学籍情報を活用し、就職支援システム、証明書自動発行システム等の導入を進める。

(3) ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの導入により、セキュリティが重視される施設への入退室管理、図書の貸出し・返却業務や蔵書点検等の省力化を図る。

(4) 電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。

(5) 事務局業務については、平成18年度から、当該業務の外部委託及び当該業務を行う職員の人材派遣による受入れ等を実施する。外部委託等による業務の効率化・合理化の効果が高いとの評価が行われた場合には、その業務を拡大する。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(1) 受託研究・共同研究

ア 受託研究及び共同研究を積極的に受け入れるために、平成18年度から、研究推進や連携促進のための学内委員会を設置するとともに、教員の研究成果に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。

イ 上記学内委員会及び附属研究所を中心に、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを把握し、学内の研究成果と結び付けることができる体制を構築する。

(2) 科学研究費補助金等

科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行う体制を早期に整備し、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。

(3) 外部研究資金の適正な管理

公立大学法人で受け入れた受託研究・共同研究に係る外部からの研究費等外部研究資金については、その適正な管理を担保するために、内部監査や監事監査でのチェック等の体制を構築する。

(4) 自主事業の実施等

ア 平成18年度から、地域貢献につながる公開講座を実施する。

イ 教員が発明等を行った知的財産のうち、公立大学法人において有効に活用することができるものについては、公立大学法人に承継し、実施料等の収益を上げる。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

(1) 平成18年度から、両キャンパスにおいて重複する事務のうち、特に庶務、経理等の事務を本部がある芸術の森キャンパスにできるだけ集約する。

(2) 環境に配慮し、全教職員に省エネルギー・省資源に対する意識を醸成させることにより、光熱水費等の抑制を図る。

(3) 教職員の定員管理を行い、過度な人員配置を防止するとともに、業務の外部委託等を行う。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

(1) 余裕資金が生じた場合については、取引銀行等と連携し、これら資金の安全かつ効果的な運用により、適正な管理を行う。

- (2) 不動産等固定資産については、大学の教育研究に支障のない範囲で学外者に対し使用を認めることやその対価を徴収することを検討する。
- (3) 知的財産については、利用価値の高い知的財産を積極的に活用するため、全学的な知的財産ポリシーを策定するとともに、知的財産の管理体制を確立する。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

(1) 点検・評価委員会の設置

平成18年度から、自己点検・評価を行う組織として、専任教員、事務局職員等の代表による点検・評価委員会を設置する。

(2) 自己点検・評価の実施

自己点検・評価については、点検・評価委員会が、自己点検・評価の評価項目及び当該評価項目ごとの評価基準を決定するとともに、当該評価項目に係るデータを収集・蓄積し、そのデータに基づいて、評価項目ごとに設定した評価基準を満たしているかどうかについて評価を行うことにより実施する。

(3) 結果の活用及び公表

評価結果は、点検・評価委員会から役員会等の全学的な重要組織に伝え、当該組織において包括的な改善計画を策定するとともに、学内委員会、事務局等で改善のための実行計画を策定し、改善を実行する。

また、評価結果は、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書の作成・配布により公表する。

2 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

(1) 情報提供に関する目標を達成するための措置

ア ホームページ等による情報提供

平成18年度から、ホームページや刊行物を活用し、以下に掲げる情報等を積極的に提供する。

- ① 大学の設置の趣旨及び特色並びに教育研究上の目的及び特色
- ② 育成する人材像
- ③ 教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法
- ④ 教員組織、施設・設備等の教育環境及び研究活動
- ⑤ 選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
- ⑥ 公開講座等の大学における学習機会
- ⑦ 卒業生の就職・進学状況
- ⑧ 自己点検・評価、認証評価機関及び地方独立行政法人評価委員会の評価結果
- ⑨ 設置認可申請書
- ⑩ 学則その他の規程

イ 紀要の発行

教育研究活動の結果を掲載するために、審査を経た制作・論文を含めた紀要を定期的に発行する。

ウ 公開講座の実施等

市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

(2) 個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

公立大学法人札幌市立大学が保有する個人情報については、地方独立行政法人が札幌市の個人情報保護条例における実施機関となったことから、当該条例を施行するための規程を整備すること等により、適正な取扱いを行う。

第6 その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

(1) 教育課程に沿った経年的な施設・設備の整備計画を策定し、教育・研究のニーズに適した整備を行う。

(2) 施設・設備の保守・修繕等の維持管理計画を策定し、毎年度の点検・調査により状況を評価し、実施に移行するメンテナンスサイクルを確立する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全衛生管理への対応

事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、安全衛生管理に関する教職員及び学生の意識の向上を図る。

(2) 災害等に対する危機管理体制

災害等が発生した場合に対応するため、平成18年度中に危機管理マニュアルや防災計画を策定するとともに、関係機関や地域との連携等の危機管理体制を整備する。

(3) 公立大学法人の遵法・倫理

役員、教職員及び学生が違法行為を行うことを未然に防止するため、また、ハラスメント等を防止するため、さらに、違法行為等が行われた場合に適切に対応するための全学的な体制を構築する。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- (1) マイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコージェネレーションシステム、地熱利用システム（地熱を暖房補助・自然冷房に用いる。）の導入によりエネルギーの有効利用を図る。
- (2) 断熱・遮熱性能に優れた建築システムの採用（ダブルスキン構造）により、環境負荷を軽減するとともに、室温管理等を行い、省エネルギーを徹底する。
- (3) 電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

第7 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

（注）運営費交付金は、一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金については、予算編成過程において各事業年度の札幌市の予算編成方針に基づき再計算され、決定される。

第8 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

第9 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

第10 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第11 施設及び設備に関する計画

施設・設備の改修・修繕	予定額	財源
・既存校舎の改修 ・経常的修繕費 ・大規模修繕	総額 504百万円	施設整備費補助金 (504百万円)

（注）一般的な耐用年数を基に試算しているため、金額については見込みである。具体的な額については、各事業年度の予算編成等において決定される。

第12 人事に関する計画

1 適正な定員管理

学部完成年次（平成21年度）まで順次採用を行い、必要な教職員を確保する。

学部完成後には、大学の教育研究等の質の向上に関する目標や業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために必要となる中・長期的な大学運営や教育、研究活動の展開を把握し、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

2 専門性の高い事務局職員の育成

事務局職員について、複雑化・高度化する事務に対応するため、開学時には相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れ、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

3 研修の充実

教職員の能力開発や意識向上を図るため、外部研修を含め研修体制を充実する。

第13 中期目標の期間を超える債務負担なし。

別紙 予算（人件費の見積もりを含む）

1. 予算（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	9,354
授業料等収入	1,968
外部資金研究費	132
その他収入	64
計	11,518
支出	
教育研究経費	1,983
外部資金研究費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,583
施設整備費	209
計	11,518

〔人件費の見積り〕

中期計画期間中総額6,623百万円を支出する。

ただし、退職手当は除く。

2. 収支計画（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	11,591
経常費用	11,591
教育研究経費	1,386
受託研究等費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,511
減価償却費	736
雑損	215
収益の部	11,591
経常収益	11,591
運営費交付金収益	9,089
授業料等収益	1,968
受託研究等収益	132
資産見返運営費交付金戻入	11
資産見返物品受贈額戻入	112
雑役	279
物品受贈益	215
その他収益	64
純利益	0

3. 資金計画（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	11,518
業務活動による支出	11,309
投資活動による支出	209
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	11,518
業務活動による収入	11,518
運営費交付金による収入	9,354
授業料及び入学金検定料による収入	1,968
受託研究等による収入	132
その他収入	64
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0

2 平成21年度年度計画

1) 平成21年度年度計画

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

- ・ 共通教育科目は、大学教育を受けるための心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」、文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」に区分し、体系的な教育を行う。
- ・ 専門教育科目は、専門科目を学ぶ前提や基礎となる科目群、専門的知識や技術を学ぶ科目群に区分し、専門知識や高度な技術について体系的な教育を行う。
- ・ デザイン学部の教員は、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースの特色と他コースとの関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、コースごとにプレゼンテーションを行い、情報を共有することにより、体系的に教育を行う。
- ・ 看護学部の教員は、領域ごとの特色と他領域との関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、領域ごとにプレゼンテーションを行い、各領域が情報を共有することにより、体系的に教育を行う。
- ・ デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や起業家等の活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、インターンシップを通じた就業体験の場を提供する。また、企業等に対しては、デザイン学部の教育内容について周知を図る。
- ・ 看護学部においては、保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職としての動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために臨地実習指導者会議を開催する。
- ・ 多様な講師の活用や関連施設を活用した実習など産業界、保健・医療・福祉機関、高等教育機関、行政等と連携した教育を行い、地域に貢献できる人材の育成に努める。また、知的資源を地域に還元する仕組みづくりについてさらに検討を進める。
- ・ 教務・学生委員会は、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証するため、学生による授業評価アンケートを実施する。また、卒業生に対する追跡調査の方法について検討を進める。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、使命感および勉学意欲を持った学生を確保する。

- ・ アドミッション・ポリシーは、オープンキャンパスや高校訪問、進学相談会等で広く周知するほか、ホームページでも公開する。
- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜（前期・後期）、特別選抜（推薦入学・社会人・私費外国人留学生）を実施するほか、AO（アドミッション・オフィス）入試等多様な選抜方法の導入について検討する。
- ・ 3年次編入学生を受け入れるため、編入学試験を実施する。また、社会人等の学習ニーズに対応するため、科目等履修生及び聴講生の募集を行う。
- ・ 入学者を対象としたアンケート調査等を実施するなど、入学者選抜方法の事後評価を行い、入学者選抜方法の改善・充実を図る。

イ 教育課程

- ・ 「日本語表現法」「プレゼンテーション」「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。
- ・ 「スタートアップ演習」では、両学部の学生が専門分野を学ぶ上での問題点の発見や課題解決手法等を習得させる。さらに、その成果の発表などを通じ、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう教育を行う。
- ・ デザイン学部においては、1年次から共通教育とともに、体系的にデザインの基礎となる専門教育科目を実施し、2年後期から始まるコース別専門教育に円滑に移行できるよう配慮する。
- ・ 看護学部においては、1年次から専門知識・技術を習得するためにくさび型カリキュラムを導入し、専門教育科目を実施する。
- ・ 1年次の「スタートアップ演習」、3年次からの「学部連携演習」で、学部間の有機的な連携による授業を展開する。
- ・ 学生の入学前の取得単位認定を実施する。また、これまでの事例検証を通して、他大学との単位互換等単位制度の導入についてさらに検討を進める。
- ・ 「スタートアップ演習」や「学部連携演習」において、地域の様々な課題を取り上げた実践的な授業を実施するとともに、「寒冷地デザイン」「寒冷地医療」など、地域の特色を生かした教育を進める。

ウ 教育方法及び履修指導方法

(ア) 2キャンパス

- ・ 両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で実施するが、共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に両キャンパス（芸術の森、桑園）間を移動することのないような時間割編成を行うなど、看護学部の学生の一層の負担軽減に努める。
- ・ 学生を対象に図書館の図書の間キャンパス間の検索、貸出し・返却を行う。
- ・ 導入している遠隔授業の検証及びeラーニングシステムの導入事例の検証等により、ネットワーク上の情報の推移を見守りながら、検討を進める。

(イ) 多様な授業・履修形態

- ・ 教育分野や教育内容の特性に応じ、演習、実習を取り入れた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査、模擬患者を活用した演習などを実施する。
- ・ 科目等履修生規則及び聴講生規則に基づき募集を行う。また、研究生の受入れと特別聴講学生制度および長期履修学生制度の導入について、他大学の事例検証などを基に検討する。

(ウ) 実践的な授業の重視

- ・ デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や起業家等の活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ、学外授業等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、高年次においてはインターンシップ等を通じて企業の活動を実際に体験する機会を推奨する。また、企業等に対し、デザイン学部の教育内容について周知を図る。
- ・ 保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職の動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために臨地実習指導者会議を開催する。
- ・ 実習先等におけるさまざまな危険を回避し、学生が安心して演習・実習を行うのに必要な保険の必要性・重要性を理解できるようにガイダンスを行い、傷害・賠償保険に加入させる。
- ・ 豊富な実務経験を持つ専任教員、非常勤講師を採用し、職業人育成のための教育を行う。
- ・ 実務経験豊富な外部講師を招聘し、特別講義等を行う。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

- ・ 学部の特性に応じて、講義、演習、実習を体系的に組み合わせ、専門知識や高度な技術を修得できるよう授業を行う。

(E) 履修指導方法

- ・ シラバスに「科目のねらい、到達目標」を明記するとともに、ホームページでも公開する。また、学生の授業評価アンケート等を参考にして、次年度のシラバスの充実を図る。
- ・ 全教員を対象として、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
- ・ 学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を行うため、セメスター制を実施する。
- ・ 学部ごとにセメスターにあわせて履修にあつたでの留意事項、スケジュール等についてガイダンスを実施する。
- ・ デザイン学部においては、2年後期のコース別教育にあたり、事前に適切なコース選択ができるようきめ細かな指導を行う。
- ・ 看護学部においては、看護実習の開始前に、実習に当たっての履修指導を行う。
- ・ 「英語Ⅱ」における習熟度別クラス編成の導入など、多様化する学生の資質・学力に対応するための共通教育科目の充実・強化に努める。
- ・ 一部専門基礎科目について補習（特別授業）を実施するとともに、これまでの事例検証を基に必要性が高いと考えられる科目のリメディアル教育（補完授業）の導入を進める。
- ・ 履修科目の過剰登録を防ぐためキャップ制を導入し、登録単位に上限を設ける。また、GPAの活用方法についてさらに検討を進める。
- ・ 少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態による教育を実施する。
- ・ デザイン学部では空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースごとに、看護学部では臨床、地域の区分により具体的な履修モデルを作成し、シラバスに明示する。

エ 学生の成績評価

- ・ 学則で定めた成績評価基準に基づき、適切な成績評価を行う。
- ・ 教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を検証し、成績評価制度の充実・改善に向けての検討を進める。
- ・ 成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準を学生生活ハンドブックに明示するとともに、シラバス、ホームページで公開する。
- ・ 成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度を検討するとともに、表彰の実施を検討する。
- ・ 学生からの成績評価に対する照会等について両キャンパスに設置した窓口において対応する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

- ・ 学年進行に対応して計画的に教員を採用する。
- ・ 新たに教員を採用する場合には、将来的な年齢構成等にも配慮する。
- ・ 助教および助手の適切な任用及び配置を行う。
- ・ 実務経験の豊富な客員教授の活用を図る。また、特任教授、臨地教授等の制度について検討を行う。
- ・ TA制度について検討を行う。

イ 教員の資質の維持向上

- ・ 学長、学部長等は、授業開始前に、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について研修を行う。
- ・ 大学での授業が未経験の教員に対しては、FD委員会が中心となり、学校教育法等に係る研修を行う。
- ・ 教務・学生委員会は、シラバスの記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成する。FD委員会は、希望する教員に対して記載方法等の指導・助言を行う。
- ・ 学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
- ・ FDに関する講演会や学内の研修会を実施するほか、両学部教員による研究交流会を実施し、情報交換を行う。
- ・ FDに関する外部の研究会や研修会に教職員を派遣する。

ウ 教育環境の整備

- ・ 芸術の森キャンパスにおいて、札幌市立高等専門学校の本科終了及び専攻科存続に伴い、転用可能な教室等施設の

整備を順次進める。

- ・ 学内施設利用に関する点検・評価を行い、効果的で効率的な施設運用を図るとともに、必要な措置を講ずる。
- ・ 学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を優先度を考慮し逐次整備する。
- ・ eラーニングシステムや遠隔授業等を活用し、多様な授業を実施する。
- ・ 総務委員会において、備品整備の優先度等を勘案した整備計画の検討を行い、その結果等に基づき教育研究環境の整備を進める。
- ・ 図書館運営会議において、図書の選定・充実を図るとともに、図書および学術情報等に係る環境改善について定期的に検討する。
- ・ 図書等については、図書、視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等について選定作業を行い、充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

学生の修学・進路・生活を支援するため、以下の取組を行う。

- ・ 両学部におけるメンター制度により、学生の修学・進路・生活および心身の健康等にわたる各種相談等に、教員が直接かつ柔軟に対応する。
- ・ 学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般を支援するため、学部の学生支援委員会を中心に、両学部におけるメンター制度を活用した支援を行う。
- ・ 両キャンパスに配置したカウンセラーおよび看護師等の専門スタッフにより、学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活の支援を行う。
- ・ 教務・学生委員会において、学生生活の実態や意向を把握するためのアンケートを実施し、学生生活の充実に向けた改善策を検討した上で、順次具体化していく。
- ・ 完成年次に向けて施設利用時間延長等や平成22年度開設予定の大学院生の需要を見込みながら、駐車場整備を検討する。
- ・ 学生の地域活動等に対して、情報提供、教職員の助言等を行う。
- ・ 学生のニーズを踏まえ、福利厚生および課外活動のための施設・設備の整備を行う。
- ・ 各学部のキャリア支援委員会は、学生に対するキャリア教育、就職ガイダンス等を実施するとともに、就職予定先の開拓および連携等を強化し、就職活動を支援する。
- ・ キャリア支援センターおよびキャリア支援委員会は、地元の企業や関係機関・団体等との連携を一層促進する。
- ・ 経済的理由により就学が困難な学生に対し、学生納付金の減免制度や各種奨学金制度を活用し、支援する。
- ・ 後援会組織と連携し、大学祭などの課外活動の支援を行う。

イ 留学生及び障がいのある学生に対する支援

- ・ 留学生を受け入れる場合の課題を整理するとともに、各種相談支援体制について検討を行う。
- ・ 障がいのある学生に対し、教務委員会および学生支援委員会が中心となり、修学上の支援と相談を行うほか、必要に応じて設備・機器等の整備を行う。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

- ・ デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上、都市再生等に寄与する研究を行う。
- ・ 看護学部については、看護の基礎的な研究、地域看護の充実および市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。
- ・ 両学部において、保健・医療・福祉分野や環境、健康、生活、情報等をキーワードとする共同研究を推進する。
- ・ 科学研究費補助金を含む競争的研究資金への募集情報を周知し、外部資金導入による研究の促進を図る。

イ 研究の水準及び研究成果

- ・ 地域連携研究センターの研究支援機能について検討を行い、事務局体制を含めた学内外の研究者支援制度の拡大を図る。
- ・ 大学の知を社会に還元するため、公開講座、研究会、講演会等を開催する。
- ・ 地域連携研究センターに、紀要編集委員会を設け、教員の研究成果を掲載するため紀要（SCU Journal of Design & Nursing - 札幌市立大学研究論文集 -）を発行する。また、シーズとなる教員の研究分野、研究内容等の情報をホームページ等で公開する。
- ・ 共同研究等を推進する地域連携研究センターが中心となり、産業界等との連携を深め、共同研究等地域課題に対応した研究を促進する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

- ・ 専門教育の進行に併せて研究成果の教育課程・講義へのフィードバックについて教員対象のアンケート等を引き続き実施し、担当する教育へ反映させるための方策を検討する。
- ・ 平成20年度に実施した自己点検・評価の取り組みを検証し、体制整備に向けた具体的な検討を行う。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

- ・ 個人研究費ならびに学術奨励等競争的研究費を活用し、様々な地域課題に取り組む戦略的な研究を支援する。
- ・ 教員評価制度特別委員会において、平成19年度及び20年度業績に対する評価の結果を精査し、制度導入に当たっての課題等を整理し、21年度業績に対する評価方法及び結果反映の具体的方法を検討する。
- ・ 共同研究費については、地域貢献に資する共同研究ならびにデザインと看護の連携した共同研究に重点的に配分し、共同研究を推進する。

イ 研究の実施体制

(ア) 附属研究所（地域連携研究センター）

- ・ 地域連携研究センターが、サテライトキャンパスを活用し、前年度調査を踏まえ、さらに広く産学連携事業等のニーズ調査を行い、より効果的な地域貢献事業の実施について検討する。
- ・ 地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランドおよび新産業の創出を支援する。
- ・ デザイン・看護両学部の連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療・福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。
- ・ 看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談・指導窓口の周知・活用方法を検討する。
- ・ 地域看護や在宅看護・介護に関する研修会、講演会などを開催する。また、認定看護管理者の育成を目的とするサードレベルの教育を実施する。

(イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

- ・ 地域連携研究センターは、各学部あるいは両学部における研究を支援し、その推進を図る。また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

(1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

- ・ IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。
- ・ 医療・看護・介護機器ならびにユニバーサルデザイン・バリアフリー住宅等に関する研究開発等に取り組む。
- ・ 地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。
- ・ 地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に取り組み、その成果の公表、提供等を通じて地域貢献に取り組む。

イ 教育面での貢献

- ・ サテライトキャンパスにおける情報ネットワーク等に関する前年度調査を踏まえ、多様なメディア機器等の整備について検討する。
- ・ 関係機関との連携等により、多様な講座を提供するとともに、専門職業人の継続教育等への需要に応えるプログラム開発に取り組む。その一環として、地域連携研究センターにおいて、認定看護管理者育成を目的としたサードレベルの教育を継続する。また、看護職の再就職に向けた教育のサポートを検討する。
- ・ 市民への図書の貸出しを実施するとともに、図書館運営会議においてサービス向上に向けた取り組みについて検討を行う。
- ・ 高校生を対象とした出前講座や公開講座等を行うとともに、高校関係者との協議を進め、高等学校とのより一層の連携の具体的方策を検討する。また、小中学生に対しても、大学の持つ教育機能の提供を進めていく。
- ・ 札幌市立高等専門学校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力を図る。

ウ 大学間連携

- ・ 大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施について情報収集し、検討する。

エ 札幌市との連携

- ・ 札幌市の行政施策に関連する各部局との連携を推進するため、総合窓口となる連携会議等の情報交換の場を設け、地域課題の解決に対する取り組みを行う。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

- ・ 地域連携研究センターが中心となり、海外の大学・研究機関等との連携等による研究者・学生の交流を推進する。
- ・ 国際会議の開催や参加等を通じて、国際的な大学・研究機関との連携、交流を促進する。
- ・ UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関に参加する。
- ・ 地域研究連携センターが中心となり、国際交流の企画と推進を行う。

イ 留学生の受入れ

- ・ 交流協定校を中心とした海外の大学との教育研究等に関する連携を進め、留学生の受け入れについても、具体化に向けて検討を行う。
- ・ 留学生を受け入れる場合の課題を整理するとともに、各種相談支援体制について検討を行う。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

- ・ 経営戦略に基づき、理事長のリーダーシップにより、目標達成に向け着実な業務運営を行う。

イ 役員会及び理事のサポート

- ・ 役員会において最重要事項の審議を行うとともに、各役員の専門性を発揮するため、役割を分担し理事長をサポートする。

ウ 企画戦略室の設置等

- ・ 企画戦略室において経営戦略に係る事項を推進する。

エ 学内の資金配分

- ・ 研究費については基礎的な個人研究費のほかに、学術奨励等競争的研究費を設ける。また、理事長の裁量により留保する戦略的経費の中から大学が様々な地域課題に取り組む戦略的な研究費に充てる。
- ・ 研究費以外の予算についても、理事長が裁量により重点的に配分することが出来る資金を設けるなど、平成22年度予算編成方針は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮し、策定するとともに、戦略的かつ柔軟な予算配分を行う。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

- ・ 学外から登用した専門家・有識者である理事の活用を図る。
- ・ 学外から登用した経営に関する有識者である経営審議会委員の活用を図る。
- ・ 学外から登用した教育研究に関する有識者である教育研究審議会委員の活用を図る。

イ 教授会等

- ・ 教授会および学内委員会の審議事項を厳選し、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。
- ・ 役員会等の重要な会議の議事内容が、すべての教員に周知されるよう情報の共有化を行う。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

- ・ 公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体および各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。
- ・ 役員会等に対し業務実績報告を行うとともに、自己点検・評価委員会が業務執行データの蓄積等を行う。

イ 経営資源の管理・活用

- ・ 役員会、経営審議会、部局長会議等を通じて理事長を始めとする経営層が、経営資源の把握が容易となるよう運営を行う。
- ・ 理事長は経営戦略に基づき、効果的、効率的な経営資源の配分・活用についてそのリーダーシップを発揮する。
- ・ 公立大学法人の有する知識、技術等の情報を、電子メールや教職員専用学内ホームページ等により積極的に情報提供し、情報の共有化を図るとともに、教育研究の活性化や地域貢献に積極的に活用する。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

- ・ 学内委員会には、事務局職員も学内委員会の委員として参加し、教職員が一体となって公立大学法人の運営にあたる。

イ 専門性の高い事務局体制

- ・ 高い専門性を有する事務局体制を維持するため、札幌市からの派遣職員を計画的にプロパー職員等に切り替える。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

- ・ 学部・学科は、完成年次である平成21年度までは現在の体制を維持する。

(2) 大学院

- ・ 平成21年5月末日に文部科学省に対して大学院（修士課程）の設置認可申請を行い、デザイン学部、看護学部をそれぞれ基礎に二つの研究科からなる大学院を設置する。大学院設置認可後は速やかに学生募集活動を開始し、公平かつ適正な方法により入学者選抜を実施する。また、両キャンパスに大学院棟を整備するとともに、大学院の教育研究に必要な施設・設備の整備に着手し、それぞれ年度内に完成させる。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

- ・ 教員評価制度特別委員会において、平成19年度及び20年度業績に対する評価の試行結果を精査し、制度導入に当たっての課題等を整理し、21年度業績に対する評価方法及び結果反映の具体的方法を検討する。
- ・ 教員の裁量労働制・兼業許可制度について継続し運用する。また、特任教授、臨地教授等の制度について検討を行う。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

- ・ 大学事務に精通した高い専門性を有する職員を育成するため、学内研修を実施するとともに、学外研修会等への参加を促進する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・ 教員評価制度特別委員会等で、評価結果の反映の具体的方法について、検討を進める。
- ・ 教員評価制度特別委員会において、平成19年度及び20年度業績に対する評価の試行結果を精査し、制度導入に当たっての課題等を整理し、21年度業績に対する評価方法及び結果反映の具体的方法を検討する。
- ・ 「公立大学法人札幌市立大学職員の人事評価に関する規程」に基づき開学年度から行っている評価制度を今後も継続することとし、本格実施とする。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

- ・ 学部の完成および大学院設置に向け、計画的に教員採用を行うとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行い、適正な教職員数を実現する。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・ 財務会計システム、教学システム、図書システム等の改善を行い、事務の効率化・合理化を図る。
- ・ 既存システムの拡充等について検討を進める。
- ・ ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの運用により事務の省力化を図る。
- ・ 電子メールや教職員専用学内ホームページの活用によるペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。
- ・ 事務局業務については、前年度に行った業務の外部委託について、業務の効率化・合理化の効果の検証・評価を行い、その結果等を踏まえ、委託業務を拡大するなどの業務改善を進める。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・ 地域連携研究センターにおいて、教員の研究活動に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。
- ・ 地域連携研究センターにおいて、前年度の調査を踏まえ民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを広く把握し、効果的に学内の研究成果と結び付ける。
- ・ 地域連携研究センターにおいて、科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行い、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。
- ・ 外部研究資金について、定期的に監査を実施する。
- ・ 地域貢献につながる公開講座を実施する。
- ・ 知的財産規程に基づき、有効に活用することができる知的財産については、本学教員が職務発明した権利を大学が継承する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・ 事務局職員の配置にあたっては、庶務、経理等の事務を芸術の森キャンパスに集約するなど、適正な職員配置を行う。

- ・ 冷房、暖房の温度設定管理の徹底等により、光熱水費の抑制を図る。また、教職員、学生に対して省エネルギーに関する啓発活動を積極的に行う。
- ・ 清掃等の業務委託の際には、光熱水費の節約や環境に対する配慮について明記する。
- ・ 教職員の適正な人員管理を行うとともに、必要に応じて事務局業務の外部委託を行う。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

- ・ 余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。
- ・ 学内施設の学外者への有料貸出しについて、関係規程等の整備を行い、順次実施する。
- ・ 知的財産ポリシーに基づき、地域連携研究センターの下にある知的財産委員会は、知的財産の管理・運用を行う。

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・ 自己点検・評価委員会は、自己点検・評価の評価項目および評価基準に基づき、データを蓄積し、次回の自己点検・評価の実施に向け準備を進める。
- ・ 平成20年度の自己点検・評価結果に基づいた改善計画及び改善のための実行計画を踏まえ、改善に取り組む。

2 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

(1) 情報提供に関する目標を達成するための措置

- ・ 学内の情報をわかりやすく、迅速に情報提供できるようホームページの逐次改善を行う。

ホームページでは以下に掲げる情報等を積極的に提供する。

- ① 大学の設置の趣旨および特色ならびに学部ごとの教育研究上の目的及び特色
- ② 育成する人材像
- ③ 教育課程の内容および開設科目のシラバス等教育内容・方法
- ④ 教員組織、施設・設備等の教育環境および研究活動
- ⑤ 選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
- ⑥ 公開講座等の大学における学習機会
- ⑦ 自己点検・評価および地方独立行政法人評価委員会の評価結果
- ⑧ 設置認可申請書
- ⑨ 学則その他の規程
- ⑩ 図書館に関する情報
- ⑪ サテライトキャンパスに関する情報
- ⑫ オープンキャンパスに関する情報
- ⑬ 大学行事に関する情報
- ⑭ 大学の資料請求に関する情報

- ・ 本学における教育研究活動の結果を掲載するために、地域連携研究センターに紀要編集委員会を設置し、審査を経た制作・論文を含めた紀要（SCU Journal of Design & Nursing - 札幌市立大学研究論文集 -）を発行する。
- ・ 市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

(2) 個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

- ・ 個人情報保護事務取扱規程および個人情報保護ポリシーに基づき個人情報の適正な取り扱いを行う。

V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

- ・ 大学完成時、及び大学院設置に向け、教育課程に沿った施設・設備の整備計画に基づき、順次整備を進める。
- ・ 平成20年度に策定した施設保全計画（施設、設備の中・長期的な維持管理計画）に基づいて、計画的に施設・設備の保守・修繕等を実施する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

- ・ 事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制について、教職員および学生への周知を図る。
- ・ 危機管理マニュアルおよび防災計画の適切な運用を図る。
- ・ キャンパス・ハラスメント防止委員会により、ハラスメントや違法行為が行われた場合の対応を行うとともに、防止策や対応策の周知を図る。

- ・ 学生に対して、ガイダンスの実施や学生生活ハンドブックを通して、学則の周知徹底を図る。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 本学が導入するマイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコージェネレーションシステムについて、エネルギー有効利用の検証を行う。
- ・ 学用車のリースに当たっては、環境に配慮したハイブリッド車を使用する。
- ・ 環境負荷軽減のため室温管理や適切な換気等を行い、省エネルギーを徹底する。また、教職員、学生に対して省エネルギーに関する啓発活動を積極的に行う。
- ・ 電子メールや教職員専用学内ホームページの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

VI 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画 別紙のとおり

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延および事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 なし。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上および組織運営の改善に充てる。

X 施設及び設備に関する計画

- ・ 札幌市立高等専門学校の学生数減少に伴う施設改修
- ・ 経常的修繕等
- ・ 大学院施設整備に係る増築費等

総額 1,180百万円

（注）金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XI 人事に関する計画

- ・ 学部の完成および大学院設置に向け、計画的に教員採用を行い、必要な教職員を確保する。
- ・ 札幌市からの派遣職員のプロパー化の推進により、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。
- ・ 教職員の能力開発や意識向上を図るための学内研修会を行うとともに、必要に応じて外部研修に教職員の派遣を行う。

別紙 予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積りを含む）

1. 予算

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,623
施設整備費補助金	1,122
授業料等収入	418
受託研究等収入及び寄附金収入	22
補助金収入	16
その他収入	11
目的積立金取崩	18
計	3,230
支出	
教育研究経費	508
受託研究等経費及び寄附金事業費等	21
人件費	1,219
一般管理費	286
施設整備費	1,180
補助金事業費	16
計	3,230

2. 収支計画

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,398
教育研究経費	703
受託研究等費	21
人件費	1,219
一般管理費	326
財務費用	11
減価償却費	118
収益の部	
経常収益	2,380
運営費交付金収益	1,598
授業料等収益	437
受託研究等収益	22
施設費収益	261
補助金収益	16
資産見返運営費交付金戻入	17
資産見返物品受贈額戻入	18
雑益	11
その他収益	11
純利益（純損失）	△18
目的積立金取崩益	18
総利益（総損失）	0

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

3. 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	3,296
業務活動による支出	2,251
投資活動による支出	886
財務活動による支出	93
翌年度への繰越金	66
資金収入	3,296
業務活動による収入	2,090
運営費交付金による収入	1,623
授業料及入学金検定料による収入	418
受託研究等による収入	22
補助金等による収入	16
その他収入	11
投資活動による収入	1,122
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	84

2) 札幌市地方独立行政法人評価委員会「公立大学法人札幌市立大学の平成21事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について」抜粋（平成22年9月）

1 公立大学法人札幌市立大学の年度評価の方法

- (1) 年度評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、各事業年度における中期計画（年度計画）の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の確認又は評価を行う。
 - ① 大学の教育研究等の質の向上
 - ② 業務運営の改善及び効率化
 - ③ 財務内容の改善
 - ④ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供
 - ⑤ その他業務運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、公立大学法人から提出された業務実績報告書（公立大学法人の業務実績や公立大学法人において作成した年度計画の達成状況に係る自己評価結果を記載したもの）等を検証し、年度計画の記載項目（小項目）ごとの事業の進捗状況について、次に掲げるⅠ～Ⅳの4段階で評価を行う（小項目評価）。公立大学法人による自己評価と評価委員会の小項目評価が異なる場合は、その理由等を示す。
 - Ⅳ：年度計画を上回って実施している。
 - Ⅲ：年度計画を十分に実施している。
 - Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。
 - Ⅰ：年度計画を実施していない。
- (4) (3)の結果等を踏まえ、年度計画の大項目ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。
 - S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
 - A：計画どおり進捗している（小項目評価の結果がすべてⅣ又はⅢ）
 - B：おおむね計画どおり進捗している（小項目評価の結果に係るⅣ又はⅢの割合が9割以上）
 - C：やや遅れている（小項目評価の結果に係るⅣ又はⅢの割合が9割未満）
 - D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、項目別評価の結果等を踏まえ、中期計画（年度計画）の進捗状況全体について、総合的に評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成18年度に開学した公立大学法人札幌市立大学は、平成21事業年度で開学4年目の学部完成を迎えた。開学時より、デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本として教育研究を行っており、デザイン分野と看護分野における有為な人材の育成・輩出と地域に根ざした公立大学として一層の地域貢献が期待されている。また、一期生の卒業年

度を迎え、学生の就職や進学といったキャリア支援に対する取組にも力点を置くことが求められている。

平成21事業年度の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、2項目でB評価（おおむね計画どおり進捗している）とし、そのほかの3項目についてはA評価（計画どおり進捗している）となっており、年度計画の小項目ごとの評価からも、全体としては、行うべき事業を行い順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学が策定した平成21年度の年度計画の記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、小項目数174項目のうち、6項目がIV評価（年度計画を上回って実施している）、163項目がIII評価（年度計画を十分に実施している）となっており、これらを合わせると174項目中169項目（97.1%）が年度計画の水準を満たしている。

また、毎事業年度ごとに膨大な項目数の評価を実施していくなかで、学内において、一定の評価文化が定着しつつある点は、高く評価したい。

(2) 年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイント

年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイントは、次のとおりである。

ア 大学の教育研究等の質の向上

(ア) 教育

両学部とも勉学意欲を持った学生を確保しており、適切なアドミッション・ポリシーと地道な教育努力によるものと評価できる。教育活動では、昨年度に引き続き両学部で水準の高い教育が行われている。デザイン学部と看護学部といった異なる分野の学生を学部連携演習等で有機的に連携させ、広い視野を持った学生の育成に努めるなど、大学の特徴を活かした教育が実践されている。また、インターンシップを通じた就業体験の場の提供を行うなど学生のキャリアアップ支援にも積極的に取り組んでいることは高く評価できる。

今後、学生が一つ一つの科目を丁寧に学習できるよう単位制度の実質化を図ることで、より有為な人材の育成を実現できると考える。

(イ) 研究

札幌市及び道内市町村の地域課題に即した研究のテーマ設定や予算づけが適切になされている。

平成21事業年度は、両学部ともに、科学研究費補助金等に積極的に応募し、外部資金の獲得に向けて努力したことが評価できる。

一方で、デザイン学部における地元企業との共同・受託研究等については、件数が少なく、地域貢献を標榜する大学として、地域連携研究センターの機能を高め、地元企業と連携した取組を積極的に展開していくことを期待する。

(ウ) 地域貢献

両学部とも、大学の知を市民に還元する取り組みを積極的に行っており、公開講座の参加人数、講演会等への教員の派遣件数は、前年度より大幅に増えていることは、高く評価できる。

一方で、大学間連携については、より積極的な展開を望む。また、大学の国際化に向けた戦略を明確にして取り組むことが必要であり、特に大学院を開設したことから、大学院の機能を生かした国際化に向けた戦略を描き実践していくことを期待する。

イ 業務運営の改善及び効率化

理事長のリーダーシップにより経費の削減に努めていることは評価できるが、学長裁量経費については、教育研究活動を活性化させるため、よりメリハリのある予算執行を期待する。更に、理事長がリーダーシップを発揮していくための補佐体制の強化を期待する。

また、高い専門性を有する事務局体制にしていくため、市の派遣職員から順次プロパー職員に切り替えるなど、職員の育成を計画的に進めていることは評価できる。昨今の大学運営には、コンパクトな事務局体制による効率的な運営が求められており、一層の事務効率化の検討が必要である。

一方で、教員評価制度については、検討が遅れていることから、早急な改善が必要である。

ウ 財務内容の改善

公開講座は、参加料を徴収している講座も多く、受益者負担及び大学の自己収入の増加を図る観点から評価できる。

電気・ガス・水道の消費実績が前年比微増となっているが、大学院の開学といった次年度以降の増加要因があることから、更なる省エネルギーに関する啓発活動を期待する。

エ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供

ホームページにアクセス解析機能を付加して情報分析に役立てられるようにしたことにより、今後の情報発信力の向上が期待できる。

講演会等へ教員を積極的に派遣し、札幌市立大学の知名度の向上に寄与していることは評価できる。

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

オ その他業務運営

施設保全の実行に当たっては、「検討システム」を早急に構築し、PDCAによる管理を早急に実現することを期待する。

(3) 今後の課題

- ・ 前年度以前の業務実績報告書に比べ記述には工夫の跡が感じられるが、実施項目の羅列が多く、それらがどういう意味を持っているか、アウトカムは何かなどの分析が適切に行われていない。次年度の報告書には、現在の取り組みの成果を反映した記述になっていることを望む。
- ・ 前年度に「検討する」などの回答をしているにもかかわらず、その後の取組状況の報告がないものがある。前年度からの継続性をもった報告を次年度以降は望む。
- ・ 卒業に必要な単位の大部分を3年までに修得させるという、日本の学士課程に固有の偏ったカリキュラム編成の改善に主体的に取り組むことを期待したい。単位制度を実質化し、学習の質を保証するためには、より適切な科目配分が必要である。
- ・ 大学の国際化については、依然として取組の遅れが目立っている。具体的な戦略を持って取り組むことが必要である。

3-1 教育研究等の質の向上に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数114項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を十分に実施している（Ⅲ評価）」と評価された項目が110項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
114	0	4	105	5	96%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 看護学部のFD研修は、教員の参加割合が高く、内容も充実しており効果が期待できる取り組みである。
- ・ デザイン学部、看護学部ともに多様な選抜試験を実施し、それぞれの入試に比較的多くの受験者を集めている。
- ・ デザイン学部で3年生を対象に民間企業や地方自治体等の協力を得て行われたインターンシップは、教育上有意義であるだけでなく地元への貢献の芽を作るものと期待される。

(イ) その他、次に掲げる点が注目される。

- ・ 授業評価アンケートは、回収率を高めるため、オンライン入力から平成21年度後期からマークシート方式に変更した結果、回収率は、前期54.9%から後期は75.1%まで改善された。
- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、使命感及び勉強意欲を持った学生を確保しており、過去3年間の入学者553人のうち、退学者は7人とどまっている。
- ・ 看護学部の一般選抜試験において大学入試センター試験の国語配点を従来2倍にしたことには教育上の見識が感じられる。
- ・ 施設利用について、平成22年度から平日及び土曜日の施設利用時間を延長するとともに日曜日の施設利用を開始することが決定された。
- ・ 両学部とも科学研究費補助金への申請は前年度に比べ大幅に増加しており、外部競争的資金獲得に向けて努力したことが評価できる。

イ 遅れている点

- ・ 業務実績報告書やヒアリングの内容から判断する限り、FDのアウトカムは必ずしも満足すべき水準にない。単位の実質化、グレーディング、混合型（ハイブリッド型）eラーニングなど、現在の学士課程教育にかかわる基本的な問題が教員のあいだで正しく理解されているとは思えない。外部の研修に参加するのは当然としても、そこで得られた情報を教員の間で共有し実際の授業や成績評価に役立てる工夫が必要である。

- ・ 大学間連携が意欲的に行われているとは言いにくい。共同研究等を足がかりにより積極的な展開が望まれる。
- ・ 大学の国際化についてトップの相互訪問は行われているが、具体的な成果をあげる段階には至っていない。平成22年度より開設した大学院を中心に留学生を受け入れていくとのことだが、広報活動方針も含めた、留学生獲得のための全学的な戦略が不十分である。大学としての生き残りをかけて積極的に海外展開しようという戦略が必要である。
- ・ UMAPに参加している以上、より積極的な取組が必要である。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 教育研究において地道な努力を続けていることは認められるが、大学間連携や大学の国際化については、積極的な展開の意欲と戦略に欠けている。
- ・ 教育活動については、全般的に極めて真摯かつ積極的に取り組まれている。しかし、キャップ制の意味や自己点検・評価の利用法を含め、高等教育を支える基本的な考えに関するFDの機会が設けられることを今後希望したい。
- ・ 第1期卒業生を輩出したことを受けて、学生による教育課程全体の評価にも取り組んでほしい。今後は卒業生をはじめ、市民、企業などに対するステークホルダー調査の実施も検討してほしい。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数31項目に対して、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価された項目が30項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
31	0	1	30	0	97%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 理事長のリーダーシップにより、研究費及び固定費を除いた予算の15%減額を行った。
- ・ 平成21年度当初で、市派遣16人に対し、プロパー職員は20人となり、半数を超え、計画的にプロパー職員への切り替えが進んでいる。
- ・ 平成21年5月27日付で、文部科学省に大学院（修士課程）の設置認可申請が行われ、同年10月30日に設置認可を受けた。
- ・ 大学院開設のPRを積極的に行った結果、デザイン研究科、看護学研究科ともに、定員を上回る志願者があった。

イ 遅れている点

- ・ 教員の業績評価制度の導入、結果の反映は、計画よりあきらかに遅れた進捗状況となっている。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ マネジメントサイクルは、短期間で実施することで、課題の早期発見、早期改善を可能とする。現状のマネジメントサイクルでは、下期の実施状況の検証を翌年度の計画に反映できず、課題・問題等が先送りされる懸念がある。昨年度、マネジメントサイクルについての評価委員会からの確認に対して「学部が完成し、管理業務がある程度固定化した段階で、短期間のマネジメントサイクルについて検討する」との回答を受けている。早急に四半期ごとの執行状況を確認するマネジメントサイクルの構築を期待する。
- ・ 学部の完成年次である平成21年度までに教員組織を完成させる計画であったが、適正な教員数、教員構成が実現できたのかは疑問がある。
- ・ 事務局業務については、業務効率化向上計画を検討し、実施していく中で質の高い業務運営を行っていくことが必要である。また、事務局職員は、現在、年間を通じて、膨大な超過勤務を行っており、平成21年度実績から半減を数値目標とすべきである。

3-3 財務内容の改善に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
13	0	0	13	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 地域貢献につながる公開講座が年間42コマ開講され、延べ1,578人が受講しており、受講者数は前年度比3割増加している。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 地域連携研究センターが中心となって、企業(特に市内の企業の大半を占める中小企業)や経済団体等と連携し、受託研究及び共同研究を積極的に受け入れること。特に、現在、札幌市が検討している産業振興ビジョンの中では、札幌市産業の高度化に向け、地域特性を活かした付加価値の創出を基本的な戦略の一つとして掲げる予定であり、高付加価値型産業である食品製造業などの製造業、IT産業やコンテンツ産業などの振興に向けた積極的な貢献を来期以降に期待したい。

3-4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
6	0	0	5	1	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 非常勤講師、講演会等への教員派遣の依頼に対し、デザイン学部では64件(前年度31件)、看護学部では224件(前年度78件)の派遣が行われた。

(イ) その他、次に掲げる点が注目される。

- ・ ホームページの全面リニューアルが行われ、コンテンツの充実及びアクセス解析機能が付加されるなど、今後の情報分析に役立つ取り組みが行われた。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 平成23年度に第三者評価機関による認証評価を受けることとしており、この評価結果は、現中期計画の最終評価にも反映されることから、万全な準備を進めていただきたい。

3-5 その他業務運営に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
10	0	0	10	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 大学院デザイン研究科及び看護学研究科の設置に向けて、必要な施設及び機器等が整備された。
- ・ 節電を促すスイングポップを照明スイッチに貼付するなど、省エネに関する取り組みが行われた。

イ 遅れている点

遅れている点は、特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 昨年度、中・長期の維持管理計画に関する評価委員会からの確認に対する回答では、「大学内部での整備に係る評価やその確認を得るために、検討システムを構築していくことも視野に入れる」となっていたが、今回の業務実績報告書に検討システム構築についての説明がない。
- ・ 環境への配慮については、ほぼ前年度と同様の記載であり新たな取組が少ない。節水、節電等による省エネルギーを進めていくために、施設・設備の修理、更新時には環境配慮型の設備等の導入を積極的に進めていただきたい。

3 平成21年度決算

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
収入				
運営費交付金	1,623	1,623	0	
施設整備費補助金	1,122	1,121	△1	
授業料等収入	418	419	1	
受託研究等収入及び寄附金収入	22	23	1	
補助金収入	16	23	7	(注1)
その他収入	11	12	1	
目的積立金取崩	18	0	△18	
計	3,230	3,221	△9	
支出				
教育研究経費	508	420	△88	(注2)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	21	20	△1	
人件費	1,219	1,144	△75	(注3)
一般管理費	286	372	86	(注4)
施設整備費	1,180	1,184	4	
補助金事業費	16	23	7	(注5)
計	3,230	3,163	△67	
収入-支出	0	58	58	

※ 予算と決算の差異について

- (注1) 当初予算では予定していなかった補助事業が採択されたことにより、増加しました。
(注2) その他教育経費及び教員研究費が、減少しました。
(注3) 教員の欠員により、減少しました。
(注4) システム関係経費及び業務委託費が、増加しました。
(注5) 当初予算では予定していなかった補助事業が採択されたことにより、増加しました。

4 教職員数 (平成22年3月31日現在)

1) 学部別教員数

学長	1
副学長	1
デザイン学部	33
看護学部	39
合計	74

2) 職位別教員数

学部		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	15	3	7	2	0	27	42
	女	0	3	2	1	1	7	25
看護学部	男	1	1	0	1	0	3	58
	女	10	4	10	11	2	37	46
合計		26	11	19	15	3	74	171

3) 職員数

	事務系	司書系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	31	0	0	2	0	0	33
女	25	8	3	0	2	0	38
合計	56	8	3	2	2	0	71

5 管理職一覧表 (平成22年3月31日現在)

役職名	教職員名
学長	原田 昭
副学長 兼 看護学部長	中村 恵子
デザイン学部長	吉田 恵介
附属図書館長	武邑 光裕
事務局長	山崎 亘
事務局次長 兼 桑園事務室長	西野 守彦
事務局総務・大学院担当部長	阿部 大
事務局総務課長	加賀 賢治
事務局経営企画担当課長	渡辺 春志
事務局地域連携担当課長	上田 理子
事務局学生課長	安立 卓也
事務局桑園担当課長	徳永 信之助

6 教員一覧表（平成22年3月31日現在）

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教授	原田 昭	教授	中村 恵子
教授	吉田 恵介	教授	内田 雅子
教授	武邑 光裕	教授	加藤 登紀子
教授	石崎 友紀	教授	河野 總子
教授	上遠野 敏	教授	坂倉 恵美子
教授	齋藤 利明	教授	定廣 和香子
教授	酒井 正幸	教授	スーディ神崎 和代
教授	城間 祥之	教授	樋之津 淳子
教授	杉 哲夫	教授	松浦 和代
教授	中原 宏	教授	宮崎 みち子
教授	羽深 久夫	教授	山本 勝則
教授	原 俊彦	准教授	大野 夏代
教授	望月 澄人	准教授	清水 光子
教授	矢部 和夫	准教授	須田 恭子
教授	吉田 和夫	准教授	守村 洋
准教授	エルサニマロアン	准教授	吉川 由希子
准教授	武田 亘明	講師	菊地 ひろみ
准教授	張 浦華	講師	佐藤 公美子
准教授	フィッシャー ニーナ	講師	菅原 美樹
准教授	細谷 多聞	講師	杉田 久子
准教授	町田 佳世子	講師	新納 美美
講師	大淵 一博	講師	藤井 瑞恵
講師	柿山 浩一郎	講師	星 美和子
講師	小宮 加容子	講師	村松 真澄
講師	斉藤 雅也	講師	保田 玲子
講師	那須 聖	講師	渡邊 由加利
講師	福田 大年	助教	太田 晴美
講師	松井 美穂	助教	神島 滋子
講師	三谷 篤史	助教	河村 奈美子
講師	山田 良	助教	小坂 美智代
助教	上田 裕文	助教	櫻井 繭子
助教	片山 めぐみ	助教	進藤 ゆかり
助教	須之内 元洋	助教	多賀 昌江
助手	棟方 渚	助教	照井 レナ
		助教	原井 美佳
		助教	淵本 雅昭
		助教	松村 寛子
		助教	三上 智子
		助手	工藤 京子
		助手	鶴木 恭子

7 学生定員及び学生数

1) 学生定員 (平成21年5月1日現在)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看護学部	80	10	340
合計	160	30	700

2) 学生数 (平成21年5月1日現在)

学部	学年	男女別		出身地別			計
		男	女	道内		道外	
				札幌市内	札幌市外		
デザイン学部	1学年	32	52	39	28	17	84
	2学年	28	61	46	29	14	89
	3学年	28	69	51	28	18	97
	4学年	33	61	57	26	11	94
看護学部	1学年	10	74	45	37	2	84
	2学年	8	76	38	42	4	84
	3学年	7	79	38	43	5	86
	4学年	11	78	36	47	6	89
合計		157	550	350	280	77	707

3) 科目等履修生・聴講生 (平成22年3月31日現在)

学部	科目等履修生	聴講生	計
デザイン学部	3	0	3
看護学部	3	0	3
合計	6	0	6

8 授業料等

(単位:円)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800

9 奨学金貸与・授業料減額免除実施状況（平成22年3月31日現在）

奨学金貸与状況

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1学年	31	61	3	95
2学年	29	62	3	94
3学年	37	54	5	96
4学年	24	59	4	87
合計	121	236	15	372

授業料減額免除実施状況

学年	学期	全額免除者	半額免除者	計
1学年	前期	0	8	8
	後期	0	11	11
2学年	前期	0	14	14
	後期	0	17	17
3学年	前期	0	15	15
	後期	0	16	16
4学年	前期	0	13	13
	後期	0	13	13
合計	前期	0	50	50
	後期	0	57	57

10 学生の入選・受賞

デザイン学部

入選・受賞年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成21年4月	福岡 寛子	札幌市環境白書－概要版－デザイン採用	札幌市環境局
平成21年7月	羽賀 尚也	生肉等による食中毒の防止ポスターデザインコンクール 保健所長賞	札幌市保健所
平成21年8月	平山 友美子	第5回「学生の匠」リフォームコンクール・JRN会員賞	JRNジャパン・リフォーム・ネットワーク
平成21年8月	奥田 諭史 篠原 麻那美	第5回「学生の匠」リフォームコンクール・佳作	JRNジャパン・リフォーム・ネットワーク
平成21年8月	森谷 桃伍	市立赤平病院夏の体験視察会ポスター審査・最優秀賞	赤平市立赤平総合病院
平成21年8月	藤田 元輝	市立赤平病院夏の体験視察会ポスター審査・最優秀賞	赤平市立赤平総合病院
平成21年8月	羽賀 尚也	市立赤平病院夏の体験視察会ポスター審査・最優秀賞	赤平市立赤平総合病院
平成21年8月	藤原 大記	市立赤平病院夏の体験視察会ポスター審査・優秀賞	赤平市立赤平総合病院
平成21年8月	石崎 佑実	第13回きものデザインコンクール・入選	全国染織連合会

入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成21年9月	伊 関 里 紗 太 田 晶 子 門 谷 咲 子 柴 垣 綾 子	札幌メディア・アート・フォーラム (SMF) トライアル2009	札幌メディア・アート・フォー ラム
平成21年9月	奥 田 諭 史 篠 原 麻 那 美	第26回建築設計競技「うちとそと」-風土を見る- 銀賞 (1300と1600の垣根)	(社)日本建築家協会東海支部
平成21年9月	笠 原 恵 里	日本質的心理学会第6回大会ポスター募集・採用	日本質的心理学会
平成21年10月	後 藤 佳 奈 今 野 優 子 清 水 睦 子	アイアンフィルムメーカーコンテスト2009・ ブロンズアイアン	さっぽろフィルムコミッション
平成21年10月	牛 田 美 穂	エコ・デザインアワード2009・準グランプリ 「Puzzle Button」	SAPPOROエコデザイン プロジェクト実行委員会
平成21年10月	奥 田 諭 史	エコ・デザインアワード2009・入選「照明缶」	SAPPOROエコデザイン プロジェクト実行委員会
平成21年10月	川 内 麻 美 佐 藤 美 季 子	エコ・デザインアワード2009・入選 「thifon (シフォン)」	SAPPOROエコデザイン プロジェクト実行委員会
平成21年10月	塩 地 恵 実	エコ・デザインアワード2009・入選「COWnter」	SAPPOROエコデザイン プロジェクト実行委員会
平成21年11月	日 高 麻 里	全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会・ 暗誦の部2位	北海道日中友好協会
平成21年11月	萩 原 由 美 乃	全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会・ 暗誦の部3位	北海道日中友好協会
平成21年11月	齋 藤 麻 美	全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会・ 朗読の部3位	北海道日中友好協会
平成21年11月	工 藤 哲 人 塩 見 遥 篠 原 麻 那 美	地球にやさしい住生活デザインコンペティション・ 関東優秀賞「カケイシ」	リビングデザインセンター OZONE
平成21年11月	柴 原 芽 依	札幌市長「2010年海外向けグリーティングカード」・ 採用	札幌市総務局国際部
平成21年11月	尾 崎 真 理 子	札幌市交通局ウィズユーカード・デザイン採用	札幌市交通局事業管理部
平成21年12月	太 田 耕 平 他	学生まちづくりコンテスト2009・優秀企画 「ARTOU (雪あかりの祭典事業)」	札幌市市民まちづくり局
平成21年12月	山 田 ゼ ミ	学生まちづくりコンテスト2009・優秀企画 「大通商業地区ゴミリサイクルプロジェクト」	札幌市市民まちづくり局
平成21年12月	中 山 真 梨 山 田 瑞 貴	学生まちづくりコンテスト2009・優秀企画 「GURAPO (コトニ魅力発見マップの作成)」	札幌市市民まちづくり局
平成22年2月	小 路 恭 兵	「EGG s' 09」ポスターコンペティション 最優秀賞	(社)日本建築学会北海道支部
平成22年2月	羽 賀 尚 也	「EGG s' 09」ポスターコンペティション 優秀賞	(社)日本建築学会北海道支部
平成22年2月	柴 原 芽 依	「EGG s' 09」ポスターコンペティション 優秀賞	(社)日本建築学会北海道支部
平成22年2月	栗 林 拓 海	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 MVP賞、ニトリ賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	森 藤 菜 保	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 準MVP賞、教育文化会館賞、アドバコム賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	中 村 春 香	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 ニトリ賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	渡 辺 沙 織	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 ニトリ賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	下 島 一 浩	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 ニトリ賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	吉 田 優	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 ニトリ賞、ハドソン賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

入選・受賞年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成22年2月	高橋 智栄美 滝上 由起 野澤 早織	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 ハドソン賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	石崎 佑実 鈴木 麻以 佐藤 文香	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 エアードライブ賞、ハドソン賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	大石 智子 辻 彩衣	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 コカ・コーラ賞、ハドソン賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	藤原 大記	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 コカ・コーラ賞、教育文化会館賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年2月	下島 一浩 平川 信惇 三益 佑介	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2010 コカ・コーラ賞、教育文化会館賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成22年3月	笠原 恵里	郷の駅ホッとときもべつ観光案内板デザイン募集・ 優秀賞	喜茂別町
平成22年3月	羽賀 尚也	郷の駅ホッとときもべつ観光案内板デザイン募集・ 優秀賞	喜茂別町
平成22年3月	永井 杏奈	郷の駅ホッとときもべつ観光案内板デザイン募集・ 佳作	喜茂別町
平成22年3月	栗山 彩	郷の駅ホッとときもべつ観光案内板デザイン募集・ 佳作	喜茂別町
平成22年3月	森谷 桃伍	郷の駅ホッとときもべつ観光案内板デザイン募集・ 佳作	喜茂別町
平成22年3月	内海 智美 鈴木 柚那 松本 沙緒里	狸小路商店街CMコンテスト・グランプリ	シアターキノ
平成22年3月	種村 直子 成田 梓	日本建築学会北海道支部賞	(株)日本建築学会北海道支部

11 学生の課外活動

	公認団体	主な入選・受賞等
1	バスケットボール部	
2	吹奏楽部	
3	軽音楽部	
4	美術部「noumenon」	
5	バドミントン部	第56回北海道学生バドミントン会長杯争奪選手権大会 混合ダブルス部で細田彩加（看護学部4年）が第3位
6	YOSAKOIソーラン部「真花」	第18回YOSAKOIソーラン祭り 一次審査員賞（ブ ロック3位）携帯電話による人気投票 全316チーム 中9位（1,322票）
7	テニスサークル「テニサー」	
8	芸森地域キャストサークル「非魔人團」	
9	絵本ボランティアサークル	
10	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	
11	テニスサークル「TIROL」	

	公認団体	主な入選・受賞等
12	デザインサークル「GNING」	
13	自動車サークル「CCH」	
14	ソフトボールサークル「SOFTiMo」	
15	服飾制作サークル「Alice」	
16	作品制作サークル「さくさく」	
17	料理サークル「SCU Cooking Studio」	
18	メンタルヘルスサークル「Placebo」	
19	環境エコサークル「Think of Earth」	
20	創作活動サークル「創-KIZ-」	
21	茶道サークル「Cha部」	
22	パソコンサークル「PERSEAS」	
23	ゲリラガーデニングサークル「0864」	
24	ユニバーサルデザイン研究サークル「ksks」	
25	写真映像サークル「SEED」	
26	軟式野球サークル「すらっくす」	
27	昆虫サークル「昆虫採一レ」	

12 後援会

後援会（平成19年2月発足）は、学生の福利厚生推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

役員	(会 長) 藤本 欣也 (副会長) 小菅 恵 (理 事) 荒井 昌子、小石 俊治、河内 博、田中 直人、内藤 満美、樋口 千郁、三上 敬良 (監 事) 大條 雅弘、竹内 信行
主な事業	・ 課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動等）支援 ・ 就職対策（企業開拓支援、就職講話、証明写真撮影補助、国家試験対策） ・ 後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円（ただし、編入学者は20,000円）

13 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成21年4月	平成21年度履修要項
平成21年4月	平成21年度学生生活ハンドブック
平成21年5月	平成22年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成21年5月	平成22年度大学案内パンフレット
平成21年6月	平成22年度入学者選抜要項
平成21年6月	平成22年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成21年7月	札幌市立大学 自己点検・評価報告書〔平成18～19年度〕
平成21年9月	平成22年度学生募集要項（特別選抜）
平成21年9月	平成22年度大学院案内リーフレット
平成21年10月	就職パンフレット
平成21年11月	平成22年度学生募集要項（一般選抜）
平成21年11月	平成22年度学生募集要項（デザイン研究科 修士課程）
平成21年11月	平成22年度学生募集要項（看護学研究科 修士課程）
平成21年11月	平成22年度大学院案内パンフレット
平成21年12月	平成22年度助産学専攻科案内リーフレット
平成21年12月	平成21年度札幌市立大学看護学部卒業研究抄録集
平成21年12月	札幌市立大学年報 平成20年度第3号
平成22年1月	平成22年学生募集要項（助産学専攻科）
平成22年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第3号
平成22年3月	就職ハンドブック
平成22年3月	デザイン学部デザイン学科卒業研究展図録
平成22年3月	平成21年度札幌市立大学看護学部キャリア支援委員会活動報告書
平成22年3月	SCU Journal of Design and Nursing - 札幌市立大学研究論文集 - 第4巻1号

14 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成22年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	総数	面積 (㎡)
芸術の森キャンパス	167,617	22,784	62	6,480
桑園キャンパス	18,152	11,830	29	2,954
合計	185,769	34,614	91	9,434

※校地面積:変更なし

※校舎面積:大学院棟含む

※講義室・演習室等:大学院棟含む。

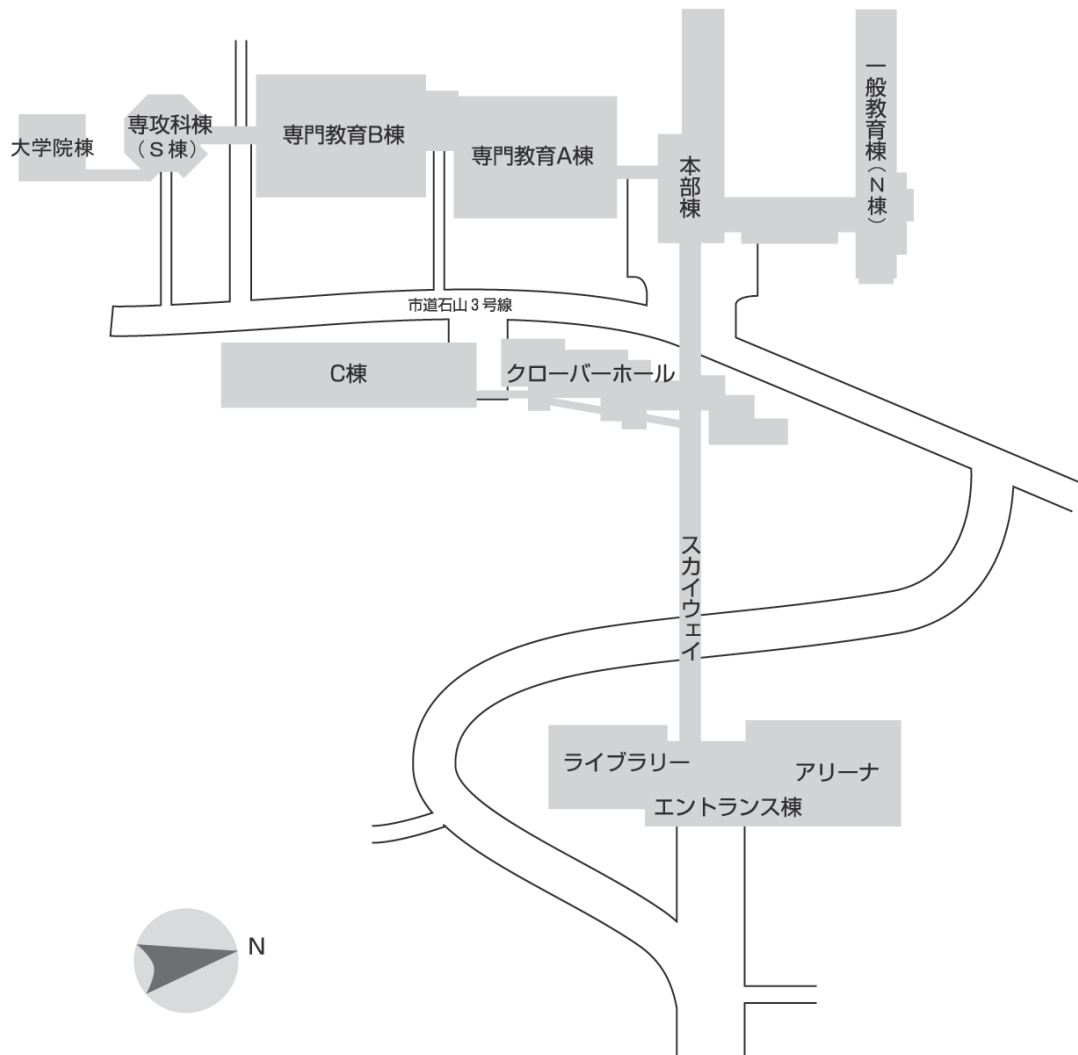
2) 芸術の森キャンパス [大学本部・デザイン学部]

<施設配置図>

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300（代）

FAX：011-592-2369



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

＜校舎配置図＞

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

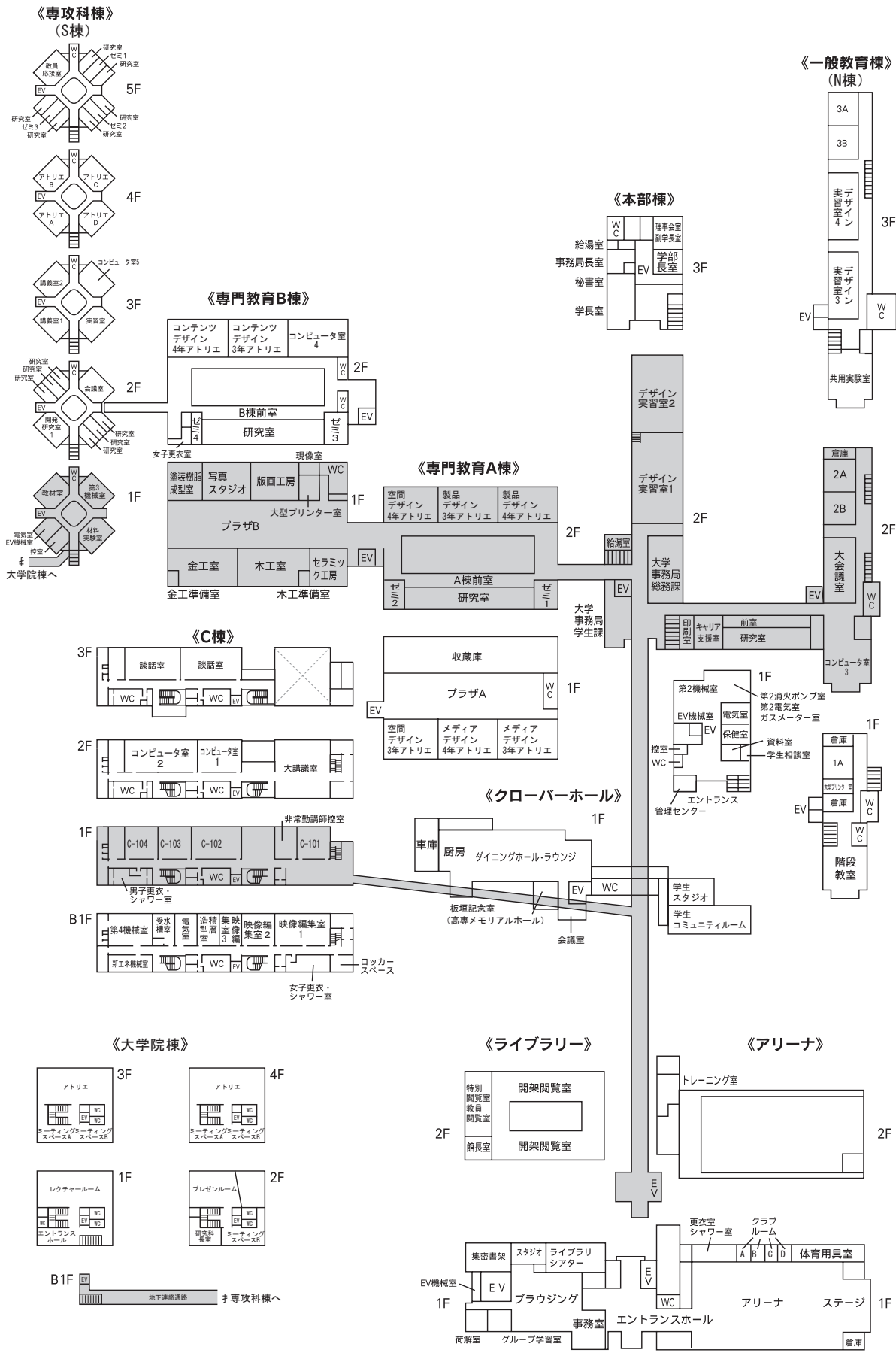
VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会、及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料



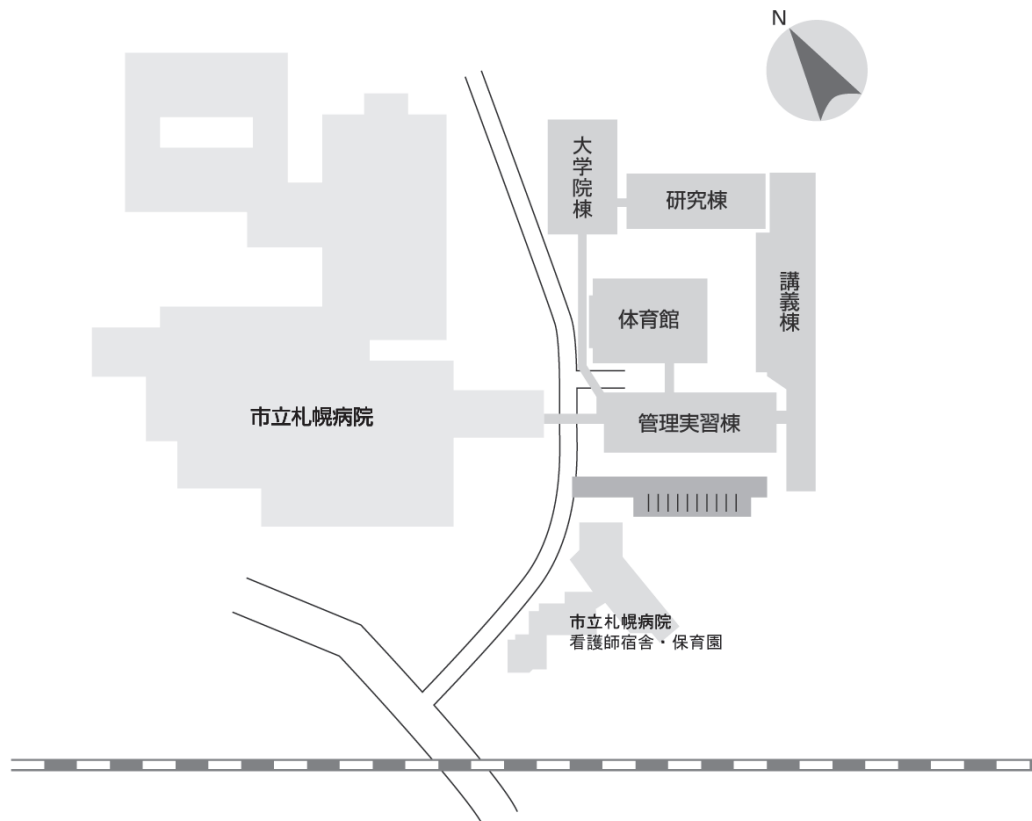
3) 桑園キャンパス〔看護学部〕

<施設配置図>

〒060-0011 北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL：011-726-2500（代）

FAX：011-726-2506



I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

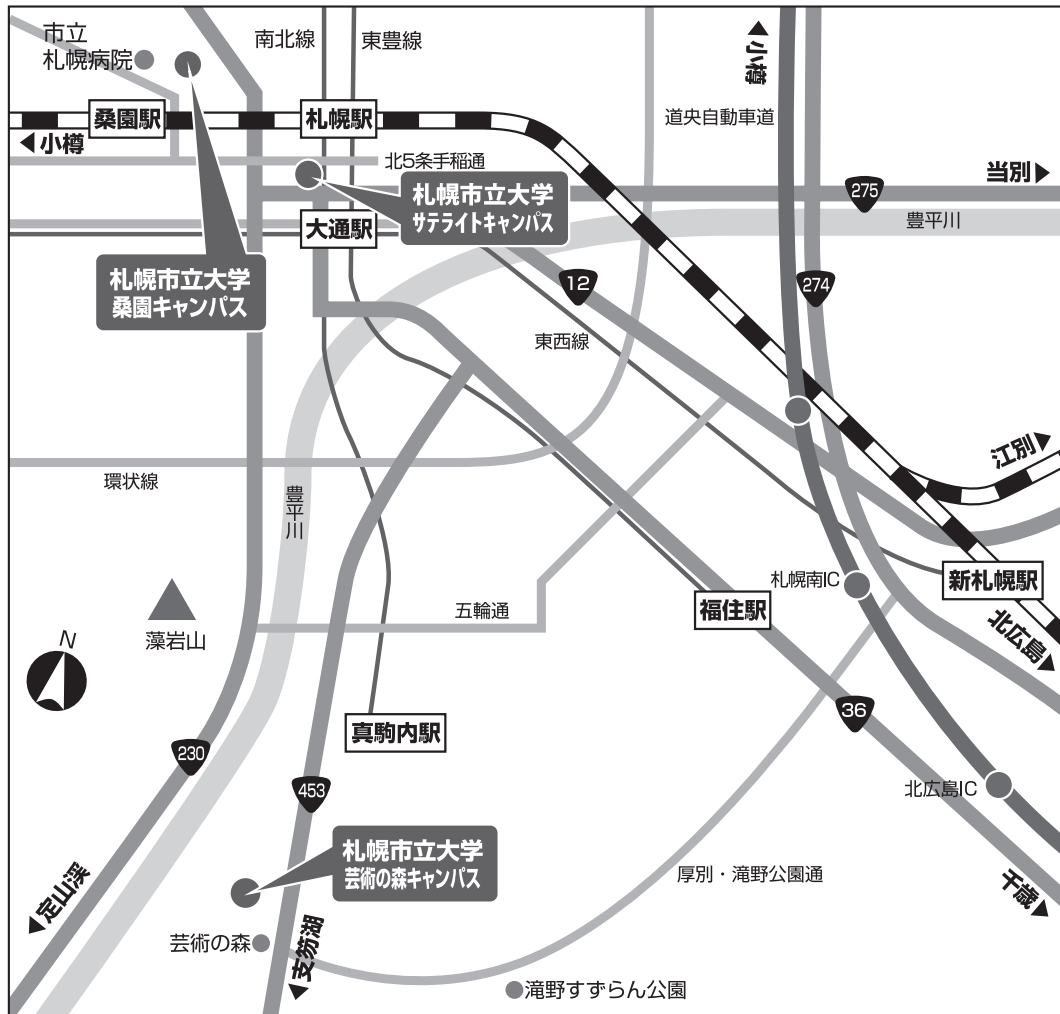
VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

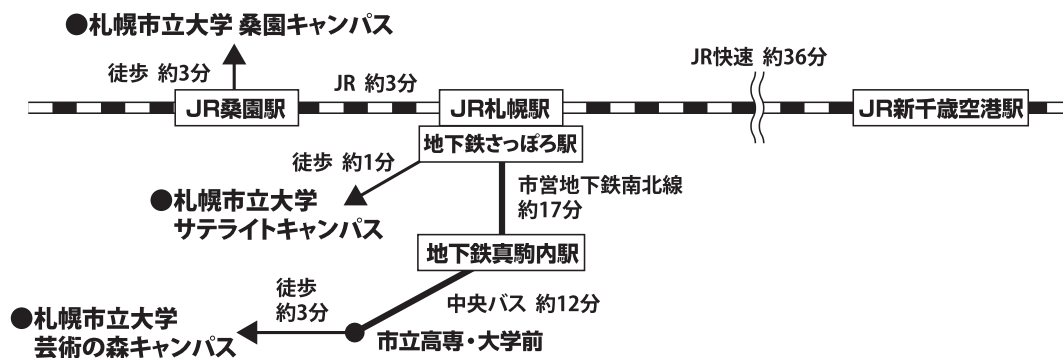
X
資料

15 大学への交通アクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

編集後記

本学が完成年度を迎えた平成21年度の札幌市立大学年報第4号は、第3号までの目次やその記載内容に大きな修正を加えていないが、担当部署が総務委員会から広報委員会に変わったことと、教員に関わる研究活動と社会活動の項目を教員評価制度特別委員会が定めた教員活動実績申告書の項目に準じたものにしたことが変更点である。

この変更は、内容の充実を目指しながら、原稿を作成する教員や担当事務職員の負担軽減を図るとともに、作成期間の短縮を目指したものであった。結果的には、印刷仕上りまでの期間短縮は図れなかったが、内容の精度を高めながら教職員の負担軽減は図れたと思われる。

次年度は、今年度開設された札幌市立大学大学院と助産学専攻科に関わる内容が加わるが、教員に関わる項目と教員活動実績申告書の項目との整合性を高め、更なる内容の充実を進めたい。

内容としては、完成年度に当たる平成21年度の札幌市立大学の活動を眺望できるだけでなく、第3号までの年報を俯瞰できるものと自負しているので、多くの皆様にご高覧いただければ幸いである。

最後に、年報編集にあたり、ご多忙の中、原稿を執筆いただきました教職員の方々にお礼を申し上げます。

平成23年1月

広報委員会委員長 羽 深 久 夫

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。(登録商標)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成21年度 第4号

編 集 広報委員会

編集責任者 羽深 久夫 (広報委員会委員長)

発 行 日 平成23年1月15日

発 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 FAX : 011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>

E-mail : nenpo@scu.ac.jp